

員を兼ねて、熱心村治の上に活躍してゐる。氏は學校卒業後、二十二歳にして戸塚銀行に入り、夙に將來ある行員として多大の望みを囑せられてゐた。後同行が横濱興信銀行に合併するや、續いてその行員として與り、十数年勤続するところあつたが、病を得て辭職の止むなきに至つた。やがて健康體に復するや衆望によつて町會議員に選ばれ、町政に參じて今日に至つてゐる。學生時代より野球を愛好し、現に大日本軟式野球協會神奈川縣支部長の任にあり、旺んに四方に活動してゐる。家庭には當年六十一歳の母堂せい子刀自の外に、阿佐子夫人との間に長男市治君十五歳（湘南中學在學）、長女佐和子さん十一歳（小學校在學）、次女明子さん五歳がある。

鎌倉町大町

町會議員 七島近藏

明瞭なる大鎌倉の都市計畫を理想となし、これが實體化に邁進しつゝある氏は

現に二期目の町會議員として、町政に與つてゐるなかゝの人望家である。氏は代々綿商を本業となして來た古い家柄に生れて育つた極めて濃厚着實な性格の持ち主である。氏こそはと、町内一般の信望と期待とをかけられてこの重要椅子に座つた氏は、常に一般の期待に背かぬやうにと周到な用意と、慎重な考慮とを以て精進一步々々功績の跡を残してゐる。氏の如き町會議員を有する町政の前途は改めていふまでもなく、住民の何人もが幸福に浸かり得る、萬人の歡び合へる町たらしめるに違ひない。

大船町大船

縣會議員 甘粕準三

前には町長として大船町の建設のために多大の貢献をなして惜しまなかつた氏は、當地方に知られた刀圭家、今校醫として任期中であるが、醫は仁術なりをモットーとして曾てその治療代を請求したことはないといふ奇骨のある人、現に

町會議員、學校醫たるの外、今回推されて縣會議員に立候補し、首尾克く金の射落して縣政に乗り出し、献身的に活躍してゐる。氏の生家は町切つての舊家、「甘粕」といへば誰知らぬものゝない名門の家柄で、舊幕時代には代々名主に擧げられて一村を束ね、土地開發等に種々盡瘁したものであつた。今、縣會議員に乗り出した氏の今後は、國家の選良として立法府へ進出するものだ、一般から等しく刮目されてゐる。なほ氏は目下大船田園土地會社を興し、若々事業を進めてゐる。

片瀬町新屋敷

町會議員 田中喜三郎

當家の始祖は武家、大阪落城の際當地に移つて土着

歸農した家柄、氏は安政六年の出生といへ頗る元氣旺盛の人望家、明治三十六年來引續き町會議員に當選、町政に參與してゐるが、かゝる長期連續の議員は全國には極めて稀れである。その外町農會長、納稅組合長、金錢債務調停委員、小作爭議調停委員、諏訪神社氏子總代、泉藏寺檀徒總代等を兼ねて盡瘁貢獻してゐる。前には消防組頭、學務委員などに就任して功績を高めてゐる。氏の負けじ魂は年と共に發揮され、何事にもぐいぐい進みつゝある。夫人との間に三男四女があり、長男稻太郎君は當年五十二歳、祖業に熱心努力を重ねてゐる。なほ令孫君等は十人以上もある。

豊田村

衆議院議員 小串清一

縣會議員に當選すること六回、村會議員たる二十ヶ年、その他郡農會長、郡畜産組合長等を兼ねて、現に縣政村治に盡瘁されつゝある氏は、村の舊家に生れ、



一村擧つての名望家であり、そしてまことに欣慕すべき

人格の持ち主でもある。多年また根岸製氷、江ノ島電鐵、横濱畜産興業等の各重役として實業界に活躍、斯界大立物として重きをなしてゐる。昭和十二年林内閣議會を解散するや、氏は出馬を再三辭退したるも、郡一致の熱烈なる應援に終に意を決し、六十二歳の身を起して立候補を聲明し、初の逐鹿場裡に打つて出たのであるが、日頃のその名望と人格とは一層輝きわたつて榮冠を獲得、政友會所屬代議士として新議事堂に名を連ねてゐる議會に於ける氏の活躍振りは、當然今後に期待をかけられてゐる。

本郷村公田

村會議員 角田己之助

角田家は始祖以來今の地に住んで來た豪農であり、また現に當村切つての大地主でもある。先代氏までは代々九左衛門氏を襲名、氏は八代目、明治二十六年九月二十一日の出生、現に二期目の村會議員として村政に與り、その他二期目の學務委員、方面委員、公田區長、納稅組合長、氏子並に檀家總代などを兼務、銳意盡瘁貢獻してゐる。青年團長たること十ヶ年、農區總代、消防部長、國勢調査及び農業調査員などに擧げられて、相當功績を残してゐる。氏は濃厚篤實なる人格者で、なかゝ人望の高い士。父君九左衛門氏七十二歳、母堂ハツ子刀自七十歳で何れも健在、クニ子夫人は愛國婦人會當區長、本郷村婦人會支部長として活躍し、第一令弟氏は逗子開成中學を出て横濱地方裁判所庶務課に、また第二令弟氏は商大出身、現に全購聯に何れも勤務中であり、一家そろつての榮えある働き振りには、村民一同眼を眩り、その幸福を羨み讃へてゐる。

村會議員 西山傳五郎

當家は元祿十四年頃より本村に居住したもので、圓覺寺内にある菩提石碑が明確に立證してゐる。家は累代農業を営んで来たのである。氏は明治二十八年八月九日、與五郎氏の長男に生れ、横須賀海兵團に入團して海軍一等水兵に昇進、榛名艦乗組員となり、南支那の守備に派せらるゝこと二回、その功によつて勳八等に叙し、瑞寶章並に一時金一百七十圓を下賜された勇士であり、またボート競技に於ける成績優秀なるの故を以て、皇太子殿下より特別賞を賜はつた名譽の選手でもある。除隊後は家業に精を出すと共に、村自治に参し、現に村會議員に選ばれ、また産業方面にも盡力貢献してゐる。温厚實直の人望家であり、村民に親しまれ、家族は多数、長男惣一郎君は、今十六歳であつて、一家は人も美む程の圓滿振りである。

村會議員 安西縫藏



當家は享保年間より二百七十八年當地に居住せる舊

家である。先代氏は村會議員等に就任、貢献せる村自治の功勞者であつた。氏は明治四年の生れ、家業たる農に従事、他面村自治に意を注ぎつゝあつたが、その眞面目にして熱心なる態度が、衆望をあつめて現に六期目の村會議員たるの外、鎌倉畜産理事、公設消防設置以來の小頭、二期目の衛生組合長などを兼ねて盡瘁、大に業績を輝かしてゐる。資性温厚篤實、氏子並に檀徒總代たること多年、氏子總代四十五年間勤續の故を以て表彰されてゐる。夫人との間に三男二女の五子があつり、長男君は今、村役場に勤めつゝある

が、なか／＼の偉材、その將來は一般から刮目されてゐる。

町會議員 伊東祐

電話戸塚三七番

當家先々代僧隆氏は善福寺第二十二世伊東宗乘師の三男に生れ、幼にして學を好み、名師を尋ねて諸國を踏遍し、十七歳の時、越後國頸城郡原村正念寺の學舎に入り、興隆師に學び、恩師入寂後僧朗和上師に師事して業を修め、歸來白坊の傍に寓居し、村民を集めて教化を施し、孔丘の仁理を説き勸むること多年、時に大に感ずるところあつて醫學を修めて戸塚町大橋際に居をトし、微笑生第一世と呼稱し、こゝに和漢百家の名方を研究し、特に婦人病の治療に一身を傾倒し幾何もなくして名聲あがり、治療を求むるもの日に繁く、止むなく附近善了寺に移してこれを行つた。併し僧侶の身として醫道にのみ専念、一期を終るを悲し

有志を勤めて同寺を修築し、同所に學徒を集めて朝夕佛典を説き、餘暇に醫癘に従ふこととなした。明治二十二年以來廢寺に等しい同寺を復興し、弟子をして住職たらしむるなど大に努むるところがあり、同二十八年本山より助教を授けられ翌二十九年八十餘歳にして永眠した。二代目鐵丸氏は父業を繼ぎ、三代目の當主祐氏はその長男、明治二十三年九月十日に生れ、父祖の業に精進し、今廣大なる醫院を新築し、自家用自動車を備へて應診に奔走、ます／＼隆昌を招來して近隣の評判になつてゐる。

町會議員 宮島富次郎

當家は二百七十年前頃までは分明してゐるが、それ以上は不明であるといふ大の舊家で、東京市麻布區飯倉の地に住んでゐたもので、先代傳兵衛氏は京橋區銀座四丁目店舖を構へて營業に従事してゐたが、後ち大正三年、鎌倉に移つて現

町會議員 梅澤慶助

在に及んでゐる。氏は明治十一年三月二十五日の出生、當町に居を移して以來、代々の神具衣類商から今の呉服商に轉じた。氏は今、二期目の町會議員であつて絶えず町の發展といふことに眼を注ぎ懸命に努力してゐる。氏はまた、町會議員磯部利右衛門氏と提携協力して二階堂の地に温泉旅館「永福莊」を經營、頻りと宣傳に努めてゐる。地はもと由緒の深い永福寺の跡で、古くから日本の名池として知られた池もあり、旅するものにとつては、一度は必ず訪はねばならない地である。

町會議員 赤羽根萬吉

電話片瀬七九番

政治家的才氣煥發、絶えざる熱誠とはその將來に多大の望みを囑せられつゝある氏は、曾て小坂、玉繩組合村を廢し、これを區長制度に改め、町制施行前の準備を完了し、次で役場の設置運動を起して右組合村を大船に合併せんことに苦慮

とても太つ腹で、なか／＼の人望家でそして堪らなく愉快な人物として、名を轟はれてゐる氏は、明治二十二年の七月東京市神田區に生れ、山本信次郎氏地所部主任となつて當地に移つてから既に十ヶ年以上にも及んでゐるが、この間の活

躍振りは實に目まぐるしいものがあり、現に二期目の町會議員であるの外、片瀬町國防協會理事、町防護團理事、南濱協和會常務、乃木高等女學校囑託、山本信



の松原の地を、大正十五年以來分譲に努めてゐる。眼前には江ノ島横はり、江ノ島電鐵の終點で東京へは一時間弱で達する。なほ分譲地内には乃木高女を設け、附屬小學校、幼稚園の設けもある。

次郎土 地部主 任等を 兼ねて いる。

山本氏 の分譲 地は片 瀬町西 濱の東 の部分 で、約 四萬坪

深澤村上町屋

村會議員 辯護士 吉田嘉平治



先代政五郎氏

の家 氏は 代 代農 以を 相

繼いで来たもので、幕政當時は上町屋村名主として鳴り、土地開發に貢献した。先代政五郎氏は村長に推薦され、こと六期、村治績を擧ぐる著大なるものがあつた。氏はその長男明治二十七年九月九日の出生、明治大學法科出身、辯護士試験に登第して今、東京市芝區新橋三ノ一六ノ一騎場ビルディングに事務所を開設し、一般法律事務に従事してゐる。村にあつては村會議員として村政に與り、しかも村會に重きをなしてゐる。母堂テフ子さん、夫人マサ子さんとの間に一男四女がある。

鎌倉町

町會議員 清田喜一郎

電話鎌倉 七四〇番 三四〇番

清田家は舊家で、始祖以來農業に従事したが、今より三十年前、先代市太郎氏が材木商に轉業、引續き今日に及んでゐる。氏はその男、明治二十年三月十九日同郡深澤村に生れ、後ち鎌倉に移住、既に二十年に達し、父業を繼いで精進してゐる。疾くより町政に參し、種々公名譽職等に關係したが、現在は町會議員の要職にあり、大都市計畫として、第一に大鎌倉の建設に努力貢献し、この建前から前途に横はる弊害等の一掃に盡瘁してゐる。なほ氏の本店は現在の場所であり、更に支店を長谷に置いて極めて隆昌を招來しつゝある。

大船町

町會議員 友野辰五郎

當地方より東京への直通交通網の基點

として重要視さるべき現在の省線横須賀線北鎌倉驛設置當時、その運動委員として縦横に活躍、所期の目的を果して功勞のあつた氏は、明治十三年二月三十日、村當時、十三軒百姓の一家と稱せられた大舊家、増右衛門氏の次男に生れた人で父君は區長、區委員などに推されて町政に貢献すること十ヶ年以上に及び、祖父己之助氏また土地の篤志家として聞え高く、公職に盡力してゐる。氏は區長として及び消防組に關與して感謝狀を贈られまた表彰されてゐるほどで、その功績等は數々するまでもない。今、町會議員として町自治に與つてゐるが、今後の活躍が刮目される。濃厚篤實運動方面に興味を有つてゐる。因に令兄初五郎氏は村會議員たることすでに三十ヶ年、名聲は普ねく知られてゐる。

深澤村

村會議員 梅澤清藏

今、當村會議員中での珍らしい博識の



闘士として 噂されて いる氏は、才氣 旺盛、熱 と力とで

大船町

町會議員 田中八郎

實行へと邁進する潤達の士である。現に村會議員、農會評議員、方面委員、消防組小頭、帝國在郷軍人會深澤村分會長等を兼ねてそれ〴〵盡瘁貢献せる村政の功勞者である。氏は特に軍人分會長が最も適任者、その軍事教育に於て、またその教訓に至つては至れり盡せり、全く堂に入つたもので、その人格は一般から仰慕されてゐる。今や戦火の間に相見ゆる非常時に直面して氏の任や一層重きをなすと共に、その活躍の多忙さを加へたわけであるが、しかも氏は我が本能を發揮して、職責を果すはこの秋とばかりに必死の努力をなしてゐる。氏の一念や天に達してか、皇軍の向ふところ敵なしの大勝利に萬歳してゐる。

深澤村

村會議員 島村 八梧郎
會社重役



當家は
小田原北
條の重臣
島村采女
守、小田
原落城と

共に當地に落ち延びて土着したもの、代
代農を本業となし、また名主を命ぜられ
東海道藤澤宿より鎌倉街道一圓にわたる
隨一の豪農で、先代倉吉氏は村會議員、
村長、郡農會特別議員等に歴任、大に盡
瘁するところがあつた。氏は明治三十一年
十一月十六日、その長男に生れ、縣立
平塚農業學校を経て東京農業大學を卒業
し、大正十年三月、神奈川縣農會に奉職
農家經濟調査、農業經營主任となつた
が、現在は村會議員、學務委員、村農會
評議員、藤澤工場協會理事等を兼ねて盡
力してゐる。なほ同十三年相模製粉株式

會社創設と同時に常務取締役に就任、よ
く社長田中勇吉氏を輔け、續いて専務取
締役となり、奮勵努力今日の隆盛を見せ
てゐる。趣味はスポーツに園藝。

鎌倉町雪ノ下

長明教授 杵屋 五七郎



氏は本
名を小島
實氏と稱
し、明治
四十一年
十一月三

十日東京市芝區西應寺町に生れ、十一歳
の時より杵屋五三郎氏に師事して長明を
研修し、二十二歳にして名取となり、芝
區櫻川町に於て教授しつゝあつたが、昭
和六年、今の地に移つて教授を始め、今
日に至つてゐる。現在三十餘名の門人を
有し、その令名は高い。今、氏は長明協
會幹部として活動し玉突、圍碁等に趣味
を有する藝術の熱心家、夫人との間に一

男一女がある。

大船町岡本

株式會社 富岡商會
鎌倉ハム

電話鎌倉四四〇番

當商會は明治三十三年の創業、大正六
年、資本金五十萬圓の株式會社に變更、
富岡周藏氏を社長となして今日に及んで
ゐる。ハム並にソーセイジ製造販賣を業
とし東京、大阪、名古屋に支店を設け、
内地は勿論南洋、ハワイその他を販路と
なして年に三百五十萬ポンドの産額を上
けてゐる。會て名譽賞を受け、姉妹會社
として株式會社大船軒がある。

鎌倉町

鶴岡八幡宮

當宮は源賴義勅命を奉じて東夷征討の
際、康平六年八月山城國なる石清水八幡
宮を鎌倉山井ノ郷に勧請し、次でその子
八幡太郎義家深く八幡宮を尊信し、永保
元年相模守に任じ藤原家衡、武衛追討の

勅命を拜するに及んで社頭の修理等を行
ひ、偏に神明の冥助を祈つた。治承四年



十月源賴朝鎌倉に入るや先づ由井ノ郷若
宮八幡を遙拜し、尋で小林郷北山を點じ
て社殿を構へ、こゝに遷座し、由緒深き
鶴岡の社號をそのまゝ東國鎮護の宗祀と

して尊崇他に異なるものがあつた。建久
二年三月近火あり、神殿以下炎上したの
で、賴朝大に恐懼し、四月更に背後の山
腹に新殿を營み、同年十一月上下兩宮並
に攝末社等すべて造營の工成り、直ちに
正遷宮を行つた。爾來社地を鶴岡と稱へ
社殿は上下の兩宮に別れ、上宮を本宮と
なして應神天皇、仲哀天皇、神功皇后を
祭神となし、下宮を若宮と稱した。宮域
はもと三萬六千坪を算したが、現在は二
萬七千餘坪で、翠岱東西北三方を廻り、
二の鳥居より段葛六丁、神橋を経て直路
大石階六十二段を踏んで樓門に達する。
青松古杉蔚然として碧空に連り、丹青自
然の妙合、神域の崇高まことに言ふべか
ざらる靈境である。畏くも明治天皇行幸
親しく幣帛を捧げ給ひ大正 今上兩陛下
の儲宮に在はしつる時親しく御參拜あら
せられた。

戸塚町

大島山善了寺

當山は京都西本願寺の末寺、阿彌陀如
來を本尊となして來た名利、釋了全を開
基開山の祖となし、境内一千五百坪、五
間四方の本堂、七十坪二階建の庫裡等が
ある。檀家は七十餘戸。現住職は成田惠
門師である。師は明治三十八年九月六日
の出生、法燈に仕へる熱心さは早くより
町内有志の認むるところとなり、方面委
員を託され、また町内各階級のよき指導
者、相談相手として重きをなしてゐる。
毎年五月八日宗祖降誕祭を執行する。

鎌倉町

本覺寺住職 貝山宣泰

當山は宗祖日蓮上人が、佐渡赦免を得
て鎌倉に歸り、やがて身延山へ發足する
まで滞在した惠美壽堂の舊跡で、後ち永
享年中、一乘院日出上人の開山したもの
である。上人は日毎市中に出て折伏弘通
すること宗祖のその如く、ために永享
法難と稱して宗門史上に特筆すべき大難
に遭遇したが、却つて管領の歸依を受け

方二町の惠美壽堂社地をたまはり、堂宇を建立して妙法壯嚴所願成就山本覺寺と稱した。その高弟行學院日朝上人は、當山二世となり、後ち身延山へ榮晉されたが、上人は身延山の嶮岨にして老若の參詣困難なるを歎じ、日蓮上人の靈骨を當山に領ち、東身延と稱し關八州の僧録となした。今當山が日朝の通り名になつてゐる所以も肯かれる。先代住職は壽詮院日勇師と稱し、權大僧都で宗務總監を勤めた人、現住職はその長男、昭和二年の立正大學出身、同四年、その後を承けて當山第五十世の法燈を繼いだ大僧都である。境内は一萬五千坪餘で、日蓮宗としては著名なもの。

大船町山ノ内

圓覺寺派同寺 富澤珪堂
塔頭臥龍庵

陽中に陰あり陰中に陽ありの性格を持ちたる氏は、今頻りと禪の大衆化を目指して進出してゐる。明治二十四年三月十五日の出生、現に町會議員であり、ま

た圓覺寺派宗會議員及び參事會員等の任にあつて盡瘁貢獻してゐる。政黨關係は不偏不黨。讀書、作詩、園藝に興味を有し、昭和五年來雜誌「圓覺」を發行してゐる。當庵は正中二年大川道通禪師の開創したもので、臨濟宗に屬し、釋迦如来を本尊となして法燈永く今日に續いてゐる。本堂兼庫裡茶席があり、建坪二十七坪、關東大震災後の新築である。境内はもと廣大なものであつたが、横須賀線開通の際、境内の大半を提供、現在は約五十坪に過ぎない。しかし昔ながらの名刹たるの名に何のかがはりもない。寶物としては多くの古文書を秘藏し、檀家は五十餘戸に及んでゐる。

大船町

小坂尋常高等學小校

電話大船七〇番

本校は明治二十三年尋常小學校として生れたもので、同三十二年高等科を併設して現在に至つてゐる。今、生徒数は男

女合計一千百七十三名、うち尋常科は一千六、高等科は百六十七名である。本校教育の精神は我が建國の大精神を體得し教育に關する勅語並に全國小學校教員代表御親閱の際、下賜せられたる勅語の御心を奉戴し、之が實踐躬行を期することに重點を置いてゐる。同時に職員の間を明確にしてゐる。

- 一、職員は常に國民教化に一身を捧ぐるの覺悟を有すると共に自己の學徳の教養に努むべし
- 二、小學校令第一條の趣意を遵守し、日本精神を基調とせる行の教育により、中正高潔なる人格の養成に努むべし
- 三、常に理想的なる環境と機會とを造ることに力め、個性に立脚せる適切有效なる教育を施すべし

右の方針を達成せんがため、職員總親和、總努力、師弟相共に明朗以て家庭的關係をなし、愛の殿堂を建設せんとする。
因に諸石校長は高等官六等待遇、勤七等に叙せられた譽れある人。なほ校醫として甘粕準三氏現任中である。

高 座 郡

藤澤町鶴沼

神奈川 湘 南 中 學 校

電話藤澤一〇四番

立身報國、天分發揮、勤勉力行、質實剛健、和衷協同を校訓となして設立された縣立湘南中學校は、元藤澤町長金子角之助氏をはじめ土地の有志者の熱心な運動と、多額の寄附とによつて大正八年十二月設立の案成り、翌九年八月實現され十有六年後の現在に至つてゐる。本校の教育は教育に關する勅語の聖旨を奉體し且つ法令の趣旨に基き、男子に須要なる高等普通教育を施し、特に國民道徳の養成に努むるを以て目的とし、創立以來生徒中心主義、體育智育徳育の三者均衡、中學教育の本旨と入學準備としての學科指導とを適當に折衷すること等に主とし

て力を注ぎ、その成績を高めてゐる。な



長校のそと校學中南湘

ほ別に校訓七ヶ條が設けられて嚴として確守、斷行されてゐる。この湘南中學こそ理想的な中學校である。

藤澤町藤澤

藤澤高等女學校

電話藤澤二〇〇番



本校の修業年限は本科四ヶ年で、尋常小學校卒業課程

度を以て入學資格となしてゐる。本校は大正十四年二月、藤澤實科高等女學校として創設、當町役場で學校事務を扱つた昭和三年三月、藤澤高等女學校に組織を變更し、同八年四月、御眞影を奉戴、同九年七月には圖書館落成し、同十一年十一月には創立十周年記念式を舉行し、既に第九回の卒業生を出してゐる。現校長は井原正平氏である。

藤澤町西宮

藤澤中學校

電話藤澤一四九番



校長

本校は中學校令

及び明治三十四年文部省令により男子に須要なる高等普通教育を施し、特に國民道徳の教養に力むることを目的として大正四年五月財團法人私立藤嶺中學校創立を認可、翌五年開校、同七年私立藤澤中學校と改稱し、次で十年更に藤澤中學校と改めて今日に及び生徒定員六百名を、現在では七百五十名に増加し、校舎を新築また増築し、物理化學生徒實驗室、柔剣道場等をも新築し、また圖書室の設備もあり、生徒一般の



藤澤中學校

希望を滿たしつゝある。本校學區は横濱平塚の兩市をはじめ高座、足柄上、足柄下、鎌倉、中郡などの各郡、他府縣に跨り、現在農家業の子弟がその大部分を占めてゐる。

澁谷村圖書館

本圖書館は村内男女青年の思想善導並に一般産業改善に資するの目的を以て、昭和三年十一月十五日創設し、次で小學兒童の向學心讀書力涵養等のため兒童圖書を加へ、小學校舎の一部を割いてこれに充て、午前八時開館、午後九時閉館、高等科生徒には貸出しを行ひ、館長外司書及び書記各三名を置いて今日に至つてゐる。藏書數各種を通じて一千五百五十冊、一ヶ年の經費二百四十圓、圖書目錄を隨時男女青年團俱樂部に送つて新購入圖書の紹介を兼ねて本館利用を勧誘してゐるが、最近頗る盛況を呈してゐる。館長遠藤明氏は、



澁谷村圖書館 館長 遠藤明氏

藤澤信用販賣組合

當組合は三年前創立され、今、羽鳥方面に支部を設けて一層の活動の陣を布いてゐる。且つ信用事業は未だ開始せず、販賣並に購買事業に向つてのみ力を注いでゐる。組合全體としての眞の業績を見ることは出来ないが、着々として隆運の曙光を示してゐる。そして今、羽鳥方面に支部を設けて一層の活動の陣を布いてゐる。

現組合長理事は瀧澤小太郎氏であるが、氏は明治二十六年、羽鳥の地に生れ、父君は日露戰爭に名譽ある戦死を遂げてゐる。氏は大正五年に農作物として落を献上して感謝状をうけ、後ち感謝賞状等を授けらるゝこと十回ほどに及んでゐる。以て氏がいかに農事に熱心である篤農の士であるか、窺はれる。今、母堂の下に二女の父として平和な日を迎へ、また送りつゝある。なほ氏は組合長としても、一個の社會人としても、今後の活躍が期待されてゐる。

寒川村宮山

寒川信用販賣組合

當組合は大正十一年十月五日の創立で保證責任組織、信用、販賣、購買、利用の四事業を兼營し、着々業績を擧げつゝ、今日に至つてゐる。出資一口の金額は十五圓、約三百名の組合員を有してゐる。現在貸付總額は一萬八千餘圓、貯金總額は約三萬圓をかぞへてゐる。最近の事業

状況を見るに、加入者六十八名あつたのに對し、一人の脱退者もないといふ成績であり、信用方面に於ける貸付は前年に比し三千八百餘圓を増加し、貯金は六千三百餘圓の増加を示してゐる。販賣にあつては玄米、大小麥、甘藷、藪などの委託共同販賣で、事業分量を増し、購買は肥料、飼料、食鹽、日用品、學用品等を取扱ひ、豫期以上の好成绩を收め、利用部にあつては製粉、精米兩機械の設備も組合員の需要を充分に滿たすことは出来なかつたが、しかし収支に於て利益を計上してゐる。要するに當組合は堅實なる經營の方針と相俟つて組合員の増加によつて組合の基礎がいよゝ強固となり、今後ますます、共存共榮の實を擧げること

組織である。村内の有力者並に有志者四十餘名の發起人の努力によるもので、昭和十二年六月にダットサンを購入、經濟更生特別助成として利用方面に使用してゐる。當組合の出資一口の金額は十圓、組合員數は四百四十餘名でその數九百九口、總出資額九千九十圓を數へてゐる。現在貸付總額は一萬二千七百餘圓で、貯金は二萬八千餘圓に上つてゐる。最近の事業を見るに販賣事業に於ては小麥の共同販賣に主力を注いで四萬二千餘圓に及び、また購買事業では肥料の取扱を主とし、雜貨等を従となして取扱つて來たが、總取扱高は五萬四千餘圓を示し、農業倉庫に於ては小麥、大麥等の入庫の最盛期には二千餘俵の保管をなしてゐた。なほ現組合長理事は廣瀬善治氏である。

小田村

小田村信用販賣組合

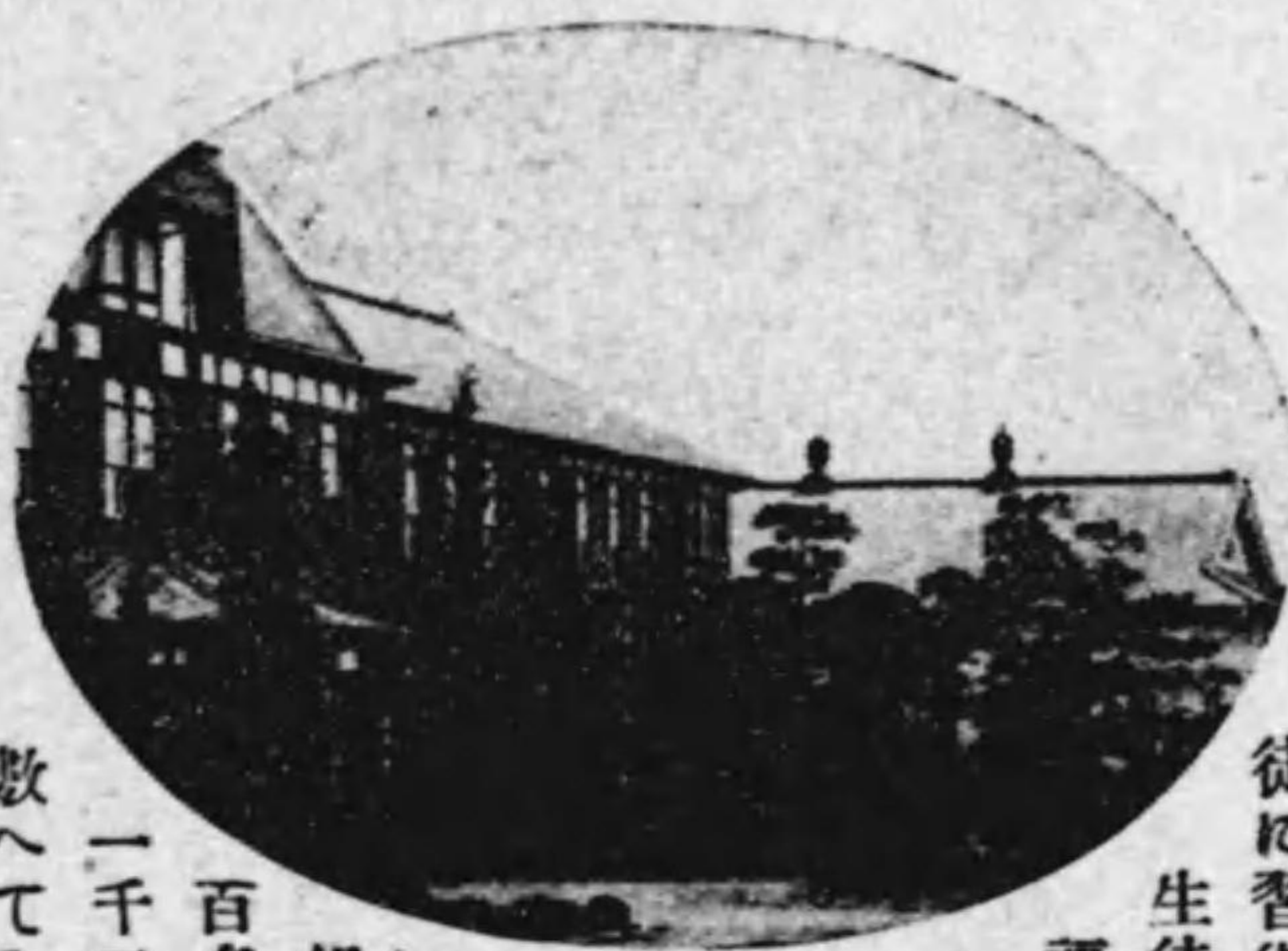
當組合は昭和七年の創立で、保證責任

相原村橋本

相原農蠶學校

當組合は昭和二年八月十日に設立許可となつたもので、縣下學校内に於ける産

業組合法による組合としては本校を以て最初とし、現に模範組合としての誇りを有つてゐる。當組合は産業組合實務を生徒に習得せしめ、



生徒の便益と福祉増進を期するを眼目としてゐる。

出資一口の金額二圓、現在組合員は四百名で、出資一千二十二圓を數へてゐる。組合

區域は神奈川縣、八王子市、東京府南多摩郡で、購買価格は一萬五千八百餘圓である。現組合長は村尾留吉氏。

藤澤町大庭

大庭信用販賣組合

購買利用

大正十二年の關東大震災に於ける甚大なる被害の影響に鑑み、現組合理事金子小一郎氏が先頭に立ち大庭信用販賣購買利用組合の創立を提唱、同時に活躍を開始したるに對し渡邊市藏、佐藤信次、大川良吉、大竹吉藏氏等の各理事が馳せ加つて奔走し、更に小泉作藏、小泉六藏氏の二監事も加つて終に創設、現在に立つて



金子小一郎 組合長

名、事業の成績は極めて好結果を示してゐる。現組合長金子小一郎氏は舊家で、昔ながらの豪農として聞え、幕政當時は大名主を勤めた家柄であり、父君は第二代町長に推されて大に貢献し、町自治の功勞者として今もなほ稱へられてゐる。氏は温良質實にして専念組合の發展に向つて精進努力してゐるが、今後の隆運は

大に期待に値へするものがある。

相原村相原

相原信用販賣組合

購買利用



小川川 組合長

原信用販賣組合として生れ、昭和四年五月相原信用販賣利用組合と改稱、翌五年九月倉庫業を經營し、同八年五月、保證責任に改組、同十年六月、購買事業を加へて現在に至つてゐる。出資一口の金額十五圓、組合員數二百五十八名で、出資總額六千七百六十五圓に達し、ますます發展途上にある。小川康明氏が、今組合長理事として町に活躍貢献してゐる。

藤澤町善行

善行信用販賣組合

購買利用

當組合は明治三十七八年の日露戦役當時十錢貯金會を創設したことが導火となり、大正四年齋藤喜十郎、松本富藏、齋藤助次郎氏等發起となつて新たに組織を加へて組合を創立、現在の保證責任善行信用販賣購買利用組合となつたもので、氏等の盡瘁寄與せる功は尠少なものでない。當組合は善行一帯を區域となし、出資一口の金額十圓、組合員數四十八名その口數五百三十五口、出資總額五千三百五十圓に達してゐる。現在の貸付總額は一萬七千圓、貯金は二三百圓程度であり、購買價額は三千八百圓、販賣價額は一千圓であるが、しかも逐年好成绩を見せてゐる。初代組合長理事は齋藤喜十郎氏であつたが、今、松本富藏氏二代目として就任、よりよき結果を招来すべく町に活躍してゐる。

寒川村倉見

藤澤町收入役 佐藤峰太郎

寒川村會議員 當村の功勳者として稱へられ、また村



内に於ける有力者でもある氏は、明治十五年十一月一日、七右衛門氏の次男に生れ、後ち別家獨立したもので、父君は多年倉見區長として盡瘁した。氏は曩に寒川村役場の助役に推されて大に努力し、現在は寒川村會議員であり、また藤澤町役場の收入役として重きをなしてゐる。セン子夫人との間に五男一女あり、長男君は小學校に奉職してゐる。

寒川村

村長 廣田 孝基

當家の祖は慶長十九年の武士、先代久作氏は製糸業を營み、村會議員、村役場收入役等に選ばれて貢献した村治功勞者である。氏はその男、明治二十四年三月四日の出生、慶應大學理財科卒業、近衛

步兵第三聯隊除隊後、駿河銀行に入り、その支店長として活躍すると十數年間に及び、現在は村長、農會長、村會議員等に推されてそれ／＼盡瘁貢献してゐる。趣味は作歌。曾て銀行勤続賞を贈られてゐる。夫人節子さんとの間に四男二女がある。

小田村芹澤

村會議員 大竹齋三郎

氏は現村長、二期目の村會議員、産業組合監事、耕地整理組合長、消防部頭等を兼ねて縦横に活躍奔走貢献してゐる。父君齋三郎氏は縣會議員、村長二期、村會議員、助役、學務委員等すべての公名譽職に關與して貢献し、勳七等に叙せられた村治の功勞者である。

小田村遠藤

助役 伊藤 斧吉

氏は市左衛門氏の男、明治七年五月五日の出生、曾て政友會に入黨、農政會監

部として活動した政治家肌の人、先に村
會議員二期、農總代、産業組合理事など
に歴任、寄與貢獻するところがあつた。
現在は助役に推薦されて専念村自治に與
つてゐる。夫人はクラ子さん、長男銀次
郎君は家業に鋭意してゐる。

御所見村宮原

村長 長島 喜治

當家先代辨藏氏は村會議員たる六期、
その他區長、水利組合役員等に擧げられ
て盡瘁し、村會議員として表彰されてゐ
る。氏はその男、明治二十年十二月二日
の出生、近衛歩兵第二聯隊に入營、除隊
後村政方面に關與、あらゆる公職を歴任
現に村長の要職に任じてゐる。

御所見村折原

助役 長田 只治

先代準次郎氏は當家中興六代の祖、學
務委員、その他總代として功のあつた人
である。氏は明治十八年三月十九日の生

れ、曾て村會議員、農工總代、衛生組合
評議員、消防組頭等に推されて就任、大
に盡瘁するところがあつた。現助役とし
て村長を輔け、村政の刷新向上へと邁進
してゐる。

有馬村本郷

村長 濱田 宗直

氏の家は舊家、明治二十年十一月十九
日、彌惣次氏の男、中興四代目として生
れた。父君は戸長役場時代の戸長として
一村に重きをなした功勞者である。當主
は明治四十年兵、近衛聯隊に服役し、後
ち村役場収入役にあると十ヶ年、助役と
して村長を輔くること一ヶ年に及び、現
在は村長の椅子に座して村政に思ひを練
り、また農會長を兼ねてゐる。ヤマ子夫
人との間に六男五女の子福者、長男宗太
郎君は農業に従事してゐる。

海老名村國分

村會議員 武藤 直江

勳八等

當家は十二代の舊家、先代亡昌短氏は
名主、戸長等に擧げられて土地のために
盡すこと四十年に及んでゐる。氏は明治
三年十一月十九日、その長男に生れ、獨
學によつて教員の資格を得、同一小學校
に奉職する四十五ヶ年にわたり、その間
敷在せる各分校を統一して現在の基礎を
つくつた功勞者である。曾て區長、方面
委員等に推されたが、現在は村會議員と
して村治に參與してゐる。なほ育英永年
の功に依つて勳八等に叙し、また文部大
臣その他より十數回表彰されてゐる。

新磯村新戸

村會議員 石井 善作



氏は明
治十七年
十月九日
佐藤兼三
郎氏の三
男に生れ
後ち石井又兵衛氏の懸望を容れて同家の

人となつた。生家並に養家共に村會議員

としての功勞者である。氏は神奈川師範
出身、小學校訓導たる滿二十一ヶ年に及
び、村役場収入役、助役等に推されて盡
瘁し、現在は村會議員、新戸西新養實
行組合長、能徳寺世話人等を兼ねて旺ん
に活動してゐる。

相原村相原

元小學校長 座間眞二郎

氏は本郡麻溝村座間清七氏家より分家
一家を創立したもので明治元年一月十八
日の出生、師範學校の出身、同十九年小
學校訓導を拜命、同三十五年相原小學校
長に榮進、大正八年退職、爾來縣教育會
主事に任じ、その間縣郡、村或は縣、郡
教育會などより表彰されること實に十數
回、校長退職に際しては相原村より金時
計及び金三百圓也を贈られ、閑居しては
社會委員を囑託され、知事より感謝狀を
贈らるゝなどまことに輝かしい多くの事
績を残してゐる。今、經濟更生委員の任

期中にある。

相原村清兵衛新田

村會議員 市川 松五郎

市川家はもと埼玉縣入間郡の出身、角
右衛門、安五郎の二代氏を経て先代角藏
氏の代となるや氏の努力積んで今日の資
産を見るに至つたのである。當主は明治
二十七年一月五日、その男に生れて傳統
的な農業に精進し、一層村民の衆望を深
めて重きをなし、曾ては清兵衛新田消防
小頭より組頭に昇進、青年團第六支部長
部落長等に歴任した。昭和三年宮城前に
於ける消防組代表者として御親閱の光榮
に浴し、また十七ヶ年勳績功勞者として
大日本消防協會神奈川支部から表彰され
てゐる。現在は二期目の村會議員たるの
外、學務委員、養蠶實行組合長、相原産
業組合監事、納稅組合（昭和九年三月の
設立）長等を兼ねて兼任、それ／＼活動
してゐるが、一般からは多大の期待をか
けられ、輝かしい前途を辿つてゐる。

大野村之森

村會議員 九島 昌義



九島家
の家系等
は十分詳
かに知る
ことは出
來ないが
相當の舊家であつて、代々農を本業とな
して來た家柄である。先々代彌吉氏は地
租改正當時、委囑されて土地の測量に従
事し、功を致してゐる。氏は明治二十一
年九月二十八日、兼吉氏の長男に生れ、
家業を助くるところがあつた。後ち公共
事業方面に進出、青年團長を振り出しに
常設員（區長）家屋稅調査員、村農會評
議員、相模ヶ原開墾期成同盟評議員、鶴
之森出荷組合長（農事實行組合の前身）
等を歴任、大に活躍貢獻し、人望ますま
す高きを加へたのである。昭和八年來引
續き村會議員に選ばれ、また鹿島信用組

合理事を兼ねて現任中である。氏は出荷組合組織の功によつて表彰を受けてゐる長男君は家業に従ひ、且つ大野青年團輔之森支部長を勤めてゐる。

大和村深見

村會議員 青木 滿壽



令息 元應元年の古碑を見る程の徳義 舊家で、大和村深見

見郷の草分けといひ傳へられてゐる。舊幕時代には名主を勤めて土地のために盡力するところが、先代故傳兵衛氏は町村制施行と共に村會議員に選ばれ、明治三十四年永眠の時まで貢献した村政の功勞者であつた。氏は明治十六年七月四日、その長男に生れた人。日露戦役に出征、凱旋後、功に依つて勳八等に叙られ普通選挙の實施と共に村會議員として村

政に參與し、また公設消防の創設さる、や大正十三年、副組頭に推され、同十四年以來昭和十二年三月まで區長となり、同年再び村會議員に當選、宮下農事實行組合長を兼ねて現在に至つてゐる。曾在郷軍人分會の役員として盡力するところがあつた。なほ長男義徳君は家業に従事し、二男行雄君は海軍一等兵として北支事變に出征中である。

綾瀬村 藤川

村會議員 平出 正之助

當家は相當の舊家ではあるが、家系等は判明してゐない。先代良助氏は三十二歳より引續き四期間村會議員に當選し、産業組合を創立してはその組合長に推され、その他學務委員、常設委員等に歴任村政に盡瘁する最も熱心なるものがあつた。今もなほ自治功勞者として稱へられてゐる。氏は明治二十九年十一月十一日、その男に生れて家業に精進するところあつたが、後ち蔬菜共同出荷組合創設されて

組合長の任にあること十ヶ年、消防組小頭たる永年にわたり、現在は村會議員、戸數割調査委員、氏子並に檀家總代、海員救済會員等を兼務、それら活動業績を擧げてゐる。家庭にはみつ子母堂健在し、けい子夫人との間に三男三女がある。因に父君は部落内にあつた天満宮、稻荷社、山神社の三無格社を合併、村社藤川神社を創設、村内功勞者として銀杯を贈られた。

六會村 石川

村會議員 渡邊 時藏

氏は明治十年一月六日、農家に生れて世に起つた人、横須賀の私塾を出づるや獨學、終に警察署長に立身せる成功者で、葉山町警察署長を振り出しに浦賀警察、横濱伊勢佐木警察、戸塚警察等の署長に歴任、横濱警察署長を経て、横濱市役所に入り、主事となつて勤務、第一線に立つて大に手腕を揮ふところあつたが、後

ち退職、現在に及んでゐる。趣味として剣道に馬術がある、しかも剣道は三段の腕前、明朗にして快活なる氣象は、ひどく對者に好感を持たせる。今村會議員、産業組合長として村治の刷新發展に盡力着々として功績を累ねてゐる。その在官當時の功に依つて從七位勳七等に叙せられた有位有勳者として、村の名を輝かしてゐる。

藤澤町 辻堂

町會議員 石井 茂

當家は遠く鎌倉時代からの舊家で、茂平、茂右衛門の兩氏名を一代交代に襲名し、舊幕時代には名主を勤めた門地であり、漁業及び農業を營んで今日に及んでゐる。氏は林藏氏の男、看護卒として兵役を終り、熱心家業に精進し、一面町内公共方面に寄與しつゝあつたが、推されて町會議員に當選、現任中である。氏にとつては始めての町會だけに、慎重の態度を以てすべてに對してゐる。

寒川村 岡田

産業組合 専務理事 大久保 千代

平塚農學校出身の氏は明治三十五年一月二十日の出生、漸くにして活ける社會に擡頭したこれからの人である。父君初五郎氏は村會議員に携はること數度に及んで、村治に盡瘁した功勞も決して尠なくはなかつた。その流れを汲んだ氏のこゝとであるから、父君の譽れある名を辱めるやうなことはしまい。現在は村役場收入役、産業組合創立以來の専務理事、消防小頭等を兼ねてそれら奔走してゐるが、これ等のすべては時たらば伸びんとする多望な前途へのよき試練であり、よき段階でもある。要するに氏の前途は輝きと幸福とに満たされてゐる。夫人とき子さんは内助の功勞者であり、賢母でもあり、間に長男千代君(十歳)長女千鶴子(十二歳)があり、外に一男三女がある。

小田村 遠藤

村會議員 高井 勝次郎

高井家の始祖等については詳かでないが、よにかく八代目の舊家、先代氏はまた土地開發のために貢献した人である。氏は明治二十四年三月十七日生れの篤志家、大に人望をあつめ得て今村會議員の椅子に座し、専心村政の刷新向上に邁進貢献してゐる。なほ夫人との間に三男三女の六子があり、家庭は頗る平和である。

有馬村 門澤橋

村會議員 小針 文藏

當家は十五代目の舊家、四代前までは名主をつとめた土地開發の功勞ある家柄である。先代梅二郎氏は始祖以來の家業たる農に精進し、且つ部落委員として貢献するところがあつた。氏は明治十六年八月二十五日、その長男に生れた人、日露戦役に出征して功を樹て、勳八等に叙

せられてゐる。昭和六年四月以來、村會議員に推されて今もその任にあると共に門澤橋第二養蠶實行組合長、郡養蠶評議員、部落委員、村社澁谷神社世話人、浄



久寺檀徒
總代、農
業調査員
等を兼ね
て努力奔
走してゐ

る。また氏は相川村に通ずる相模川架橋運動を起し、終に縣の採擇するところとなり、しかも實現を見んとしてゐる。なほ長男寛藏君は曩に青年團幹部として盡力し、目下在郷軍人分會班長として努力を續けてゐる。

海老名村上今泉

村會議員 櫻井 昶
動八等

櫻井家は約三百年來の家柄、神官を相繼ぐこと十六代、先代亡慶山氏は醫を業とし、寺小屋を設けて子弟を教導した。



氏助泰代先

家は舊家で先代泰助氏は永らく村會議員に挙げられ、また郡制度止

村會議員 笠間 善一

綾瀬村早川

に魁けて木造火の見櫓を鐵柱に改造するなどの功に依り、大日本消防協會神奈川縣支部より表彰されてゐる。



功を樹てゐる。消防組頭
在任中
他町村

氏はその長男で明治十一年三月四日の生れ、神奈川縣師範に學び、檢定によつて座間小學校に奉職、前後三十年間勤続しその間表彰さるゝと數回に及んでゐる。また自ら幼年會を組織して現今に至つてゐる。氏は今、村會議員として村政に與つてゐる。曾ては區長、選舉肅正委員等に擧げられて努力するところがあつた。

大野村上鶴間
村會議員 柿島喜代次郎



氏は明
治三年六
月十七日
故郷右衛
門氏の長
男として

六代の舊家に生れたのである。昭和八年村會議員に當選、引續き現任中であるが曾ては公設消防組頭、同副組頭、區長、學務委員二期、村社鹿島神社建築委員等に歷任、それゝ努力貢獻して甚大なる

業績を樹てゐる。なほ長男憲公君は曩



氏憲公島柿

に公
設消
防組
頭に
推さ

れ、現在は方面委員である。

大和村下鶴間

村會議員 大谷 治國



氏郎太德代先

當
家先
代德
太郎
氏は
明治

二十八年來村役場助役、郡會議員、村會議員に當選する五回、その他の名公職等に擧げられて貢獻すると多大、村治の功勞者として敬慕されてゐる。當主は畑野喜代四郎氏の二男、明治二十年五月九日の出生、翁に懇望されて當家に入つた人

曾ては區長、消防組頭、常設委員、第一回國勢調査員、農業調査員として活躍、

直前の郡會議員として活躍した村治の功勳者である。氏は明治二十六年三月十八日その男に生れ、厚木中學校並に東京自動車學校を卒業し、岡田文部大臣より認可證を受け、一時



自動車界
に入つた
が、間も
なく自動

車學校教師として約三ヶ年間教鞭を執つた。昭和十二年、始めて村會議員に選ばれて村政に與つてゐる。また常設委員は二回目で熱心活躍し、將來に重きをおかれてゐる。

六會村圓行

村會議員 露木 宗治

當家の遠祖、家系等は明瞭でないが、相當年代を経た家柄で、累代農を本業となして來たものである。氏は明治二十四年の出生前に圓行産業組合長に挙げられ

て金融、産業方面に盡力し、また村會議員として引續き村政に參與貢獻してゐる。氏は馬耕作の改善について確固たる意見を有つてゐるが、やがてこれの實現さるべき時がやつて來るに違ひない。

寒川村田端

村會議員 鈴木 仁三郎

當家は村上義光の末裔七百年來の家歴を有し、先代氏は村會議員、收入役として貢獻した人。氏はその男、明治十五年五月五日に生れた西瓜の先覺者、大正十五年、大和西瓜の種子を購入して始めて西瓜の耕作をなし、今日では既に數町歩の耕作面積を有する寒川西瓜の元祖と稱へられてゐる。他方現在は村會議員として村政に與つてゐるの外、農事實行組合長、西瓜出荷組合長などを兼ねて活躍してゐる。

小田村遠藤

村會議員 青木 元次郎

氏は緻密な思考的人物、老境意のままに敏活ならずではあるが、今も村治を棄てず、寄與貢獻してゐる。生れは明治七年、家は三代前に分家し、農を家業となして来たもの、曾ては郡會議員たりしことあり、現在は三回目の村會議員として村政に參與し、その他農事實行組合長、養蠶組合長を兼任してゐる。夫人との間に三男三女あり、長男君は教員、次男君は今、入營軍務に服してゐる。

有馬村本郷
村會議員 濱田 芳治
氏は明治二十三年八月十日の出生、現村長濱田宗直氏の令弟で、夙に分家、約三十年來精米商を営み、堅實の一路を辿つて今日に至つてゐる。資性温良、釣を唯一の趣味として忙中閑を樂み、夫人との間に六人の子福者、家庭は春風の和やかな團欒振り、四近羨望の標的となつてゐる。昭和十二年推されて村會議員となり、また部落委員、區長を歴任して本宿



農事組合長、居合本宿納稅組合長の要職に在つて活動貢獻してゐる。
海老名村國分
村會議員 飯田 榮太郎
氏は分家獨立、壯年時、株式その他事業に失敗せ

るを努力して今の家運に築き上げた人、今回四期目の村會議員の任にあつて熱心村政に與つてゐる。昭和九年十月、農村の振興は納稅よりの見地から納稅組合を組織し、しかも非常なる好果を收めて年賞與を受けてゐる。また小作争議の發生に當つては兩者間に最も公平なる裁斷を下し、満足なる解決を得て以來一村は圓滿、且つ全部落に負債等がない、これ等はすべて氏の努力貢獻の實である。氏は明治五年生れ、趣味として淨瑠璃があ



り、三味線の如き相當なるもの、また庭造りなどを楽しんでゐる。
大野村上鶴岡
村會議員 市川 茂七
氏は家は五代の舊家、相繼いで農

今日に至つてゐる。氏は故重次郎氏の長男、明治十年三月十二日の出生、疾くから家業に精勤するところがあつた。曩に村會議員、常設委員、公設消防小頭等を歴任し、昭和十二年五月改選の村會議員に當選、現、一方の雄として重きをなし、その他學務委員、村農會評議員、上鶴岡養蠶實行組合副組合長などを兼ねて盡力貢獻してゐる。なほ四男良三君は今、砲兵として服役中であり、今や市川家の存在は當村にあつて動かないものである。

大和村上草柳
村會議員
陸軍砲兵中尉 二見 長昌
正八位



當家の開祖等は明かでないが過去帖によつて三百年

來の舊家であることが立證される。先代長吉氏は大正三年以來引續き村會議員として村治方面に活躍、大に貢獻するところがあり、現在は新たに改組成立せんとする上草柳東部養蠶組合の組長に就任、同組合の發展向上に精進してゐる。當主長昌氏はその長男、明治三十七年の出生陸軍砲兵中尉に任官、正八位に叙せられ在郷軍人分會長として努力してゐる。昭和十二年五月村會議員の改選に際し、氏は父君の衣鉢を受けて立候補、首尾克く金の射落して當選、現に村政に與り、

一村の和平幸福に向つて邁進してゐるが一般からは今後の活躍を刮目期待されてゐる。
綾瀬村深谷
元村長 峰尾 文太郎
後醍醐帝の笠置山へ落ちさせ給ふ時、



一忠臣が「君まさば峰にも尾にも位ひして、深山ながむる都なるらん」と詠進し遂に峰尾の姓を賜はつて鶴島に土着したが、この忠臣こそは當家の始祖である。氏は慶應元年十二月二十日の出生、戸長役場時代の筆生を振り出しに勤続、有志相寄つて農村更生のために人糞肥料の製造に着眼して相州俱樂部を起し、同時に窒素肥料商會を主宰し、爾後六十一歳まで盡瘁し、遂に匿名合資會社組織までに

運んだ。この人糞の乾燥肥料製造は日本に於ける嚆矢として農事試験場長から稱揚された。後氏氏は村長に推薦就任するや六十六歳の老境の身を挺し、村治の改正を目指して起ち上り、産業道路の改修に全力を注ぎ、常に各部落を巡視して自治の根本精神を認識せしめ、時間勵行、早起、貯金、節酒、節煙を勧め、共同出荷事業などの業績を擧げること枚擧に遑なして、實に名村長として、今もその徳望を慕はれてゐる。資性果敢剛直にして加ふるに温情至らざるなく、當綾瀬村をして模範村たらしめた大功勞者である。ぬい子夫人との間に三男一女がある。

六會村下土橋
村會議員 小菅 長吉

小菅家は平氏華かなりし頃、その人ありと知られた大庭三郎景親の家臣某から出たもので、平家没落後は當地に來つて農に歸し、農耕人に交つて鋤鋤に従つた後ち菅原道真公を祀り、また諏訪神社の

宮本、即ち同社の管理者としてつかへて来た山緒のある家柄である。氏は明治十二年十月二十七日、先代文左衛門氏の男として今の家に生れた。父君は當年九十歳の高齡を以て健康體であり、何彼と世話を焼いてゐる。當主は曾て農事實行組合長、甘藷組合長等に擧げられて大に盡瘁するところあり、その功を稱へられたが、現在は村會議員として、家屋調査委員として更に活動をつゞけてゐる。

寒川村倉見

村會議員 五島 惠一
消防組頭

五島家は中郡多額納稅者六名の中の一人名主、庄屋などを勤めた名ある家柄である。氏は明治二十七年八月の出生、目下村會議員にあるの外、學務委員、消防組頭その他等に擧げられて盡力貢獻してゐる。令閨とき子さんとの間に十一歳の長男康祐君あり、長女さんは平塚高等女學校に在學中で、外に一男子がある。

有馬村
村會議員 宮代 由太郎

圓満なる人格者として人望のある氏は明治十七年十月十二日、清五郎氏の長男として二百年、約十代の舊家、農を本業として代々相繼いで来た今の家に生れ、大正五年、杉久保養蠶組合の創設さるゝやその理事となり、後ち指定農村となつて他組合を併合擴張するに及んで、組合長に推され、今ではその産額額は四千五百貫を算するの隆盛に向つてゐる。氏はまた、村會議員として村政に與り、町に活動してゐる。なほ前に消防組三期國勢調査員、穀物検査員として寄與貢獻してゐる。

海老名村

村會議員 竹内 吉一
動八等

氏は亡伊助氏の長男、明治二十九年七月二十日の生れ、厚木中學校を修業、大正四年五月海老名小學校に奉職したが、

同八年シベリア出兵に際して、電信隊上等兵として出征、通信部長等を勤め、翌年伍長に昇進して除隊となつた。功に依つて勳八等に叙し、一時金貳百圓を下賜された。除隊歸郷後直ちに海老名小學校に入り、青年訓練所指導員を兼ねたが、昭和四年六月退職、以來村治に關與、現に村會議員として將來を期待されてゐる。なほ前には區長、青年團長、在郷軍人分會拍ヶ谷支部長として盡力した。



宮代 由太郎

小田村寺尾

村會議員 白井 平藏

思想穩健にして着實、その行快活にして敏なる氏は、村内の人望を双肩に擔つて村會議員をはじめ消防組小部落長、養蠶副組合長等に推されてそれら盡力活動

動してゐる。明治二十八年、五代前から分家して今日に至つたといふ家に生れた農家育ちではあるが、その行動は全く紳士的で、今後の活動振りに對して多大の期待がかけられてゐる。

大和村南林間都市

村會議員 相馬 尙平
從六位



相馬 尙平

明治二十五年四月二十八日、故一郎氏の七男に生れ、二十七歳の時に分家して一家を創立したのである。駒場農科大學實科の出身、同校卒業後約十ヶ年間、生家に在つて農場を經營しつゝあつたが、大正十年より中等學校教諭として佐賀縣立佐賀農學校、群馬縣立小泉農學校等に教鞭を執つて専心育英のことに従ひ、昭和

五年に退職、現在の場所に居所を定め、約一千二百坪の果樹及び花卉栽培を目的とし、林間農園を經營して今日に至つてゐるが、村内に於ける信望は頗る厚く、現に村會議員に選ばれて村政に與り、また經濟更生委員として活動してゐる。資性溫良の好紳士、趣味は園藝。曾て育英の功に依つて從六位に叙せられた。夫人との間に一男二女がある。

綾瀬村深谷

村會議員 綱島 隆三



綱島 隆三

に從つて来たもので、現に酒商を營んでゐる。氏は明治十七年八月七日、先代善次郎氏の男に生れ、疾くより村治に關與し、二十年來養蠶實行組合長として本業

の傍ら地方産業の開發に盡瘁するの、外常設委員、二期目の村會議員、消防組頭氏子及び檀家總代等に歴任、大に貢獻してゐる。殊に村役場廳舎及び小學校増築に際してはその委員の常務理事に推されて監督指導し、賞狀並に置床一個を贈られた功勞者である。

六會村下土橋

村會議員 吉原 象三郎

吉原家の遠祖は何んであるか、漢として模索すべくもないが、約十五代以前に分家、獨立して農を家業となして今日に至つてゐる。氏は明治二十六年の生れ、前縣會議員として令名の高い吉原鹿次郎氏に懇望されてその令婿となつた人である。溫厚にして着實、しかも明晰なる頭腦の持ち主である氏の一進一退は、深く村民の心を打つて期せずして衆望を得、村會議員に擧げられ、また消防組副組頭に推されて活躍して衆望に副はんとしてゐる。幾多の春秋に富んだ氏の眞の活動

振りは、これからの待たねばならない、前途に輝きあれ、幸あれと切望する。夫人との間に二女があり、既に養子氏を迎へてゐる。

綾瀬村本夢川

村會議員 武藤 政雄



氏は平塚農學校卒業後、大正十三年兵

として甲府歩兵聯隊に入營、陸軍歩兵少尉に任官した。現に村會議員であるの外、在郷軍人分會長、納税組合長、消防組部頭等を兼ねて旺んに活躍してゐる。家は十五代目ぐらゐの舊農家、祖父森藏氏は村會議員、學務委員、助役、村長等に歴任、村治の上に大きな功績を残し、父君繁治氏は中部農會に勤続する實に二十數年に及んだ功勞者である。

寒川村宮山

村會議員 金子 憲治

金子家は舊家、先代七郎兵衛氏は村會議員として在ること二十有餘年、當村の發展伸張に努力し、村の功勞者として今も稱へられてゐる。氏はその男、明治十八年八月二十六日の出生、現在三期目の村會議員に選ばれて村政に與り、その方面委員、昭和八年以來引續き寒川耕地組合副組合長として完成進歩へと盡力してゐる。前には區長として區民の幸福増進に盡し、また司法保護委員、調停委員にも擧げられて貢献するところ甚大なるものがあつた。氏は今が謂ゆる働きざかりか、村會一方の雄として重きに於かれて村民の信頼また絶大なるものがある。夫人千代子さんとの間に四男一女があり、長男美忠君は二十三歳、父業を助けてゐる。家庭は極めて平和である。

海老名村大谷

村會議員 山口 福二



當家は當地山口家の總本家、相繼ぐ十

一代、先代故菊太郎氏は村會議員として功勞のあつた人。氏はその二男、明治二十四年十一月二日の出生、現村會議員、方面委員、消防部頭、大谷南部養蠶組合長、神社寺院の總代等に推されて盡瘁してゐる。氏は明治四十四年厚木中學校を卒業して神奈川県鎌倉師範を出て鶴峰、藤澤明治小學校等に十餘年勤続、引退後農事に専念して今日に至つてゐる。

綾瀬村吉岡

村會議員 小菅 廣久

當家は三百年來の舊家、先代三八氏は常設委員等に推されて盡瘁するところがあつた。氏は明治二十五年五月二日の出生、現に二期目の村會議員として村政に



參與し、また檀家總代をも兼ねてゐる。氏は二十九歳

當時より常設委員に選ばれて以來引續き村政に携づさはり、吉岡報徳社幹事、理事等を創立以來就任し、その他青年會副支部長、兵事會總代、農會總代等に歴任相當功を樹てゐる。家庭には養母堂にまさ子夫人、五男三女がある。

大野村矢部新田

村會議員 佐藤 金作



氏は明治十五年七月十三日、先代仲藏氏の男に生れ

長じて世田谷野戰砲兵聯隊に入營、上等

兵に進級、同三十七八年日露戰役に出征第一軍並に第二軍に屬して戰線に活躍、累進して軍曹となり、後ち戰功に依つて勳八等及び功七級金鷄勳章を賜はつた。また同三十九年五月、殊勳者としても宮中賢所の參拜を許された光榮ある勇士である。現に村會議員として村政に與りつつあるが、曩には學務委員、消防小頭同組頭、在郷軍人會長、同評議員等に歴任今、消防組顧問を兼ねてゐる。氏は大正十年十一月特別大演習に際し、東軍飛行場作業完成の功により「長津田大石山」に於て、當時の攝政宮殿下に拜謁を賜はつた甲府聯隊管下唯一の光榮を擔ひ、川村景明大將より表彰され、また在郷軍人會、消防協會等よりも表彰を受けて名譽ある人である。

大和村下鶴岡

村會議員 古木 民藏

氏は文學に興味を有し、特に短歌をよくする。一見詩人かとも見まがふ才人肌



土地賃貸價格調査委員、在郷軍人分會顧問、女子青年會顧問などを兼ねて貢獻してゐる。氏はまた、元株式會社町田銀行重役だつたが、同行が鎌倉銀行と併合するや退任、現在は町田肥料株式會社取締役を勤めてゐる。因に生家は相當の舊家大名主を勤め、また私塾を設けて土地のために貢獻し、父君は農會長、郡會議員などに推された自治の功勞者である。

綾瀬村早川

村會議員 鈴木千代次郎



氏は昭和八年引續き村

會議員であり、また同七年來常設委員を續けてゐる。氣骨稜々青年時代より郷黨のために萬丈の氣を吐いて奢侈の風を戒め、青年會組織の急先鋒となつて遂に一村聯合青年會組織を見るに至つた。明治二十六年消防組織に懸命奔走し、議員としては大字吉岡字神崎、道瀬十二町歩の耕地整理を完成し、また目久尻川改修問題、道港橋架設問題等に一身を挺して活動し、同部落方面から生ける神様の尊稱を受けてゐるが如き、全く氏の徳行の然らしむるところ、なほ曾て消防協會から表彰されてゐる。

六會村

村會議員 杉山 寛吉



氏は今村會議員區長、村道路委員農事實行組合長、

水道検査委員、納稅組合長等の要職に置かれて旺んに活動貢獻してゐる。曩には青年團長、消防顧問として功を樹てられてゐる。氏は明治十八年六月二十三日の出生、父君寛五郎氏は村會議員たる三十年、區長たる二十年、今は故人となつた令兄松五郎氏も村長二回、村會議員二期何れも村自治に功績を樹てゐる。家に一男五女がある。

寒川村宮山

村會議員 原 正司

養蠶實行組合長 氏の家は十一代目の舊家、明治三十五

年三月二十二日、彌三郎氏の男に生れ、蠶業試験所を了へたこれからの人、村會議員として現任中であるの外、養蠶實行組合長、納稅組合長等を兼ねてゐるが、氏の一進一退また村自治の業績に及ぼす大なるものがあり、氏が熱心その職に努力しつゝある所以が首肯されてゐる。

海老名村下今泉

元村長 故高柳 友次郎

大正四年六十四歳を以て長逝した友次郎氏は、十六歳より村役場に出仕、後ち助役、村長等に歴任、頭腦明晰にして村續まことによく舉り、日清日露役當時の内治の功に依つて勳八等に叙せられた自治の功勞者であつた。常に淨瑠璃を愛好し、殊に三味線に秀でゐた。當主直藏氏はその長男、明治十七年一月二十八日四代くらゐの舊家たる今の家に生れ、夙に家業に精進、また村農會役員、衛生部役員などに推されて盡瘁し、貢獻してゐる。温厚なる人物、夫人との間に二男二

女あり、長女さんは既に他に嫁してゐる



長男壽氏は今二十六歳、近衛歩兵第一補

充兵で、當村青年團文藝部同郡代議員として重きをなし常に青年の讀書を勧め、研究、講演等に努め、また修養道に熱心畫を指導し、今後に囑望されてゐる。

大野村淵野邊

村會議員 小川 江津

小川家は甲州武田家の落人、豪農を以て聞え、既に九代目である。祖父道太郎氏は八王子千人隊の世話役として横濱開港事件に進出して威武を示すところがあつた。先代彌左衛門氏は郡制廢止當時に於ける最後の郡會議員として郡治に参し七十六歳を以て永眠した。氏はその長男明治二十一年二月五日の出生、地主、農

たる家業を繼いで精勵ますく家礎を鞏ふした。現在は村會議員たるの外に常設委員、村農會評議員、納稅組合長、大日本消防協會神奈川縣支部賛助員、皇武神社氏子總代、龍造寺檀家總代等幾多の職名の下に進んで活躍してゐる。その勞や眞に多とせざるを得ない。國勢調査員として表彰されてゐる。母堂くまさんは今六十四歳で健在、夫人こま子さんと共に愛國婦人會の正會員であり、長男道太郎氏は、日本大學出身、本縣廳に勤務中である。

大和村下鶴岡

自治功勞者 長卜川 萬五郎

電話鶴岡五番

昭和三年十一月、自治功勞者の故を以て村長から表彰され、現在土地の元老として自他共に許す氏は、同郡新磯村新戸安藤源右衛門氏の三男に生れ、後ち當家先代長谷川彦八氏に望まれて同家に入り明治三十年頃一家をなして今日に至つて

六會村龜井野

村會議員 杉山 信清



曾て明治四十四年に渡米、シャールに

在ること七ケ年、ロスアンゼルスに留ること二十ケ年、夙に在米邦人間にその名を謳はれた氏は、明治十七年の出生、家は十四五代前より醫術を開業して引續き

先代宗道氏まで及んだ名ある門地で、信尹氏は戸長役場時代の戸長に擧げられ續いて六會村初代村長として、貢獻した自治功勞者である。氏は縣立第一中學校第二期目の卒業者で、後藤澤小學校正教員となり、初等教育界に寄與する大なるものがあつた。今村會議員に、學務委員を兼ねて頻りと活動、村に於ける有力者でもある。性極めて温厚な人、寫眞に興味があり、閑を利しては、これを無上の樂しみとなしてゐる。夫人は内助の功勞者として聞えが高い。

寒川村會見

村會議員 能條丘次郎
勳八等



めにと極力奔走、終に會見校の設置を見

相模 鐵道敷 設當時 本村將 來の發 展のた

たのは眞に氏に負ふところが多かつた。氏は明治十年八月八日、寒川神社神官弘善氏の男に生れ、日露戦役に參戰、二ヶ所に通貫銃創を受けた殊勳者、勳八等白色桐葉章を下賜された。曾て青年團副團長、軍人分會長、消防組頭等に擧げられて盡瘁し、現在は村會議員として村政に參與また衛生組會長として二十年勤績、その勞を多とされてゐる。

大野村瀨野邊

村會議員 中里源之丞
産業組會長



草分けと傳へられてゐる。祖父氏の代までは名主の職を奉じてゐたが、先代駒吉氏の代に至つて村會議員に選ばれ、その席に座すること約二十年間に及び、且つ

中里家

は享保以 來の舊家

で既に九

代目、大

沼部落の

その他の要職に擧げられて一村の開発に盡瘁貢獻する甚大なるものがあつた。氏はその長男、明治十六年十月七日の出生父君を助けて家業のために精進し、昭和四年來、村政方面に進出、現に二期目の村會議員であるの外、大沼産業組會長、信用購買販賣組常務理事等を兼ねて肝んに活躍盡瘁してゐる。曾ては常役委員消防組頭、第二回國勢調査委員農業調査員とし貢獻するところがあつた。長男博氏は陸軍歩兵伍長、北支事變に際して勳員召集を受け戦線に立つて活動してゐる

六會村龜井野

前村會議員 塗師七五郎
勳七等



加藤八郎右衛門氏の男に生れ、後ち塗師

意志の

人、實行

の人たる

氏は明治

十七年二

月二日、

家に入つた人で、同家は石川縣金澤の藩士である。當主は海軍兵として日露及び日獨戦争に出征參加し、大正二年には海軍砲術學校第二期の高等科練習生となつて修業した。海軍一等兵曹で、戦功によつて勳七等を賜はつた。曾て村會議員として村政に興つたが、現在は専心農事を營んでゐる。三男一女がある。

大野村上矢部

村會議員 小峯可三



當家の 始祖大森 藤頼は藤 原氏の後 裔である が、北條

氏に追はれて甲州に落ち延びたが、後ち入道して諏訪神社の別當となり、多摩郡氷川村に土着し、姓を小峰と改めて今日に至つてゐる。先代庄吉氏は村役場書記を振り出しに收入役、助役を経て日露戦

争當時の村長に推薦され、後ち村會議員學務委員に擧げられ、大正四年、再度村長に選ばれ、役場生活をなすこと實に三十年、その功勞最も著大なるものがある。その他消防組頭、氏子總代、檀家總代としても貢獻し、表彰されること數回、村會より銀杯を贈られた。氏はその長男、明治十二年十二月二十三日の生れ、温厚の人今村會議員並に常設委員に擧げられて盡瘁貢獻してゐる。夫人みよ子さんは愛國婦人會員、大日本赤十字社である。

新磯村新戸

村會議員 安藤博

當家の系圖は古く、安藤隼人重清氏を初代とし、二代目伊賀守清行、三代目伊賀守清庸氏等を経て、その四代目源右衛門尉清信氏の時、武士をすて、當地に土着、農に歸して以來代を累ねること十六代、當主に及んだ舊家名門の家柄である。當主は明治十八年十一月二十日、先代忠兵衛氏の男に生れ、中央大學法科出

身、性快活、事業家タイプでしかも極めての敬神家、村會議員を現任中であるが二十五歳の青年當時、新戸青年矯風會を起して自ら會長となり、指導員を努めたのであるが、これ實に同縣下青年會創立の嚆矢となつたもの、又相模川砂利採取所を設けて當村財政に貢獻し、相模鐵道の延長工事に際しては土地買収に盡力し昭和十二年陸軍士官學校川地並に陸軍東京郊外練兵場の土地買収に當つては地主小作對陸軍省側の難交渉に關與、率先して協調圓滿解決策に奔走するなど、洵に特筆に値すべき功績を擧げ、當村に重きをなしてゐる。曾て青年會創立及び地方の功勞者として縣地方改良會より表彰を受けてゐる。なほ當家祖父及實父氏の二代は庄左衛門尉を襲名し、祖父氏は當村安藤家當主一氏の家に入つて嗣ぎ、後ち忠兵衛氏と改名、當村助役、村長、郡會議員等に推されて活躍、自治功勞者であつたと同時に、政友會神奈川縣支部の創設者であり、當地方政友會重鎮として知

られた人でもある。

麻溝村大下

元郡會議員 小山 虎之助

小山家は本村中の舊家ではあるが、別に年代等の記録書がないために既に幾代を累ねたかを知ることは出来ない。もと平四郎氏を襲名すること数代、先々代平四郎氏は名主として功のあつた人、勤八等を下賜されてゐる。先代平四郎氏またなか／＼の人望家で、明治二十三年六月本村役場の初代助役に推選され、同二十四年二月村長の要職に擧げらるゝなど、一村のために盡瘁した功勞は尠少なものでない。當主その長子、文久元年十二月七日の出生、父祖の衣鉢を受けて村役場助役、郡會議員、後ちまた村役場に入つて収入役を勤むこと多年、祖父氏以来三代相繼いで一村の發展向上に偉大なる業績を樹てゝゐるといふ世にも稀れな榮えある一家ではある。長女マズ子さんに養嗣子義則君を迎へて令孫三男三女があ

り、一家團樂してゐる。なほ義則君は部落長を務めてゐる。

相原村

元村長 神藤 芳太郎



氏は明治元年七月七日の出生、橋本相澤家より入つ

て神藤小兵衛氏の後を嗣いだ人。神藤家は紀州大納言の御用商人であつた。氏は同二十七年より村役場書記として財政事務を擔當し、大正九年六月より昭和六年三月まで村長の要職に在つて敏腕を揮ひその在任中小學校増築、農蠶學校設置問題等を解決するなど、その他幾多の功績を残してゐる。趣味は俳句、盆栽などで目下相原村史編纂に専念して貴重なる記録を蒐集してゐる。令息重壽君は今旭小學校長として信望を博し、高等官七等

の待遇を受けてゐる。

寒川村岡田

村會議員 橋村 門六

當家庭園内に根を張る周圍一丈二尺の楠木、古き家柄たるを歴然と證據立てゝゐる。先代豊八氏は村會議員、第一回國勢調査員、前相模川左岸水利組合會議員氏子總代等を歴任、現に學務委員、方面委員、村農會議員、岡田耕地整理組合長岡田養蠶實行組合長等を兼ねて盡力貢獻しつつある功勞者である當主門六氏はその長子、明治二十七年一月二十日の出生村會議員、消防組第四部副部長、菅谷神社氏子總代等を現任、旺んに活躍してゐる。曾ては蠶桑指導員、農業調査員、統計調査員として努力するところがあつた。フジ子さん夫人との男に七女がある。

小出村堤

村會議員 岡本 吉五郎

氏は由右衛門氏の長男、慶應元年八月

十三日、代々農を本業となした舊家に生

れた人である。明治十九年兵として歩兵第一聯隊に入營、同二十七年九月臨時召集によつて野戦第一師團司令部附陸軍三等書記となり、二十八年三月、同二等書記となり、同年六月解除、八等に叙せられた。曾て村役場助役に擧げられて村長を輔くること實に二十有三ヶ年、自治の



功によつて勳七等を賜はつた。その他村

農會副會長、郡畜産會議員に推されて貢獻し、現在は村會議員であるが、同議員生活を續けること、三十餘年であり、また産業組合理事、養蠶實行組合理、負債整理組合理、郡養蠶業組合評議員、氏子總代等をも兼ね、しかも老齡を顧みず貢獻してゐる。三男君は帝大出身、目下會社員として勤務中である。

座間村中川原

村會議員 澤田 和作

當家は中川部落に於ける三舊家中の一、先代喜之助氏は村會議員を二期、部落協議員、土木委員を約二十ヶ年にわたつて盡瘁、座間小學校最初の建築等は實に氏の努力などによつて落成したものといはれてをりまた當家中興の人として仰がれてゐる。當主和作氏は明治六年十二月三十日の生れ、二十六歳の時、當家嗣子として入籍したもの、小學校正教員檢定に合格、教員生活をなすこと二十ヶ年に及び、退職後は村治方面に進出、現に村會議員であり、産業組合理であり、相模川左岸普通水利組合會議員、部落養蠶組合理、方面委員等を兼ねて旺んに盡力貢獻してゐる。なほ氏は養父喜之助氏逝去に當りその冥福を祈るため學校、宗中寺座間神社、その他公共團體等へそれ／＼金圓の寄附をなし、村民龜鑑の発行として稱へられてゐる。趣味は園芸。令聞ハ

新磯村新戸

村會議員 安藤 一

當家は慶長以來の名門家、先々代庄左衛門氏は明治初年戸長役に勤め、町會制實施後初代助役に推されて貢獻した人、先代故音藏氏は開業醫、村會議員、當村小學校醫を勤むること三十餘ヶ年、縣より表彰された。醫師としての氏はまことに仁術を實踐し、開業以來三十有餘年間、貧民に對して無請求施藥を行つた人で、常に生神様として崇敬された篤行の士であつた。當主一氏はその男、明治三十九年五月二十一日の出生、大正大學卒業後、目黒輻重第一聯隊へ志願して輻重少尉に任官正八位に叙せられ、退役後村合議員に選ばれその他軍人分會長、青年學校指

導員等を兼ねて活躍しつゝあるがその前途に多大の期待がかけられてゐる。趣味は乗馬、刀劍等である。因に祖父左衛門氏は九十七歳の長命者、陛下より養老の木杯を賜はり、また昭和十年九十五歳の當時、皇太后陛下より眞綿を下賜され當家は代々長壽者を出してゐるが、要するに禪學的な修養と併せて代々酒、煙草を口にしないと云ふことに因由してゐるのかも知れない。

小田村芹澤

學務委員 鹽川政之助

氏の家



は九代目の舊家累代農を相繼いで今日に至つたもので、先代氏は精農家として稱へられてゐた。氏は明治十六年九月十日の出生疾くから父君を助けて家業に努力する所があつた。徴兵検査に合格して入營日

露戰役に際して出征、各地の第一戰に立つて功を樹て、平和克服後、勳八等に叙せられた勇士でもある。除隊後は銳意して父祖の業に就き、他方また公公の事業に心を注ぎ、現に學務委員に推され、且つ高地中郡福組合長、相模左岸議員を兼ねてそれ／＼盡力貢献を敢てなしてゐる。曩には帝國在郷軍人會分會長として大に容與し、同分會員の感謝するところとなつてゐる。資性温良篤實の士である。

新磯村上磯部

元村會議員 溝呂木道太郎

廉直にして潤達自ら社會救済を標榜してゐる氏は、早くも青年時代より青年時代より青年支部長をはじめ消防組頭、常設委員、議事實行組合幹事、村會議員など多方面にわたつて活躍盡力した村治功勞者である。當家は指定村社八幡宮の前稱、佛像寺の神職磯部家舊姓溝呂木家より分家したもので、父君小三郎氏は常設委員、協議員、土木委員等一村のために

盡瘁した部落名望家として知られてゐた。ナミ子夫人との間に二男四女がある。

有間村門澤橋

學務委員 鴨志田鶴次郎

氏は元



村會議員 現在學務委員、縣方面委員、部落

委員、門澤橋第三卷養實行組合長、神社世話人、檀家總代、戰友會副會長、納稅組合長、軍人後授會役員等を兼ねて盡瘁貢献しつゝある。氏は明治十四年四月五日、故幸藏氏の長男に生れた。家は相當の舊家、六代前までは分明してゐるが、それ以前は文献の徴すべきものなく、従つて不明である。同三十七八年戰役に參加、遼陽に進軍、名養の負傷をなし、回復後再び樺太に出征し、その功に依つて勳八等に叙し、更に功七級金中勳章を賜

はつた勇士である。長男正夫氏は統計調査員として活躍し、村青年團賛助員、消防班長、第二回國勢調査員として、盡力大に寄與するところがあつた。

相原村相原

學務委員 小星道亮



氏は忠兵衛氏の長子、明治三年四月十二日の出生、

小學校に奉職して育英の事業に與る實に約四十年、その功極めて顯著なるものがあり、村長をはじめ郡長、文部省、知事縣神職會、郡教育會、永平寺管長及びその他より表彰されること十六回に及んでゐる。現在は學務委員、八幡宮氏子總代を兼ねて、老境の身を厭はず、盡瘁してゐる。

大野村鶴之森

學務委員 大谷龜吉



村會議員、消防組頭、區長などを歴

大谷家は相當の舊家ではあるが、一時中絶して先代藤左衛門氏の代に再興したもので、累代農を本業となして今日に及んでゐる。氏は元治元年八月十五日の出生

任した村治の功勞者である。現在は昭和四年來引續き學務委員として、努力をつゞけ、その他大野村産業組合理事、大野村養蠶、合聯合會副會長、鶴之森養蠶實行組合長をも兼任、齡己に古稀を過ぐるも、しかも壯者を凌ぐの健康さを以て常に部落の指導者として盡瘁、貢獻を敢てなし、一層の人望を高めてゐる。氏は村會議員滿期の際、在職中の手當金五十圓

を小學校に寄附してゐる。長男古重君は法政大學出身にして、現在は東京市淺草區役所に勤務し、二男崇治氏は家業に従事してゐる。

大和村深間

學務委員 中丸龍助



片倉生命保險會社、共同火災保險

會社各代理店並に日本生命保險會社特約店とし活動してゐる當家は、慶長時代以來の舊家であることが古縁などの記載によつて窺知することが出来る。先代桃太郎氏は村會議員として村治に與ること四期、村治功勞者としての名を今に稱へられてゐる。氏は明治二十三年二月十六日の生れ、平塚農業學校の前身たる中郡立

農學校の出身であり、公設消防副組頭、村會議員、選舉肅正委員、産米検査員、第一回國勢調査員等に推されて盡力貢獻したが、現在は學務委員として、産業組合長として農會評議員、深見神社子總代、佛導寺世話人等を兼ねる。活躍奔走、衆望を擔つてゐる。長男要君は今青年團深見支部員、經濟更生委員として活動してゐる。

六會村四俣野

學務委員 飯田 龍之

當家は元祿以來の舊家柄で、現在は九代目に及んでゐる。先代龍藏氏は常設委員に擧げらるゝこと數期、その功は決して尠なるものでない。當年八十二歳の高齡を保つて矍鑠、靜かに餘生を楽しんでゐる。當主は明治二十年六月三十日、その長男に生れ、西俣野小學校卒業後は家業に就き、熱心父君を助けるところがあり、しかも農業の改良に意を注ぐ大なるものがある。

温厚にして篤實なる、期せずして人望をあつめてゐる。曩には區長として盡瘁し目下は學務委員に擧げられて努力をつゞけてゐる。夫人は賢母の譽れ高い人で、間に三男五女があり、團樂たる生活振りは、近邊美望の的となつてゐる。

六會村圓行

學務委員 伊東 濱五郎

氏は元治元年十一月二十五日露木右衛門氏の第二子に生れた。生家は十五代相繼ぎ來つた農家であるが、後ち出で、伊東家の先代元信氏の後を承けて今日に至つてゐる。氏は明治四年より同十三年まで普通學を修業し現在は學務委員に推されて盡力貢獻してゐる。曾て同三十七年五月、六會村兵事會委員に選任され、大正四年三月、常設委員となつて衆望ますます加はり、同六年村會議員に當選して村政參與に進出同九年村役場收入役に推

され、同十二年、道路委員となり更に昭和四年再び村會議員に選ばれ次で消防顧問、區長等に歴任、眞面目にその職責を果し、村名譽功勞者としてまた消防功勞者の名の下に表彰されてゐる。家に一男三女あり、長男氏は今、大和村小學校首席訓導として在職中である。

大野村圓野邊

學務委員 島野 龍吉



當家は享保年間以來の舊家で氏は七代

目、明治三年三月九日、春吉氏の男として生れた。曾て大澤村漸進社の系統に屬する大野村組合製糸場理事に就任して活躍すること十數年に及んだが、同組合の閉鎖を餘儀なくさるゝや専念家業に従つ

て來た。今、學務委員に推され、また養運寺の檀家總代としても奔走してゐる。長男半平氏は二十六歳、近衛歩兵第二聯隊に服役したものであるが、昭和十二年八月二十八日、戰軍隊として渡支、第一線に立つて活動してゐる。外に女子四人あり、長女わき子さん、松藏氏を迎へて分家したが、半平氏の出征後は實家に在つて家業を助けてゐる。家庭は極めて圓滿である。

綾瀬村深谷

學務委員 井上 辨吉



井上家は延寶年間より續せる舊家、

先代源次郎氏は壯年時代より公共、村治のために盡瘁、村會議員に擧げらるゝこと十數年、村治の功勞者として銀杯を贈

られ、常設委員としては曠日當日まで三十有餘年間、その職に奔走してゐる。氏は明治五年八月十五日、その男に生れ父君の遺跡を襲いで村會議員に選ばれ、産業並に道路改修等に貢獻するところがあつた。

の教育を受け、それゝ軍籍にあり、近來稀に見る一家である。

大野村上鶴岡

元村長助役 古木 祥三郎



當家は五經六孫の基の

末流、新羅三郎義光の後裔、小木宮内から出たもので、後年「小木」をば「古木」と改めて



今この姓となつたのである。代々農を本業とな

し、幕政當時は名主を勤め、先代清左衛門氏は戸長役場時代の副戸長に推され町村制實施後、初代村長の後を襲ふて村長

に擧げられ、自治功勞者として稱へられ
てゐる。また俳句をよくし、南街堂柳夢
の俳號を以て多數の門人に接してゐた、
現に門人の建てた碑が残つてゐる。氏は
その長男、文久三年九月二十七日の出生
曾ては村長、助役村會議員、郡會議員、
學務委員等に擧げられて多年盡瘁貢獻し
たが、大正十二年震災の頃大患ひを憂ひ
以來すべての公職を辭し、僅かに氏子並
に檀家總代として與つてゐる。

綾瀬村吉岡

學務委員 加藤 傳治

當家は吉岡部落内加藤姓の總本家で、
鎌倉時代より傳はつた舊家、先々代傳十
郎氏が今の財を築き上げたのである。先
代五郎道氏は常設委員を勤むる十數年の
長きにわたり、また氏子羣代、海員救濟
會員として活躍した。氏はその男、明治
二十五年九月十五日の出生、大正元年兵
現に今學務委員、消防組第十部々頭、檀
家總代等に就任、それ／＼盡瘁してゐる

因に本村消防組の始めは、當吉岡を基礎
として生れたもので、吉岡消防組は明治
二十五年に設置された郡内最古のもので
ある。

大野村上鶴岡

元村長助役 澁谷 久吉



氏は慶應
二年十一
月二十四
日、故三
左衛門の
長男に生

れた人だ。家は二十三代を累ねた舊家、
農を家業となして相繼いで來たもので、
七八代前より明治維新にかけて名主を勤
めて土地開發に盡し、後ちに戸長職を奉
ずるなど自治の功勞者であり、今なほ郷
黨の信仰を博してゐる。氏は曾て青年會
長、消防小頭、同組頭、代理區長、區會
議員、農事實行組會長、農區總代、高坐
郡稻採種場管理、小學校新築事務員、學

務委員、助役兼農會長、村會議員、村長
兼農會長、家屋稅調查員等あらゆる公職
に名を連ね、しかも實際に活動、功績多
大なるものがあるが、現在には不健康の故
を以て公職を去り、たゞ青柳寺世話人總
代として勤めてゐるに過ぎない。なほ村
及びその他より表彰され、褒狀賞品等を
贈られてゐる。

麻溝村大下

產業組合長 小山 幸次郎

當家は古い歴史をもつた家柄、先代伊
八氏は部落の顔役として各方面に活躍貢
獻した人であるが、當主幸次郎氏もまた
その青年時代より村内の中堅人物となつ
て消防組頭、部落長、村會議員等を歴任
奔走盡力するところ大なるものがあつた
大正五年、當村に產業組合の創設を見
るや、推されて理事に任じ、同九年末同
組合理長事に擧げられて現在に及んでゐ
るが氏が組合のために血と涙に銳意双手
をあげて盡瘁した功績は、如實にあらは

れて今日の組合の發展を見つゝある。氏
は明治十五年一月二日の出生、令閨ヤス
子さんは今五十七歳、長男文五郎君は平
塚農學校出身後、村役場書記を勤めたが
後陸軍士官學校計理課に入り、目下奉
職中であるが、既に金子さんを迎へて四
男一女がある。

大和村深見

養蠶組合長 小林 桑吉



當家は
餘りにも
古き家柄
大和村深
見の草分
けとして

傳へられ、曾ては名主を奉じた名ある門
地で、先代間保氏は戸長役場時代の戸長
役、學務委員等に就任、夙に自治制建設
時代には拘はらずよくその實績を擧げ、今
なほ郷黨の敬仰措かざるところとなつて
ゐる。その餘慶か、當主は郡會議員、村

會議員、村役場助役たること二期、公設
消防組頭等を歴任、貢獻する著大なるも
のがある。深見養蠶組合創立と同時に組
合長に推され、現に明治元年一月七日生
れの老嫗を提げて盡瘁し、また農會副會
長、氏子總代、檀家總代をも兼ねてゐる
。これらは氏の人格に因由するものと
はいへ、またいかに舊來の名望家である
かを窺ふに十分である。令息君は今、横
濱市に小林灸療院を開設してゐる。

小田村

產業組合長 廣瀬 善治

氏は明治十三年三月二十日、友吉氏の
男、第十三代目の當主として生れ、中央
大學の前身、法學院の出身で、一村の共
存共榮を念願となして努力貢獻し來つた
もので、曩に郡會議員、村長、縣會議員
再度の村長、その他の公、名譽職に歴任
村内に於ける功勞者であり、また重鎮で
あり、現に小田村產業組合長、農會長を
兼ねて、かゆみなく活動を續けてゐる。

新磯村新戸

養蠶實行組 安藤 益三

當家は部落の舊家、安藤家から分れた
もので、先代源太郎氏は村會議員をはじ
め部落土木委員等を努めて一村のために
功績を残した人である。當主は明治二十
一年十一月二十一日の出生、曾て消防組
頭、新戸部落協議員などを歴任、現在は
新戸養蠶實行組會長として村養蠶方面に
盡瘁してゐるが、勤続十九ヶ年の永きに
亘り、その功其大なるものがある。氏は

また黨桑指導員たること八ヶ年、その業績からざるものがあり縣廳より表彰を受け、銀杯を授けられてゐる。フサ子夫人との間に三男七女の子福者、長男昌雄君は今二十三歳、近衛歩兵第二聯隊に入營、上等兵に昇進、満期除隊後青年訓練所指導員を勤めてゐたが、日支事變のために召集、入隊勤務中である。

麻溝村芹澤

元 區長 上原 清藏

氏は濃厚篤實、極めて人望の厚い人格者である。明治十年、故國太郎氏の男として生れたが、昭和十一年八月不幸火災に遭ふて一家全焼、系圖並に舊記等のすべてを烏有に歸せしめたので、その年代等は不詳であるが、當村屈指の舊家であることだけは明かに知られてゐる。氏はこれまで消防組頭たること三期、その他區長、産業組合役員等に推されてそれぞれ就任、且つ祖先以來時宗本山無量光寺の檀家總代をも勤めた家柄で、その功決

して渺ないものではない。先考國太郎氏は村會議員、檀家總代を兼ねて相當功勞のあつた村の信望家であつた。長男義雄君は既に令夫人を迎へて間に六人の子女あり、父君を助けて家業に精勵力進をつづけてゐる。

綾瀬村深谷

青年團長 鈴木 敏雄

氏は大正二年十月二十六日、先代馬左吉氏の男として三百年來の舊家に生れた昭和五年縣立愛甲農學校を了へて家業に就き、専念努力してゐたが、同九年同村青年團深谷副支部長より引續き支部長に進み、同十一年副團長に榮進し、更に翌十二年一月多大の衆望を得て團長に昇進、目下各團體と連絡、貢獻してゐる。父君は精農家としてその名郡内に聞え、農會總代、養蠶實行組合副組長、甘藷組合長、消防組深谷部頭等の要職を兼任し、また氏子、檀家の各總代を勤め、表彰されたこと再三に及んでゐる。

大野村鶴之森

元助役 大谷 幸次郎



氏は慶應元年三月十三日先代故良助氏の長男に生れた。

始祖は北條氏直の家臣大谷伊織氏、天正十六年に當地に來つて一家を創立、以來綿々三三十五年、十四代の舊家で農家を業となしてゐる。氏は前に村役場書記として約二十年間勤績、助役、村會議員、代理収入役、消防小頭、鹿島製糸組長、區長、日枝神社氏子總代等を歴任その功勞顯著なるものがある。現在とはかく健康勝れず、日蓮宗幸延寺の檀家總代を勤めてゐるに過ぎない。氏は日露戰爭當時助役に在任、内治の功に依り勳八等に叙せられてゐる。また村から表彰されること二回、木杯を贈られた。長男伊

幸君は鶴之森保安組合長として活動、郷黨の信望を負ふて期待をかけられてゐる家庭はまことに圓滿、常に羨望の的となつてゐる。

大和村上草柳

元村長 古谷 田寛吉



古谷田家は元祿年間以來の舊家、代々農を業として

相繼ぐこと十代に及んでゐる。氏は明治九年九月十九日、先代故竹次郎氏の長男に生れた人、大正八年十二月より同十二年まで村長の要職に在つて盡瘁、その間第一回國勢調査員、學校の増築を實現し村會議員としては震災前後の處置に與りまた學務委員、養蠶組合長などに推されて、相當盡力貢獻してゐる。夫人との間に四男三女の子福者であり、長男實君は

平塚農學校卒業後、病弱の父君を助けて家業に頻りと精進努力してゐる。

麻溝村古山

方面委員 座間 十九七

當家先代故精次郎氏は村會議員に選ばるゝ四期、その他郡會議員等村政郡治に功のあつた人望家である。當主は明治二



十六年六月二日十六日同日郡新磯村の舊農家角田兵作氏の男に生れ、同四十五年當

座間家に入籍した人で、その時分から既に將來を思はせた。近衛砲兵聯隊に入

隊、上等兵に昇進、満期除隊となつて歸郷後は家業に精勵、大に努めつゝ今日の大をなした。公共方面にあつては曾て青年會支部長、消防小頭等に擧げられ、現に養蠶實行組合副組長、農事實行組合副組長、方面委員等を兼ねて盡瘁貢獻をなしてゐる。性温厚、閑恭と將泰に興味を有つてゐる。夫人との間に四男二女があり、長男實一君は今、上溝村青年學校教師として奉職中であるが、頗る好評を以て迎へられてゐる。

綾瀬村深谷

元助役 高島 慶助

氏の家は四百年來の舊家、累代八郎右衛門又は源兵衛と稱する家名を持ち、名主を勤めた土地屈指の名望家である。先代照方氏は深谷外七ヶ村組合役場の戸長村用係兼同學區學務委員を勤めて貢獻した人。氏は文久二年七月二日の生れ、有馬村外二ヶ村の教員を拜命すること十ヶ年、退職後、村役場助役に推薦されて村

長を輔くること三ヶ年、次で村會議員、氏子總代、檀家總代等に擧げられて努力するところが多かつた。今は靜かに餘生を樂んでゐる。長男照隆君は平塚農學校卒業後鎌倉郡役所に奉職したが、轉じて縣廳に入り、現に農林技手として錚々たる名を謳はれてゐる。また次男の博愛君は藤澤中學校を経て東京高等造園學校を卒業し、目下家に在つて父祖の業に精進してゐる。

新磯村上磯部

養蠶實行 田所 政興 組合長



當家は現在十八代を累ねた當村の舊家、田所一統十

氏は中郡の舊家名門小鹽八郎左衛門氏より入つて當家を嗣ぎ、本村々長に推薦されて功勞のあつた人、先代政博氏は青年時代より一村のために盡力するところ多く、村會議員その他に擧げられて活躍中不幸四十歳にして逝去した。當主政興氏は明治三十七年十月二日、その長男に生れ、鳩川實業學校卒業後、父君の後をうけて青年支部長、消防組頭、部落長、村會議員等を歴任、その間養蠶試驗所に於て養蠶經營を研究するところがあり、現に養蠶實行組合長に任じ、旺んに活動盡瘁してゐる。サクス子夫人との間に二男子あり、家庭は頗る圓滿である。

ると共にまた村治方面に心を馳せ、衆望の期する大なるものがあり、村長に推薦され、また村役場助役として盡瘁貢献し現在中部耕地整理組合長、御所見村産業組合長を兼ねて、完成發展へと鋭意してゐる。氏はこれまで一村を負ふて縦横に活躍、かくして明るき村たらしめた功績は永久に輝くに違ひない。今は村に於ける有力者として重きをなし、政友會支部幹事の任にある。茅ヶ崎中海岸通りに別荘を建て、獨り靜かに心を慰めてゐる。なほ父君も村治に貢献した人、八十五歳の高齡を以て昭和十一年長逝された。

相原村清兵衛新田

方面委員 小山 昌平

當家は舊家、累代平右衛門氏を嗣名して農を營んで今日に至つてゐる。先代平右衛門氏は清兵衛新田總代、多年村會議員として貢献し、在職中五十六歳を以て長逝した自治の功勞者で、また橋本村ほか三箇村學區聯合會議員、消防隊の小頭

より組頭となつた人でもある。氏はその男、明治十六年十月一日の生れ、同四十二年、初めて村會議員に當選、大正六年まで在任、その他學務委員、郡會議員、村役場助役、農會副會長などに歴任、相當の功績を擧げた村内に於ける人望家であり、最有力者である。現在在方面委員連乘院檀家總代を兼ねて盡力してゐる。曾て村の功勞章を贈られて表彰されてゐる。夫人かや子さんとの間に三男一女があり、長男美代司君は平塚農學校出身、家業に従事し、二男健一君は農蠶學校卒業後間もなく卒し、三男虎三郎君は今二十六歳、南洋に活躍してゐる。

小田村遺蹟

區長 重田 龜次郎

氏の家は古く既に九代を迎へてゐる。氏は明治二十五年九月十四日、今の家に生れた人で、篤實にしてなか／＼の雄辯家民政黨に籍をおき地方黨勢の擴張にも力を注いでゐる。曩には遠藤青年團部長

代理として東西に奔走し、現在は區長に選ばれて區民のために福利増進を圖つて盡瘁貢献し、しかもその將來に多大の期待をかけられてゐる。

大野村上鶴間

區長 澁谷 豊吉



當家の家系は審かでないが古碑等の事跡によつて始

祖は久保田三左衛門氏ならんといはれてゐる。後ち今の澁谷姓に改めたもので相當の舊家であり、先代故熊次郎氏は豫防委員等に擧げられて貢献するところがあつた。當主はその長男、明治九年五月十八日、今の家に生れ、長じて兵役に就き日露戰役に従軍、功に依つて勳八等に叙し、瑞寶章並に従軍記章を賜はつてゐる二十五歳の頃より村自治方面に與つて區



とこ 昌ろあ 秋り、 現在 君は區長、

長五期、村會議員一期、農業調査員、土地貸貸調査委員、消防小頭、鹿島神社建築委員を歴任、また養蠶興に盡力する

大和村下鶴間

常設委員 古木 昌詮

氏は明治十年六月一日、都筑郡都岡村故中野春義氏の二男に生れ、後ち古木家の先代龍助氏に望まれて當家に入り、今日に至つてゐるが、温譲よく人を容るゝの雅量は期せずして衆望を負ひ、曩に村會議員をはじめ收入役、消防組頭、農會

評議員、淺間神社氏子總代、常設委員等に推され地方自治に貢献する甚大なるものがあり、村當局より十五ヶ年名譽職勳の故を以て表彰されたことがある。昭和十二年



常設委員として再選され、現任中であると同

時に、曹洞宗定方寺檀家總代を兼ねて信徒の信頼を深めてゐる。夫人との間に四男子あり、長男美保君は小田原急行鐵道株式會社運輸課の重要椅子を占め、次男壽夫君は分家し、三男武雄君並に四男滿夫君は共に明大出身、新興滿洲の地に奉職勤務してゐる。

小田村遠藤

農事實行組合長 櫻井 總一郎

氏は着實穩健、農事實行組合長、養蠶組合長、小出産業組合監事等を兼ねて活

躍してゐる。曩には村會議員、區長、學務委員等に推されて盡瘁せる村治の功

勞者である。氏は明治十四年十二月、鐵五郎氏の男に生れた。始祖は武田家の家臣三百五十年、第十一代目の舊家であり最初は郷士であつたが後ち農に歸して今日に及んでゐる。養豚事業について表彰されてゐる。夫人との間に三男一女をぞへてゐる。

六會村下土橋

區長 井上 重吉

井上家は澁谷村長後に在つて、五代前から續いた家柄である。氏は先代市太郎氏の二男として明治十三年三月十日に生れ、後ち今の地に分家獨立して今日に及んでゐる。高等小學校を卒業して以來、農事改良方面に志を致して熱心家業に當つて來た。今、推されて區長に立つてゐるが、いかにしてこの職責を遺憾なく果し得るかに細心の注意を拂つてゐるだけに、區政に現はれて來る實績は大に見る

べきものがある。氏が區長の任にある間は區民は晏如として業に就くことが出来るわけである。氏が區の大恩人として敬慕されるもの、また故なしではない。令閨氏との間に四男三女があり、家庭は洋たる春の浦の觀がある。

大野村瀨野邊

農事實行 細谷 政二 組合長

細谷家は永い歴史を有する舊家、代々農を傳へて精進し、幕政當時は名主を命ぜられた家柄でもある。先々代政右衛門氏は戸長として貢献し、先代應助氏は村長、助役、郡會議員、學務委員、區長等に擧げられて郷黨のために盡力するところあつたが昭和四年四月、村民の愛措の裡に長逝した。氏は實にその長男、明治二十七年六月十日の生れ早くから父祖の業に勵み、また公共方面に寄與するところがあり、氏は今瀨野邊第四農事實行組合長、瀨野邊區會議員、納稅組合長として活躍されつゝあるが、家庭の事情と且

つ元來が謙遜の人格者としてその他の名譽職は一切固辭して就任を避けてゐる。

六會村下土橋

區長 大川 四平

當家は約二百年來の舊家であることは口傳などによつて知ることは出来るが、その始祖、系統等に至つては全く捕捉すべからず未だに不明である。先代氏は農を業として精進した極めて眞面目な人であつた。氏は明治十三年の出生、父君の流れを汲んだゞけに濃厚篤實、且つ責任感の強烈なものがあつて、常に己が歩み來つた過程を振り返つて暫くは反省に耽ける人である。現に二期目の區長として區政に與つてゐるが、名實共に共存共榮の實績を擧げ、眞に張り切つた區民たらしむべく奔走貢献してゐる。氏はこれまで農業經營に關して大日本農會より表彰されるゝこと四回に及んでゐる。以て氏の篤農家たることが窺はれる。令室との間に四男四女があり、何れも強健、和かな家

庭につかつてゐる。

大和村上草柳

常設委員 中村 軍治



中村家は明應年間鎌倉時代の創立にかゝるもので、

約四百年を経た舊家、祖父の代には材木販賣商を業となしたと傳へられてゐるが本來は農を營み、現在は肥料商を營んでゐる。氏は阿曾吉氏の長子、明治十五年七月一日の生れ、家業に精進し他面公共に關係して養蠶組合創立當時の副組合長消防小頭、村社熊野神社總代等を歴任、大に貢献するところがあつた。現に常設委員に就任してゐる。今、大和村深見より海老名村大塚に至る道路は舊來國道であつたが、救農工事によつて改修の結果村道に編入されてゐる。併し氏はこれが

未完成であることを遺憾とし、任期中にこれが完成出現を期して邁進してゐる。家庭には二男二女の四子がある。

綾瀬村吉岡

吉岡報徳社長 古鹽 八百吉



當家は二百五十年前の祖長十郎氏より祖父七右衛門

氏に至るまで、引續き名主役を命ぜられて貢献せる家柄である。氏は八百藏氏の男、明治五年五月十日の生れ、曾ては村會議員に當選すること四期、その他常設委員、穀物検査員等を歴任、大に盡瘁するところがあつた。現在は吉岡報徳社長壽承寺檀家總代などを兼ねて活動してゐる。報徳社は明治四十三年三月の設立、大正九年當時は四五十人の社員がゐるが現在は十六名に過ぎない。併し精神教育

方面に貢献する甚大なるものがある。

綾瀬村 深谷

耕地整理 見上 義一
組合長



氏は本村近郷の偉材、資性潤達にして

村役場収入役たること六ヶ年、その他常設委員、村會議員たる四期、まこと村内唯一の名望家、有力者であり、村の西園寺公として自他共に許し、事の大小を問はず、必ず相談を選んでゐる。曾て昭和三年本村の産業不振を慨し、二三の有志を糾合、私財を投じて綾瀬村を貫通せる戸塚より座間村に至る縣道の改修に奔命して完成しました吉岡部落に於ける暗渠排水工事に際し、推されてその組合長に任じしもの大工事を果して同部落今日の良田を築いた。同八年紛糾後の本村

耕地整理組合長に就任、努力近く成果を見んとしつゝあり、同時にまた中原養蠶實行組合長を兼ねてゐるが、縣下の優秀組合として同九年及び十二年の二回に互つて表彰されてゐる。なほ氏子並に檀家總代を兼ね、家庭に四男三女がある。

六會村 四行

區長 露木 孝之



當家は既に三百年以上を經た舊家であ

ると知られてゐるが、その間の過程を物語るべき何物をも持たないといふことは當家のために遺憾である。先伏和源治氏は曾て戸長役場當時の戸長として一村開發のために努力貢献した功勞者である。當主は明治二十四年十一月二十七日の生れ、六會小學校卒業後直ちに家業に従つ

て父君を助ける等、疾くから前途を期待されてゐた。常に農事改良方面に進んで着目してゐるが、曾て村會議員、農村總代、甘藷組合長等に選ばれて盡力、その功を稱へられてゐる。現在は區長として區政の刷新、區民の幸福を期して邁進、同時に農事實行組合理事としても萬全の策を立て、精進してゐる。家庭には二男二女の四子がある。

海老名村 國分

青年團長 三部 周夫



當家は舊家代々農業を營んで来たが、

現今は運送業を經營してゐる。氏は大正二年二月七日、先代旭氏の長男に生れ、横濱本牧師範卒業後家業に従事してゐるが、青年間の支持する厚きものがあり、

現に青年團長の要職に就き、幹部の指導宜しきを得て活動旺盛である。また各支部に於ては共同事業を營み、基礎の堅實を圖り、副業の講習會、展覽會、品評會等を開催して産業の奨励を促し、實にまた現下非常時に際して率先して應召軍人慰問、基金、飛行機納募基金募集集などにも努力して多大の効果をあらしめ、體育に關しても大に奨励し、郡代表として神奈川縣大會に出席せしめてゐる。なほ特筆すべきは國分々團に於て土地を選定して梅木百本を植え、肥料の研究等の効あつて成績良好である。

寒川村 倉見

寒川村 福藤 藤澤 房吉
組合長



氏は大の葎の研究家、寒川葎組合員で

の由緒ある家柄であることが首肯される當家は源頼朝の家臣にして、最初鎌倉扇ヶ谷に住み、八千五百石を食んでゐた志澤家の裔で、後ち今の地に移り、幕政當時大名主として地方のために貢献した。先代治郎平氏は村役場収入役に選ばれた

はあるが、出荷の不便を感じてか、昭和十一年、新たに組合員二十名を以て葎福組合を組織し自ら組合長となり、組合員には無利子を以て資金を融通し、創立當初二萬五千圓の収入を得てゐるのに大に氣を吐き全村を組合員たらしめ、年收二十萬圓たらしめんと劃策邁進してゐる。

綾瀬村 吉岡

方面委員 志澤 富美男



古木につつまれた豪壯な邸宅、一見そ

が、不幸早世した。氏は明治四十年七月一日の出生、方面委員として現任中であるが、今後大に刮目されてゐる。

綾瀬村 上土 堀

篤農家 峰尾 景治



氏は富民協會、帝國農會、農林大臣等よ

り表彰された縣下唯一の篤農家として著名である。明治十二年十月十三日の出生、寒川學舎修了後、各種農事講習を受け郡農支會代表に選ばれた。氏は父君治助氏の薫陶宜しきを得て農事に精勵し、また諸種の改良に専念した。即ち里芋を改良して「高座早苗」の名によつて全國に販賣し、更に薩摩芋を改良して「高座赤」と稱して頒布し、最近農林省指定のラミー栽培に精進してゐる。曾ては麥酒麥

耕作組合長をはじめその他諸種の組合長に擧げられて盡力し、現在は三期目の村會議員として村政に參與してゐる。

六會村石川

區長 西山 錠太郎



曾て米國に渡つてサンフランシスコ、

ワシントン、ニューヨークその他を踏査見聞をひろめて来たゞけに、村道路の改修、新線設置、産業開發等について別個の意見を有つてゐる氏は、曩に農區總代その他に擧げられて貢獻するところあつたが、現在は區長として區民のための利福招來に向つて活躍してゐる。氏の家は約十三代からの舊家で、幕政當時には名主を命ぜられ、戸長役場時代には戸長を勤めて一村の開發繁榮に努力した功勞の

ある家柄で、氏は明治三年、この家に生れたのである。性謹嚴温厚明な人として衆望をあつめてゐる。夫人との間に二男三女があり、家庭は和かである。

綾瀬村上土壘

養蠶家 田中 恭助



氏は縣下た一人の養蠶家として名を馳せてゐる。これまで桑園と養蠶との改良に貢獻せる甚大なるものがある。大正初年より同五六年に亘る不況時代にあつても、なほよく精勵努力し、最も合理的に値段は安くも引合ふ經濟法によつて生産費を節約し、建物と勞力との平均を圖るために初秋、晩秋各二回を飼育し、異常な成績を擧げてゐる。そして春秋合計千グラム程度の掃立をなし、その收購量

は氏の右に出るものがない。同十年大日本農會より表彰を受けてゐる。公共方面にあつては、曾て消防組頭、養蠶實行組合長、在郷軍人分會長、村會議員等を歴任して功を稱へられてゐる。氏の家は民部大輔の流れを汲み、代々市郎右衛門氏と稱し、名主を勤めた家柄で、氏は庄次郎氏の男、明治十二年五月二日の出生、日露戰役に出征、勳八等に叙せられた勇士である。

寒川村一宮

寒川組合員 甲賀 春吉

神奈川縣養蠶聯合組合から年々出荷する蠶は五十萬箱を超えてゐるが、そのうちの二十萬箱は實に當村寒川養蠶組合から出たのである。それほど村民は養蠶に熱注してゐる。温室養蠶の先覺民として名を成してゐる。當村が養蠶の栽培に研究を持つやうになつたのは大正十五年頃からで、當初は藤澤町に於て試みたが、成績が面白くない、後ちこれを當村に移して研究を重ね

終に今日の名を成すに至つたもので、組合員数は百三十三名に達してゐる。組合長は村田氏で、當主は副組合長として活躍してゐる。明治二十五年四月の出生、愛甲農學校の卒業生であり、苺の栽培には多年實地に手をかけてゐるだけに、組合員の信頼も多大なるものである。夫人清子さんは賢母の譽れ高く、長男君は今湘南中學校に在學中である。

綾瀬村吉岡

杉村農園主 杉村 銈一

氏は尙次氏の長男、明治四十五年二月二十日の出生、東京府立第八中學校を了へたるも、身體稍や病弱なるの故を以て決然土に親しむべく農業界に入り、曾て大岡山に農場を持ちて養蠶に従事せる體験に基き、昭和八年今の地に廣大なる土地を購入して翌九年、杉村農園と銘打つて養蠶をはじめ栗、柿、桃、梅等の果樹に加へて蜜蜂、筍などの多角形農園を開始し、着々優秀なる成果を收めて今日に

至つてゐる。土に親しめとは實に氏の一家言で、病弱なる體軀は漸次健康に恵まれ、同農園自作歌を高らかに歌ひつゝ、打ち振る鋤の光にも陽光燦として生氣を見せてゐる。因に父君尙次氏は東京市品川町役場時代の収入役を永年にわたつて勤續せる温良の士で、現に奥澤に卜居し、同地郵便局長として通信事務に執掌してゐる。

藤澤町大庭

大庭神社 氏子總代 森 谷 龜吉

大庭の天神と呼ばれる當社境内の面積中五百三十坪、二千五百圓の基本財産があり、三百有餘の氏子を有してゐる。その創立年月日等は判明しないが、延喜式内社で神產靈神を祭神となす相當の古社である。配祖大庭三郎景親公は後桃園天皇の安永六年十月、神祇伯從二位資顯王によつて勸請され、また菅原道真公は光格天皇の御代、諏訪部太郎山崎六郎兵衛包高等によつて勸請されたもので、相模

新磯村上磯部

八幡宮社掌 磯部 正雄

氏は明治三十三年八月九日の生れ、鎌倉師範卒業後大澤小學校、麻溝小學校を経て今、大野小學校訓導として奉職し、また指定村社八幡宮社掌でもある。當社は延文二年九月の建立、應神天皇を祭神となしてゐる。昔は佛像院と稱し、佛像坊祐圓を開山となして引續き現在までに及んだもので、相繼ぐと三十三代に至つてゐる。舊幕時代には幕府より十石の御朱印地を有し磯部、上依知、關口等に社地を有してゐたものである。當社境内にある不動明王は、古くより靈驗著るしく

後瀬村寺尾

陽廣山報恩寺



本山
は建長
七年八
月、朝
岩存夙
和尚の

開山された古刹、現在は第二十七世太嶽洞源師に及んでゐる。師は多種多藝の人しかもその熱は日蓮に比すべく、その技は甚五郎に及びその勇、その剛警ふるにものなしである。愛知縣岩倉町の出身大正元年台灣一聯隊に入營し、後ち同七年日本大學宗教科に學び、同九年本山に迎へられて住職となつた。大の觀音信者で境内にある裏山の洞窟内にこれを安置しまた報恩のため一萬体の觀音像彫刻を發願し既に二百体を完成して、境内に安置してある。師はまた日支事變出動者の武運長久を祈願して守護符を分つてゐる。

師は明治二十五年一月生れの壯年者、今後に大なる期待をかけられてゐる。

寒川村

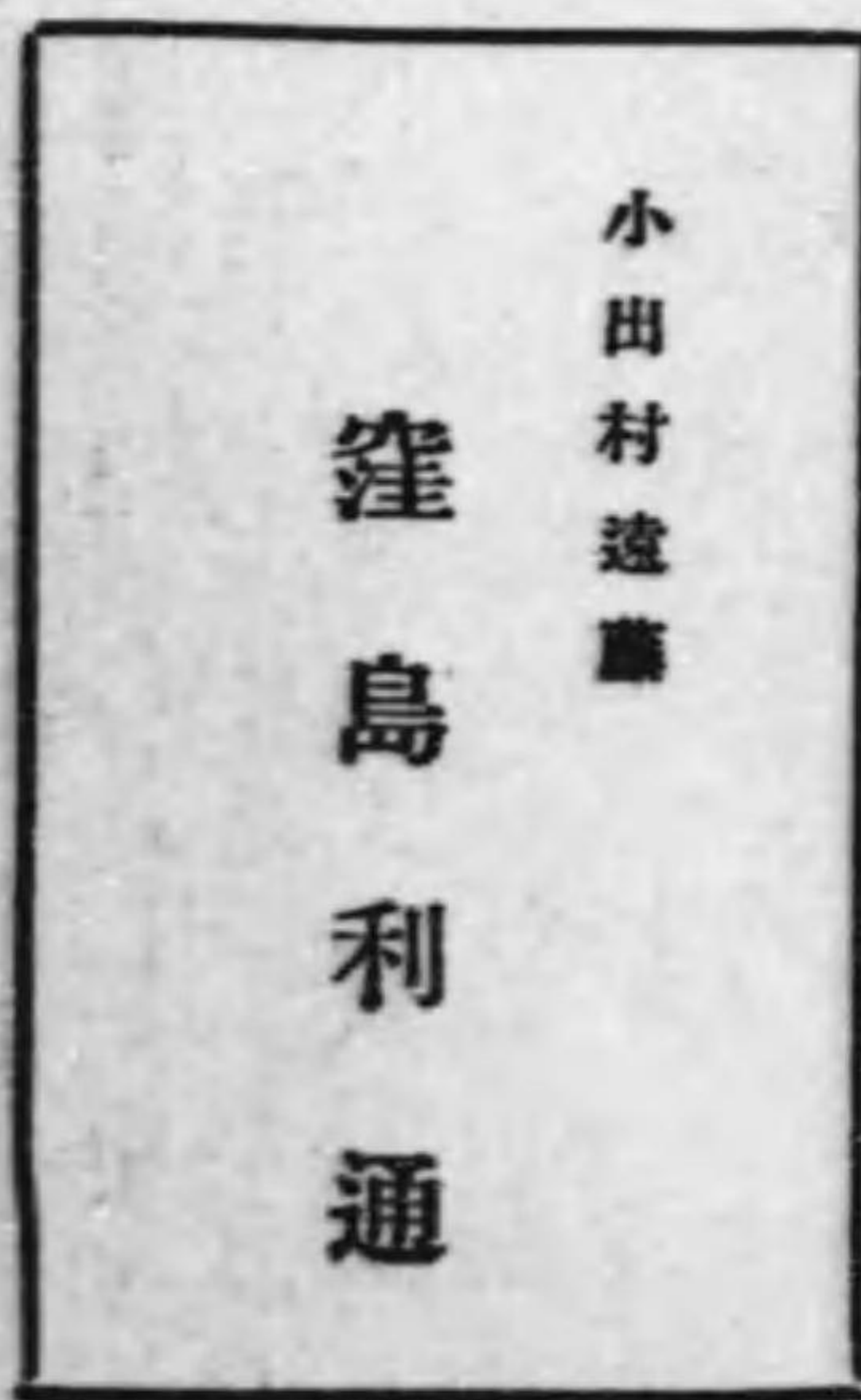
國幣中社 寒川神社

當社は延喜式内相模國十三坐中唯一の大社に列して、遠く一千五百餘年前雄略天皇の御宇、初めて幣帛を奉られたといふ由緒を有つてゐる。寒川比古命、寒川比女命の二柱を祭神となし、夙に朝廷の崇敬あつく、仁明天皇承和十三年始めて從五位下を授けられ、醍醐天皇延喜十六年には正四位上にのほり、國の一之宮として上下の崇敬あつく、源頼朝幕府を鎌倉に開くや奉幣寄進の使が絶えなかつた。小田原北條氏また累代尊信篤うしてしばしば社殿の造營及び修覆を行つた。そして徳川氏は永く先規によつて神領を寄進し以て明治に及んでゐる。明治四年五月十四日國幣中社に列せられ、自今官祭仰せ出された。同二十六年五日有栖川宮熾仁親王御染筆御神號を下附され、同

三十一年四月常宮、周宮兩内親王殿下御參拜あらせられ、稚松の御手植あらせられた。大正十年十一月陸軍大演習に際し、皇太子殿下御差遣幣帛を奉らしめ給ふた。また皇室典範、帝國憲法の制定をはじめとして、對露、對獨の宣戰並に平和克復及び御即位大嘗祭に際しては、また常に勅使參向奉告奉幣あるを今に例となしてゐる。新年祭は二月十七日、例祭は九月二十日、新嘗祭は十一月二十三日とそれ／＼大祭を執行してゐる。祭日には附近からばかりでなく、京濱から押し寄せる參詣者で參道も境内もごつた返しの有様である。

小田村遠藤

窪島利通

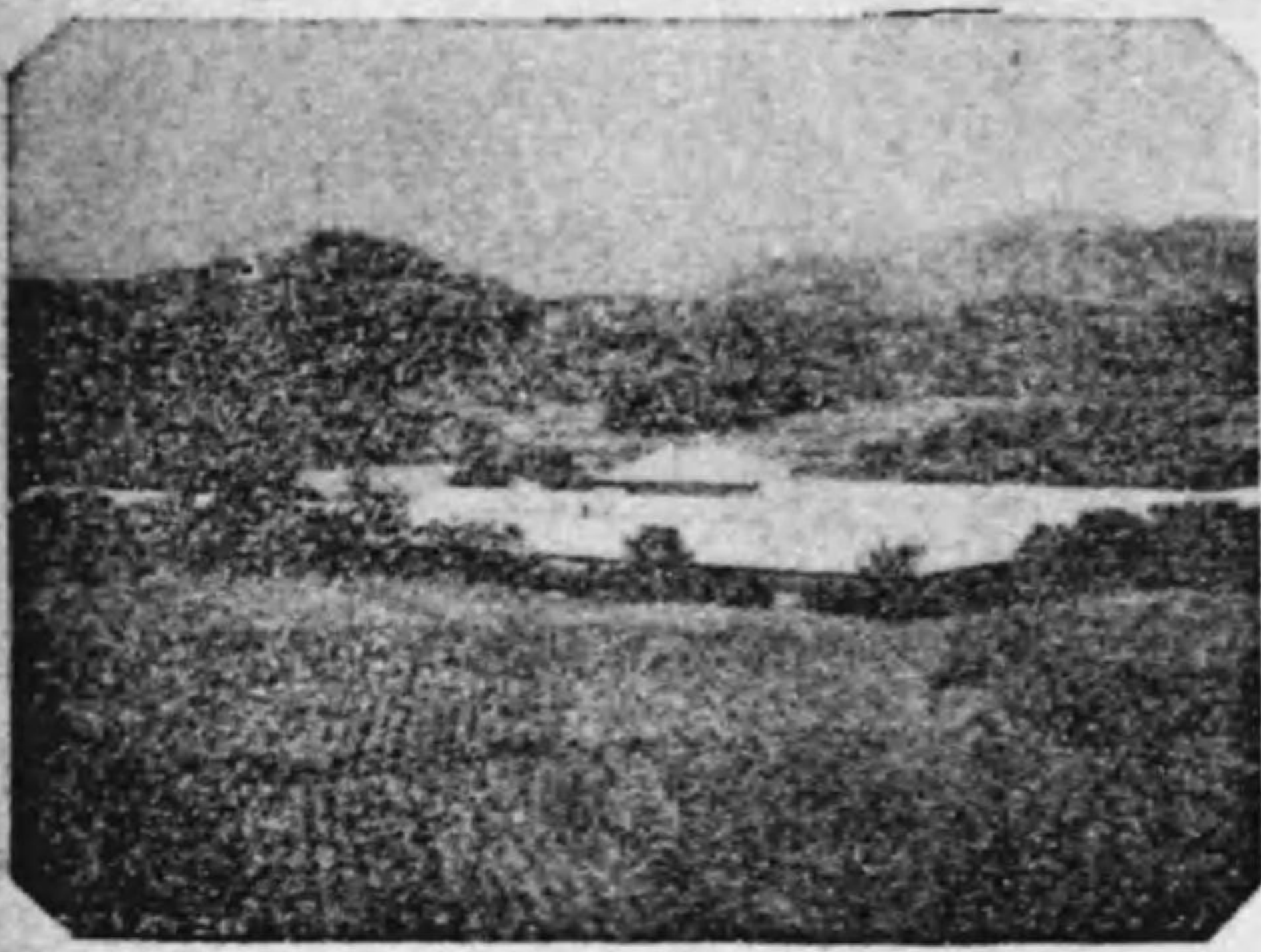


中

郡

大根村下大槻廣畑 神奈川 秦野中學校

本校は大正十五年奈珂中學校として設立認可され、中郡金目村外二十六ヶ町村學校組合立であつたが、昭和十年縣營に移管、現校名に改められた教職員二十四名、生徒四百七十名を算し、質實剛毅の校



風は天下に鳴り響いてゐる。初代校長山本茂氏、二代目長澤恭治氏、三代目梶田集義氏を経て、現校長中谷英眞氏昭和十一年八月に就任した、和歌山縣の人、大正五年、東京帝大歴史科を卒業、京都市立平安中學校を振出しに、和歌山縣立高女、兵庫縣甲陽中學校、長崎縣大村中學校、神奈川縣立横濱一中の各教諭を歴任後、本校長となつたのである。

秦野町會屋

秦野高等女學校

本校の設立は實に大正十五年三月のことで、初めは秦野町立秦野實科高等女學校と稱し、同年四月十日始業式を挙げたのである。創立以來、生徒は主として本町内に占め、その他は近郷からの通學生をもつて充たされ、昭和六年の四月に組

織を變更して秦野高等女學校と改稱、年々生徒の数を増加しつゝ今日に至つてゐる。同十一年十一月創立十周年記念を祝つたほどで、卒業者を社會に送り出すこ



と既に丹約四百人、その多くは主婦として

堅實な家庭をつくり第二國民の養成に當つてゐる。現在生徒の数は約二百三十名、何れも張つた心で通へば、職員また本校教育方針の下に教諭に立つて鋭意してゐる。本校創立當初の校長としては山崎信氏があり、懸命努力し、ついで二代目中野萬作氏、三代目若原種次郎氏等を経て、丹羽壽雄氏、四代目校長兼教諭として昭和八年三月縣立川崎中學校から榮轉、現任中であるが、氏は今、本校を縣立に移管すべく、極力奔走してゐる。因に本校は水道、電氣裝置、殆んど完備

し、普通教室外の各室にはそれ／＼に應じて水道、電熱、照明の設備が充實してゐる。

國府村生澤

神奈川縣立國府實修學校

電話二宮一〇八番

本校は、不良行爲をなし、または爲す虞れある十四才未満の少年を保護收容し將來に於て、社會共存獨立自營の精神を體得せしむるを目的として、明治三十六年神奈川縣黨育院と稱して設立され、昭和十二年現名稱に改められたもので、不良兒童を理想的なる環境に移し、家庭的養護の下に、學修勞作運動娛樂等併せて心身を陶冶し、創立以來の入院者九百三十名に上る。現校長は吉村九作氏にして埼玉縣師範學校の出身、助役等をつとめて功勞多き傳六氏の男にて明治十六年三月の出生である。いまこの吉村校長の下に全職員協力一致尊き職務の遂行に邁進してゐる。

金田村

金田尋常高等小學校

本校は兒童二百五十名、職員八名あり、出席歩合九十八パーセントにして全縣下を通じ例外的成績である。出身名士には田中八郎氏、田中榮氏等がある。現校長常盤正平氏は足柄下郡下府中村の人常盤家九代目に當り、先祖は油屋を経営せるため今も油屋と號される。氏は明治二十五年九月に生れ、小田原中學を経て神奈川師範二部に學び、明治四十五年以來教育に身を捧げること二十有六年現時女子青年團長を兼任する。

大磯町大磯

大磯漁業協同組合

當組合は明治三十六年四月の設立に係り、一時漁船乗組員五百三十名以上を有したことがあるも、現在は専ら漁業者のみの協同組合とし、保證責任組織に改められ、組合員二百七十名、出資三百四十口

(一口五十圓)を算し、昭和十一年度に於て約三十三萬圓の水揚高に達し、事業は共同販賣を主とする。組合長は山下濱吉氏にして、理事は渡邊銀次郎、佐藤長吉の兩氏、監事は宮代藤吉、柴山龜吉、庄崎重吉の三氏である。

秦野町會屋

秦野織物同業組合

當組合は大正十一年の創立にして、組合員二十八名、年生産十六萬六千貫、金額にして約二十一萬五千圓である。織物並に染絲の検査、取引の検査、その他織物の改良進歩をはかり販路を擴張するため幾多の事業を遂行してゐる。組合長武宇三郎氏は小巾縮木綿製織者として名有り、副組合長金澤鶴吉氏は別珍高級品、(輸出向)の製造業者、共に組合のため碎骨淬勵されてゐる。なほ理事は露木嘉一郎氏ほか六名である。いまや秦野町産業發達の爲に無くてはならぬ組合として斯界に重きをなしてゐる。

大野村

大野村信用買賣組合

電話平塚三六三番

當組合は、明治四十年有限責任大野村販賣組合として設立され、その後信用購買事業を追加、組織も保證責任となり、現在組合員四五〇名にして、出資四五八口(一口十圓の半額拂込)年販賣高(甘藷)六萬圓に上り、販路は、主として東京、次で横濱である。前組合長吉川善録氏は組合創設功勞者にて、郡會議員、村會議員、村長等をつとめたる人。現組合長吉川壽司氏はその長男として明治十一年に生れ、資性剛放果斷にして雅量温情あり、明治四十年三十歳の若さで收入役に推され在任四期、大正九年助役となり同十三年村長に選任、現在は村の元老として學務委員、方面委員の職にあり、且つ事業家にして村内に澱粉製造工場を経営し年々莫大の利益をあげてゐる。令夫人との間に三男一女あり長男善録君は早

稻田大學を出て淺野物産社員となり、次男正勝君は大倉高商を卒業し目下海軍省に勤務する。

大磯町大磯

中郡畜産組合

當組合は、帝國馬匹協會常務理事石井博氏及び現主事小泉氏の努力奔走によつて設立され、當初馬匹獎勵の意味から競馬を催し今では百萬圓に近い馬券賣上を見てゐる。また乳牛の獎勵につとめ、現在神奈川縣下の搾乳高七十萬石のうち五十萬石は中郡内から産する隆盛を見るに至つた。組合長は河野一郎氏、副組合長は宮代定吉氏及び關野進氏、主事小泉龜縣氏は元村長、村會議員たる芳太郎氏の男、明治十九年大火に遭つて馬を焼死せしめてから愛馬心一入強くなり畜産事業に興味を持つに至つた。先年町會議員に選ばれて活躍貢獻せるは世人の知るところである。今や當組合は信望を得て以前にも増し、ますます發展の途上にある。

大磯町大磯

元衆議院議員 中川隣之輔



縣政界の重鎮であり、よく縣政のため盡瘁せる氏は

明治三年八月十二日の岳降、十七代を相繼ぐ舊家にて、先代は運送業を経営せる剛毅果斷の人である。氏は夙に藤澤銀行事務取締役、内外化學工業株式會社、大日本水道木管株式會社、その他幾多會社の重役たりしことあり、また衆議院議員縣會議員、町長、馬政委員等を歴任、現時民政黨本部評議員及び神奈川縣支部顧問を兼ねる。政府、産業團體その他より表彰或は感謝狀を贈られしこと數度に上り、當町にとつて氏は正に國寶的存在であり、無くてはならぬ人物として人々の尊敬を浴びてゐる。

秦野町

消防組頭 石井兵助

町の有力者にして人望高き氏は明治十年の岳降である。明治三十七年消防手を拜命以來小頭を経て、大正元年組頭に擧げられ、爾來引續き今日まで二十有五年を消防事業のために盡瘁し、實に縣下組頭中の最古参にして且つ隨一の功勞者と稱され、大日本消防協會よりは表彰を受け、縣消防協會評議員及び理事を兼任する、また曩には學務委員をつとめ、現時町長として手腕を發揮するほか町會議員四期目を兼任し、更に青物市場取締役社長として重きをなし人望いよいよ厚きを加へてゐる。

二宮町

二宮町長 杉崎源藏

人望普く、學識經驗に富む氏は、日露戰爭當時助役として銃後の守りに任じ功により勳八等を賜はりし人、村制當時村

長をつとめ、二宮町制施行後町長となり昭和七年以來引續き今日に及んでゐる。

昭和学校建築、役場新築、町制施行等に際しては特に功勞あり本町元老として全町の信頼をあつめてゐる。また曾ては町會議員その他の諸公名譽職を歴任、自治史上特筆に價する幾多の業績をのこしてゐる

國府村寺坂

國府村助役 鈴木貞良



當家は遠く南北朝時代軍功により領地を受けたる記

録を有する舊家にして、判明せるもの三十代に及び、その以前は紀州に住居してゐたらしい。先代貞次郎氏は學務委員、村會議員等に選ばれて村治に貢献多き人當主貞良氏はその男にて明治十二年五月の生れ、早稻田大學文科卒業後、米國加

州に於て飛行技術を研究せるも途中實業界に轉じ在米十七七年にして歸朝、帝國に國產自動車會社創立に盡力せるも機至らず、長野縣に轉じクレー製造會社を創設、支那上海に出荷して隆盛を極めしが曩の上海事變の影響により閉社の止むなき事情となり、郷里國府に歸つてからは村會議員を二期つとめ、現にその任にあるほか助役を兼ね村民の信任が厚い。家庭には母堂キクさん、夫人龍枝さん、一女幸子さんがある。

神田村田村

村會議員 落合仙吉



恭儉温良の士、且つ信念強き材幹たる氏は明治七年

二月四日を以て先考八右衛門氏長男に生れ、同二十七八年の日清戰爭には第一師

團麾下に屬して臺灣攻略に功あり、十年後の日露戰爭には第三軍乃木大將の下にあつて金州より旅順港攻撃に向ふ途次、右脚關節に名譽の負傷を受けたるも勇往奮戦、その功により伍長に任じ、勳八等功四級に叙された。同村内より日清日露の兩役に出征したる者稀にして、軍隊生活六十年に及び現に恩給を支給されてゐる。凱旋後は家業に奮勵すると共に幾多の公名譽職を歴任して公益に盡し、現に村會議員として活躍馳驅してゐる。先年好樂寺建設に際し功勞多き廉により表彰された。家族は七人をかぞへ、長男岸司君は明治四十二年出生にて目下銳意家業に精勵されてゐる。



の出生、大正二年兵として目黒騎兵隊に入隊、除隊後は村治に携はり、現に村會議員であるの外、養蠶組合長、産業組合貸付評定員、農會總代、耕地整理組合會議員等を兼ねてそれ〴〵活躍盡瘁してゐる。なほ同家は歩、騎、砲兵の三名の軍人を出して感謝を以て表彰されてゐる。

大田村沼目

村會議員 勝田直吉

廣大な母家、宅地の廣い宏壯な構へは三百年來の家柄を思はせ、村一二の資産家であるといふことを頷かせる。氏は明治十五年八月二十一日の出生、代々の農業を承けて立つた人、曾て日露戰役當時近衛師團兵として出征、除隊後家業に精進、しかも農業方面には頗る造詣深く常

城島村城所

村會議員 中野弘治

村會議員 細野高治

村内有数のインテリとして村治に功あり、且つ事業界の新鋭と云はれる氏は中野善造氏の息にして明治三十五年を以て呱呱の一蹻をあけた。幼時すでに英邁の譽れあり、郷校を卒へるや祖業に従事精勵しつゝ青年團その他の公共團體に關係し、殊に青年團長としての功績は甚大なものがある。スポーツに興味を有する

相川村岡田

村會議員 細野高治

當家は北條家の臣細野石見守の後裔、代々仁右衛門並に久右衛門氏を襲名し名主を勤めた由緒ある家柄である。氏はかヨ子さんの男、明治二十六年三月十五日

近代人で、現時村會議員、區長、學務委員に推されて寄與貢獻するほか、平塚市所在の共益無盡株式會社事務取締役として金融界に重きをなし、また民政黨中郡常任監事にして春秋に富むその將來は、多大の期待を以て囑望されてゐる。令閨加代さんとの間に長男弘行君（昭和三年生）ほか一男二女を有する。

岡崎村

村會議員 佐野喜三郎
中郡豚商組合長



養豚の大家といはれる氏は、佐野浦次郎氏の男にして明治十三年四月二日の岳降である。郷費卒業當時から養豚に興味を有し岡崎村に於ける養豚業の嚆矢者で、その熱心なること他に比を見ず、加ふるに養豚知識の該博なること實に稀に見るところであ

り、各地に催される品評會、展覽會、共進會等に於て優等賞状を授與されしこと十數回に及んでゐる。中郡豚商組合長たること二十五ヶ年の長きに及び、現時畜産組合代議員及び村會議員の重責を兼任し斯業の發展に寄與貢獻するところが多い。令閨ミトさんとの間に令嬢ハツさん（大正六年生）があり、家庭の朗景圓滿なること他の羨むばかりである。因に當家は七百年以前の石碑ある舊家にして代々農を營みし家である。

豊田村宮下

村長 片倉元次郎
勤八等

犠牲的精神に富み、自治的手腕に長じ名村長とうたはれる氏は、明治七年十月三十一日の出生にて、當地方自治産業界の大御所とも稱すべき存在である。勤八等旭日章の佩用者にて、現に村長として手腕を發揮するほか村農會長、産業組合長、中郡畜産組合長の重責を兼ね、信任厚く、功勞またすくなくならざるものあり

義に中郡町村長會長より表彰されるの光榮を有した。

金田村寺田

金田村長 高橋村太郎
勤八等

當家の祖は小田原北條氏の家臣にして武藝の聞え高かりし家柄、後、當地に居住して農を業とし、歴代郷黨の間に聲望ありし舊家である。先代又平次氏は村會議員をつとめ、氏はその男にして明治九年十月三日の誕生、日露戰爭には從軍出征して伍長に任じ勤八等を賜つた。その後専ら自治公共のことにつくし、青年團長、收入役、養蠶組合長等を経て、現時村長の要職にあるほか耕地整理組合長、養蠶組合長等を兼ね、本郡下屈指の名村長とうたはれる。趣味は草花、植木等。

旭村

旭村長 日企野哲

時流に阿らず、時勢に阿はず絶對中庸の道を歩んで自治の公正を期する氏は日

企野次郎吉氏の男にして、明治十年十月五日の出生である。幼少の頃より頭腦明敏を以て聲え、長ずるや自治公共の事業に關與貢獻するところ多く、また神奈川縣に職を奉じ累次出世して會計課長の椅子に就き、上司の信任厚きと共に部下の尊敬を一身にあつめ、名課長と稱讚された。退職後は専ら郷黨のために盡し村會議員二期目、村長、耕地整理組合長等を現任する。マサ子夫人との間には敏夫氏（明治卅七年生）達夫君（大正六年生）芳子嬢（大正九年生）武夫君（大正十二年生）玉子嬢（昭和二年生）がある。

土澤村土屋

村會議員 石黒照壽
元村長

村政の改革者として功勞あつき氏は、村會議員六期をつとめたる先代唯五郎氏の男にして、夙に鎌倉師範學校を卒業し教育界のフオアランナーとして令名高かりし人材である。村長に選任勤續十八ヶ年に及び名村長の聞え高く、現在は村會

議員、産業組合理事、農會評議員を兼任する。家庭には令閨及び二男二女がある。因に當家の祖は武田家の臣にして、武名高かりし家柄である。

金目村青柳

村會議員 柏木昇
篤農家



英器俊才、篤農家の聞え高き氏は平塚農學校の出身

にて、生れは明治三十三年七月四日である。學校卒業後専ら農業經濟の研究をなし、昭和十年オート三輪車を購入し、人糞肥料の汲取りに使用し、農業經營方法に一新紀元を劃した。田二町歩餘、畑一町數反歩、計三町八反の耕作に金肥を絶對に使用せず爲に年收一千圓の別途收入を得ることに成功しまた前記オート三輪車は一千圓を投じて購入せるも、毎日肥

料汲取りに使用して十五年間は確實に利用し得られ、これによる人件費の節約は年五百數十人に及び、三輪車使用に基く別途收入は推算以上の實績にして、氏の將來性を考へる時、期待は翕然として湧り立つのである。なほ現時村會議員をつとめ、家庭には令閨キミさんほか一男、二令弟がある。

大根村落幡

村會議員 伊藤金藏

溫和なる人格者と稱される氏は村會議員、煙草耕作組合理事の任にありて一意産業の開發と村勢の發展に盡力して功績多く、村内の聲望甚大である。抑々當家は三百年以上を閱する舊家にして、先代米太郎氏は區長をはじめ農會總代その他の要職に就き、現に齡喜壽に達して健在である。氏は男五人兄弟中の總領にて、末弟勇氏を嗣子に定めてゐる。勇氏は近歩二聯隊出身の勇士、目下青訓指導員をつとめる因に當家は三人の軍人を出した

廉により聯隊より感謝状をおくられた家である。

東秦野村養毛

前村長 相原仲次郎



氏は有名なる愛村家、その村長に在る日、丹澤林道

の開発、學校併合、新校舎建築と敢然私財を投じて種々奔走、その業績顯著なるものがあり、熱誠果敢の名村長として今も村民渴仰の的となつてゐる。その他助役、収入役、村會議員、消防組頭等に歴任、村役場にあること三十二年間に及んでゐる。現在は納税組合長、氏子總代報徳社副社長等を兼ねてゐる。氏は非常なる愛鳥家、常に二三羽の名鳥を飼育してゐるが曾て村長引退の際、その記念として鳥の像をおくられてゐる。氏の家は

本村内相原家の總本家をなし、嚴父故市平氏の倦むなき努力が同部落唯一の資産家たらしめたものである。他面また非常なる風流人で茶の湯、生花などの秘傳を得て宗匠となり、生花は古流（相雲齊華信）と號し、斯道の鉅々たるものである。なほ當主夫人スズ子さんとの間に令嗣勝治君の外に二男四女あり、四女は何れも他に嫁し、次男市兵君は十八歳、厚木中學校に、三男精太君は十五歳、秦野中學校にそれぞれ在學中である。

南秦野村今泉 南秦野村長 綾部喜代治

南秦野村今泉

南秦野村長 綾部喜代治

氏は明治三年三月十九日を以て生をこの世にうけた。尊父久右衛門氏は村會議員、學務委員等をつとめて村治に功勞多く、その名は遠近に普く、徳祿すぐれた人として有名であつた。氏はその血を享けて資性明晰、夙に収入役に推されて在任三期、その他村會議員、學務委員四期等に任じ、縦横に才腕を揮つて寄與貢獻

多く、現時村長の大任を帯びるはか畜産組合長、養蠶實行組合長を兼任し、一意村勢の發展に盡瘁してゐる。

北秦野村横野

村會議員 伊澤茂三郎



明朗にして快活なる紳士として定評ある氏は、その

村政上に於ける抱負と經驗、そしてその卓越せる手腕とは村役場助役より更に村長の要職に推薦された當時、早くも多分に發揮され、今なほ村民等の敬慕渴仰の的となつてゐる。また消防組頭としても一期間就任したが、現在は村會議員、營林委員、養蠶組合長として盡瘁してゐる。當家は伊澤家の總本家で、地元白泉寺開基の舊家で五代前までは何れも院殿號を附されたほどの名門家であつた。父君の

重左衛門は多年村役場収入役として活躍本村財政の基礎をかためた功績は没すべからざるものがある。なほイシ子夫人は如淑温良の人、長男守君は秦野地方專賣局吏員として勤務すること十數年、近く東京本廳詰に榮轉の由。

大磯町

元中郡町村長會長 森茂樹



氏は岡山縣の産、明治六年三月の岳降にて、十五歳の時上京、早稻田大學の前身たる行政専門學校を卒業、明治四十五年神奈川縣警部に任じ警察部勤務、浦賀署長、松田署長を歴任、歐州大戰當時は

縣特高課長の重責をつとめ、次で水上署長、横濱山手署長、横濱加賀署長を経て大正十二年の大震災を期に退職して中郡長、郡制廢止に至るまで勤続その後大正十五年から昭和五年まで大磯町長に任じ中郡町村長會長、郡教育會長、郡校長會長等を兼ね功績多く表彰多數に上る。

秦野町

町會議員 秦野煙草耕作組合長 望月永三郎



氏は頭腦明晰、すべてに機械、夙に農村問題に一隻

眼を有しこれが研究指導を怠らない。殊に氏は煙草耕作の大立物、永年一町歩以上の耕作を繼續して常にこれが研究に没頭してゐるが、大正十三年煙草耕作者百

七十名を糾合し、組合のトップを切つて秦野煙草耕作組合を創立した。即ち煙草耕作の改良進歩、生産費の節減、專賣局及び縣郡農會との連絡等を圖り、事業の發展に努むることを眼目となし、氏はその組合長となり指導今日に至つてゐるが年々好成績を示してゐる。氏はまた進んで一町二十九ヶ村の煙草耕作業者と攜手して、煙草耕作組合聯合會を組織し、その相談役に推され、專賣局秦野出張所の囑託として勤務するなど、煙草界に貢獻する多大なるものがあり、專賣局より功勞者として感謝狀並に表彰狀を授けられてゐる。次に氏は大正十四年七月秦野信用販賣購買組合を組織して現に二代目組合長理事に現任中であるが、當組合は出資一口の金額十圓、組合員百四十九人で口數九百三十六口、總出資額九千三百六十圓である。現在貸付總額は約三萬三千四百圓を見せ有望なる組合として稱へられてゐる。氏はまた、秦野町の大部分が農業であるのに、町會議員に一人の農業

者なきを遺憾とし、三十六歳の時、自ら出馬して當選、議員二十四名中たゞ一人の農業者として戦つた變り種でもある。現在は三期目の町議、しかも最高點で當選、町政のために懸命と努力してゐる。

二宮町二宮

町會議員 伊達 龍
從七位法學士

當家始祖は藤原家の臣、文官出身の家柄であつたが、途中醫業に轉じ、徳川時代名醫として知られた。先代時氏も刀主家、明治三十六年衆議院議員に當選、日露戦争當時よく國事に盡瘁し、その名は今も二宮町に光つてゐる。當主はその男、明治十七年十二月十七日の出生、日本大學獨法學部出身の法學士、一年志願兵、陸軍主計中尉に任官、從七位に叙せられた。大正十年浦鹽に派遣され、翌十一年十月歸隊、青森歸着と同時に退營、次で政友會神奈川縣支部評議員、山梨半造大將の秘書官、芝區濱松町鷺見印刷會社相談役、蒲田區軍需品柳田製作工場相談役

古川電線製造會社顧問、大川工業株式會社本社勤務、玉川電氣鐵道株式會社倉庫長等に歴任したが、父君逝去によつて歸郷、中郡軍人聯合分會長、在郷軍人二宮分會長に推され、今また町會議員として町政に與るる盡力貢獻して。母堂ヤス子さん健在、當年七十四歳なれど、なか／＼の元氣、夫人はシゲ子さん、長男時夫氏は今横須賀海軍に在團中である。

大野村四宮
村會議員 沖津 直
沖津醫院長



卓拔なる方技と完整の設備を有し、大正五年開業以來隆盛限りなく、門前市を成すの繁榮を呈してゐる沖津醫院の經營者にして、その創始者たる氏は、單に醫事衛生方面の卓

越する手腕たるのみならず、醫政、及び自治方面にも多功の功績あり、大野村、



神田 久村、各小學校 醫學士 塚家

政女學校醫を囑託される、ほか村會議員中郡校醫會評議員、方面委員、耕地整理組長、消防組頭、消防協會神奈川縣評議員、學務委員、常設委員、郡醫師會評議員、その他數種の公名譽職を兼ね、いづれの方面に於ても顯著なる事績を示し稀有の材幹と謳はれてゐる。因に醫院は産婦人科、内科、小兒科を主とし、神田村大神に出張所を有し、診療は帝國女子醫專を卒業せる令嬢久良子さんが主としてその任に當り好評を博してゐる。

神田村
村會議員 鈴木延二

篤實にして質朴、加ふるに人格の高潔を以て鳴る氏は、實行家であり、手腕家であり、本村有数の實力家である。明朗平和の樂土をつくりあげることを理想とし、幾多公共事業に關與するに當つては常にこれをモットーとし、その一舉手一投足は悉く公益を慮つてのことである。私利私慾を離れること氏の如きは餘り類例を見ない。しかしそれだけに村内は勿論のこと四隣に普く信望あつく曩に消防部長に任ずるや、部内の信頼を一身にあつめ、忽ちにして同消防部を優良團體たらしめた材幹である。家業は金物業、副業に農耕の業に従事する。因に氏は明治二十二年九月十五日の誕生にて、當家は當地に於ける有数の舊家名門として知られてゐる。

相原村

村會議員 高橋 辰之助

當家の始祖は七百年前鎌倉時代の落武者、由緒ある舊家として名高い。先代故

徳太郎氏は郡會議員、村會議員その他の公職を負ふて活躍貢獻した功勞者であつた。氏はその男、明治十七年二月十五日の出生、師範



學校出身、小學校訓導を奉職すること二十八ヶ年、轉じて縣立盲啞學校教諭として五ヶ年間、教育界に多大の功績を稱へられてゐる。退職後は専念村治に携はり現に村會議員であるの外、産業組合理事區長、耕地整理組合理事、氏子總代等を兼ねてそれぞれ盡瘁してゐる。性溫和極めて眞摯な士。令閨久子さんは賢夫人として範を垂れ、長男寛氏は今三十歳、師範二部を出て東京府下小學校訓導を奉職兒童並にその父兄間の評判は頗るよい。

大田村小稻葉

村會議員 麻生 孝治



麻生家は二十五代目、本村有数の舊家で、代々農を家業として現在に及んでゐる。大正

主孝治氏、孜孜として復舊に努力、漸く舊態に回へした功勞者である。文字通りの濃厚篤實の士、村内の人望家でこれまで幾多の公職に推されて能くこれを果し一層の人望を呼んでゐる。今、村會議員の任期中にあり、常に金肥の効果的利用法や、本村向の農家副業等の研究に熱注してゐる。趣味は讀書に旅行。何れは村を背負つて立つべき代表的人物として囑望されてゐる。なほ當家は篤農家中の尤なるもので、現在相當大規模の農業經營法を實行しつゝある。家庭は圓滿、和氣霽々春風駘蕩の感がある。

岡崎村大畑

村會議員 小林久吉

義侠心の強きこと村會議員中の第一人といはれる氏は、土木請負を以て業とし、氣骨と剛毅豪膽の人として信頼あつく、眞に、男の中の男とも稱すべき逸材である。篤農家として知られた先代庄吉氏の男にして、明治二十年三月十五日の岳降幼時より資性衆にすぐれて潤達、正に群鷄中の一鶴たる觀があつた。長ずるや志を土木事業界に立て刻苦修業につとめること多年、遂に功成りて今日の盛名を馳するに至り、今や當地方土木請負業者中の覇者として普く知られてゐる。また信望をあつめて村會議員に當選すること三回、現に三期目の任にありて村治に貢献し、持前の俠氣を持つて一意公益の増大と平和郷岡崎の繁榮に力を盡してゐる。

豊田村打間木

村會議員 小泉喜太郎



の出生、郡立金目農學校卒業後東京神田

金田産業組合長 角田伊之助

金田村入野

本村屈指の資産家といはれ、先代林蔵氏は村會議員並に農會總代等の要職にありてよく村民の指導誘掖につとめたる功勞者、氏はその男にて明治二十四年の出生、活潑明朗意氣軒昂の敏腕家にて、夙に青年團長、納稅組合長、土木委員等に任じ、現時村會議員のほか打間木貯蓄組合長、産業組合理事、青年學校評議員を兼ね、功績により表彰數回に及んでゐる。長男武男君は現青年團長並に、在郷軍人分會班長をつとめ、長女喜代子さんは女子青年團長の任にある。

氏は先

代甚太郎

氏の男に

して明治

二十一年

三月一日

土澤村土屋

村農會長 安池肇

勳七等

英語學校に學び、金田信用販賣購買利用組合の創立には特に功勞あり、創立以來の組合長として今日に至り、その間出納検査委員、學務委員等に任じ、現時村會議員三期目、農會總代、耕地整理評議員、株式會社平塚共益無盡商會取締役等を兼ね、手腕家として人望が高い。書畫類に興味を有す。令閨タケさん(明治二十四年生)との間に一男二女がある。

男功氏(明治三十七年生)ほか二男一女があり、次男は選信書記である。

金目村千須谷

村會議員 香川伊勢松

學務委員

潤達明朗の人格者にして自治功勞者と稱される氏は、香川龜五郎氏の男として明治二十年十月を以て生をこの世に享けた。資性英邁にして果斷の氣性を有し、實行力に富む逸材であり、曩に常設委員及び村農會總代等を歴任、手腕を縦横に發揮して貢獻多からず現時村會議員並に學務委員を兼ね、村治の圓滿なる向上と、産業文化の發展に力を盡した教育の充實、社會教化の徹底等各方面にわたつて努力してゐる。誠に奇篤といふべく且つ傑物と稱すべきである。自治のこと人を得ざればその有効なる發展は期し難いことは自明であり、氏を有する本村の如きは人的に恵れたりといふべきであらう。エイ夫人は内助の功多く、長男朗君(大正九年生)は平塚農學校在學中の秀

才、長女せき嬢(大正五年生)は才色兼備の近代的な女性である。

大根村北矢石

村會議員 恩藏佐一郎

温和にして社交的人物と評される氏は明治十五年五月三日の岳降である。夙に煙草耕作組合の設立に盡力貢獻し理事を現任し、先年三十有四年同組合内にあつて盡瘁せし功により、專賣局より懇篤なる感謝状を寄せられた。現今その他村會議員、大根村道路常設委員、村農會總代等を兼ね、村内の信望いよいよ高きを加へてゐる。嗣子恒君は明治四十三年の誕生にて、朝鮮羅南歩兵隊に入營、伍長勤務上等兵となつて除隊、現時青訓指導員として活躍される。次男鐸次君は騎兵第十五聯隊に入營、滿洲事變の際は勇躍出征して名譽の戦傷を負ひ、手當の甲斐なく病死し護國の神と化した。依つて騎兵伍長に昇進、勳八等に叙せられその功は永遠に没すべからざるものである。

東秦野村東田原

村會議員 大野守穂



當家は十五代目の舊家先々代源右衛門氏は村會議員

等に選ばるゝこと三回、相當の功績を残してゐる。當主は今還暦の年、しかも元氣なかく旺んなるものがあり村會議員にまた勸業委員に擧げられて鋭意奔走しつゝある。前には常設委員、農會評議員として盡してゐる。氏はその若かりし頃、煙草耕作指導員として廣島、岡山兩縣下に派遣され、岡山縣に農會技手として指導のために盡瘁する十有五年に及び歸村後は山岳地帯とも稱すべき本村の勸業方面に専念しまた林業に着眼して植林を提唱、これを實行に振り向けるなど一村百年の計を盡して貢獻してゐる。リウ子

夫人との間に、祐次、宗次郎、仲夫君等の三男子がある。因に令弟曾之助氏は苦學力行、遂に初志を貫ぬいて辯護士となり、今、東京市京橋に事務所を開いてゐる立志傳中の一人である。

南 泰野村尾尻
村會議員 川口和白



知白師は曹洞宗壽徳寺住職川口知法師の養嗣子に迎

へられた人、先代氏は小田原藩の士族、西南戦争に出動、勳八等に叙せられた。後ち郡下各宗聯合組織によつて壽徳會を創設し、率先社會救済運動に精進し、その他陰に陽に活躍功を挙げ、六十五才を以て遷化した。當知白師は明治二十三年九月十日生れ、小田原中學校を経て明治大學佛教科に入り、大正四年卒業同時に

禪宗布教師として鶴見總持寺總本山より海外に派遣され南北米をはじめ印度、カスカッタ、ボンベイ等の教化事業を研究視察すること四ヶ年に及んだ。歸來本山宗務院に關係し、傍ら壽徳寺住職として社會事業協會統一に當り、縣下唯一の佛教會湘南佛教會を建設し、洋行研鑽の進取的精神を以て活躍、現に布教の基本財産を得て、年數期にわたつて貧困家庭の救済等に盡力してゐる。現に師は司法省保護委員、少年保護師(司法省囑託)、免囚保護委員、村會議員、泰野温泉組合長、方面委員等を兼務、それぞれ活動してゐる。村長に推薦されたが信仰的立場からこれを辭退した美談は、一層村民から好感を持たれてゐる。師の希ふところは「民衆に接觸して民福を計る」ことで一寺の住職として門を閉ぢて社會より遠ざからんとする弊を是正せんとしてゐる特に師の社會的功績として稱へられてゐるのは、西泰野村尋常小學校統一問題の調停に成功したこと、丹澤山林道建設運

動に成功し、やがてこの林道をして「關東の輕井澤」とし、山麓一帯を別荘化せんとしつゝあることなどである。

二宮町二宮
町會議員 高橋兼吉

當家は約四百年の古き歴史を有する家柄にして、先々代までは名主その他の名譽ある役をつとめたるも、先代菊次郎氏の代より専ら農に主力を注ぎ精農家となはれるに至つた。氏はその男にして明治三十五年九月十七日の出生、無線電信學校卒業の技術家にて、縣下郵便局に於て通信事業の最尖端たる電信事務に携はり、後、轉じて鐵道省に入り電信業務を擔當すること十五ヶ年、退職後は自治公共の事業に關與し、自治体改革のため盡すところ多く、明快適切なイデオロギイを有し、町會に於ける現状打開理想郷建設の急先鋒にして、特に税制改革、戸數割問題に功勞が多い。新進氣鋭といふ語が、そのまゝ氏の全体を表現するもので

今後の活躍こそ一段と期待がかけられてゐる。

大野村四宮
村會議員 松永猛



常に清新潑刺たる感じのするわが松永猛氏は、大野

村高林寺の名僧松永旭應師の男にして、明治十六年四月二十三日の出生である。當時地方唯一の中等校たりし中郡立金目共立學校に學び、卒業の際は成績特に優秀であつた。その後第二の國民の養成に意を用ひ、大野村尋常高等小學校に奉職慈父の如き先生といはれ勳績實に三十年の長きに及んだ。大野村女子青年團長たること十五ヶ年、また前島神社氏子總代をつとめ、現在は納稅組合長及び村會議員の重職を兼ねて報効の誠を竭してゐる

また氏は書道家として知られる當地方稀有の人材である。令閨クラさんとの間に二男一女あり、長男昌三氏は平塚第二尋常小學校の教壇に立ち、次男茂三氏は日本大學法文學部在學中、長女たけ子さんは大正七年生れの才媛である。

神田村
村會議員 市川金三郎

當家は先々代市川春吉氏より初まり、先代善吉氏は村會議員として知られた。氏は先代の長男にて明治十三年二月二十七日、當地に呱呱の聲をあげ、尊父の教化を受けて人格識見手腕の三拍手揃つた材幹であり、農業を営みつゝ、耕地整理組合會議員、村會議員、區長、納稅組合長、衛生組合長等に歴任、村政に盡すところ甚大にしてその潑刺たる手腕には何人とも畏敬せざるを得ない。しかも資性温厚篤實、人に接するに懇篤なれば、衆望自ら翕然として集まり名聲さくさくとして四隣に普く及んでゐる。家族は六

人にて家庭圓滿和樂を極め、長男重治氏は明治四十一年の出生にて、目下青年團長として若き世代の人氣を一身に背負つてゐる。

相川村上戸田
村會議員 大貫豊作



氏は今村會議員をはじめ土木常設委員、産業組合理

事、耕地整理組合會議員、養蠶組合長、二宮報徳社々長等を現任、旺んに活躍貢獻してゐる。曾ては消防副組頭、區長として盡瘁した。氏は明治十五年十一月二日、十二代目舊家當主として生れ、十三年前、不幸にして、夫人に先立たれたが愛子の生ひさきに想到して、敢然獨身をたけて現在に及んでゐる。長男武君は今二十四歳、目下青年團長として活動し

てゐる。長女シヅ子さんは二十一歳、母
堂長逝後は、家事一切を切り廻はし、夙
に孝女の譽高く、目下女子青年團副團長
として任に在り、父子三氏、それぞれ村
政に關與し、村内に於ける模範的家庭と
して美まれてゐる。なほ次男隆元君は十
九歳、模範青年として表彰された青年で
ある。

岡崎村
村會議員 佐藤伊智平
養蠶實行組合長



由緒ある
舊家にし
て、先代
奥次郎氏
は伊仲太
氏の長男として文久二年に出生、寺小屋
(小澤龍光塾)に學んで後岡崎小學校を
卒業、更に舊小田原藩士中垣秀景私塾に
勉勞せる時代の尖端を行きし知識人、若
冠二十五歳のとき村會議員に選ばれて村

政に參與、次で勲業土木委員、助役等を
經て四十餘歳にして村長となり村農會長
を兼ね、村内の信望を一身にあつめた。
大禮記念章並に天盃、中郡地方改良會の
表彰、赤十字社總裁宮殿下の木盃等をた
まはり、昭和四年には自治功勞者として
表彰され、また勳七等白色桐葉章の受佩
者であつた。昭和九年十月永眠。當主佐
藤伊智平氏はその男、明治十五年四月二
十三日の出生にて、中部立金目共立學校
に學び、曩に區長八ヶ年をつとめ、現時
村會議員及び養蠶實行組合長を兼ねる。

豊田村宮下
村會議員 長尾貞恒

當家は約十三代に及ぶ舊家にして、氏
は明治二十九年六月十五日の誕生、縣立
平塚農學校出身の逸材にて、家業は農、
米、麥、甘藷を主とし、養蠶を副業とし
篤農家を以て稱され、村農業の指導的立
場にありてその改良改善と向上に盡すと
ころが多い。村農會總代並に同評議員、

公設消防組會計係等を現任し、温順質朴
の人と評され、表彰數回に及ぶ。ます子
夫人(明治三十年生)との間に一男二女
を有する。

金田村入野
村會議員 横尾三郎兵衛



開祖以
來十一代
を關し代
々篤農家
として聞
える横尾
家は、當地有数の名門の一である。當主
三郎兵衛氏は明治十八年十月一日の岳降
夙に家業に精勵すると共に公共事業に力
を盡し、現時村會議員三期目、産業組合
評議員、その他の要職にあり、自治産業
文化の功勞者と稱され、その足跡は本村
史上、永遠に消えざるものがある。家庭
的に惠まれた環境の持主にして、極めて
圓滿である。

旭村公所

旭村助役 宮崎良太郎

氏は明治十六年一月五日をもつて呱呱
の一聲をあげ、資性英邁氣品高く、博識
敏腕の人として有名である。尊父金次郎
氏は農耕の業に従ひ、篤農家の聞えが高
かつた。氏は夙に郡立中郡中學校を卒業
スポーツに興味あり、殊に角道ファンと
して有名である。村會議員二期、耕地整
理組合書記を歴任、現時旭村助役二期目
の任にあり、冴えた頭腦と鋭き手腕によ
り全村民の信望をあつめてゐる。夫人は
明治三十二年の生れ、琴瑟相和し圓滿至
福の家庭をつくつてゐる。

土澤村寺分
村會議員 安池藤吉

愛郷觀念強く、公共事業に貢獻裨益す
るところ多き氏は、明治二十一年九月先
代直次郎氏の男として生をうけた。夙に
産業組合理事に推されて組合の擴充發展

に力をつくし、現時村會議員に當選在任
するほか學務委員、土木委員、煙草耕作
組合理事等を兼ね、赫々たる功績を残し
てゐる。因に當家は寛文年間以來の舊家
にして、代々徳望高き家柄である。

土澤村下吉澤
村會議員 増尾龍作



先代 彦造 翁
當家 彦造 氏
八代 彦造 氏

十一歳なるも矍鑠壯者をしのぎ、しかも
納稅組合長、氏子總代を兼ねて奔走して
ゐる。特に翁は眞言宗京都東寺派の大和
講(御詠歌)の講員として、中教正補の
資格を有し、社會事業に率先盡力し、村
内敬老會より表彰されてゐる。氏は明治
十年三月十二日、その男に生れ、日露戰
役に出征し、勳八等に叙せられ、前に消

大根村落橋

村會議員 和田文太郎



氏は當
年五十三
歳、親分
肌の村内
の名物男
大正七年

温泉を發見して以來、これが地主として
得た指導的先驅をなして人望をあつめて
ゐる。昭和二年小田急電車の開通に際し
ては、鶴巻温泉としての停車場を設置す
べく極力運動して所願を貫き、爾來浴客
の來往頻繁を呈するなど、これまでの氏
の功績は眞に顯著なるものがある。前
には物検査員の落花生検査員として勤む
ること十三年に及んでゐるが、現在は三期
目の村會議員、消防組頭、農事實行組合

副組合長等を兼ねてそれ、精進盡力してゐる。なほ氏はこれまで表彰され、この数次に及び、村民からは今後にも多大なる期待をかけられてゐる。

東秦野村東田原

村會議員 大津茂市



氏は篤農家としての聞え高く、實力よりもこの點を

深く敬慕されて村會議員として村會に送られたなか、人望家である。外に農事實行組合長、納税組合長に擧げられ、曾ては消防小頭、檀家總代、農會總代等に推されて盡瘁するところがあつた。家は十五代目の舊家、父君故文七氏は村會議員に當選すること二回、村治の功勞者であつた。夫人ツネ子さんとの間に五男二女があり、しかも、五男子とも軍籍に

就いた稀に見るの家柄。現に四男實君は二十七歳、歩兵曹長として北支に、五男豊二君は二十四歳、農學校卒業後歩兵現役となり、滿洲に在つて何れも非常時邦家のために活躍してゐる。村からは模範的の家庭よと絶讃を博してゐる。

南秦野村尾尻

村會議員 高橋淺治

當家先代初五郎氏は今、七十二歳の高齡にあつてかくしやくたるもの、常設委員を三期、その他消防小頭として活躍した人であつた。當主淺治氏はその男、明治二十一年十月十五日の生れ、平塚高等農民學校の出身、騎兵第一聯隊に服役した体軀堂々、自ら佐倉宗五郎たり、國定忠治たりを以て任じつゝ、ある義侠的人格者である。現在村會議員として村政に參與し、また消防組頭、産業組合理事、煙草耕作組合副會長、氏子總代等を兼任八方に眼を配りそれ、活動貢獻しつゝある。令閨トメ子さんとの間に三男四女

あり、夫人は煙草耕作組合改良會婦人團長を、長女アイ子さんは、女子青年團長を、次女クニ子さんは女子青年團幹事を、何れも現任中であり、親子打ち揃つて公職に銳意してゐる。

大磯町大磯

町會議員 高宮源次郎



物躬努力、建築業たるほか文化向上の最前線部隊たる

書籍商を經營し、當大磯町に重きをなす氏は、高宮猪之助氏の男にして明治二十三年六月二十七日に生れ、東京工業學院を卒業せる眞摯誠心的人格者である。猪之助氏は若くして郷里福島縣を出で、當地に於て建築業を經營、爾來五十數年間、岩崎男、加藤高明伯家等に出入し、

信任頗る大なるものあり、文房具及び書籍雜誌の取次販賣を副業とする。衛生組合長、神奈川縣書籍組合評議員等を歴任し曩には全町の信望を負ふて町會議員に當選、銳意、町勢の發展に力をつくしてゐる。家庭には令閨、長男修君（縣立工業學校在學）長女厚子さん（平塚高女卒業）ほか二男三女あり至福を極める。

秦野町

町會議員 古谷伊太郎

町を憂ふること己れを憂ふるが如く、政黨政派にとらはれず、中庸の道を進んで堂々の論陣を張り、議員中の一異彩として令名普く氏は正に當代稀有の人材と稱されてゐる。國民生活に於ける醫藥費の負擔は頗る大なるものあり、氏はこれに留意し、現在秦野町が有する診療所の内容を充實擴張せしめ、秦野町ほか附近五ヶ村民の醫療費軽減を計ることを急務とし、その實現に最善を盡しつゝあり、また町村民の希求する自治統制、即ち大

秦野町を一時も早く建設すべく奔走これに努め、着々その實果を収めてゐる。因に氏は明治十二年四月一日の出生にて嚴父氏は東京地方專賣局秦野工場に三十年近く勤続し、細刻煙草製造部職工長として部下の信頼あつかりし材幹である。

二宮町山西

町會議員 杉崎春吉

愛町の一念に燃え常に町發展に資するところ多き氏は、明治二十一年四月の出生にして、日露戦争のとき徴兵適齡前なりしも進んで海軍兵を志願して參戰武勇を樹て、後ち近衛歩兵聯隊に編入された除隊後は自治公共事業につくすと共に約二十年前より自轉車業を經營して隆盛を見つゝあり、消防組小頭、學務委員方面委員、區長を歴任して、現時町會議員三期目及び振興會副會長をつとめる。因に曩に海軍省より功を賞して金一封を下賜された。氏の如き愛國愛町の士を有する當町こそますます發展する。

大野村八幡

村會議員 金子藏之輔



實直なる篤農家と稱され、氏は一面明晰温順の人格

者にして、讀書に興味を有し、古今東西にわたつて豊富な知識を持つてゐる。代表農を業として十八代を相嗣ぐ舊家の出生にして、明治二十六年十一月一日の岳降である。曾ては消防組小頭に推されて功勞多く表彰を受け、現時村會議員をつとめ、村民の福利増進に向つて粉骨碎身の勞を執つてゐる。令閨はるさんとの間に一男六女を有する子福者である。

神田村

村會議員 古尾谷定吉

村内たゞ一人の民政黨議員として異彩

を放ち、堂々の陣、誇々の論をもつて村政に參與貢獻しつゝある氏は先代太助氏の長男にして明治四年三月二十九日の岳降である。祖父は四十年の長きにわたつて村政に貢獻し、縣より賞状をおくられしと再三に及ぶ名士にして、氏は祖父の血を享けて早くより村治に關係し、手腕と人格をうたはれて信望あつく、村會議員に當選二回、經濟更生委員に推され、濃厚篤實の中に毅然たる態度を持し、貢獻頗る大なるものがある。家業は土木請負業、兼ねて農耕の業に従事する。子女は十一人を算し、長男茂太郎君は明治三十二年の誕生、現に村役場に奉職し、専ら耕地整理事務に携はり、村内の信任厚く、春秋に富む將來の活躍を囑目されてゐる。

相川村 酒井

村會議員 高橋 倉之助

當家は十代目の舊家、累代名主を勤めた家柄、先代佐助氏は村役場收入役二期

助役三期、村長三期等を歴任、大日本雄辯會講談社より、大日本自治功勞者として表彰された。氏



明治二十年十二月十一日の

出生、曾て相模銀行員として勤務すること八ケ年、今、保險會社代理店を営んでゐる。曩に村農會議員として活動したが、現在は村會議員であり、その他土木常設委員、耕地整理組合會議員、氏子總代等兼ねて精進貢獻してゐる。氏は兄弟のみ七人あり、何れ負けじ劣らずの成功者として立つてゐる。殊に三弟芳三氏の如きは日本大學卒業後、米國カラマゾオ並にコロンビヤ兩大學を卒業、目下母校日大に教鞭を執つてゐる。

元村長 長谷川 運太郎

動七等

確固不拔の意志と不撓不屈の魂とを有する氏は立志傳中の人といはれ、人材中の人材である。慶應元年三月十五日平右衛門氏長男に



生れ、十三歳の折父を喪ひ、母堂と共に奮勵今日を築きあげた人で、助役、村會議員、村長、郡會議員等に任じ、動七等青色桐葉章を授けられた功勞者である。家庭には長男平太郎君(明治廿九年生)夫妻及び令孫七名がある。なほ當家は中興以來七代にして代々名主をつとめたる名譽の家柄である。

豊田村 本郷

村會議員 安村 惣兵衛

當家は二百年間當村に居住する舊家にして、氏は先考初五郎氏の長男、明治十七年十月六日を以て生をうけた。村會議

員に當選二回に及ぶほか、種々の公名譽職をつとめ、村政に盡すこと實に十有餘年の長きにわたる。長男惠三君は明治四十四年生れにして、大野村第一小學校訓導を拜命、同校模範訓導としてその質朴の氣風を愛されてゐる。なほ家族は夫人ハルさん、次男菊雄君、次女トラさん、三女アキさん、三男道雄君等あり、氏は趣味として草木園藝を愛好される。

金田村 入野

元村長 今井 朝吉

溫和明快なる自治功勞者たる氏は、今井家十八代の當主にして、明治八年五月の岳降である。尊父又平君は名主、社寺總代、村會議員、助役等をつとめたる村治の恩人にて、氏も共立學校卒業後は家業に精勵すると共に公共に盡し、村書記を振出しに收入役二期、村長、郡會議員等を勤め、現時負債整理委員、養蠶實行組合長を兼任し、本村元老として普ねく信頼を集めてゐる。家庭は令閨とみさん

嗣子靖一郎君のほか令孫三名がある。

土澤村 庶子分

村會議員 内海 若三郎



篤農家として聞え、農事の改善に功勞多き氏は内海

長吉氏の息にして明治二十四年一月の岳降である。長じて近衛師團に入營、除隊後は農事に従つて研究、研鑽を怠らず、また農林統計委員、村會議員等に推されて盡瘁勤なからず、有力者として普く信望が厚い。セン子令室との間に二男一女あり、長男一郎君は甲府歩兵聯隊に在營中で、模範軍人として名がある。

大根村 北矢名

村會議員 青木 米作

青木家の總本家として知られ、鹽之宮

神社の祭神を先祖とする。現在同社は一小山をなし、地は青木家所有にして、同山より弱鹽類の温泉湧出し、腫物に特効あり塩之宮様の御利益なりと稱し附近村民は勿論、相



當遠距離よりの參拜多く。境内には神樂畑並に手玉石等の遺跡がある。これらをもつて推すも當家が相當由緒深き舊家たるを察するに足る。氏は明治十三年十一月二十日の出生にて中學卒業後村立小學校に教鞭を執り在職廿三ケ年、教育功勞者として表彰され、其後は土木常設委員消防組第五部長、農會總代、農事實行組合長などを經て現在村會議員三期目及び氏子總代の任にある。夫人ナツ子さんは明治十五年生れ、長男茂君は縣師範學校出身の教育家、次男強君も縣立農學校卒業後、同じく教鞭を執つてゐる。

東秦野村四田原

村會議員
消防組頭

水上雅三



當家は三代目の
舊家、先
代亡作次
郎氏は町
村制施行

と同時に多難なる村として傳へられた當時、初代村長小泉重吉氏を輔けて挺身、諸問題の解決に與り、特に學務委員として學校統一問題に拔群の功績を残し、自治功勞者として表彰された人である。當主は明治十八年十二月二十六日その男に生れ、父君の衣鉢をうけて夙に村治に進出、現在村會議員に消防組頭を兼ねて貢獻を敢てなしてゐる。消防組頭は昭和四年以來の就任であるが、溫和にして公平無私、しかも眞摯なる紳士としての氏の態度が、村内關係者一同の懇望するところとなり、終に村民舉げての推薦に止み

難く、これを引き受けたものだといふ。家にはユク子夫人との間に長男三千雄君(二十三歳)の外に一男二女があり、露霜たる家庭を見せてゐる。

南秦野村今泉

村會議員 中島喜平治



當家先代爲五郎氏は、北河町開發の際には卒先して

これに着手し、三十年後の今日では道路の改修をはじめ南秦野村兩端が秦野町へ隣接するの町勢を示し、しかも商人街として著しい繁昌を見せてゐる。氏はその男明治二十六年六月十三日の出生、曾て青年團支部長及び消防組部長に舉げられて活動し、現在は村會議員であるの外、産業組合理事、秦野町自轉車業組合長、神奈川縣自轉車業組合秦野支部長等を兼

任肝んに活躍貢獻してゐる。氏は交通事故防止の功によつて縣知事より感謝状をおくられてゐる。きん子夫人との間に四男三女があり、長男次郎君は十六歳、長女の多久子さんは十九歳、秦野高等女學校の出身者である。因に當主令弟祐次郎氏は帝大工科出身、現在住友金屬研究所技師長として勤務中である。

大磯町高麗

町會議員 曾根田恭男



曾根田醫院長 電話大磯一三八番
手腕力
量並に人格と三拍子揃つて
町會議員
中に異彩

を放つ氏は、町民の信任頗る厚く、その一舉一動は期待を以て矚目される。慈惠會醫大の出身、卒業後母校の附屬病院に實地を研究し、大正七年現地に小兒科を

専門とす、醫院を開業、使用人員四名を算し、ダットサン自動車一輛を有して往診に従ひ、名國手たるの信望あつく、中那醫師會理事の重職に擧げられてゐる。曾ては都市計畫委員、青年團長等に推されて貢獻多く、また大正十四年四月から町會議員、學務委員、女學校醫を兼任、八面六臂の材幹と稱される。因に尊父重兵衛氏は從七位勳六等の所有者にて町長二期、縣會議員、縣地方課長、農工銀行取締役、貿易倉庫社長等を歴任、官界自治界、實業界に重きをなした人である。

秦野町

町會議員 清水廣吉



智徳兼備の手腕家として信望全村に普き氏は、大根

村の産、明治八年九月十日を以て生をこ

の世に享け、約二十年以來現任地に別家獨立した。鴛鴦買を主業とし、副業に水車事業を經營、曾て養蠶教師をしたる經歷あり、蠶業方面の智識に深く、また商機を見るに明敏にして、累年家産を造成して遂に今日の大をなすに至つた、誠に稀有の逸材と稱すべく、當今その類を他に求むるに難い。また自治界にも關與し、學務委員に推されて本町學事の振興に裨益すること多大、現時町會議員、勸業委員、道路擴張臨時委員等を兼ね、明晰の頭腦と卓抜の手腕を發揮して町勢の發展に盡力してゐる。家族は十餘人の多勢にて、一男安治君は大正九年生れにて平塚農學校に在學し、將來の大成を期待される。

二宮町二宮

町會議員 柳川菊次郎

當家は二宮町がまだ十六戸の家数しかなかつた頃から居住する當地草分の舊家にして、世代の判明せるものゝみにて十

六代に及んでゐる。先代豊次郎氏は農桑の業を営み篤農家として聞えたが、當主菊次郎氏に至り大正三年頃より乳牛を飼育し、牛乳商を創始、現在一日約一石三斗平均を搾取し、乳牛飼育中に確固たる地位を占むるに至つた。明治十七年十二月の岳降にて、日露戰爭終年に兵役に服し、模範兵と稱され除隊した。その後家業の傍ら公共事業に盡瘁し、消防組頭農會總代、神奈川縣牛乳商組合代議員、同評議員、同中郡支部長等を歴任し、才腕並び備へる人として信任を受け、現在は町會議員に任じて馳驅貢獻敢からざるものがある。令閨ペン子さん(明治十八年生)との間に二男四女を儲け、長男賢二君(大正四年生)は目下滿洲派遣兵として軍務に服してゐる。

相川村上落合

村會議員 古川寅吉

古川家は永らく家運衰退に瀕しつゝ、あつたが、先々代忠兵衛氏、驟然起つて努

力また奮闘遂にこれを回復し、長期間村
 會議員に擧げられて貢献するところがあ
 った。氏は明治二十三年十一月六日の出
 生、明朗潤達にして進取的覇氣に富み、
 村會議員、方面委員、産業組合理事、消
 防部長、農會議員、農事實行組合長等を
 現任中であるが、氏がいかに村内に於け
 る信望家であるかを推知することが出來
 る。夫人マツ子さんとの間に當年二十歳
 農學校出身の長男嘉雄君を頭に三男一女
 がある。

岡崎村北大郷

村會議員 島崎 庄太郎



勸業界
 の功勞者
 として縣
 當局より
 表彰數回
 に及んだ
 氏は文久三年生れの當年七十五歳、今も
 村會議員の一員として貢献してゐる。家

は六百年來の舊家、郡役所に勤め、後ち
 役場收入役、助役等數期就任、その他農
 作物の改良等に甚大の貢献を捧げてゐる
 大正四五年頃にはサフラン栽培に盡力、
 縣下唯一の組合組織をなし、産業組合の
 始祖と稱へられてゐる。氏は一家四名の
 軍人を出したる廉により木杯一ヶを賜は
 り、また青年訓練所設立の功によつて感
 謝状を贈られてゐる。

豊田村

村會議員 福井卓爾

當福井家は村内屈指の名望家にして且
 つ舊家である。代々郷黨の信望あつた、
 また。公益事業等に寄與貢献することが
 多かつた。當主福井卓爾氏は、衷心燃ゆ
 るが如き信念と誠意とを有する材幹にし
 て夙に早稻田大學を卒業せる俊英、現に
 今村會議員に選ばれて活躍貢献しつゝあ
 り、その手腕に於て、その人格に於て更
 にその該博なる智識に於て斷然議員中に
 異彩を放ち、次期村長候補者として噂さ

に上るも當然と首肯せしめる。要は氏の
 全貌の反映である。

大根村大槻

村會議員 原安太郎

原家は土地の舊家であるが、一時は衰
 運に傾き地平線下に呻吟すること久しか
 つたが、當主安太郎氏踊躍奮起、遂に今
 日を成さしめたもので水車業を經營して
 ゐる。一度選ばれて村會議員となり、村
 政に與ることとなつて以來、徹底的に村
 政の公平無私を期し、從來の弊風を改め
 て明朗化し、そして緊張味のある村たら
 しむべく、熱心所志に向つて精進努力し
 てる。氏は明治十六年のうまれ五十五
 歳、今ぞ働きざかりの人物として多大の
 人望をあつめ、今後進むべき路へと歩を
 向けてゐる。夫人ふみ子さんはこれまた
 夫君を助けるどころ大なるものがあり、
 良妻賢母としての譽れが高く、間に長男
 健君(十九歳)をはじめに外三男一女が
 ある。

東秦野村落合

村會議員 矢野重藏



今村會
 一方の闕
 將として
 重きをな
 してゐる
 氏は、ま

た納稅組合長、軍人後援會支部長、農會
 總代などを兼ねて、それ／＼努力盡瘁、
 業績を高めつゝある村の人望家である。
 曩に消防組頭在任中は村内の防火、警備
 等に鋭意努力して職責を果した温良な、
 そして極めて忠實な人である。氏はもと
 煙草專賣局吏員として在職十五ヶ間に及
 んだ經歷の所有者であるが、以て氏の人
 となりを推知するに難くはない。ミツ子
 夫人との間に長男龜藏君(二十二歳)長
 女定子さん(十七歳)次男文夫君(十三
 歳)がありそして龜藏君は今、北支事變
 について出征、第一線に活躍してゐる。

南磯野村今泉

村會議員 川口喜助



氏は明
 治三十七
 年二月二
 十一日の
 生れ、疾
 くより土

地發展のために種々と奔走、その功績は
 村民一般の認むるところとなり、信頼を
 かくるものいよ／＼多きを加へて來た。
 昭和十二年の春、村會議員の改選に際し
 地元民の推すところとなつて立候補し、
 初めて逐鹿戦に立つて鎬を削つた。氏が
 これを聲明するや、人氣は俄然氏に靡い
 て首尾克く當選の榮を博して今、村會議
 員であり、學務委員であり、懸命に盡瘁
 貢献してゐる。氏の前途は更にこれから
 輝きわたるに違ひない。令閨ツル子さん
 との間に當年十一歳の長男定一君の外に
 一男一女があり、家庭は極めて圓滿、笑

聲堂に満ちてゐる。

北秦野村善提

村會議員 杉崎宗吉

氏は農業學校出身、夙に米麥耕作に研
 究努力し、遂に新たに機軸を拓いて一自
 作制一石取を六石五斗餘取となして絶讃
 を博し、他府縣農業技術者の見學視察に
 村の名を擧げ、數回表彰を受けてゐる。
 氏は曾て農會副會長に推されたが、現在
 は村會議員、農會長、農事實行組合長、
 煙草耕作組合理事等を兼務活躍してゐる
 父君喜助氏は今もなほ健在、煙草耕作組
 合の創立者として村民の興望を擔ひ、學
 務委員その他の公職に就いて貢献した人
 で、當主はその男明治二十年十二月十九
 日の出生、ツナ子夫人との間に三男二女
 がある。

金田村長持

村會議員 角田榮吉

養蠶實行組合長
 自治界の元老であり、部落繁榮の恩人

たる氏は、角田源次郎氏の男にして明治五年六月一日の出生、角田家獨立以來五代目の當主である。夙に區長、農會總代等を勤め、經濟更生委員を現任、また村會議員、養蠶實行組合長として自治産業の向上發展に盡力し、功績顯著なるものがある。長男市作君（明治三十五年生）は區長、農會總代、消防組小頭、經濟更生督勵委員等を兼任、父子相揃つて村の功勞者である。

大根村南矢名
村會議員 高橋文次
勳八等



あらゆ
る事業に
熱誠を以
て當り、
何事によ
らず研究
的態度を以てのぞみ、他面非常なる温情家として知られる氏は、明朋赤誠の典型的好紳士、且つ信念の人である。明治十

六年生をこの世に享け、日露戦争には近衛工兵隊に屬して出征、功に依り勳八等白色桐葉章を授與された。養蠶組合、蔬菜組合消防組の創設に際しては率先東奔西走し、その功勞者として知られ、村内有数の人望家である。現時村會議員三期目、農事實行組合長、養蠶組合長、消防組南矢名支部長を兼任、平和な理想郷建設をモットーに盡力勤ならず、縣、郡並に村當局より表彰されしこと數回に及んでゐる。令閨ソメさん（明治二十二年生）は賢夫人の譽れたかく、長男定義君（大正八年生）は秀才として聞える。

東泰野村西田原
村會議員 桐山政吉



村有數
の資産家
農村にふ
さはしか
らぬ好紳
士と稱へ

られてゐる氏は、縣立農業學校の出身、農會技術員として奉職、殊に北泰野村長奉職中は農作物耕作上に至大の實績を挙げ、遂に縣當局より抜かれて農務課出張所長に任ぜられたほどである。退官後は温室による果實並に生花栽培に努め、他而村治に參與し、現在村會議員をはじめ學務委員土木常設委員、實費診療所代議員、納稅組合長などを兼ねて活躍してゐる。氏は更に泰野町に映畫常設館を經營すると共に數社に關係して實業方面にも手を伸ばしてゐる。曾て恩賜林丹澤山村道開發に際しては、同村地域の監督なり總指揮者としての努力した功績は、今も村史に燦として輝いてゐる。四男四女の子福者。因に當家は木村桐山一家の總本家で、嚴父故關太郎氏は村會議員その他に就任して功があつた。

南泰野村西大竹
村會議員 高橋義治

極めて紳士的で、そして頗る人望家で

ある氏は、曾ては消防小頭、常設委員、煙草耕作組合部總代、在郷軍人分會幹事、青年



團長を歴
任、多大
の功を擧
げるとこ
ろがあつ

た。現在は村會議員に當選して村政に與ると共に産業組合理事を兼ねて盡力貢獻してゐる。氏はもと輜重兵上等兵であつた。父君佐吉翁は八十二歳、はる子母堂は七十八歳、共に要領として閑日月を送りつゝあるが、翁は往年學務委員、常設委員等に推されて村治に盡瘁するところがあつた。近く當主長男賢治君（二十三歳）が華燭の典を擧げることになつてゐるが、一家三夫婦が揃つたといつて部落内の好評を博してゐる。なほ同君は溫和にして霸氣に富み、青年團支部長に擧げられてゐる。なほ同君の外に二男二女がある。

大磯町小下町
元町長 西海惣兵衛
勳七等



西海家
は始祖以
來九代に
及び、四
代目は質
屋を業と

しこれを中興の祖とする氏は、明治六年八月八日の出生、藤澤町の私塾に學び、日清戦争には従軍し、凱旋後は専ら自治方面に意を用ゐる。大磯町會議員、中郡書記十七年、泰野町助役、同町長、大磯町助役、同町長、その他平塚町、大野村、伊勢原町等の職務管掌に任じたることあり、偉大なる自治功勞者として知られてゐる。令室キクさんは明治十二年の岳降賢夫人の名が高い。

岡崎村矢ノ先
村會議員 石川榮太郎
勳八等

當家先代秋藏氏は一度没落せる家運を挽回して今日の富をなさしめた努力の人だつた。氏はその男、明治十五年九月六日の出生、過去十年間を村役場收入役、



助役とし
て活躍貢
獻し、現
在は村會
議員、消
防組頭、

産業組合理事等を兼務、村民多大の興望を擔つてます。精進しつゝある。曾て近衛野戦重砲隊へ入隊、日露戦役に出征各地に轉戦して功を樹て、勳八等白色桐葉章を下賜された陸軍砲兵軍曹である。除隊後、小學校教員たること三ヶ年、次で神奈川縣巡査となり、横濱市海町署に在勤、將來を刮目されたが二ヶ年にして辭職、歸郷すると同時に村政方面に關與引續き今日に及んでゐる。溫和質朴の性格、村政に關して縣當局より表彰さるゝこと數回を數へてゐる。ヤス子夫人との

間に二男四女がある。

大根村南矢名

村會議員 杉山榮次



南矢石 第五部消防組創設の功勞者として知られ、

の役員を多年つとめたる氏は、また土木常設委員もつとめ、現在は村會議員に選ばれて活躍するほか農會總代、煙草耕作組合理事を兼ね、村内有力者中の一異彩と稱される。部落代表その他種々村政に參與されし故淺二郎氏の男にして、明治十一年四月廿二日の生れである。夫人キミさんは明治二十年の出生、長男眞二君は明治四十四年に生れ、三島重砲隊に勤務せる上等看護兵にて、本村唯一の模範青年として表彰され、二男常三君は正二年生れにてこれまた郡下の模範青年と

して表彰を受け、兄弟揃つて衆庶の範となつてゐる。因に氏の令弟久藏氏は大正九年朝鮮巡査拜命中不逞鮮人取締に拔群の功を樹て、今なほ朝鮮に於ける招魂祭には鄭重なる招待状が寄せられる。

東秦野村名古木

元村長 小泉重吉



當家はもと名主として衆望を集めた舊家、先代市五

郎氏は九十四歳の高齡を以て戸長となつて一村のために盡瘁した功勞者。當主はその男、安政六年一月二日生れの當年七十九歳、元氣なほ矍鑠たるものがある。明治二十二年町村制施行と同時に初代村長に推薦されて就任、當時獨立せる五ヶ部落合併統一されたる關係上、各部落民軌轉嫉視して時々流血の慘を見るの眞只

中に立ち、一身を挺してこれを解決する

など、村政に與ること實に二十有餘年の

久しきに及び、村治績に偉勳努力した功

は偉大なるものがある。氏の職に當るや

「至誠通於神明」を座右の銘となした。

氏は今、公職を去つて悠々自適の生活に入つてゐる。長男光三君は當村長を現任活躍してゐる。

大磯町

町會議員 宮代總三



絢爛にして犀利の名譽を博する氏は、元町

會議員宮代治右衛門氏の男として明治二十一年十月廿三日を以て呱呱の聲をあけた。幼にして英邁の譽れあり、一頭地を抜いて群童を睥睨するの觀があつた。誠に神童といふも過褒ではなかつた。長じ

て實業界に身を投じ、大磯銀行理事その他につとめて重きをなし、他面常設委員等に任じ自治に盡すところ尠ならず、現に町會議員及び海外委員を兼ね、功勞者として町内の信望をあつめてゐる。夫人コノイトさんは内助の功多き賢夫人、長男高保君(大正六年生)は早稻田大學在學中、長女綾子さんは平塚高女に在學の才媛で、他に三名の子女あり、幸福の家庭である。

大野村日之宮
村會議員 小林好延
元村長

氏は明治十三年三月四日の出生、小林家十五代目の當主にあたり、實父とは三歳の時に死別した。濃厚明朗にして懇懇讀書旅行を好み、智は古今に通じ、見聞東西にわたつて廣い。大野村々長をつとめること十七ヶ年、村治の大功者組と稱され、信望全村に冠たるものあり、目下村會議員及び中郡畜産組合評議員の任にある。家庭には令閨さんとさん、長女茂さ

ん(大正十四年生)がある。

岡崎村西海地

村會議員 今井文吾

本村産業開發の功勞者にして、自治界の精銳と謳はれる氏は、明治二十四年十二月十八日の出生にして縣立農學校出身の英才である。夙に耕地整理組合長、中郡畜産組合評議員、愛馬會長、養豚組合長等を歴任、當地方に於ける畜産業の發展に貢献尠ならず、現時納稅組合長、村會議員、方面委員等を兼任盡力してゐる。因に當家は米澤藩家臣たりし名門にして飯農後は名主をつとめ、十二代を閱する舊家である。

大磯町西小磯

町會議員 渡邊廣三
町農會會長

電話大磯二一〇番

當家は九代以上を閱する名門にて、四代以前は農の傍ら質商を副業とし、また米穀商を営んだこともある。町でも一二

北秦野村善提

學務委員 淺見文造
前村會議員

氏はその十六歳の時、本村小學校代用教員を振り出しに、實に四十有三年間の勤績、その盡瘁貢獻せる功績の如き計り知るべからざるものがある。大正十一年

十月三十日の學制令發布祝賀記念祭に際し、全國中小學校教員四十年以上の勤績



者百七十名中に加へられ、文部省の招待を受け、長く

も 天皇陛下に拜謁を仰せ付けられ、且つ御紋章入の記念銀杯を下賜せられ、文部省よりは記念金牌を贈らるゝなど、こよなき面目を施した。また同十三年三月には教育勅語御煥發三十年記念祭にも同様記念品を贈られて表彰を受けてゐる。退職後は専ら村政に參與、村會議員一期農會總代、消防小頭、煙草耕作組合總代等に推されて盡力し、今、七十歳の身を厭はず學務委員納稅組合長を兼ねて自治に勵んでゐる。

東秦野村名古木

軍人 尚忠會長 井上文彌
前村會議員 勳八等



氏は明治十二年八月二十六日當家の後繼者に生れ、日露の戦役に出征、勳八等に叙せられた帶動者である。曾て村會議員たること二期、區長等に歴任して貢献し、現在は常設委員に尚忠會長、軍人後援會支部長を兼ねて旺んに活躍してゐる。尚忠會は一種の軍人會で、特に戦時出征者のみによつて組織され、主として日清、日露の出征戦功者を有資格となしてゐる。本村は本縣下に於けるかうした會のトツプを切つたもので、年二回慰安懇親會を開催して出征當時の懷舊談に耽るを眼目としてゐる。尚忠會の名稱は初めは軍人會としてあつたが、大正三年大迫大將來村の際同大將が命名された由緒あるものである。なほ氏は文筆に興味を有し「蛙兄」の號を以て俳句をよくし、スケ

ツチに妙を得、曾て陣中にもものした一字宛筆先凍る寒さかな

大磯町大磯

町會議員 石井文藏
信用組合長

明快英邁の敏腕家と謳はれる氏は、明治十八年三月十六日の岳降にして、東京市神田區東京商業學校の出身、大磯商工信用組合の創立に努力貢献多く、その發展のため夙夜淬勵し全組合員尊敬の的となつてゐる。同組合は昭和八年十一月の設立認可に係り、組織は保証責任出資金九千二百余圓にて、組合員二百余名を算し、預金總額二萬二千余圓、貸付金四萬一千余圓、積立金百餘圓の事業成績を示し、(配當昭和十、十一年)二分なるも

役員にはこれを行はず、専ら事業の發展を圖つてゐる。氏の人格と手腕は反映して組合の成績頗る良好、副組合長石井幸太郎氏はじめ役員一同は氏を絶對的に信頼し、組合の將來益す有望なるものがある。なほ氏は現時町會議員二期目の任にあり、実績見るべきものが多く、將來を刮目される。

大野村南原

村會議員 笹尾襄

當家は天正年間の創業に係り爾來代を累ねること十六回、先代徳太郎氏は村長村會議員、その他村の公名譽職に就任せる自治功勞者にして、氏はその息として明治十九年三月三日に呱呱をあげた。曩に常設委員に推され、現時村會議員、學務委員を兼ね、信望全村に普ねきものがある。長男尚司君は大正二年生れにて陸軍少尉、現青年學校教官をつとめ、長女篤子さんは實踐高女に學べる才媛として謳はれてゐる。

東秦野村袋毛

前村會議員 柏木幹太



柏木家は實に一千餘年來の家系を有し、累代大山阿夫利神社に仕へて來た「權大僧都」學者系の門地ある家柄である。氏は明治二十二年十二月十六日今の家に生れ、大山元導師であり、村内有數の國漢文の權威者でもある。家は關東アルプスの稱ある丹澤山並に關東唯一の靈山たる大山兩山脈の麓にあり、郡の中央を流るゝ金目川の水源近くに發し、眞に閑寂幽邃、山紫水明の地である。氏は語る、「當袋毛の部落の名は往昔日本武尊が御來征の砌、大山へ御登山の折、驟雨に遭ひ給ふたが、地元の住民等は急いで蓑をさげまゐらせに對し、尊はこれを嘉せられて「蓑

毛」なる稱を賜ふたといふ傳統が、今に残つてゐる」と。氏は丹澤林道開鑿に最も熱心努力されたもので、丹澤山麓の恩賜林伐採撤出に際し、車馬の便を得るためと同時に、土地開發を希ふところから氏は種々とこれが進展策に狂奔し、私財を投じてその基礎ともいふべき延長三里の謂ゆる「柏木林道」の私道を開拓したが更に地元村當局の後援によつて本格的運動を開始し、村會議員四期の父君米吉氏と協力して、氏は長途縣廳に日参して陳情をなし、終に縣當局者を動かして丹澤村道開發に着工、延長七里餘の林道を完成し、立派な自動車道として南は秦野町を基點として北は愛甲郡宮ヶ瀬村に通じ、今や小田急電車を経由してハイキングをなすもの逐次に増加してゐる。本林道完成に際して、氏は

この山の一つを披きて生甲斐の

やゝにありとは自らも思ふ

と述懐を詠んでゐる。その他氏は村會議員、學務委員等にも推されて盡瘁貢献し

た村治の功勞者である。明朗豁達なる氏は常に國家的觀念を基礎に事業に關係、絶えず精進する。目下丹澤開發電力株式會社を創設して地元の發展を期し、その經綸抱負を傾倒してゐる。

大磯町長者町

町會議員 杉山 文五郎
勳八等

當町の識者といはれ、町政の向上刷新に功勞多き翁は、元治元年五月七日の岳降にて、日清戰爭參加の勇士、功により勳八等瑞寶章を授けられてゐる。會では區長をつとめ、現時町會議員の要職にありて行詰まれる町の發展を圖るべく町政淨化の急先鋒となつて老軀を公共に捧げ至誠報効の實をあげてゐる。その熱心なること、而してその卓抜の識見と手腕とは何人も等しく畏敬感嘆して惜く能はざるところである。誠に大磯町發展の礎石としての氏の業績は大きく、本町自治史上永遠に記録さるべきものである。長男勝三君は在郷軍人分會長をつとめ、同夫

人は愛國婦人會幹事に推されて統後の護りに貢献し、曩には一家より三人の兵役服務者を出したる廉により表彰されたる名譽の家である。

豊田村宮下

村會議員 片倉 俊雄



明敏潤達にして社交家たる氏は片倉友吉氏の男とし

て明治二十六年四月十六日に出生、私立高等農民學校を卒業し、家業たる農の業に精勵の傍ら産業の發展、文化の向上に盡すところ多く、曩には産業組合事務理事をつとめ、現在は學務委員、金銭貸借及び小作争議調停委員、役馬利用組合長公設消防組頭、村會議員等を兼ね、特に村會議員としての功績多く、政治的には政友會の綱領に賛意を表してゐる。表彰

されしこと一再ならず、實に本村有力者中の白眉である。夫人まささんとの間に長男準作君(大正五年生)次男に徳次君(大正八年生)長女八重子嬢(大正二年生)外四男一女がある。なほ先代友吉氏は村會議員に選ばれること二回、友新納稅組合長の要職あり、優良組合たらしめた功勞者である。

大磯町

元大磯町長 郷土 久藏
元縣會副議長 勳八等

温厚篤實の敏腕家たる氏は、明治九年の岳降、同二十九年徴兵検査に合格入營し、日露戰爭に召集を受けて參戰、忠勇無双の働きをし勳八等を賜つた。明治四十年町會議員に當選、爾來昭和十二年まで三十年間町政に盡し其間學務委員、縣會議員三期、縣參事會員五回、縣會副議長をつとめ、縣政界の長老として人望あり、現時町長の外中郡水産會長を兼ね、先年丸越漁場及び大磯ブリ大敷組合を合併し、相模漁業株式會社を創立、その社

長をつとめ、現に取締役であり、また相模瓦斯株式會社取締役をも兼ねて實業界にも令名噴々としてゐる。

金目村青柳 産業組合長 森 延太郎
元村長



氏は明治五年六月十一日十八代目の當主としてうま

れ疾くから村治方面に進出、一村の信頼を負ふて貢献するところが多かつた。會では村役場の収入役に推され、進んで全村一致の推薦によつて村長の要職に就き年來の抱負を實行へと向け、大に村績を擧げて更に人望の深きを加へた。現在は産業組合理事、學務委員、青柳産業組合長、煙草耕作組合長等を兼ねて盡瘁してゐる。青柳信用組合は大正五年二月二十四日の創立、現在保証責任組織で、組合

員は四十五名、百四十七口、一口出資の金額は二十圓で出資總額二千九百四十圓である。そして目下の貸出總額は約一萬三千六百圓で、貯金は約三萬圓を數へ、逐年好成绩を呈してゐる。なほ長男孝太郎君は平塚第一小學校教員として奉職、その將來を刮目されてゐる。

東秦野村

中郡教育會長 草山 忠八
正七位勳七等



氏は明治十九年八月二十七日、もと村長として二十

年間村政に參與した村の徳望家、直吉氏の男に生れ、現に東秦野村尋常高等小學校長であるの外、中郡教育會長、中郡小學校長會長、中郡青年學校聯合會長等を兼掌、活躍貢献しつゝある。氏は曾て萬難を排して村内三校を一校に統一併合し

た大の功勞者で、村民から感謝されてゐる。氏は質實剛健、とても明朗な人格者長男善治君は目下小田原小學校に奉職してゐるが、その將來は一般から囑望されてゐる。

南秦野村四大竹

學務委員 高橋 嘉代吉
方面委員勳七等

今は傷病軍人の扱ひを受けつゝあるが一村を想ふの至誠至念は決して人後におかない氏は、現に學務委員として、方面委員として、村治の上に盡瘁貢献してゐる。前には村會議員として村政に與ること二期、常設委員たるまた二期、村自治功勞者の名は夙に聞えてゐる。氏は明治七年九月十四日の出生、日露戰役に出征して各地に轉戰、終に名譽の負傷をなし勳七等に叙せられた歩兵伍長である。資性溫和にして一念村を想ふのみ、信望は部落民からばかりではなく、一般村民からあつまつてゐる。夫人ハル子さんはよく夫君に仕へて不便なからしめてゐる貞

淑の人、長男嘉七君以下六男二女あり、何れも家庭人として兩親の膝下に働いてゐる。

豊田村平寺

村會議員 富塚 要之輔



先代英造氏 家は祖以來四代に

て、先代英造氏は村長多年をつとめたる村政開發の恩人にて、その功績は萬人の普ねく知るところである。氏はその長男として明治十一年九月廿九日を以て當地に呱呱の聲をあげ、先代に劣らぬ自治的手腕家にして且つ村民の信望あつく、農會評議員、國勢調査員を歴任、現時村會議員に選ばれ活躍してゐる。趣味は園藝であり、しかもこの方面の造詣深い濃厚篤實の人材である。

金目村片岡

村會議員 小澤 宗三

氏は明治十一年十一月一日、先代仙次郎氏の男に生れ、鎌倉師範を了へるや小學校教員を拜命、育英事業に携はること實に二十有四年間、その功績甚大なるものがあつた。退職後は村治方面に進出、村民の信頼極めて厚く、現に村會議員として村政に與りつゝあるの外、學務委員片岡大正信用購買組合長等を兼ねて奔走活動してゐる。當組合は大正四年三月二十九日の認可創立、現在は保証責任組織であり、部落から最もよく理解をうけて年々加入者の多きを數へてゐる。出資總額は四千四百四十圓で、貸付額は九千五百餘圓、時貸一萬五百餘圓、貯金として記念貯金、貯蓄貯金、當座及び定期等を合計して約二萬五千六百圓の多きを示してゐる、以て當組合の内容如何を察知することが出来る、これ主として氏の功による。

大磯町

町會議員 宮代 喜代治

當家は鎌倉時代にその祖を發し、由緒深き家柄である。當主宮代喜代治氏は偉大なる企業家として知られまた法律、宗教に造詣深くその道の權威でもある。明治十四年十一月一日宮代治三郎氏の長男に生れ、二十六歳の時大磯銀行押切支店長に任じ、三十歳にして大磯信託株式會社を創立して社長となり、後ち大磯キネマを興し、現にその營業をつゞけてゐる。また大正十四年町會議員に當選するや、同志を集めて刷新俱樂部を組織し自ら理事長に就任次期改選には一躍七人の議員を町會に送つた。町政の發展を期し有終の美をなしたい——これが氏の抱負であり理想である。なほかゆ子夫人は内助の功多き賢夫人として有名である。

大野村牛原上宿

村會議員 府川 宰輔

地方農村稀に見る快男兒である。夫人とみ子さんは内助の功多しと聞く。

大野村中原

村會議員 大庭 新太郎

多才多能實行力に富み、行くとして可ならざるものなきはわが大庭新太郎氏である。抑も大庭家は十餘代を經る同地屈指の舊家にて、先代茂一郎氏は農業を營みつゝ常設委員その他を勤めたる信望家である。氏はその息として明治二十四年七月一日の誕生、郡立金目農學校に學び青年團々長、補習學校教員、穀物検査員などを歴任、現時村會議員、産業組合理事、納稅組合副組合長等を兼任し、功績甚大である。シマ子夫人との間に長男璋一君、長女シゲ子嬢がある。

大磯町東小大磯

町會議員 笹尾 永三

小作調停委員 電話大磯一六二番

笹尾家は鎌倉時代より大磯に居住する

練達有能の士と稱すべく、確固不拔たる自信を持つて萬事を處し、聲望四隣に普ねき氏は明治二十年十一月三日の岳降にして同四十年兵役に服し、拔群の成績を樹て模範兵として除隊した。その後は家業に精勵しつゝ自治公共の事業、特に在郷軍人分會に關係し、町會長として活躍貢獻せること多年また村會議員に當選三回に及び、現にその三期目をつとめてゐる。因に長男好夫君は平塚農學校在學中の秀才である。

大磯町大磯

町會議員 中島 勝五郎

清新明朗の自治功勞者、町有數の有力者として信望高き氏は、資性英邁にして人格あり、手腕業にすぐれて卓越し、實行力に富む氣鋭の人である。明治二十年三月十七日を以て呱呱の一聲をあげ、長じて家業に精勵奮闘すると共に、公共の事業に關係し區長、消防組小頭に任じ、公益の増進を圖ると多年、統御の才に長

じ、信任を集めて名區長、名小頭と謳はれ、業績大に誇るべきものがあつた。また先年國勢調査施行に際してはその調査員を囑託せられ、町會改選に當つて立候補するや衆望を娶め、高點を以て當選するなど、人望の程を察するに足るものがある。令閨タイさんとは琴瑟相和し、嗣子雄次君（大正十二年生）は小田原中學校在學中の俊才である。

旭村山下

村會議員 露木 亮

當家は六百年十有餘代を經る舊家にて「堀の内」といへば遠近にその名を知らぬ者はない程である。氏は明治卅四年八月二十七日の出生にて、十九歳の時尊父に死別し、爾來昭和十一年逝去の母堂と共に力行よく今日の富を築いた努力成功の人で、十五年前より専ら養鶏業に従事し、傍ら青年團長を勤めしことあり、現に村會議員に選ばれ奮闘してゐる。若くして村内の人望高く、表彰數度に及び

舊家にして舊宅跡、その他の残存記念物により相當由緒ある家柄なるを知ることが出来る。先代龜次郎氏の特別家として現地に住した。氏はその男にて明治十六年一月七日の生れ、日露戦争には補充兵にて應召出征し、凱旋後は家業に従事しつつ都市計畫委員、青年團副支團長五期、商工会理事、貸家組合長等を歴任し、枚舉に違なき功績を残し、現在は町會議員及び小作調停委員の要職を兼任する。長女モトさん(明治四十年生)は東京女子薬專出身の才媛にて養子を迎へ、大磯第一の大薬局を隣家に開業し繁榮隆昌の限りをつくしてゐる。

豊田村本郷

村會議員 川口清三

篤實温厚、村會議員中の逸材たる氏は養豚、農事各實行組合長、統計調査員、報徳會幹事、養鶏組合長、その他の公職にあり、生れは明治二十五年七月二十三日である。抑も富家は八百六十餘年を経



氏はその長男にて近衛工兵隊に在役中は模範兵といはれ、伍長に任じて除隊、爾來専ら村の發展に努力しつゝ、今日に至つた。梅窓庵と號し、俳句の名人である。

旭村 出郷

村會議員 鈴木金太郎

質朴にして温和、旭村有力者中の第一人たる氏は、故鈴木兼吉氏の男として明治十五年五月四日に生れ、夙に祖業を繼承して農業に従事、田地八反歩、畑地一町歩を耕作し、米、麥、胡瓜、茄子、トマト等を栽培し、更に乳牛三頭を飼育し農業經營の多角化を實施してゐる。區長二期、消防組小頭を経て現在村會議員、耕地整理組合評議員の任にあり、功勞多

い。長男兼治君は明治四十一年の出生、現に家業に従事し、他に五令嬢があり、なほ亡父は村會議員二期をつとめたる自治功勞者である。

大野村南原

村會議員 笹尾源太郎

消防精勵其他三回に及ぶ功勞者たる氏は縣立農學校出身の俊才にて青年時代自發的に青年團組織に奔走したる本村青年團生みの親にして没すべからざる功勞者である。その後産業組合監事農會總代二十年、消防部長三期をつとめ、昭和十二年には産業組合理事に推され現時そのほかに學務委員、村會議員神社氏子表彰の總代等を兼ねる。明治二十二年十一月の誕生にて、令閨ヨリさんとの間には長男豊君(大正八年)生れほか一男がある。

東秦野落合

元村會議員 田代彦太郎

秦野署管内一町五ヶ村から東秦野の習

惠袋「唯一の「立役者」と稱へられ將來に眼を向けられてゐた氏も、四十八歳の壯年期に中風症に倒れ、半身不隨の廢人となつてからは、涙を吞んで村政等から引退、既に病臥すること五ヶ年に及んでゐる。源頼朝の幕下田代冠者信綱の後裔と傳へられ、代々名主を勤めた家柄、家門のためにも起たんとしたが、どうしよ



うもな
く一時
は悶々
の情に
鎖され
てゐた
が、現
在は人
生を達
觀、大

村會議員 端山根次郎

生不顧死亦不想 病臥五年一室内
春秋去來風雨同 窓外又見東山樓
因に氏は一村の輿望を擔つて村會に送らるゝこと三度、村政に多大の盡瘁貢獻をした功勞者、村治のためには返すくも遺憾であり、村の受ける損失は、決して少なものではない。

旭村 公所

當端山家の祖は、遠く鎌倉幕府時代に

武士として活躍せる剛氣の人物にして、その後當地に移つて農業に轉じた。往昔の事は詳細を傳へ得ざるも、家系判明せるものゝみにて十五代に及び、代々地方の名望家として聞え、先代橋次郎氏は社寺總代、村會議員等をつとめた。氏はその男にして明治二十七年十一月の岳降である。つとに平塚農學校を優秀な成績で卒業し、近來農村中堅人物として常に指導的立場に立つて農事の改良改善に盡力



町會議員 眞間庄吉

氏は前
に漁業組
合理事た
る六ヶ年
同組合長
たること

三ヶ年、斯業發展に盡瘁、大なる功績を残してゐる。現在は町會議員、衛生委員の任に在つて活動してゐるが、明治二十九年八月十八日生れで氏の今後が刮目されてゐる。當家は二代目長五郎氏の代よ

り大磯海水茶屋を始め、父君庄右衛門氏の後を承けて四代目である。なほ氏は消防のために努力すること四ヶ年に及んでゐる。

大野村八幡

村會 議員 高梨 豊
耕地整理組合評議員

憂國の士といふ言葉があるが、氏は、憂村の士である。村治に關する功績多くその一舉手一投足は悉くこれ村の發展繁榮を考慮してのことである。明治二十四年一月を以て生をこの世に享け、祖業を繼續して農に従ふ傍ら村農會總代四期、常設委員二期、青年團支部長、八幡神社氏子總代、産業組合監事などに擧げられて盡瘁し、現に村會議員を兼ねる。カネ子夫人との間に二男三女を有し、長女光子さん(大正九年生)は平塚實踐高女に學ぶ才媛である。

岡崎村大畑

方面委員 沼田 權次

君は彫刻家として世に立ち、目下朝倉塾に在つて教鞭を執つてゐる。

大野村八幡

村會議員 原田 三之助

當家は始祖以來約二百七十年を關する舊家にして、代を累ねること十四回、五代以前までは名主の役を勤め、郷黨のため私財を投じて盡瘁せることしばしばあり、代々農を主業として來た。氏は明治二十七年八月一日を以て生れ、家業の傍ら早くより公共事業につくし、大野村八幡青年團支部長、水利組合評議員たること多年、現時村會議員二期目の任にあり功績顯著である。家庭には兩親健在し、令閨染さんとの間に二男がある。

大野村中原

村會議員 佐草 貞一
納稅組合長

篤農家として有名なる氏は、明治二十年十月十五日の誕生にて平塚農學校の出身、常設委員、青年團副支部長、耕地整

當家は、始祖以來三百年を關する舊家にして、先代は區長をはじめ、自治方面に相當功勞ありし人望家である。氏は明治十六年六月三十一日を以て呱呱の聲を



合温厚 君 春正 息 なる 温厚 紳士 とし

内の信賴あつく、夙に村役場書記をつとめること二十有三年、次で助役たること一期、現在は方面委員及び區長を兼ねて公共のため盡瘁奔走してゐる。夫人クハさんは明治二十一年の出生、一男四女を有し、長男正春君は大正二年生れにて、曩に幹部候補生として砲兵第一聯隊に入營し、拔群の成績を樹て、昭和十二年春砲兵少尉に任官、目下青年團長並に郡青年團聯合會理事に推されてをり、長女カネさんは大正四年生れにて目下松田小學校に教鞭を執つてゐる。

旭村出郷

元村長 須藤 源次郎



風采堂 堂威嚴あり、往年の活動舞臺を去つてふさ子

夫人と共に悠々自適、七十二の老の身を養つてゐる氏は、七代目の舊家に人と爲り、明治二十二年の町村制實施と同時に初代村長に推薦され、昭和七年三月まで在任著大なる業績を樹て、一層の人望を博した。その間、その手腕を慕はれて箱根町長に補し、重職に與ること前後三ヶ年、さしもの難關町政を根本から一掃して明朗化せしめた大の功勞者で、箱根町史上永く輝きわたるに違ひない。至誠硬直、高潔英邁なる人格は村内周知の事實で贅するの要はない。なほ令息及び令嬢さんは成功の人として座し、次男力二郎

理組合評議員、産業組合監事等を歴任し納稅組合設立には東奔西走して功あり、現に組合長に擧げられるほか村會議員及び學務委員に任じ、村政の刷新、教育の充實に竭してゐる。尊父定五郎氏は村會議員、部落總代四十年をつとめし功勞者にて年齒八十に達してなほ健在である。なほ令閨濱さんとの間には四男一女あり長男は平塚農學校を出て家業に精勵してゐる。

高部屋村四宮岡

村會議員 中村 己之治

曾て煙草耕作組合總代たること五期、土木常設委員一期、産業組合理事、部落區長、消防組頭たる十二年、それ〴〵盡力貢献した氏の人望は更に一層強きを加へて今、村會議員に選ばれて村政に與り、その他耕地整理組合評議員、金銭貸借調停委員、農事實行組合委員、相模牛乳購買販賣組合理事などを兼任し挺身活躍をつとめてゐる。氏は明治十四年十二

東秦野村寺山

故 古谷 久藏



今は亡き久藏氏は小作農にして村内の貧困家庭に生

れながらも、烈々燃ゆる画道への至念止み難く二十歳の時單身渡米、旅館等の皿洗ひやボーイとして非常な苦學を嘗め、ボートランド市に於ける美術學校を卒業し、時事新報社特派員として従事、傍ら更に畫道の研鑽を續け、一九二四年には

遙々上野二科會へ出品して入選、賞品の
大カップを贈られて漸く得意の境に進ん
だ。他面氏は山岳家としても相当名を知
られ、季節を迎へては好んでスケッチ旅
行に登山するを樂しむとしてゐた。昭和
四年八月、英領加奈陀の有名なる峻峰シ
ユク山の踏破を企て、出發、首尾克く頂
上を征伏し、いよいよ下山の途中、不幸
天候に災されて氷河に墜死した、享年四
十二歳。まだ獨身だつたが、氏の遭難事
件は當時現地の新聞並に内地の諸新聞に
報道され、いたく世の同情を喚起した。
氏の逝去後、在留邦人有志によつてしば
しば遺作品展が開かれ、その收容や遺産
の全部及び遺作品百餘點とが故國の嚴父
幾太郎氏に送還された。この豫期せぬ遺
産の贈物によつて、生家は一躍寺山一の
資産家として今日を迎へたのである。生
家は今、令弟信一氏が繼いでゐるが、屋
敷内に光る莊嚴なる墓碑「大光院嶺智貴
道居士」こそは、亡き久藏氏が奥津城で
ある。

大野村眞土

村會議員 伊東重吉

當家は約三百年以上を閑する舊家にて
代々農耕に従事した。氏は明治十三年九
月一日先代彦次郎氏の男に生れ、夙に耕
地整理組合副組合長、甘藷販賣組合理事
に任じ、産業の向上發展に寄與するとこ
ろ多く、現在は村會議員及び養蠶實行組
長として、夙夜寢食を忘れて盡瘁してゐ
る。家庭は長男武治君、長女ふじ子さ合
ん(大正六年生)に、ほか七人の子女あ
り、子福者として羨まれてゐる。

旭村 徳延

元村長 白井茂三郎



元教育
家にして
縣政及び
村治に盡
力された
る翁は慶

應二年六月十一日の岳降である。嚴父源
八氏は農業を經營、また役人生活、村會
議員等をなした人材、翁はその衣鉢を
受け、明治三十七年郡會議員、大正五年
村會議員、同八年村長、十二年耕地整理
組合長等を歴任して功績を遺し、齡古稀
を過ぎてなほ壯者を凌ぐの意氣を持つて
ゐる。嗣子基則氏は神奈川師範學校出身
にて平塚尋常高等小學校に奉職中、次男
は帝國大學法科卒業にて現津市地方裁判
所判事(高等官三等)四男は三十歳の時
醫學博士の學位を授與されし篤學家、明
治三十七年の出生にて、慈惠會醫科大學
を卒業し、東京市下谷區榊木家に養子と
なり、現に同地に病院を經營する。

大野村中原

村會議員 佐川左一

耕作の實地研究者として知られ、且つ
消防事業の功勞者たる氏は、明治二十七
年一月十一日の出生にして先代安太郎氏
の男、分家以來三代目に當り、大磯中學

校の前身たる湘南學校を優等で卒業せる
俊才である。青年團長、消防組頭、常務
委員、大野豊田城島金田岡崎乳牛聯合組
合長等を歴任、平塚署長及び消防協會よ
り賞状を贈られし功績顯著の手腕家にし
て、現時産業組合監事、納稅組合會計、
村會議員、學務委員を兼任する。家庭に
は嚴父なほ健在し、令室エンさん、長男
雅春君、長女藤子嬢、ほか二男二女があ
る、家庭は圓滿である

旭村 根坂間

村會議員 本莊猪次郎



本村産
業經濟の
功勞者た
る氏は明

治十九年
六月十二

日の出生、初め醫術を以て世に報んこ
とを欲し、濟生學舎を卒業せるも、後ち
志を變へて、蠶種賣買業に轉じ今日に至

つた。耕地整理組合評議員の任を経て、
現時村會議員二期目、旭信用組合評議員
畜産組合代議員等を兼ね盡瘁なからざ
るものがある。家庭には二男一女があ
る。なほ尊父莊五郎氏は村會議員たるこ
と三期、旭村小學校合併當時の學務委員
として活躍された。令兄克世氏も村會議
員に、選ばれ貢獻多大。

大野村眞土

小學校訓導 伊藤豊吉



當家は
郷士とし
て鳴らし
た名門の
家柄、代
代農を本

業となして相繼ぐこと七代目に及んで
る。氏は明治十七年二月十日の出生、元
銀行員として勤むるところあつたが、現
在は小學校訓導として奉職、教壇に立つ
てゐる。濃厚篤實なる性格の持主、父兄

間のうけ極めて良く、敬慕されてゐる。
曾て精勤賞を贈られてゐる。令室とめ子
さんとの間に一男四女がある。

旭村 河内

村會議員 磯崎熊之助



氏は慶
應三年三
月二十八
日先代菊
次郎氏の
長男とし

て岳降した現村會議員中の最古參者にし
て衛生組合長たること四十年、よく木村
衛生、社會事業に盡し區長、産業組合理
事、耕地整理組合評議員、在郷軍人會分
會長等を歴任、議員歳費無給を提案せる
急先鋒にて、この一事を以て如何に奉公
の念強きか窺はれる。現在村會議員三
期目のほか信用組合監事を兼ねる。長男
は一年志願少尉にて國府小學校教員、次
男は師範卒、三男は中學校卒、長女次女

は共に産婆を開業する。

國府村寺坂

寺坂搾乳組合長 柏木 耕
學務委員



當家は本村に於ける柏木家の總本家として知られ、

十有余代の歴史を有する舊家のところ、五代前一時没落に瀕し、四代前の相續者これを挽回して舊時に復せしめ、今や村内隨一の富豪と稱される。先考松之助氏は二十余年村助役をつとめ、村の發展のため幾多の功績を積みし人、殊に産業の改善發展には寄與多く、村民尊敬の的であつた。當主はその男、明治二十五年六月十六日の岳降にして、夙に公設消防組小頭をつとめ、現時學務委員、寺坂搾乳組合長を兼ね、信念に燃ゆる紳士として有名であり、また畜牛に關しては一家を

成し、寺坂搾乳組合は現時縣下最優等の成績をあげ、表彰數度に及んでゐる。夫人エイさんととの間に長男平策君(大正八年生)をはじめ六男三女がある。

金田村長持

農事實行組合長 田中源次郎
産業組合監事

本村第一の舊家、始祖以來十八代を累ね、先代七三郎氏は村のため一身を忘れて盡瘁し、且つ他人の面倒を見ること多く、村人より福人といはれて尊敬されてゐたが、昭和六年九十才を一期に永眠の床に就いた。氏はその男にて明治十五年一月二十五日の生れ、夙に青年團組織に功あり、初代支部長をつとめ、また消防組頭十五年、常設委員多年を歴任、現時農事實行組合長及び産業組合監事として活躍してゐる。家庭には長男順藏君、次男市藏君三男、己之助君がある。

南栗野村今泉

産業組合專務 清水重次
理事 勳八等

當家先代直吉氏は村長に推されて功があつた人、産業組合創立以來の組合長としても盡瘁し、勳八等に叙せられ、昭和七年故人となつた。當主は明治二十九年十二月十七日の生れ、中學卒業の人物、今、常設委員、産業組合専務理事として活躍してゐるが、當組合をして中郡第三位の組合に引上げた功勞を偉とせねばならない。氏は耕作の研究家で、煙草耕作の大家でもある。夫人はセイ子さん、長男君は當年十七歳。農林學校に在學中である。

神田村

學務委員 齋藤瀧三郎
村農會長勳八等

赤心以て義勇奉公の誠を盡し、村治功勞者中の白眉と稱される氏は、縣立農學校出身の俊英にして、日露戰爭には第二軍司令部附となつて、出征功により勳八等に叙され、凱旋飯郷後は専ら家業に精勵し、篤農家といはれ、また一面村會議員に當選村治の改革と村政の發展に寄與

貢獻し、その後村農會長消防部頭、耕地整理組合長等の要職に推されて引續き今日に至り、部内の信頼あつく、統御の才に長じ、事業經營の手腕有り、事績一々枚舉の遑なきほどで、現時以上のほか神田村經濟更生計畫經濟部長、學務委員を兼ね、功勞益々顯著なるものがある。因に氏は明治十七年の出生、尊父晴次郎氏は初期の村會議員、村總代等をつとめた人、現在家庭は令閨、令息、令孫等八名をかぞへ、極めて圓滿至福を呈する。

國府村寺坂

區長 加藤豊造



當家は一千四百年前より續く舊家といはれ、四百年来りは系圖も詳細確實に遺つてゐる。先代

は鹿兒島戰爭に於ける村内唯一の出征者にて、近衛歩兵第一聯隊に屬し伍長に昇進した。わが加藤豊造氏は明治二十一年五月十六日の出生、溫和質實の人で、區長の重責を帯びる。夫人ツネさん(明治三十一年生のほか長男和志利君、長女文字さんほか三令息あり、家庭は平和圓滿である。なほ令弟勇藏氏は目下シンガポール南亞公司庶務會計課長をつとめ、村内羨望の的となつてゐる。

國府村里岩

區長 守屋才一



守屋家は十代目の舊家、幕政當時は代々庄屋を勤め

人。當主才一氏は明治三十二年五月二十六日の出生、近衛輜重兵上等兵、除隊歸郷後家業に精勵し、他方また村治に關與在郷軍人分會長、養蠶組合長等に擧げられて盡瘁し、現在は區長であり、その他畜産組合長農事實行組合理事、納稅組合長。消防組副組頭等を兼務、それら活動してゐるが、更に今後に矚目されてゐる。氏は常に自作農を奨勵し、自治体のモットー「起テヨ進メヨ」を叫び、共存共榮を基調となしてゐる。夫人ユキ子さんととの間に一男二女があり、家庭は頗る圓滿である。

旭村公所

區長 吉野佐次

本村吉野家の總本家にして、先代は村會議員及び區長等をつとめたる人望家、氏はその男にして明治六年四月五日の岳降である。母堂たつ子刀自は九十五才の長命にて昭和三年御大典に際しては木盃を御下賜され、秩父宮妃殿下より御歌、

皇太后陛下より御眞綿を賜りしほか、村敬老會より旌表數回に及び、今なほ嬰鏢



たつ子 凌ぎ 薄暮 黄昏

の時に縫針の糸を通すといふ驚くべき壯健体である。氏もまた、母堂に似て壯健村民相互の福利増進を信念に自治公共のことに盡し、今より二十五年前村内特産物たる胡瓜茄子の出荷産業組を創立して東京市場を開拓せる功勞者、また煙草耕作組合長十五年勤績により専賣局よりその功を感謝されし手腕家、現時區長、納稅組合長、信用組合監事、耕地整理組合評議員を兼任し、村内尊敬の的となつてゐる。

旭村 萬田

區長 出繩 福太郎 勤七等



二十一 家を相繼ぐ 土地の舊 家として 知られ、

三代前の祖は栃木縣無量壽寺住職となり天台宗の名僧として聞えた。先代は村會議員を長期に亘つて勤め、また區長その他の名譽職に歴任せる功勞者である。氏は明治十三年五月二十九日の出生、溫和明敏にして決斷力あり、後備陸軍一等計手(曹長相當官)である。曩に本村産業の進展を圖つて丸萬出荷組合を率先組織し、今や當地地方出荷組合中の模範と稱されるに至らしめ、また村會議員を四期、在郷軍人分會長を十五ヶ年間勤務し、村當局並に各種團體より表彰されること數回に及び、現時區長たるほか産業組合理事、神奈川團藝組合聯合會評議員、耕地整理評議員等を兼任する。夫人つねさん(明治十七年生)との間に、目下青年團



堀江家 堀江 仁 是當地屈 指の舊家 にして名 主、戸長 村長等

の役をつとめたる家柄である。翁は明治九年六月二十八日の出生、千葉醫學專門學校の卒業にて、明治三十六年現地に開業、全科診療に従事し冴えた方技と高き人格とを忽ちにして名刀圭家と謳はれるに至り、各村の村醫、校醫を囑託されるほか、伊勢原高等女學校醫、郡醫、師會幹事、縣醫師會議員、學校醫會副會長等の任にあり、功多くして曩に學校醫會より表彰せられた。書畫、俳諧、歌道、菊作り

に興味を有し、殊に菊作りの名人として知られ、曾て東京市日比谷公園に於ける斯道會に一等一席に入賞、現在菊の會たる伊勢原秋豐會々長である。因に當家は秩父宮、北白川宮、賀陽宮殿下が御休息なされし光榮に浴する名門である。

高部 屋村

吉澤醫院長 吉澤 瑛次 正八位勳六等

當地杏林界の寵兒にして先輩たる氏は明治十二年十月三十日を以て生をこの世に享け、濟生學舎卒業後、東京帝大醫科大學選科に學び、軍役に服して陸軍三等軍醫に任ぜられ、正八位勳六等に叙された。明治四十年現地に開業、全科診療に従事して隆盛を來し、名醫の譽れ遠近に普ねく、現時開業の傍ら高部屋、成島、大山各小學校醫を兼ね、兒童保健衛生に盡すところが多い。

東秦野村 落合

關野 平二



關野家 關野 平二 是當地煙 草耕作の 元祖と傳 へられた 舊家、氏

は明治十五年この世に生れ、没落せる關野家の再興を目指して三十餘歳の時、妻子を郷に残して躍然出京、文字通りの人生行路を辿つて初志を貫徹、今、日本橋人形町水天宮に「だるま」と號して飲食料理店を経営、斯界の雄として推され、人形町々會長をはじめ他の要職に就き、一面信仰家たる氏は町内並に業界のために長野善行寺信仰講の團體を組織するなど、陰に陽に社會に貢献する大なるものがある。氏は現在百萬圓を突破するの産をつくり、郷村東秦野村に於ける村納稅者中の第一位を占め、毎月一回は展墓かたぐい必ず歸省、村治の状態などに留意してゐる。目下村民一致、名譽村長推薦の希望を以てゐるといふが、遠から



大澤 一郎 是當地 達、とて もまめま めしく立 ち働く氏 是明治十

四年九月七日の出生、同三十七八年日露戰爭當時には重砲兵として出征、各地に轉戦して功績を樹て、平和克復後、勤八等に叙せられた勇士である。曾て消防部長、實行組合理事に推されて活動するところあつた。後ち消防組頭となり、煙草耕作部落總代等を兼ねて今も現任、盡瘁

中である。夫人をやま子さんといふ、貞淑温良、よく夫君を助けて遺憾なからしめてゐる内助の功勞者である。長男寅雄君は三十一歳、家業に精進し、外に二男二女がある。

旭村出 須藤 愛三郎 區長



土地の 舊家とし て知られ て温和且 つ能辨家 たる氏は

明治十二年一月二十八日の出生である。尊父氏は村會議員、區長をつとめ本村小學校新築建設委員としては特に功勞ありし逸材である。氏は丸中産業組合の創立者として聞え、同組合に關係貢献すること實に二十有余年、その活躍の跡は組合史上永遠に消ゆべからざるものであり、更に村會議員三期、消防組頭六ヶ年をつ

とめ、現在は専ら區長として盡瘁し、蔬菜出荷の研究をなすつゝあり、村民相互の富を獲得することに積年の努力を傾倒し、尙且壯者を凌ぐ潑刺たる元氣を持つてゐる。されば表彰數回に及びしも宜なることである。夫人とらさん(明治二十三年生)との間に五男五女あり、長男新平君(明治四十四年生)は青年團及び青年の向上に盡力し、聯隊區司令部より表彰二回に及んでゐる。

豊田村宮下 養鶏業 長尾 敬藏

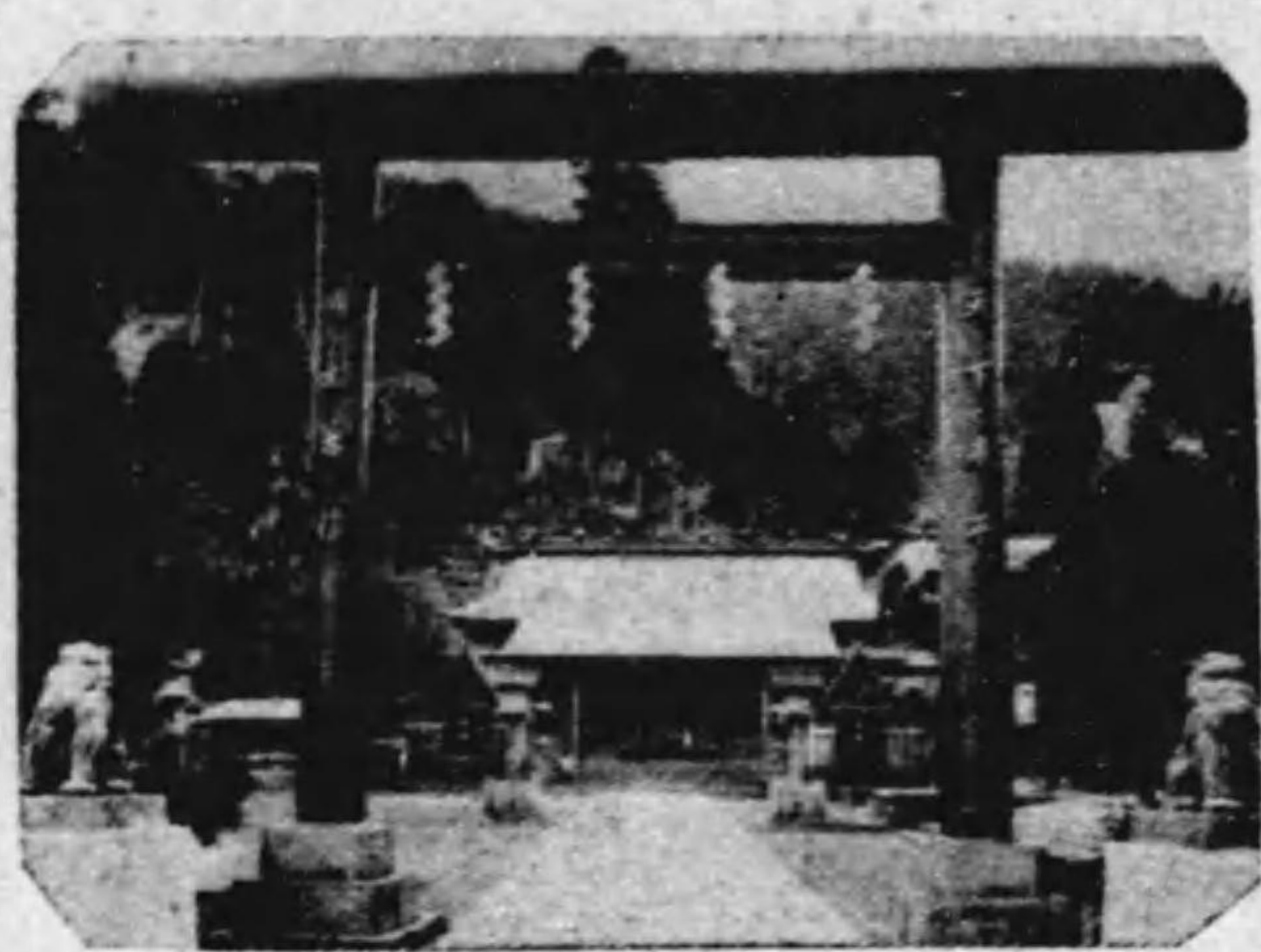


祖先是 鎌倉長尾 村の産に して、理 智光寺長 老護良親 王の御尊骸を藪中より拾ひ葬れるに、元祖長尾長右衛門氏は宮の恩顧のものなるが、御尊骸を當地に分ち、その頃の鶴岡

八幡宮別當福藏院が伯父の續きなるを以て、御尊骸を若宮八幡に勸請し、後年代若宮八幡の祀主となり、累代名主をつとめ、先代菊次郎氏は村長に任じた。氏は明治二十二年十月の岳降にて、第七高等學校出身にて、豊田村養鶏組合長に任じ、自營の長尾鶏園は縣當局より、二回に亘つて表彰を受けてゐる。なほ氏は石鹼製造業長尾商會經營者として實業界に有名である。

大山村 大山阿夫利神社

當社は延喜式所載の古社にして、今、縣社阿夫利神社と稱へ奉る。山麓より十町の所に追分社あり、それより十八町の所に下社あり、更に二十八町を登り山嶺に本社並に攝社があり、併せて一山となす。人皇第十代崇神天皇の御宇の創始と傳へ、古來朝廷土民の尊崇篤く、古來の特殊信仰に納太刀の慣習あり、立身出世成功成就の祈誓と共に質實剛健克己尙武



の氣風を涵養して餘りあるものである。また太々御神樂は各方面の崇敬者が神恩にむくゆるために行ふ神事である。その他筒粥祭、引目祭、鎮魂祭などを 行ふ。 現社司 小林順三氏は 温和にして 理智的な 神官と稱され、明治九年四月二十八日の出生にて國學院大學八期の卒業生、中郡平塚市聯合神職會長、全國神職會評議員、縣神職會理事を兼ね、曩に全國神職會及び賞勳局より表彰を受けてゐる。

の氣風を涵養して餘りあるものである。また太々御神樂は各方面の崇敬者が神恩にむくゆるために行ふ神事である。その他筒粥祭、引目祭、鎮魂祭などを 行ふ。 現社司 小林順三氏は 温和にして 理智的な 神官と稱され、明治九年四月二十八日の出生にて國學院大學八期の卒業生、中郡平塚市聯合神職會長、全國神職會評議員、縣神職會理事を兼ね、曩に全國神職會及び賞勳局より表彰を受けてゐる。

秦野村

天理教大教會 秦野分教會



飯田分教會長 是明 治二 十七 年教

會所として勝又正司氏により創設され、同四十二年支教會に昇格、昭和十一年一月分教會となり今日に至つた。都下教會として北海道に四十四ヶ所、神奈川縣下に十四ヶ所、東京府及び市に六ヶ所、千葉縣に六ヶ所その他埼玉縣、新潟縣、高田市、長野縣に各一ヶ所を有す。初代教會長は勝又正司氏、二代目は三竹春吉氏にして、三代目現分教會長飯田文吉氏は大正四年の就任である。南秦野村の産にして明治六年六月十日の岳降、明治二十三年頃より天理教に關係され、現時少教正の資格を有する。子息實君は明治二十

八年の誕生にて、平塚市、愛甲郡、中郡津久井郡各支會長、聯合分教會評議員、東京支教廳中央委員の要職を兼ねる。なほ當分會信徒總代は大澤銀三郎氏ほか二名である。

土澤村土屋 大乘院

當山は天台宗、慈覺大師を開山となし阿彌陀佛を本尊に、十五ヶ所の末寺を有する名ある古刹である。今より三百年前火災にかゝつて堂塔伽藍を烏有に歸したが、後ち再建現在の建造物となつてはるが、しかも當地方唯一の立派やかなる建物とされてゐる。靈驗あらたかなる放光の彌陀佛があり、寶物には自惠大師の彫刻にかゝる千手觀音の像がある。境内は六反歩、財産としては畑五町七反歩、田九反歩、山一町歩、雜木林、杉三町歩餘が數へられてゐる。毎月三日月並念佛が執行されてゐる。現住職は内田高俊氏で第二十五世目である。師は明治二年七

月二十六日の出生、當地に於ける名僧、
社會教化事業に盡瘁してゐる。

東秦野村養毛

寶蓮寺



住持 山は 當
建長 寺直
末、 明治

維新までは紫衣特許の由緒深いもので、
藥師如來を本尊とし、毎年八月六日村内
念佛講中夜念佛修行曉天大日如來の開
帳を執行する。後嵯峨天皇第三皇子佛國
應供廣濟國師、地頭榊斐政景を開山開基
となして、法燈綿々今日に至つてゐる。
境内總坪數三反四畝歩餘で本堂、庫裡、
鐘樓、倉庫、境外佛堂、仁王門、大日堂
大山前不動、閻魔堂などの建物が並び立
つて昔を偲ばせ、寶物には大日五知如來
五体、藤原期の作、五大尊不動五体、足

利初期の作、地藏菩薩、藤原期の作、閻
魔十王、徳川初期の作、大般若六百卷肉
筆などが秘藏されてゐる。現住職は藤田
壽慶師で、檀徒總代には吉田龜吉氏外六
名がある。藤田師は元京都南禪寺派八王
子寺の住職として大に寺運を興した名
僧、大正四年當山に轉じたもの。昭和七
年六月十日の時の記念日に就き、大日本
生活改善會より東京日比谷に於て表彰さ
れ、また建長寺管長よりは荒廢せる寺を
再興せる功によつて賞狀並に賞品を拜受
してゐる。

寫眞挿入すべきを、生憎と寫眞到着遅延
せるため、組み込み間に合はず、止む
なくここに再録して實を償ふ。

愛甲郡愛川村

村會議員 小島平作

氏の家は土地に於ける舊家として知ら
れ、父君平兵衛氏は村治方面に貢献した
人望家であつた。氏はその男、明治七年
八月生れ、夙に父君の衣鉢を襲ふて公共
方面に進出、現に村會議員として村政に
關與しつゝあるの外、半原惣糸工業組合
長に就任、各役員と一致戮力して斯業界
に邁進してゐる。同組合は井上萬吉氏を
初代組合長とし、二代目内藤國藏氏、三
代目小島明三郎氏、四代目大貫氏等の後
を承けて五代目組合長となつた。なほ事
務事業方面は、主として事務理事の高津
富美夫氏が采配を振つて、敎院の聞えが
高い。

足柄上郡 中村榮之助



氏の
來歴は
別記の
通りで
あるが
記事中

足柄上郡

吉田島村

神奈川 吉田島農林學校

電話松田二二〇番

本校は明治四十年四月創立の足柄上郡
立農業補習學校を、同四十二年四月農業
學校規定乙種組織に變更し、大正十二年
四月郡より縣に移管して神奈川縣立農林
學校と改稱し、昭和三年四月更に修業年
限を五ヶ年の組織に變更して今日に及ん
でゐる。本校は二宮尊徳翁出生の地に近
いところから、至誠勤勞を校訓とし、昭
和九年の秋、二宮神社を校内に建設して
一層翁の精神を欣慕せしめてゐる。現在
生徒數は約二百五十人で本郡下を主とし
足柄下、中郡、鎌倉郡等から通學してゐ
るが、農業者の子弟が最多を占め、卒業
者の大半以上は實業に就いてゐる。校長
は春原千幹氏で、昭和十年八月現職に就
いた人。なほ本校では柑橘栽培、製茶、

アルミサン、醬油製造等、實習の特色が
ある。

自修學校

本校は「敬神愛國ヲ旨トシ、強キ信念
ヲ以テ實踐躬行、隨所ニ主トナル實用ノ
材ヲ養成スルヲ目的トス」との教育方針
の下に明治四十三年七月六日設立認可を
得、同年同月十二日開校、昭和十年十一
月十二日文部省認定となり足柄上、同下
郡及び中郡を學區となし、修業年限二ヶ
年、高等小學卒業程度を入學資格とし、
現在二百七十人の生徒を擁し、熱心訓育
に従事してゐる。本校創設當初より經營
者兼校長として大井龍跳氏これに當り、
卒業を累ねると二十七回、二千五百人の
卒業生があらゆる方面に活躍してゐる。
卒業生から成る校友會があり、なほ高木
勝之助氏が校醫として現任中である。

岡本村原

岡本尋常高等小學校

本校は明治八年五月、日向館と稱し、
天王院を代用校舎に敎授を創めたを濫觴
となし、後ち再三地をかへ校名を改めて
今日に至つてゐる。爾來卒業生を累ねる
こと四十回、生徒を送り出すに實に二千
二百餘人に及び、活社會のあらゆる方面
に活動してゐる。現在收容生徒數は七百
五十餘、久保校長以下十九名の職員がた
だもう熱と汗とを以て職責に盡瘁してゐ
る。現校長久保寺豐三郎氏は第十三代目
であるが、氏は明治十九年七月十五日本
郡會我村下大井に生れた同四十二年神奈
川師範の出身、會我、上秦野、國府津、
千代等の小學校を経て、大正十四年函嶺
小學校々長に榮進、後ち福澤校より本校
に轉じたもので、高等官待遇正七位に叙
せられてゐる。家庭には夫人アサ子さん
に三郎、昭二の二君がある。

會我村上會我

會我村信用販賣購買利用組合

當組合設立の要旨は、一般農村の常弊として農業資金の圓滑を缺き、特に物價供給に於て小賣價額の高價に甘んじてこれを購入し、反對に生産物の賣價は安價であるといふ不釣合を生ずるので、有志者相謀つて、これを打破するに共同の力による外なきを痛感し、大正七年六月組合設立の前提として梅實共同販賣をなし、同年十一月有限責任上會我信用販賣購買組合の設立認可を得たのであるが、これが當組合の前身であつた。設立當初は組合



に對する知識の乏しいために統一を缺くなど、とかく經營に幾多の困難はあつたが、現在は保證責任に改組し、利用部を併置するなど漸次好成绩を示し、二百五十三人、一萬九千五百餘圓の總出資額を以て活動してゐる。現組合長理事は柏木幸次郎氏で、元村長、縣會議員その他の公職に在つて功勞のあつた人である。

松田町松田總領

松田町長 中村 由定

氏は亡榮吉氏の長男、明治七年十二月十六日の生れ、秦野會屋學校を経て中郡金目村三郡共立學校を卒業して足柄上郡役所に入つて郡書記となり、轉じて鐵道省に奉職、前後を通じて十四五



年間勤續、大正十二年辭職して翌年町役場に入り収入役、助役等を経て昭和十一年九月一村の推薦によつて町長の要職に就任、町民の利福増進を圖りつゝ今日に至つてゐる。父君榮吉氏在世中は町會議員等に選ばれて貢獻し、また祖父松右衛門氏の頃には名主を命ぜられ土地開發などに盡瘁努力した代々の自治功勞者である。

會 我 村

村 長 久保寺波藏

一村の輿望を負ふて決然村長の要職に就任して以來の氏の活躍振りは、從來のそれに拍車をかけるの目覚ましいものがあり、村治の進展は目に見えて躍つてゐる。氏を輔くるに石井助役、加藤收入役の兩飛將あり、その功やまた大。

松田町松田總領

松 田 郵 便 局

電話松田一七〇番

本郵便局は古くから局事務を扱ひ、明治十三年九月郵便局として松田、酒田、金田、上中、山田、吉田島、寄等の町村を扱ひ區とし、郵便事務一切を開始、健

和田正平氏を初代局長として相繼ぐこと七代、現在健和田福造氏に及び従業員二十四名に及んでゐる。現局長は明治二十四年五月十五日の生れ、中學卒業後通信傳習生養成所に學び、松田郵便局通信事務員を拜命、大正十五年五月十五日局長



長局田和健

に昇進、今日に至る

在郷軍人分會長、郡聯合分會副長その他幾多の公職に就任、現在は方面委員、常設委員、縣社會事業協會本部評議員その他の任に在つて、匆忙閑なきの身を、村治方面へと至念してゐる。なほ氏は工兵伍長である。

辻 村 利 雄

電話松田一六一番

當家先代彦太郎氏は郡内吉田島村の辻村家から分家し、墨製造業を起した。當主はその長男、明治三十三年二月二十四日の出生、大正九年甲府歩兵聯隊に入營満期除隊、後ち豫備召集によつて伍長に昇進し、同十二年在郷軍人分會班長、更に松田町副分會長、同分會長を歴任、現在足柄上郡聯合分會副長を就任、また松田町商工信用組合理事をも務めてゐる氏は大正七年以來、今の木製玩具製造問屋を經營、現在は十五名の従業員を使用し英、米、和をはじめ内地は東京、大阪名古屋などを主たる販路となし、誠實、不言實行を主義として活躍してゐる。因に父君の令兄辻村幸吉氏は辻村本家の八代目、前に吉田島村長の要職に就いて活躍、業績をあげた功勞者、村内の人望家である。

松田町松田總領

嶽東大教會 松田支教會



長會教支藤安

本會 是明 治廿 八年 四月

八日の創建で、小野曠治氏初代の宣教師長として熱心布教に従事し、漸く基礎を鞏め、次で同四十二年四月現教會長安藤彦次郎氏代つて立つや一層精勵、たゞ一路向上發展へと努力し、昭和十一年二月二十七日、支教會に昇格して今日に至つてゐる。郡下宣教師として中郡に善波宣教師、大句宣教師、高座郡の元藤澤宣教師、足柄下郡の酒匂川宣教師、北海道の北勸宣教師の五ヶ所があり、各方面に多數の信徒がある。安藤支教會長は慶應二年七月十日、本郡寄村に生れた人、權少教正である。

北足柄村内山

北足柄信用購買組合

電話山北七三番

本組合の歴史はまだ新しく、即ち昭和四年五月九日の認可設置になつてゐる組合区域は北足柄村一圓で、取扱種目は蜜柑、梅、米、麥、木炭などであるが販賣成績は頗るよい。一口の出資額二十圓、二百七十名の組合員を擁し、その出資総額は一萬二千九百餘圓に達してゐる貸付総額は十萬五千餘圓で、貯金は十四萬八千七百餘圓に上つてゐる。購買事業にあつては實に六萬六千四百餘圓、利用事業にあつては百餘圓といふ業績を示してゐる。現組合長理事矢渡富士太郎氏はまた助役、村會議員、學務委員、統計調査員等をも兼任、鋭意盡力貢献してゐる事務理事小澤快三氏は明治二十四年十一月一日の生れ、吳服店雜貨商としても知られた人望家である。

福澤村竹松

福澤村信用購買組合

當組合は大正大震災の復興策として、大正十三年八月十日認可設立したもので爾來發展また發展、業務擴張と共に新築中の事務所成り、更に進展へと目指してゐる。現在は保證責任組織である。一口の出資金額は二十圓、組合員数は三百四十名で、その口數六百五十七口、出資總額一萬三千四百四十圓を數へる。そして現在貸付總額は四萬六千二百餘圓、貯金は五萬七千九百餘圓である。また購買價額に於て二萬圓、販賣價額に於て柑橘四萬三千圓、玄米その他三萬二千五百圓、利用料に於て九百二十餘圓の統計を見せてゐる。現組合長理事は山龜吉氏である氏は明治七年十一月五日の出生、農を主業となし、日清並に日露の兩戰役に従軍勳八等に叙せられた勇士である。長男の延藏君が組合長代理として事務に與つてゐる。

北足柄村平山

磯崎金造

今、三期目の村長の福機を握つて、更に一村の明理化へと拍車をかけつゝある氏は、同家先代文右衛門氏に望まれて入籍したなかゝの手腕家であり、また名望家でもある。明治八年一月七日の出生日露戰役に出征、功によつて勳八等白色桐葉章を下賜された。前には村役場助役として、六期目の村會議員として、學務委員として功績を樹て、現村長であるの外農會長を兼ねて努力してゐる。當村の甚だ明るきは蓋し氏のあるがためか。たみ子夫人は内助の功勞者、長男寛君は今鐵道員として勤務、その將來を期待されてゐる。

南足柄村關本

關野光之助

曾ては本郡學校長として育英のことに盡瘁すること多年、その功勞最も多きに

をる氏は、今、村長として一村のすべて

を擔ひ、加ふるに郡教育會長を兼ね、慶應三年八月七日生れの老軀を厭はず専念盡力し、貢献してゐる。曩に村役場助役村會議員、學務委員などに擧げられて盡すところがあつた。

共和村皆瀬川

岩本理喜三

岩本家は土地の舊家、累世農を本業となして來た。先々代理右衛門氏は戸長役場當時の戸長を命ぜられ、自治制實施で村會議員に選ばれること二期、また先代喜太郎氏は村役場の収入役、村會議員として共に村政に貢献するところ多大なるものがあつた。氏は喜太郎氏の男、明治二十四年五月十一日の出生、夙に村治に關與、村役場助役、學務委員等を歴任現に連續三期目の村長として一村の福機に與りつゝあると共に産業組合長、森林組合長を兼務、それゝ盡力貢献してゐる。夫人チエ子さんとの間に長男喜明君

に三女がある。

清水村湯觸

山崎喜一郎

氏は善行證書を附與された元歩兵上等兵、除隊後は家業に精進し、他面公共方面に關與した温厚篤實の逸材である。曾て村青年會長、軍人分會長、公營調査員耕地整理組合長、組合理事、衛生組合長養蠶實行組合長、司法保護委員等を歴任専心その職を果すべく努力寄與、ますます信望を博するところがあつた。現在は村長に推薦され、また村會議員、農會長方面委員等を兼ねてゐる。元民政黨員として重きをなしたものの、今が働さざりなのなかゝの手腕家、村民は親船に乗つた好感を有つてゐる。よし子夫人との間に長男福之助君外四男子があり、家庭の和かなること人の羨むばかりである。

福澤村斑目

武藤喜代治

一村の推舉によつて當村長に就任した氏は、農會長をも兼ねて鋭意村自治の發展へと邁進してゐる。明治六年十二月十五日、先代捨五郎氏の男に生れた人、曩には郡會議員、村役場助役、教期の村會議員等に選ばれて相當の功績を擧げてゐる。資性温厚篤實、また頗るの人望家である。

岡本村塚原

石川貞治

氏は先代和吉氏を父とし、二宮尊徳先生の實弟三郎右衛門氏の女を母とし、明治十三年六月二十六日二男に生れ、令兄久治郎氏に嗣子なきため、その後を嗣いだ人である。曾ては郡會議員、村役場助役、村會議員として郡政村治に寄與貢獻し、現在は村長、しかも連續四期目の村長に推されて活躍してゐる。氏はまた俳句に興味を有し、六花庵梅遷の號を以て知られた宗匠である。夫人てふ子さんとの間に二男一女がある。

松岡町松岡總領

元町長 遠藤 島吉



主として第一位に屈せられる名望家である。開祖は詳かならざるも今より四百年前の遠藤出雲氏を中興の祖となしてゐる。氏は當時小田原城主北條家より

北條家ヨリノ盛付

今度武列發向ノ御格別ノ軍功俣有之風賞トシテ相州轉屋ノ庄ニ於テ貳百貫宛行者也

彌抽忠勤候依而執達如件

天文十二年五月十日

松田隼人正

遠藤出雲殿

の墨付を賜はつた。大正七年三月には朝香宮殿下、後ち李王殿下、再度朝香宮殿

下より御宿泊の榮を賜はつた。先代仁兵衛氏は村會議員等に推されて盡力した。當主はその男、慶應元年六月十二日の出生、曾て町長として寄與貢獻したをばし

岡本村探原

武尾 醫院

電話足柄嶺ノ内七番

め、町會議員たる二十五年間、青年會長、金田銀行支店長、松田銀行頭取、郵便局長に推舉されて盡瘁貢獻し、その若かりし時代には郡役所書記を勤めたことがある。曾て朝香宮殿下より木杯を賜はつた。とき子夫人との間に基君がある、君は帝大出身、長崎縣に勤務してゐる。

岡本村沼田 區長 安藤 彌助

當家先代近次郎氏は區長代理などに推されて貢獻した人。當主はその男、明治二十一年一月二十日の出生、現に二期目の區長をはじめ養蠶組合理事、實行組合役員、氏子總代等を兼ねて懸命努力してゐる。家庭には母堂アキ子さん、令閨キ子子さん、長男喜夫、次男富佐夫、三男孝造、四男一郎君等に千代、ミツ、ユキ

子さんの三女がある。なほ孝造君は藤澤中學出身の鐵道員である。

本醫院は先代太重氏の代に當地に來つて醫師を開業、今日に及んだもので、現院主武尾鏡氏は實にその男、明治二十七年四月二日の出生、名古屋醫學專門學校(今は大學)出身の名刀圭家、父業を襲ふて一般の診療に應じ、現に看護婦を二名運轉手一名を置いて自家用自動車で應診の隆盛振りである。現在校醫であるの外方面委員、郡醫師會副會長、郡學醫會々長を兼ねて寄與貢獻してゐる。ツヤ子夫人は小田原士族軍醫現東京理化學會社社長伊藤賢三氏の息女、長男重孝君は小學校に、長女さんは小田原高女出身、今東京洋裁文化學院に何れも在學中である因に當主祖父彌十郎氏は本縣最初の縣會議員として令名の高かつた人である。

南足柄村

南足柄第一信用販賣勝組合

電話本四二番

當組合は石井善作、石井市兵衛、小泉清四郎、石井幾造、杉本譽男、杉本龜太郎、石井瀧五郎、杉本良輔氏等を發起人となし、大正十一年三月十三日認可設立したもので、保證責任組織である。地區を南足柄村狩野、飯澤、關本、下弘西寺中沼とし、一口の出資金額十圓、八十八名の出資總額は六千四百七十圓を數へてゐる。現在の貸付總額は二萬八千九百餘圓、貯金は三萬六千餘圓を示し、また販賣額は二千八百餘圓の成績で、逐年業績を高めつゝある。現在組合長理事は石井市兵衛氏であるが、氏は明治十三年十二月一日の出生、曾て村會議員を二期、區長を二期半つとめた村治の功勞者でもある。なほ當組合の役員を擧ぐれば次のやうになる。

組合長理事 石井市兵衛
理事 石井幾藏

監事

佐藤新藏
四島松太郎
石川只六
石井徳次郎
松本譽男
山口繁左エ門
澤長造

中井村

村長 中村榮之助

長男庄太郎君は既に妻帯、令孫四人があり、家礎いよ／＼ますます／＼盤金を加へてゐる。

上秦野村柳川 村長 和田 和賀

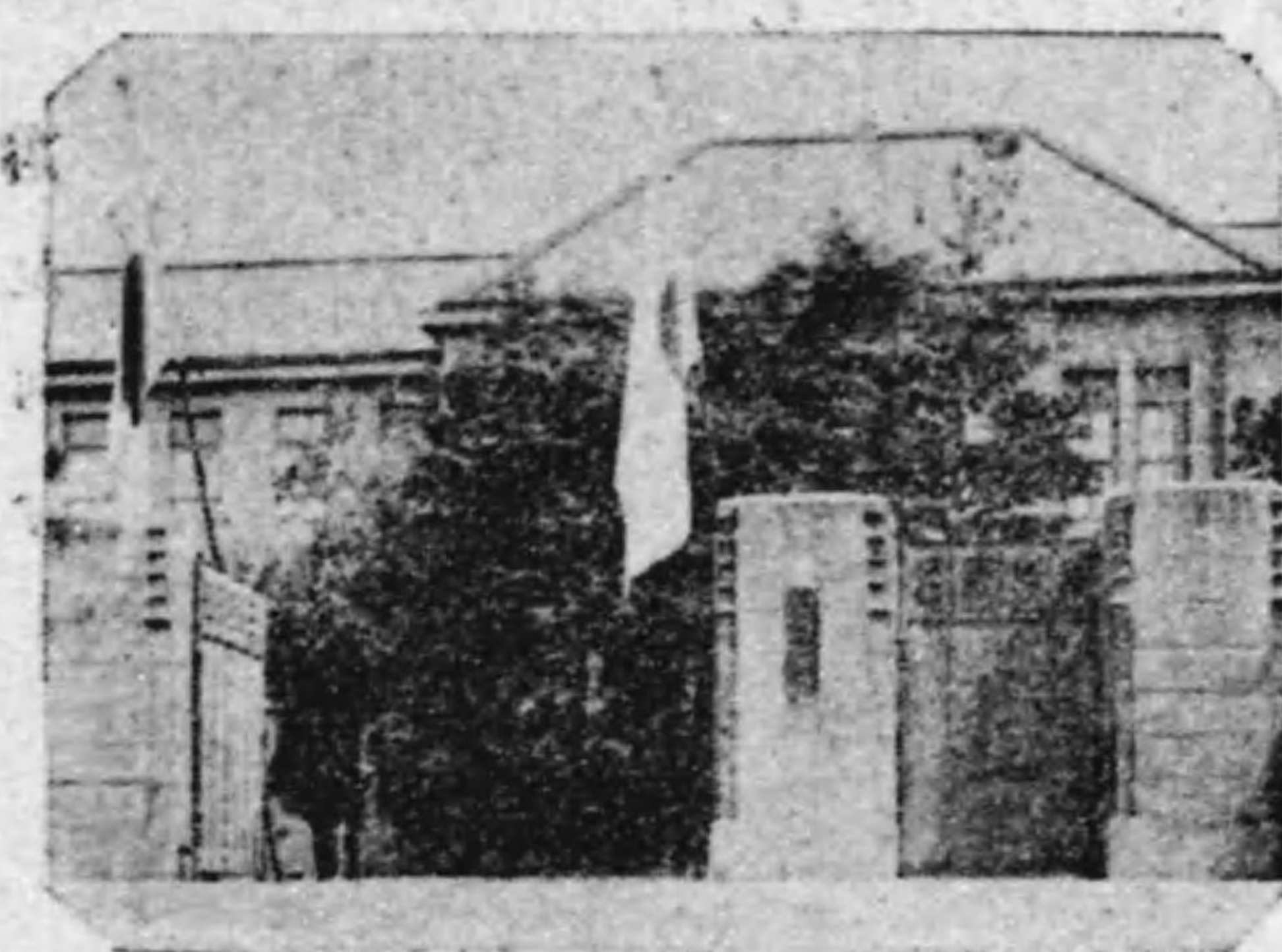
和田家は土地の舊家でありそしてまた名望として知られてゐる。先代庄之助氏は村長、收入役、村會議員、郡農會副會長等に歴任、相當村政の上に貢獻するところがあつた。氏はその三男、明治十四年三月十五日の生れ、曾ては煙草耕作教師を勤めたることあり、村會議員二期、消防組などに歴任して、それ／＼銳意盡力、期せずして信望を高めてゐる。現に村長として一村を存負ひ、その他農會長、産業組合長等を兼任、一層努力、村民の期待に副ふことを念となしてゐる。

足柄下郡

小田原町

神奈川縣立 小田原中學校

本校は明治三十四年四月の開校にして生徒一千名、學級二十、職員三十七名をかぞへ、至誠無息、堅忍不拔を校箴とす



小田原中學校

堅實優良なる國民の養成を主眼とし、質實剛健の校風と自治自學の氣風は縣下に冠たるものあり、また眞摯にして秩序

然諾を重んじ、和合以て共存共榮をはかるなど他校の範とされる。箱根の山を背



同校校歌

負ひ、覇者北條氏の古城趾にたち、情操豊に教育される生徒達は幸福である。校友會では本校教育の方針に従ひ、職員生徒一致融和して家族的團體となり、徳性の涵養、學藝の研究、身體の練習をなし、校友會誌「相洋」を發行し、校風の發揚につとめてゐる。現校長正六位林田正徳氏は昭和十一年四月の就任、熱心學務に與つてゐる。

小田原町幸

神奈川縣立 小田原高等女學校

本校は明治四十年八月町立女學校として設立され、昭和四年九月より縣營となり今日に至つた。身體健全、感情圓滿、常識豊富なる高尚な人格を樹立し、貞淑溫和、家政的能力ある女性の眞使命に覺醒せしめ、感恩奉仕の信念に徹するを以て方針とし、郷土室、同窓會館等の特殊施設がある。敷地は北條氏居城の地にして、近くは御用邸のありしところ、在學生徒六百六十名、一般に溫雅で出席歩合

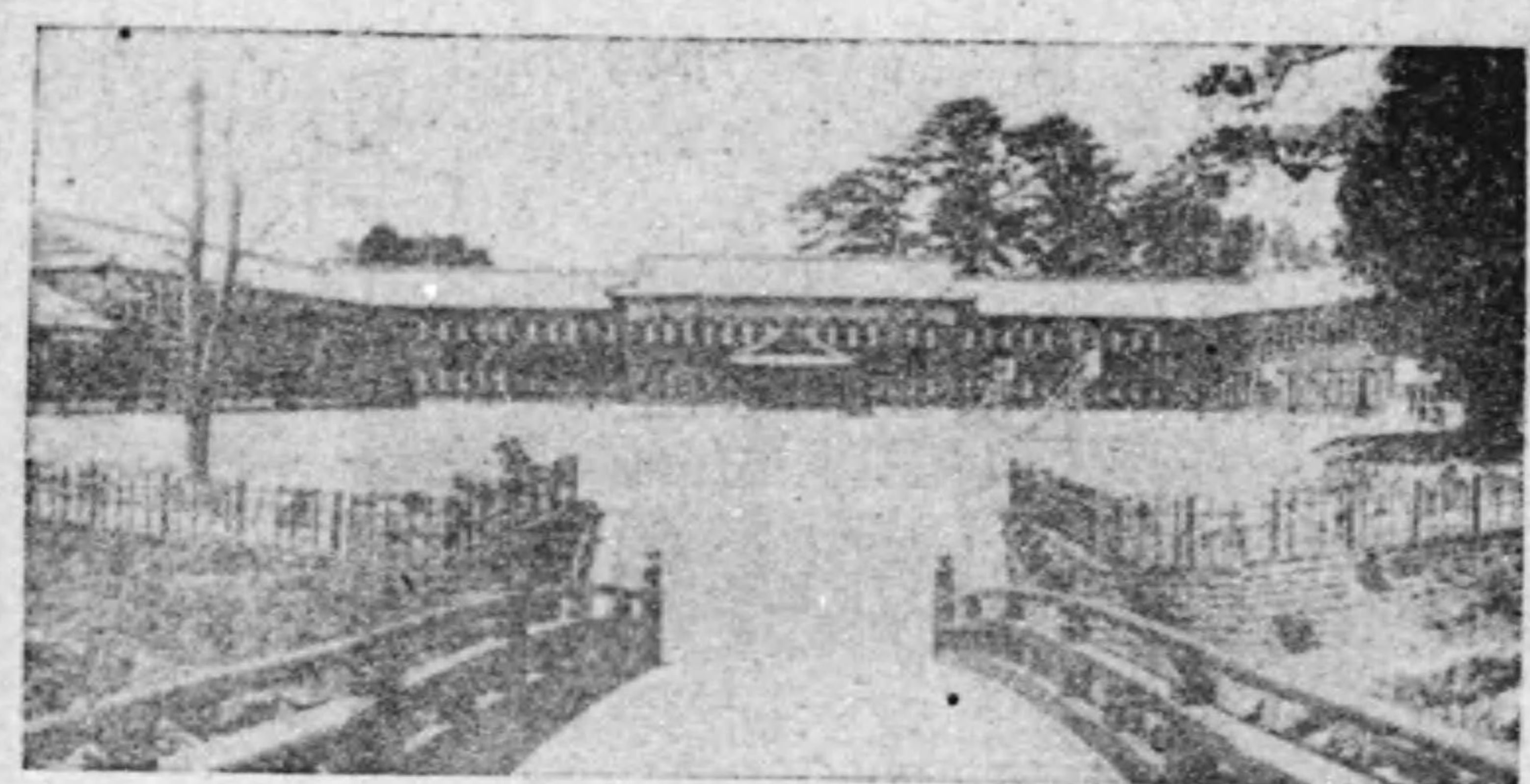
も良好である。現校長は淺井誠一氏、夙

小田原町幸

新名高等家政女學校

電話小田原二二七番

本校は家政に關する智識技能を授け兼て報徳教の趣旨に重きを置き女子の徳性を涵養するを以て目的とする。明治三十



小田原高等女學校

に學務精勵を以て聞えてゐる。



(新校長名)

五年手藝傳習所として開設され、三十七年新名裁縫學舎と改稱、更に三十九年新名裁縫女學校と稱し、現在地に新校舎建築、その後大震災や生徒増加により増築改築を行ふこと數次、昭和九年現校舎の落成を見、翌十年現校名に改めた。本科(修業年限四年)裁縫普通科(同二年)裁縫高等科(同一年)家庭科(同一年)に分れ、生徒六百五十名を擁し、本科卒業者は高女卒と同資格が得られ、昭和十年度までの卒業生各科を合せて二千餘名の多きに上り、校威ますます輝かしきものがある。

小田原町新玉

小田原第三高等小學校

本校は、大正三年設立され男生のみを收容した小田原尋常第三小學校に濫觴し當時幸一丁目にあつたが、大正八年現在地に新築移轉、同時に男女生を收容し、同十四年高等科を併置し、現校名に改められた。児童數は男女兒相半ばし、總計

千七百餘、これを二十三學級に分ち、男女三十七名の職員が訓育指導の任に當り出席率よく、施設整ひ、學業成績略るべきものあり、優良模範校の一にかぞへられる。現校長は從六位勳六等久野春光氏である。

小田原町十字

小田原報徳信用組合

當組合は、大正十三年八月に設立せられ、當初は小田原信用組合と稱したが、大正十五年報徳購買組合を合併し、現在の如き有限責任組織の市街地信用組合となつた。區域は小田原町一圓及び大窪村板橋、足柄村並に酒匂村の一部に亘る。組合員四百五十名弱、出資千七百五十口（一口五十圓）にして、借入金一萬一千三百圓、餘裕金六萬圓を有し、昭和十一年度中の貸出金十萬八千八百餘圓、回収金十萬七千八百餘圓にして期末現在高十八萬四千餘圓である、また貯金は同年度中受入金四十四萬一千八百圓、拂込金四

十二萬七千六百餘圓にして期末現在高金十四萬八千五百餘圓を算した。兩者共年増加の傾向にあり、産組思想の普及と相俟つて市街地信用組合の機能を遺憾なく發揮してゐる。現組合長松岡彰吉氏は大正十四年五月の就任である。

湯河原町

湯河原信用組合

泉都湯河原に市街地信用組合として利用者多き當組合は、保證責任組織にて組合員百二十人を有し、出資千二百六十口（一口十圓）保證金總額三萬七千七百餘圓である。設立以來常に順調な進展を示し、組合精神の普及と徹底せること他にその類少く、事業量は年々増大の傾向をたどり、今後ますます發展飛躍すべきことは火を睹るより瞭かである。準備金及び積立金は一萬五千二百餘圓を算し、昭和十一年度中の貯金受入高十三萬八千六百圓、拂戻高十二萬五千四百餘圓、期末現在高八萬五百圓にして、また同年中の貸

出は五萬五百圓、回収は二十七萬餘圓、期末現在高十一萬六千七百餘圓をかぞへ基礎固きを物語つてゐる。現在組合長は杉崎鐵藏氏にして、理事は松井利男氏ほか二名、監事二名である。

下府中村中里

下府中信用販賣購買組合



事務專澤谷

組合 當
は大
正十
四年
九月

一日の設立認可に係り、初め有限責任組織で信用事業のみを經營したが、昭和九年保證責任に改めると共に、販賣利の事業を加へ今日に至つた。下府中村一圓を區域とし、組合員八十餘名を擁する。勤儉思想よく普及し、貯金は二萬圓を越えてゐる。昭和十年工費二千五百圓を投じて一棟二十一坪の農業倉庫を建設、事業

ます、隆盛に向ひ、創立十周年記念日には産業組合協働會より感謝状を贈られた。組合長は創立以來杉山和三郎氏である。また事務理事谷澤初太郎氏も創立と同時に就任し、組合をして今日の隆盛を來さしめた功勞者、明治十八年の出生にて現時養蠶組合長を兼任し人望の厚きと他に比類少ない。家庭には長男一衛氏のほか三男二女がある。

吉濱村鍛冶屋

信用販賣購買庚子社

當組合は明治三十三年設立の庚子蓄積社に濫觴し、翌四十四年無限責任鍛冶屋信用組合と變更され、四十五年購買販賣事業を加へて庚子社となり、昭和八年利部部を設けて現名稱に改まり、組合員百七十人を算する無限責任組織組合となつた。明治四十一年四月産組中央會より表彰された模範組合である。貯金約七萬四千圓、貸付金約十萬圓、販賣六萬七千餘圓、購買三萬二千餘圓を數へ、最近に至

り事業の基礎いよ／＼固きを加へてゐる。歴代組合長は、常盤諦輔氏、鈴木政吉氏、榎本吉太郎氏、近藤徳寧氏（現任）にしていづれも組合發展に關し功勞少なからず、また常盤梅次郎氏、木村源次郎氏、杉山重太郎氏等も組合のため功績顯著なるものがある。

湯河原町

湯河原商業組合

當組合は大正十一年七月五日熱海線開通當時、遊覽並に旅客の激増を見越し、營業上の改善を圖ると同時に相互福利増進を目的となして多田卯左衛門、松熊猪之助、後藤直熊、高橋一郎、渡邊安太郎の諸氏發起となつて創立したものである。關東大震災には被害の程度比較的輕微で震災直後、當温泉場の近況、震災後の療養地として最適地たること等を喧傳したので、災後の旅客は寧ろ増加を見せ、殊に熱海線の東海道線となるに及んで、異狀なる發展を來たし、商店は年次逐増、

吉濱村吉濱

吉濱信用組合

當組合は明治四十年の設立に係り、縣支會及び産組中央會より表彰を受けし優良組合として縣下に名あり、大正十年滿期解散と同時に現在の保證責任吉濱信用組合となつて生れ出た。組合員二百六十名、出資千二百六十餘口（一口二十圓）區域内戸數に比し組合加入者の多きこと縣下有數の方である。農村經濟更生の中心機關としてその目的達成に努力しつゝ、貯金の奨励、組合員負債の整理、生産資金の供給等は頗る成績よく、重要物産たる蜜柑は需給の關係により豫想以

上の賣價を収めつゝあつて準備金はすでに
に出資金を超ゆること三千餘圓、これに
特別積立金千五百餘圓を加へ、組合の基
礎はます／＼強固となつて來た。組合長
淺田岩次郎氏は村助役を兼ね、組合創立
と發展の功勞者である。

岩村信用購買販賣組合

電話眞鶴二〇番

當組合は初め大正九年五月有限責任岩
村信用組合として創立され、五年の後現
事務所を新築、昭和八年保證責任に變更
翌九年より四種事業を兼營し、今日に至
つた。區域は岩村一圓、組合員は四百十
餘名、出資は二萬六百萬圓(拂込濟)であ
る。信用事業を主とし、法定積立金外の
餘裕金は事業資金として運用しつゝあり
販賣部作業所の施設を有し、成績よく部
會長、支會等より表彰されること再三に
及ぶ。最近の概況では、貸付七萬七千八
百餘圓、貯金四千六百餘圓、購買七千五

百圓、販賣六千六百圓である。初代組合長
土屋康二氏、二代目青木要太郎氏、三代
目朝倉常吉氏、四代目鈴木辰五郎氏にし
て、現任組合長は、二見毅一郎氏、常務
理事石附吉之助氏である。

門川漁業組合

湯河原町門川



長合組田飛

當組合は明治
十六年三月

設立されたもので、特別漁業小地引網に
てイワシ、アジ、サバ等を主要漁獲物と
なし、年々の水揚高は相當額に達して
る。組合員は百八名を算するも、漁業を
專業とするもの少なく、殆んど大部分は
半農半漁の生活態様である。従つて普通
漁業組合とは一種異なる事業成績を示
し異彩を放つてゐる。初代組合長角田常

吉氏二代目杉本清三郎氏、三代目山口與
一郎氏、四代目杉本清三郎氏を経て、五
代目現組合長は飛田瀧次郎氏である。氏
は明治八年八月二十二日の岳降、若い頃
から漁業組合事務に關係し、組合監事た
ること十ヶ年。組合長は三期目をつとめ
る功勞者である。農事實行組合長も兼ね
湯河原屈指の信望家にて、長男重太郎氏
は元消防小頭等に推されてゐる。

吉濱村

川堀信用販賣購買組合

利用

當組合は明治四十年七月の事業開始に
して、役員と組合員の協力一致に
より能く事業の發展を促し、幾多經濟界
の難局に處して誤まらず、終に次の如き
今日の業績を擧ぐるに至つた。

貯金	五〇、三三七圓
貸付金	六五、八三七圓
購買高	八、四六〇圓
販賣高	一一、五一七圓

貯金は益々増加の傾向にあり、利息は

期日に至り一人の未納者も見ず、購買部
では昭和十一年春より店舗を設け、常務
員を置いて日用雜貨を賣却し、好評を得
てゐる。因に組合員は六十六名、組織は
保證責任、初代組合長は岩本幸八氏にし
て、大正三年末同氏逝去により翌四年よ
り岩本福太郎氏が組合長となり、今日に
及んでゐる。

湯本町塔之澤

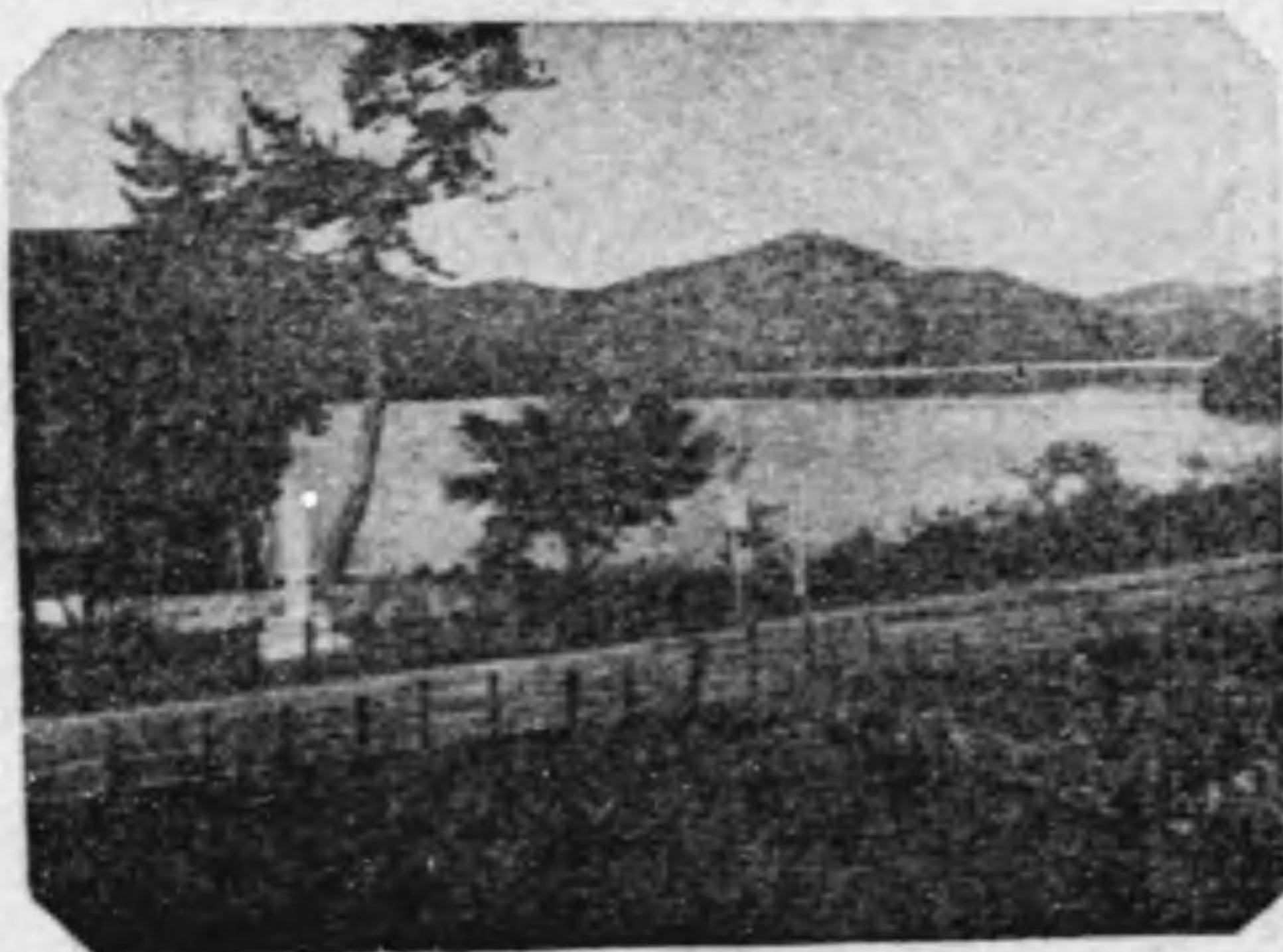
箱根振興會

本會は箱根全山の隆盛發展を期するた
め設立されしものにて、箱根温泉旅館組



箱根東海道

合、富士箱根自動車會社、箱根登山鐵道
會社、箱根遊船會社、箱根温泉供給會社
箱根物産同業組合、小田原行商組合、駿
豆鐵道會社、箱根土地會社、塔之澤藝妓
組合、宮之下藝妓組合、強羅藝妓組合、



圖所

その他箱根に於て各種營業をなすものを
會員とし、國立公園箱根一帯の宣傳と史
蹟保護風致の安全保存をはかるほか、遊
覽浴客の便を計りその設備をなす等の事
業を行ひ、關係各町村に支部を置く。春

は萬葉の櫻花美はしく、秋は紅葉で眼も
綾に彩られる山々、溪々一人で來ても
よく、二人で來てもよく、大勢で來ても
よい箱根は、都市居住者のよい意味での
生命の洗濯場、徒步行業者にとつての理
想郷である。

小田原町

町會議員 上田乙吉



土木建
築請負を
業とする
と二十有
餘年、斯
業に造詣

深く、一方の權威として重きをなす氏は
奈良縣生駒郡平群村の出身にて明治十一
年四月一日の誕生である。尊父の代まで
は奈良縣下に居住したが、氏の代に至り
大正九年當地に移住、漸次小田原に重位
を占めて今日に至り、その手腕と識見は
町民の信望をあつめて町會議員に選出さ

れること三回、現にその任にあり、性來の俠氣と多面の才能とを以て町自治に關與貢獻するところ多く、上田の名は三歳の童兒もこれを知るほどである。土木建築者中には動もすれば相暴の嫌ひあるものもあるが、氏は全くの人格者、その高潔なること他に比を求め難い。長男卯之助君は明治三十三年の出生にて、目下東京にあり、藍より出でて藍より濃しと定評される。

湯本町湯本

前町長 田中庄吉



氏は先代庄兵衛氏の長男、父君經營の箱根物産小賣店の後を承けてます、これを擴張し、進んで製造卸商を開始すると共に、寄木細工物に着眼してこれを製造、その販路を

海外に求めて輸出を始めたが、これ實に箱根物産輸出の嚆矢元祖であり、由來着成成功して今日では米國を第一位に英國ドイツ、濠洲の順序で輸出され、年産百二十萬圓、内八十萬圓は海外に、四十萬圓は内地に販賣されてゐるが氏の盛名は一躍海外にまで轟き亘つてゐる。氏は箱根物産製造卸同業組合長を永年勤めて功あり、聖上陛下御大典當時神奈川縣知事より表彰されて銀杯を授けられ、同業組合より金杯を、問屋業組合より花瓶をおくれた。氏はまた疾くから公共の業に盡すところあり、先年町民一致の興望を負ふて町長の重職に就き、町政の發展開發に盡力貢獻するところあり、殊に學校新築問題に關して錯雜せる難關を突破してこれを解決し、新築計畫を樹立したが時恰も任期満了して町長を勇退した。今學校建築委員長として七十歳の高齡を以て日夜奔走盡瘁してゐるが、敷地三千坪建坪約九百坪二階建の堂々たるもの、工費約十一萬圓、竣工の曉には湯本町の一

偉觀として、また郡内屈指の校舎として氏の功績を後昆に傳へるであらう。

上府中村東大友

村會議員 西山重藏

温厚着實、徳望あり、自治公共の事業に寄與貢獻少なからざる氏は、故藤五郎氏の二男として明治十九年十月二十八日を以て生を享け、後ち西山清治郎氏の養子となつた。生家は代々農を營み、藤五郎氏は區長等をつとめし手腕家である。氏は熱誠家業に勵みつゝ區長その他の要職に擧げられて奮勵盡瘁し、現に村會議員として一村の人氣を一身にあつめてゐる觀がある。

前羽村前川

村會議員 石塚太郎兵衛

温厚にして人望あり、德行多くして郷黨の尊信あつき氏は、明治八年十月十九日を以て本村廣澤初五郎氏の次男に生れ二十三歳のとき石塚家を襲ぎ、雜穀商を



創めて隆盛を致しつゝ今日に至つた最初は僅か百三十

五圓の資本であつたといふから、今日の大と比較して、その間の努力と並外れた手腕を讃嘆せずには居られない。現時村會議員、學務委員、産業組合評定員、常念寺檀徒總代等の公名譽職を兼任する。

酒匂村酒匂山王原

村會議員 松木平吉

電話小田原二三二番



自治及び社會事業の功勞者として知られる氏は、松

本辨次郎氏の四男にて人格と才能と識見

とを有し、全村民尊敬の的たる人材である。融和親善のことに關し、從來盡力せられたるところ尠なからざるを以て、曩に中央融和事業協會より感謝狀を贈られ、現時村會議員六期目の任にあるほか、司法保護員、縣社會課青年會理事、同地方改善常務委員、小田原少年團評議員等を兼任貢獻してゐる。

小田原町新玉

町會議員 學務委員 高木田作

電話小田原三〇六番



氏は足柄上郡南足柄村加野の人、明治二十四年十二

月一日を以て先代千代吉氏の男に生れた大正九年當町に居を定め、株式仲買業を開始し、爾來商略機才に富む經營方法により大を成し、昭和四年よりは精根強羅

に旅館を經營してゐる。町會議員三期目學務委員、神奈川西部有價證券仲買人組合長等を現職する。大正十二年の大震災の時、水道工事達成に對し功勞多く表彰された。家庭には長男徳五郎君（大倉高商在學中）のほか二長一女がある。

上府中村上大友

村會議員 古宮茂三郎

當家は代々農を以て業とする舊家にして、先代金太郎氏は鋏を執る傍ら區長等を勤めた人望家である。氏はその長男にして明治十五年九月二日に呱呱をあげ、至誠篤實を以て名あり、區長、前羽村役場稅務主任、消防組小頭等を歴任、現時村會議員として、活躍貢獻するほか氏子總代、檀徒總代を兼任し、部落の信望をあつめてゐる。長男萬壽夫君は小田原中學を経て鎌倉師範に學び、目下本村小學校に教鞭を執り、ひたすら教育に意を注ぎ、親子そろつての盡力に村民より感謝されてゐる。

前羽村前川
村會議員 伊藤 半四郎
漬物問屋 電話國府津四三番



漬物鹽辛輸出問屋を営み、剛毅果斷の人といはれる氏は、明治五年二月の岳降
推野家から當家の養子となり、二十四歳の時百五十圓を資本に漬物問屋を創めて遂に今日の大を成せる偉傑にして、今や斯業界の覇者と稱され、湘南漬物商組合長、村會議員村農會總代を現任、學校神社寺院等に多大の私財を寄附せる篤行家である。長男徳太郎君は實業に従事、次男鶴次君は東京帝大出身の逸材である。

酒 匂 村
村會議員 井上 斗卷

公共心に富み郷黨に盡すところ多き氏は、明治三十四年七月の出生にて、先考初太郎氏の男である。大正十年徴兵検査に合格して騎兵第四旅團に入營、成績優秀の聞え高く、性格圓滿にして人格識見を併せ備へ、除隊後は家業に精勵すると共に意を自治産業のことに用ひ、現に村會議員三期目及び漁業組合相談役の重任にあり、春秋に富み、村民一同から滿腔の敬意を拂はれてゐる。

小田原町 萬年
町會議員 植松 大作



氏は先代次郎左衛門氏の男として明治十六年十二月十日津久井郡佐野川村に於て生を享けた長じて現地に移り、大正四年海陸物産食

料品商を創始し、年々盛大に赴き大正十三年味の素本舗鈴木商店代理店、國分商店取引店となり、店の信用愈よ加はるを得た。現時町會議員、在郷軍人分會顧問を兼ねる。長男享君は明治四十三年十月の出生、小田原中學を出て、昭和四年華燭の典を擧げ、現在政子嬢、美喜子嬢の二子がある。

前羽村前川
村會議員 大曾根 佐一



當家は氏を以て十一代目とする舊家にして代々部落の信望をあつめて来た家柄である。氏は明治卅七年一月先代兵太郎氏の男に生れ温厚の性と博識多才とを以て郷黨に重きをなし、目下東京市王子區志茂町に合資會社王子合金工業所を經營し、高級ク

ム線及び板ストリップ、リボンニツケル線、ニツケル銅各種抵抗線その他特殊合金製造加工を行ひ、隆昌を呈しつゝあり。郷にあつては村會議員に選ばれて公共のために盡瘁してゐる。

小田原町
前町長 中田 壽一郎



氏は法政大學の前身、和佛法律學校の出身にて明治

十五年一月すでに辯護士試験に合格せる俊才である。東京市に於て久しく辯護士を開業後、當町に移り、有数の名辯護士として隆盛を極め、本町有識者中に於ても五指を屈する重要人物となつた。村制時代の村會議員をつとめること六期、また郡會議員、縣會議員等にも選出され昭和三年より同九年五月まで町長の要職

を帯び、この間郡町村會長を兼任、前町立小田原高等女學校の縣管への移管、前公設消防組の常設消防組への組織變更、上水道及び火葬場の設置、塵埃焼却場の新設等いづれも氏の滅私奉公の苦心努力により實行されたもので、その事績は自治史上燦然たる光輝を放つてゐる。

前羽村前川
元前羽村長 椎野國太郎



篤實にして徳行多く人望普き氏は先考兵右衛門氏の

男として安政五年十月二日に岳降、公設消防組初代組頭に推されしほか、村會議員、郡會議員、村助役二回、村長等を歴任、日露戰爭當時、偶々村長をつとめ功により勳七等青色桐葉章を賜り、昭和御大典には地方褒儀に招かる、等本村屈指

の元老である。因に當家は先代まで代々兵右衛門氏を襲名し九代に及び、祖父は村役場勤務をなせし人材、また兩親、祖母、曾祖母といづれも長命の家である。

小田原町 綠町
町會議員 川野 芳造



赤心仁厚の人、わが川野芳造氏は明治二十二年七月

三十一日足柄上郡山田村に於いて呱呱をあげた。抑も山田家は山田村に住居してより七百年に及ぶ最大の舊家であるが、今より約四十年前、居を現住地に移し、洋服仕立業を經營隆盛を加へつゝ今日に至つた。その間區長四期をつとめ、現に町會議員に選出献策少なからず、人格高き材幹と稱揚されてゐる。令息昌孝君は昭和三年四月二十日の出生である。

前羽村前川

村會議員 石塚 善吉

温厚の一面毅然たる性格の持ち主たる氏は、石塚長太郎氏の男にして明治十年六月十一日の岳降である。資性家に優れて英邁、義に強く情に厚く、郷黨の信望を一身にあつめて村會議員に選出されること前後三回、現にその要職にありて自治公共に盡瘁貢献し、事績一々枚擧の繁に堪へざるものがある。誠に議員中の白眉にて一異才であり、本村が有する誇りの一つである。なほ家族は四名、和氣瀟瀟として圓滿を極める。

小田 原町

前町會議員 中村 利市

氏は福井縣今立郡中川村上河靖の産、明治十四年三月十四日に生を享けた。尊父は同地に於て村會議員その他の公職をつとめし人望家である。氏は日露戦争に出征して功七級を賜はりし殊勳者、凱旋

後明治四十五年より大正七年まで警察官吏に任じ、その後區長二期、浴場組合長五年、町會議員三期を歴任し、現在在郷



軍人分會 顧問、小田原旅館 組合長の要職を兼任する。

家庭には長男利一君、次男利二君、三男利雄君、四男利松君、五男利武君のほか三人の令嬢がある。

前羽村前川

村會議員 椎野 博太郎

温厚を謳はれ、徳望普ねき氏は明治二十一年五月二十三日の誕生である。嚴父勝五郎氏は村長一期、村會議員三期を勤め、本村自治に貢献するところ絶大なる自治功勞者として知られる。氏はその血を享けて資性明敏、夙に家業に精勵すると共に農會總代等に選ばれて部落の繁榮

郷黨の福祉増進につとめ、現に村會議員に任ずるほか産業組合理事として、本村自治産業界に重きをなしてゐる。

前羽村前川

村會議員 椎野 益太郎

累代公共のために貢献多くして聲望あつき當椎野家は、部落屈指の舊家として普ねく知られてゐる。即ち先々代は郡會議員に當選、先代佐吉氏は村長及び村會議員を勤め、共に自治功勞者と謳はれた氏は先代の男、明治二十二年三月十五日を以て生れ郷費を卒へるや専ら家業に従事、現時村會議員に當選、郷村のため寝食を忘れて奔走しつゝあり、事績頗る多い。資性温厚、信仰の心あつく、家族は四名、餘慶の家である。

前羽村前川

廣澤商店 廣澤 伊太郎

代表社員 電話國府津三二番
廣澤家は當地有数の舊家にして始祖を

市右衛門氏といふ。先考初五郎氏までは代々農を業として来たが、氏は二十歳の頃から蜜柑問屋を経営し、廿五歳の頃には落花生、玉葱問屋を開業、爾來隆盛を加へつゝ今日に至り、豪商といはれ、紳商と呼ばれてゐる。殊に落花生の輸出に於ては他に並ぶものがない。氏は明治五



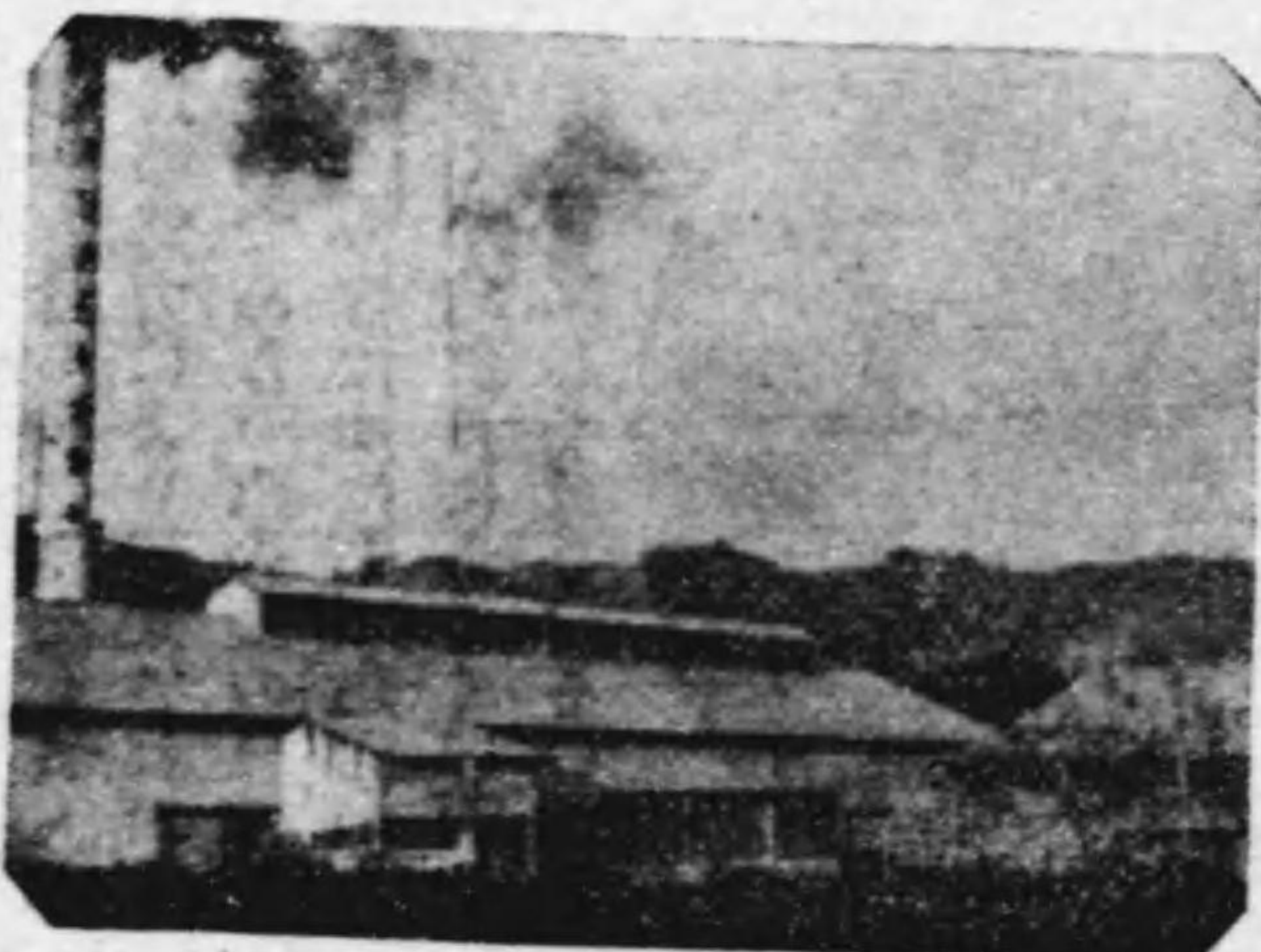
年三月二十日の出生にて、温厚篤實人望頗る厚く、村

會議員、學務委員、國勢調査員、土地賃賃價格調査員、その他幾多の要職を多年歴任貢献せる村元老の一人として崇拜され、現時縣農産物検査所査定委員、縣落花生輸出商組合長、長泉寺檀徒總代等幾多の公職を兼任し、業界並に公益に參與するところ多大、一般から感謝されてゐる。家庭は長男市郎君ほか三男三女がある。

國府津町高合 國府津食品合資會社

電話國府津一五一番

當社は昭和十一年九月の設立に係り、資本金二萬七千圓、蜜柑、櫻桃、蜜豆、苺等の輸向罐詰製造を業とし、年産二



萬圓、約十一萬圓に上り、主たる輸出先は英國である。従業員は二百人をかぞへ、横濱市中區中村町には支店を置き、輸出貿易の事務を執つてゐる。代表社員は井上仙藏

氏にして、その他主なる出資者は麻倉地三氏、伊藤半四郎氏、石塚八郎氏などである。

小田原町十字

扶桑教日月教院

當教院は昭和八年十一月十七日に設立認可を受け、爾來日尙淺しと雖も教勢日に日にあつきを加へ、今や約二百五十名の信者を有するに至つた。毎月二十日を例祭日とし、五月廿日の大祭日、九月二十日及び一月二十日の小祭日には、嚴かに神事を執行し、教威の輝き殊更に美しきを感じしめる。主宰者たる權少講義内藤兼吉氏は、扶桑教神事部長監參元石原惣之助氏に長年教導を受け、當教院設立以後は専ら傳道に力を盡してゐる。

足柄村多古

天理教足柄支教會

當教會は、明治二十六年三月二十二日に創建認可され、天理王命を祭神とし、

憫めるもの患あるもの、救済慰安に、同
 教の布教に、幾多の事績を遺しつゝ今日
 に至つた。現在信徒三百有餘を數へ、主
 要建物二十七坪餘、附屬建物五十二坪餘
 の堂々たる教會堂は、教理をそのまゝに
 威福に充ち、宗教のシムボルの如く巍然
 とし



長會教支川西

八坪の廣さがある。御筆先、おさしづの
 寶物を有し、御神樂の神事は常に盛大
 に取行はれる。創建者にして初代教會長
 たる山野直吉氏は人格識見共に備はれる
 有徳の士、その後服部新兵衛氏、小塚彦
 作氏を経て、現教會長西川滿一氏に至つ
 た。西川氏は山梨縣西八代郡高田村印澤
 の人、明治十五年十月一日の出生にて、
 權大講義の資格を有し、専ら布教につと
 め功勞がある。

小田原町新玉

天理教小田原分教會

當教會は明治二十七年四月故武尾近三
 郎氏の努力により創立された。祭神は天
 理王命である。水火風の三体を基礎とし
 御神徳あらたかにして患苦の人を救ふこ
 と多く、尊信日にあつく、現在約八百名
 の信徒を算して居り、その中には各神社
 及び



長會教分尾武

つてゐる。御神樂、御筆先、おさしづ等
 あり、よき教師を得て信者は熱心且つ眞
 剣で、多数分教會中でもその點他にほこ
 るに足るものがある。初代會長は武尾近
 三郎氏にして二代目は武尾卯三郎氏、三
 代目現分教會長武尾イト女史は明治二十
 二年七月三十日當小田原城下に生を享け

夙に天理教の信仰に入り、天理教校を卒
 業、現在中講義の資格を有し、布教に専
 ら力を致しつゝあり、信徒の尊敬を一身
 にあつめてゐる。

下府中村鴨宮

天理教鴨宮宣教所

明治三十年七月七日を以て創建せられ
 たる當宣教所は、爾來星霜を重ねること
 四十有餘年、動もすれば無理解に流れん
 とする地方民衆の中にあつて、深遠なる
 教義を平易に、闡明普及すると共に、ひ
 のきしんその他の方法により社會奉仕及
 び病苦者救済等を行ひ、幾多の苦難障害
 を排除して漸次今日の大を成すに至つた
 祭神は天理主命。敷地百十坪の場所に二
 十八坪の建造物を有し、お筆先、おさし
 づの貴重品を所藏する。信徒中には、神
 奈川縣神道聯合會員等の有識者多數をか
 ぞへ、御神樂勤めの有難き賑ひは、如實
 に當宣教所の隆盛を語つてゐる。初代所
 長杉山久五郎氏は信仰の念強き創建功勞

者、次で二代目高橋菊藏氏を経て現所長
 高橋新藏氏は少講義の資格を有する人格
 者、明治三十年四月十四日の出生。

小田原町十字

御嶽教八正教會

當教會は昭和七年御嶽教道場として開
 かれたものであるが、その後年々信者の
 増加著るしく、昭和十一年十一月十日認
 可を得て御嶽教八正教會となつたのであ
 る。現在信徒約五百名の多きをかぞへ隆
 盛日に加はり、六月二十八日の大祭
 日、九月一日の祖靈祭、毎月十五日の月
 並祭等に盛大賑賑の限りをつくしてゐ
 る。教會長押田仙吉氏は信徒の信任厚き
 人格者にて中教正の資格を有し、御嶽教
 の普及に盡すところが多い。

小田原町十字

天理教御幸濱宣教所

當宣教所は大正十二年五月二十九日の
 設立認可に係り、爾來天理王命の教へに

遵ひ、布教宣傳に努めるところ多く、信
 者は年々數を増して現在三百五十名の多
 數を算するに至つた。抑も當教は天地神
 明の眞理を基本とする難有き御教にて、
 天理王命とは國常主命ほか九柱の神様の
 總稱である。日月陰陽の力を具備するそ
 れら神々の御守護を得て、當教を信する
 ものは安穩樂快の生を送ることが出来る
 されば信者日に増し多く、宣教所ますま
 す隆盛を加へるは當然のことながら、そ
 れにはなほ主宰者後藤正幸氏の熱烈なる
 信仰が與つて力あることは勿論である。
 氏は福島縣岩瀨郡仁井田村の人、明治十
 九年九月二十日の出生にて、現時中講義
 の資格あり、神奈川縣教務支廳地方委員
 教友會足柄上下郡支會長の重任を兼ねて
 ゐる。

大窪村板橋下河原

扶桑教仙元教會

當教會は昭和十年八月八日の設立認可
 に係り、創建者は信仰の人高木きよ女史

である。信徒約二百名の多きをかぞへ、
 六月三十日の大祓、四月三日及び十一月
 三日の大祭日、六月三日の教祖慰靈祭、
 毎月十七日の月並祭は、いつも殷盛隆昌
 を極め、扶桑の教へいよく輝かしきを
 加へてゐる。因に主宰者高木きよ女史は
 權少教正の資格者、信徒の聲望あつく、
 助教師吉澤義友氏は少教正にてこれまた
 人格高潔の士といはれる。信徒總代は野
 崎功護、杉山傳吉、廣石忠兵衛の三氏。

小田原町新玉町

天主教會

當教會は昭和四年の設立であるが、當
 地にカトリックの布教されたのは約六十
 年前からのことである。信者約百三十名
 をかぞへ、毎年十名位づゝは増加してゐ
 る。附設事業として新玉幼稚園を經營し
 三名の職員が六十名の園児を養育してゐ
 る。司祭R・モトレ氏は佛國アルデン縣
 ルエシエラ町に明治二年に出生、同二十
 七年渡日し、秋田市を中心に東北、北陸

各地を布教し、ひたすら神の道に精進して今日に至つた。

湯本町湯本

別格地早雲寺

當山は京都紫野大本山大徳寺直末、開基を北條早雲公、開山を特賜正宗大隆禪師となし、臨濟宗大徳寺派に屬し、釋迦如來、文殊菩薩を本尊となしてゐる。當山は早雲公の遺命によつて氏綱公、當山を建立、金湯山早雲寺と稱し、天文十一年後奈良天皇勅許によつて勅願所の繪旨を下賜並に早雲寺の勅額を賜はり、北條氏五代の墓、宗祇法師の墓があり、境内一萬坪餘、國寶その他寶物數多ある。檀家百軒餘、現住職千代田宗禎師は明治九年三月千葉縣佐倉町に生れて東京下谷廣徳寺、京都紫野大本山大徳寺その他の道場に於て修業、明治三十八年四月當山の副住職となり、次で同四十一年八月住職拜命、住山既に三十年に及んでゐる。因に當山は借財多く、これが整理に十五ヶ

年を要するといふ。師は大正十二年土地山林等を拂下げ、内外の充實を計りつゝあるが、つとに當山中興開山として崇敬されてゐる。

足柄村

天桂山玉寶寺

當寺は曹洞宗に屬し、中郡奏野田原の香雲寺末である。本尊は十一面觀世音。開山實堂和尚は本寺四世にして永祿七年



に入寂した。開基は辨和伊豫守某(北條氏の家士)及びその母玉寶貞金大姉であ

る。大正天皇の皇太子に在せし頃、御參詣の光榮に浴せる名利にて、本尊像のほか辨財天立像、釋迦牟尼世尊木像、五百羅漢木像、寶珠堂額、伊豫守母の護本尊等がある。現住職安藤鐵英師は明治二十五年三月の岳降、檀徒の信任頗る厚い。

早川村木地振

松嶽山久翁寺



當寺は中郡大科村眞芳寺

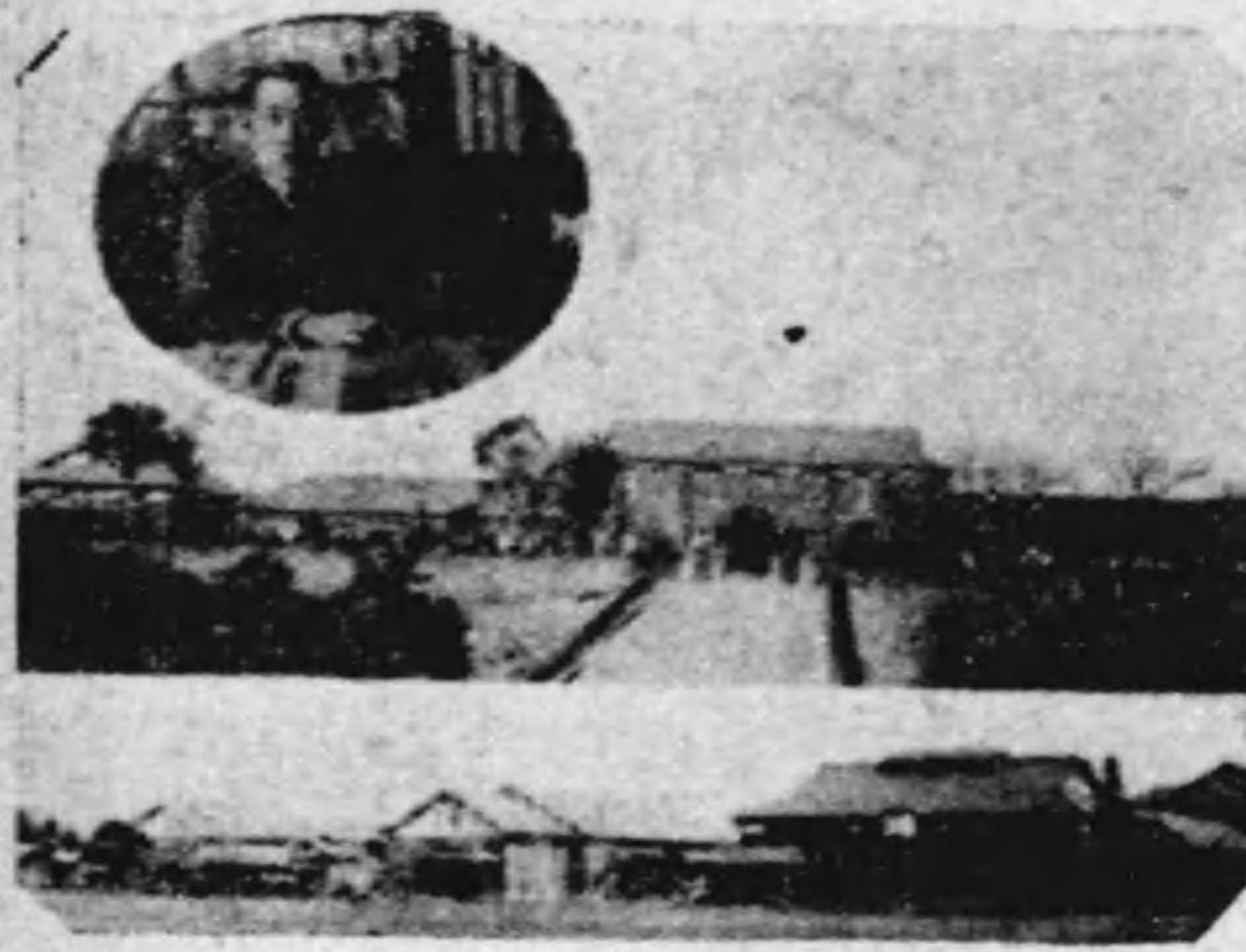
末にして、往昔は眞明院と號し眞言宗に屬し、北條氏綱が千句の連歌、月次の歌合せなどを催せし名利であつたが、後ち荒廢に版し、天文十五年六月北條氏の臣關善左衛門これを再興、在此孝存大和尚を以て開山とし、曹洞宗に轉じた。現住職は博識強記の鈴木鐵忍師。

愛 甲 郡

南毛利村戸室

神奈川縣立厚木中學校

本校は、明治三十三年高座郡海老名村に設置されし神奈川縣第三中學校に濫觴し、翌三十四年現位置に移轉、校舍建築



に着手、同三十五年を合年と定め、生徒定員を三百五十名、學級

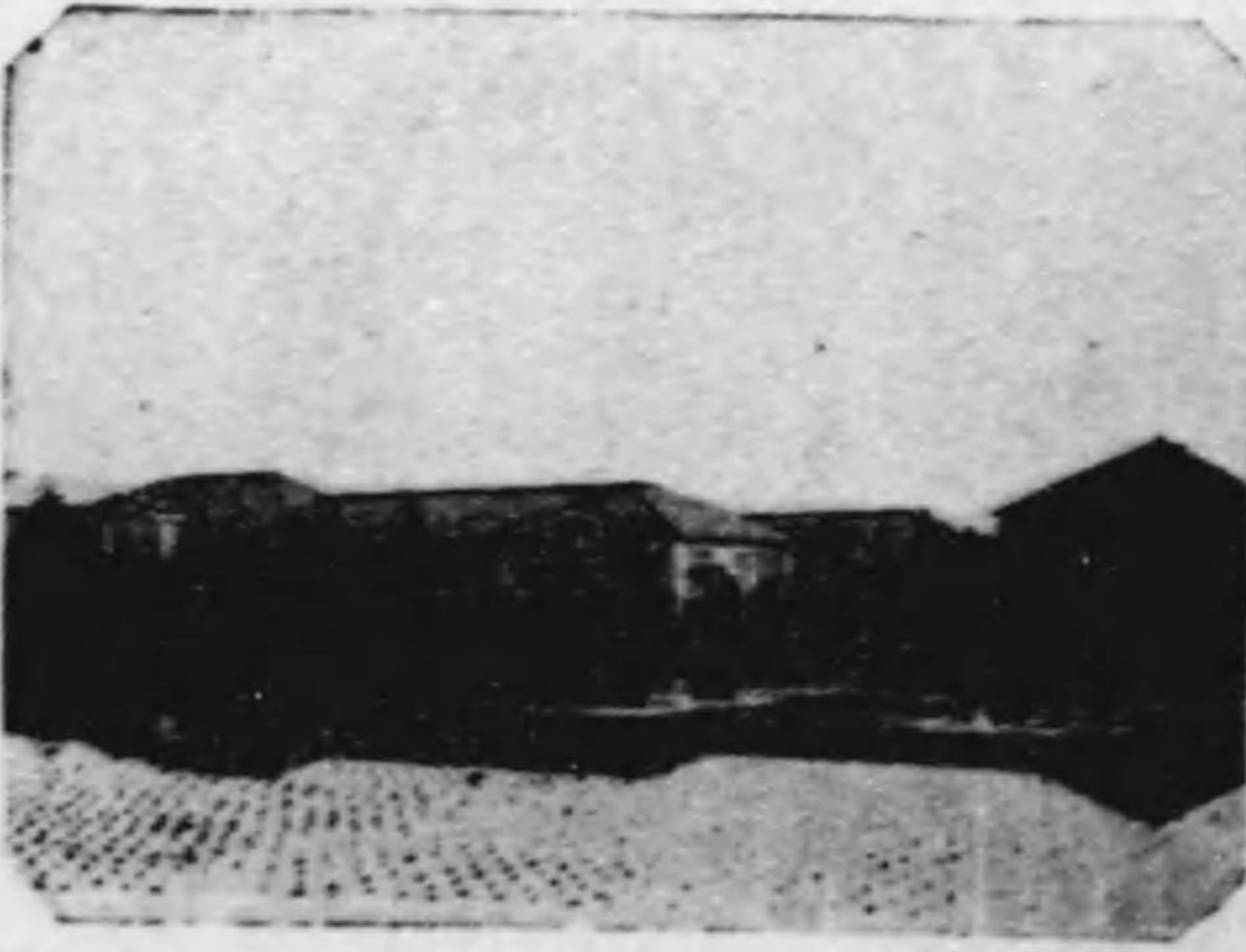
數八にて開校し、同四十年はじめて卒業生を出した。大正二年現校名に改稱、同十二年學級數を十、生徒定員を四百五十名に改め、次で校舍の改築と敷地三千坪の擴張を行ひ、昭和に入つてから更に五百坪に増し、學級も十五に殖え、昭和六年十一月盛大な創立三十年記念式が舉行された。質實剛健の氣風を有し、生徒の學業成績は頗る良好であり、且つ体育方面に見るべきものが多い。職員數三十二名、現校長永野毅氏は神奈川縣の産、昭和七年五月の就任にて、父兄の信望をあつめてゐる。

厚木町

神奈川縣立厚木高等女學校

本校は明治三十九年四月、及川村に嗚聲をあげた愛甲郡立女子實業補習學校に

濫觴し、爾來時勢の推移と女子教育の進展向上につれ、敷地を現在地に移し、規模の擴張を圖り、内容組織を變改して



校名を改稱すること、四度、大正十二年の大震災に校舍焼失せるも、工費一萬八千

圓を投じて同十五年には全部新築落成し昭和二年現校名に變つた。修業年限四ヶ年、生徒四百名、職員二十名にして、校長大瀧圭一氏は昭和十二年四月の就任、本縣出身の偉材であるが、父兄間の信頼はいふまでもなく、一般の人望頗る大なるものがある。

高峰村三増

高峰信用販賣組合

電話田代四八番

本組合は大正四年四月現神奈川縣牛絨販賣購買組合の前身たる漸進社聯合會所屬組として設立され、乾藪及び牛絨揚返設備をなした。その後名稱變更二回、昭和六年有限責任高峯信用販賣購買利用組合となり、同九年保証責任に變更した組合員三百四十名、出資總額一萬圓にして、最近の事業状況を見るのに貸付七千三百余圓、貯金十萬四千余圓、購買七千余圓、販賣九千七百余圓、利用料四千余圓を示し、利用事業に最も重きを置き、製穀、製粉事業を經營し、これが設備の完全と利用の合理的にして農村に及ぼす利益の大なるを、實に縣下有数にして農林省よりも認められた優良組合である。青年團員中に委員を置いて聯絡を圖り、組合精神の普及工作また宜しきを得てゐる。現組合長菊地原熊三氏は就任以來常

に積極的政策によつて組合の發展を圖りつゝあり、常務理事成井淑男氏また敏腕家を以て聞える。

中津村中津

中津信用販賣組合

買利用

當組合は現在保証責任組織で中津、高峰、依知、下川入、湘南の五ヶ村を組合組織となし加入者五百七十餘人、その口數七百七十餘口、出資總額三萬八千六百餘圓を數へ、貸付總額九萬九千餘圓、貯金七萬一千餘圓を有し、販賣、購買、利用の各事業に於て逐年増収率を見せてゐる。現組合長理事茅眞三氏が鋭意統轄してゐる。

高峯村角田

神奈生系販賣聯合會

買組合

當聯合會は、十四の産業組合を所屬せしめ出資五百口（一口三百圓）保證總額十五萬圓の保証責任組織にて、出資拂込額は六萬七百餘圓である。各種積立金八

愛川村半原

愛川商工信用組合

本組合は保証責任組織にて、組合員百三十餘名を有し、出資六百二十口（一口五十圓）拂込額一萬九千三百餘圓である。準備金及び積立金は千六百三十圓、借入金四萬七千三百餘圓、餘裕金一萬二千余

圓をかぞへ、最近一般金融界の低金利に伴ひ、本組合に於ても貯金貸付共に利下げを行ひ、昭和十一年度の成績を見るに貯金においては受入三十八萬六千四百余圓、支拂三十三萬八千三百余圓にして、年度末現在五萬圓弱、貸出金に於ては總額八十七萬七千七百餘圓、償還を受けたるもの七十六萬九千四百餘圓にして、年度末現在十萬八千四百餘圓をかぞへた。事業方針は堅實を旨とし、商工業組合としての機能を充分に發揮してゐる。組合長内藤國藏氏、副組合長甲賀金藏氏、理事河内國安氏外五名、監事小島嘉七氏外四名である。

愛川村半原

愛川輸出織物組合

織物組合

本組合は輸出織物及び人造絹織物工業の改良發達を圖るため共同の施設をなすを以て目的とし、昭和五年一月に設立せられ、同九年定款を制定、地區は愛甲郡中郡、平塚市、鎌倉郡及び高座郡であ

る。製品共同販賣の統制、原料系共同購入の強化、經糸の糊付及び整理は、すべて組合の共同加工場でなし、その他生産の調節、機械品及び燃糸用染料等營業に必要な物の供給、強制貯金の勵行をなし、更に神奈川縣織物指導所と密接なる連絡をとり、學識經驗ある士を招聘して講習または實地指導をなし、事情の許す限り共同精練染色事業、共同倉庫運搬事業をなす方針である。かくて斯業は愈よ順調の徑路をたどり、輸出貿易界に覇を稱へるに至つたのである。

愛川村半原

半原燃糸業販賣組合

買利用

本組合は組合員三百七十人を擁し、出資口數二千口（一口五十圓）保證金總額十萬圓の保証責任組織である。準備約五千圓、借入金三萬七千餘圓、餘裕金一萬餘圓をかぞへ、最近當地方燃糸業界、殊に内地向織物用生燃糸は殆ど需要を減退したが、本組合では利用料金を引下げ

（約五分）力めて冗費を省き、なるべく減價償却を行ひ組合基礎の確立を圖りつゝある。洋式五工場では、優秀の技術と能率の増進により高級燃糸を生産し、貸工場は八あり、四工場に洋式燃糸機を設備し、他の三工場は織物工場として利用し、一は燃糸機械のみを設備する。いづれも優良製品の産出と工場能率の向上に努力し、本組合事業をして益々優秀たらしめてゐる。現組合長小島平作氏は平兵衛氏の男、明治七年八月の岳降にて、村會議員を兼任する。

依知村下依知

村會議員 萩原貞吉

當家は享保年間以前よりの舊家にして代々治右衛門氏を襲名して農を業とした。温厚の聞え高き氏は、故石原與三郎氏の男として明治十六年三月十日に生れ、長じて先代彦太郎氏の養子となるもの、實家は代々名主をつとめ來れる家柄にて實父は戸長、助役、村長など多年自治の

ために貢献した。氏は日露戦争出征の武勳者にて、凱旋後は青年團役員、消防組部長、土木委員、常設委員等を努め、村會議員二期目、方面委員、神社寺院總代等を現任する。長男正義君は家業に精勵し、二男定次君は工兵第一聯隊入營中、三男廣吉君は海軍志願兵として軍務に服してゐる。

中津村
村長 原鹿之助



自治の功勞者に
して縣下
町村長中
の重鎮た
る氏は、

愛川村の産、現愛川村長染谷家の出にして明治六年の出生、長じて當原家の養子となり今日に至つたもので、養父は村會議員その他の公名譽職に就任せる聲望家である。氏は夙に農耕の業を營む傍ら自

治公共の事に竭し、村會議員を振出しに産業組合役員、助役二期、區長、郡農會議員等を経て村長に就任、現に縣町村長會副會長として信望あつく、曩に町村長會より表彰を受けた手腕家である。識見高く抱負深遠、本村が縣下優良村の一に數へられるに至りし蔭には、氏の並々ならぬ努力と奮闘の力がひそんでゐるのである。

高峯村
村會議員 菊地原熊三
産業組合長



玲瓏玉の如き人
格と明晰
玻璃の如
き頭腦と
を有し、

自治に産業に赫々たる実績を積み來れる氏は、菊地原市作氏の男にして明治二十八年五月二十七日の出生である。精勵よく事にあたり、周到よく事を處理し、手

腕家の聞え高き材幹にして、神奈川縣製糸聯合會理事としての力量はすでに人の知るところであり村農會長、三和織物工業組合長、村會議員、高峰信販購利組合長等の要職を兼任し、威福並び行はれ令名噴々たるものがある。尊父は村會議員四期、村農會長、産業組合副會長等を歴任せる自治産業功勞者である。因に高峰信販購利組合は保証責任組織にて、初め大正四年信用生産販賣組合として設立されしもの、農業倉庫、第一、第二各作業場の設けあり、副組合長は橋本花吉氏にして理事六名、監事五名を擁する。

愛川村 牛原
村長 井上博

電話牛原三番

在郷軍人の華、自治界の異彩、そして醸造業界の覇者たる氏は、厚木中學校の出身にして、村在郷軍人分會長十年、郡聯合分會副會長二十八年を務め、現時郡聯合分會長三期目の任にあり、統御の才

に長ずる人材にて、郷軍のため功績多く先きの滿洲事變の際は陸軍大佐より有功章を下賜される榮譽を擔つた。現在村長に選任し、且つ土地賃貸調査員、村農會長、郡農會評議員、郡畜産組合代議員、所得税調査員、消防組頭、村會議員等の重責を兼ね、郷黨のため私利を忘れ、一身を捨て、奉公の誠を竭してゐる。政友會神奈川縣支部總務委員である。生れは明治二十三年十月二日。令閨コウさんとの間に長男眞行君あり、早大文科に通つてゐる。因に嚴父高吉氏は郡會議員、村會議員に選ばれし材幹にて、酒造業の創始者である。

荻野村 上荻野
村會議員 天利作司

當家は約十四代を閱する舊家にして、先々代作兵衛氏は名主職を奉じ、農を家業とせるも、先代武吉氏は牛馬商を兼營した。氏は先代の長男、明治十八年十二月二十四日の岳降にて、夙に自轉車販賣

竝に修繕業を營み、漸次資産を増大して今日に至り、數年前よりは木材商を經營



現時擧げられて村會議員、經濟更生委員、淺間森後谷

組合部落長、勤勞奉仕班長の要職にあり由來圓轉滑脱の人格者にて、他に接するに明瞭、且つ快氣に富み、今後の村政に缺くべからざる人材として囑望されてゐる。令息操君は初め農業學校に入り、後ち横濱商工學校に轉じたが、感ずるところあつて高座郡當麻村光明學院に入りて宗教に志し、更に轉じて基督教の信者となり、生駒聖書學院を出て現時立川教會牧師として只管傳導に精進してゐる。

下川入村

三田村外五ヶ村 小宮一晴
組合會議員

當家は正徳年間、三左衛門氏を始祖と

なして相累ぬること十代目の舊家、祖先は組頭等を命ぜられて土地のために盡し



た名望家である。氏は明治十四年二月十三日 亡丹次郎

氏の長男に生れて家業に就いた人、現在は三田村外五ヶ村組合會議員、中津村外三ヶ村耕地整理組合會計主任兼評議員、下川入養蠶實行組合理事、村社諏訪神社氏子總代、源養寺世話人等を兼任して活動貢献してゐるが、曾ては村會議員、學校組合會議員、常設委員、下原養蠶組合長第一回國勢調査員などに歴任、それら寄與貢獻するところがあつた。趣味は將棋。なほ長男君は不幸にして早世し、次男一徳君は相原農蠶學校の出身、現に青年團役員に擧げられて活躍し、しかもその將來に對しては大なる囑望をかけられてゐる。

小島村飯山

村長 眞板敏美



全村民の信望を双肩に擔つて村長の重責に就任せる

氏は、資性英邁にして剛毅の精神を有し自治手腕に暢達せる人材にて、地方稀に見る氣概に富む紳士である。抑も眞板家は八百年以上を経過する舊家にして、鎌倉時代から武を以て聞えた家柄である。代々名主をつとめ、先代は収入役及び助役に推されて村政に參與貢獻するほか、縣政界一方の重鎮を以て遇された人である。氏はその男、明治二十四年三月十二日を以て生を享け、近衛師團に入つて軍曹に昇進、また大正三年明治大學を優秀な成績にて卒業せる秀才である。大正六年八月藤本ビルブローカー銀行に入り、

岡山、大阪各支店長に任じて退職、その後東京府南多摩郡町助役十一ヶ年をつとめて當村長となり今日に至つた。

煤ヶ谷村

煤ヶ谷村外一ヶ村 山口哲三

敏腕家と謳はれ、人格者と讃へられる氏は、部落舊家の出にして明治十五年五月十三日の出生である。夙に家業の傍ら自治公共の事業に關與して功多く、収入役としては村財政の運轉に卓抜の手腕を發揮し、郡會議員に選ばれては地方自治の健全なる發展に盡瘁し、その他村會議員、組合會議員を歴任して郷土の繁榮と發展を圖つて淬勵他に比なく、また區長組合村助役にも推され、幾多の事務幾多の貢獻を残し、自治史上燦然として、永遠に消ゆることなき足跡を遺して來た。資性衆にすぐれて英邁、加ふるに意志鞏固と頭腦の明晰とを以てし、衆望一方ならず、煤ヶ谷村外一ヶ村組合住民の人氣を一身にあつめ組合長の要職をつとめて

玉川村岡津古久

村會議員 高野藏重



眞筆實直の人たる氏は、故高野七藏氏の末子にて、

明治十七年四月十日の岳降二十九歳の時分家して一家を創立した。明治三十七年横須賀海兵團に入り、日露戦役末期頃出征參戰し、除隊後は萩野農學校組合會議員、氏子總代をつとめ、村會議員三期目を現任するほか、二十九歳より今日まで養蠶組合長に任じ、また養豚組合長たること二十數年に及び、その間消防組小頭もつとめ、村自治産業の偉大なる功勞者と稱される。長男武君は玉川村産業組合に勤務してゐるが、その精勵ぶりは將來を期待するに充分である。

南毛利村戸室 村長 霜島愛治

一家の繁榮は家長の如何に係り、一村の發展は村長の手腕に係るところ大である。俚言にいかにか精巧な紙風をつくるとも人を得ざれば揚ぐるること不可なり、といふ。誠に天の利、地の利を有すとも、これを利用する者を得ざれば何等の効果をもちたふさない。わが南毛利村は村長にその人を得、自治の運用に、教育の振興に、産業の開發に、文化の向上にその他あらゆる點に於て他を壓して、素晴らしい發展の一路を辿つてゐる。即ち村長霜島愛治氏は二十數代を相嗣ぐ舊家たる霜島家の出にして、先代甚四郎氏の男、明治十三年六月五日を以て生を享け、剛毅果斷の性格と、一念不動の信念との持ち主、人格高く、手腕に長じ、一村の首長として總ての條件を具備せる材幹であり、今後に一層の發展暢達を約束づけるに充分である。

依知村上依知 村會議員 澁谷昇



初代久治郎氏が寛文三年當地に住居を定めてより十

四代、代々久治郎氏を襲名せる部落有数の舊家たる澁谷家は累代地頭長谷川太郎兵衛の名主をつとめたる家柄にして、十一代久治郎氏は組頭に推され、明治九年戸長役場設置と共に初代戸長に任せし人また先代金作氏は村會議員、助役を経て明治三十年三月より翌年五月まで村長の椅子に在りしも三十七歳を以て惜しくも永眠した。濃厚篤實を以て聞える當主はその男にして明治十二年の出生、夙に蠶業取締役に勤務し、消防組小頭などを歴任、現時村會議員三期目たるほか好傳寺總代、相模川耕地整理組合會議員、中津

中津村

村會議員 山田多三郎



當家は始祖以來凡そ十七八代を経る舊家に於て、氏

は先代傳造氏の男として明治廿二年六月に呱呱をあげた。幼時より頭腦明晰の譽れ高く、長じては夙に公共事業に竭し、大正十四年収入役に就任、次で昭和四年助役に推され、また養蠶實行組合長に任じて活躍し功績多大なるものがある。現在は村會議員に選ばれて村政に參與するほか消防組頭、在郷軍人分會長の重職に就いてゐる。

高峯村小澤

村會議員 八木治助

圓滿篤實なる人格者として令名四隣に普ねき氏は至信の道に深達し、且つ自治産業に貢献多き手腕家として知られる。抑も當家は元祿初年の創立に係り、初代を彦右衛門氏と稱し、相當の舊家である祖父源藏氏並に尊父與吉氏は専ら家業農に従事して資材を積み、稀に見る篤農家と稱された。氏は明治十二年六月二十日を以て生をこの世に享け、夙に家業に淬勵して夙夜を分たず、家運を一層隆昌に赴かしめ、傍ら公共の事業に竭し、殊に産業組合設立に當つて奔走盡力一方ならず、創立以來理事に推されて献策するほか、消防組役員、村農會總代、寺院檀家總代、神社氏子總代として部落に重きをなし、昭和十二年村會議員に當選今日に至つた。長男榮吉君(明治卅九年出生)は家業を繼ぎ、次男三千三君は隣村田名にて履物商を営み隆盛を見てゐる。

愛川村田代

村會議員 甲賀金藏

電話五〇・一四二番



燃糸業及び輸出織物業界の重鎮たる氏は、徳望の人

にして力量の人である。明治十九年六月先代貞次郎氏の男に生れ、幼少の頃より刻苦よく勉學に志し、長ずると共に家業燃糸織物業に従事し、拮据精勵業界の模範たるべき人物と稱され、また研究心強く、常に斯業の改良改善に力を盡して來た。信用組合副組合長、中津川漁業組合長、愛川織物同業組合長等、産業團體に關係貢献するほか、助役に推されて自治に盡し、また村會議員に選出されること三回、現にその任にあり、本村自治界の異色ある存在として縦横の手腕を揮つて

る。因に當家の祖は愛川神社神主をつとめし人、先代は村長に選任せられたる人望家である。

小點村飯山

村會議員 青梅泰助



當家は三百年以上を閱する舊家なるも、一時家運衰

微に陥りしことあり、先々代傳五郎氏刻苦精勵して再興現在に及んでゐる。先代禮三郎氏在世中は村會議員を二十七ヶ年の長きに亘つて重任せる名望家であつた氏は先代の長男、明治二十一年七月十四日を以て生れ、消防組頭、青年團長を歴任、昭和八年四月村會議員に當選、同十二年再選され、小野子養蠶實行組合長を兼ねて今日に至り、部落民の信望をあつてゐる。家庭には四男二女の子福者で

ある。

南毛利村愛甲

村會議員 早川茂一

神奈川縣農工銀行頭取

日獨伊三國防共協定は成立し、ローマベルリン樞軸は東京にまで延長された。今や世界は激烈な思想戦を展開せんとしてゐる。かゝる時志操堅固にして信念に燃ゆる人材を求めざるは巷に満ち、わが早川茂一氏の如き正にその典型的思想戦の勇士であらう。村一番の名門にて、村一番の資産家と自他共に許し、元廣島縣知事及び警視總監を歴任せる早川三郎氏を實弟に持ち、村長、縣會議員等をつとめたる地方政界の重鎮早川耕造氏を父として明治十六年に生をこの世に享け、資性英邁にして剛毅の風あり、神奈川縣農工銀行頭取として金融界に重きをなすほか、村會議員に選ばれて村民のために盡す。殊に思想善導教育の振作等に功多き氏を有することは、云ふまでもなく本

村の誇りである

煤ヶ谷村宮ヶ瀬

村會議員 川瀬有造



精農家として聞え高き氏は、家業農に従事して繁忙

なるに拘らず、夙に自治公共並に産業等村内各種事業に參與貢献して人望あり、本村至寶の一と數へられる。明治二十八年九月六日を以て先代馬次郎氏の男に生れ、幼より衆に勝れて明瞭なる頭腦を有し、加ふるに資性濃厚實に他の範とするに足るべき人材であつた。一家創立以來四代目に當り、代々農を營み、大正五年家督相續、現時三期目の村會議員たるほか、煤ヶ谷村外一ヶ村組合議員を兼ね、部落、繁榮、同村の發展に多大の貢献をなしてゐる。家庭には三男三女あり、長

男文九君は家業に精勵し、一家圓滿和樂他の見る目も羨ましいばかりである。

玉川村岡津古久

村會議員 半谷元平



温良恭儉、人に接するに懇篤なる氏は、明治二十一

年二月五日の出生にて、同四十一年第一師團砲兵第十五聯隊に入營、伍長勤務上等兵となりて除隊、大正十年伍長に昇進した。在郷軍人分會副會長、同會長を歴任し、軍人會のため貢献せるところ多大また消防組小頭及び部長にも任じ、現在は村會議員に選ばれて村治に竭しつゝある。家庭には長男長太郎君ほか三男三女がある。因に當家は始祖政春氏以來八代目にて亡父源次氏は村會議員、區長各一期をつとめたる自治功勞者である。

南毛利村長谷

村會議員 山口九郎

當家は本村随一の資産家、連綿十二代を累ねた舊家、先代泰氏は中郡の名望家小鹽家より入籍した人、家業のために精進すると共に村治方面に關與、村會議員として將た當村長として、郡會議員として活躍寄與、敏腕を振つて村政等の刷新に盡瘁するところあつたが、四十五歳にして他界されたことは寔に惜しみてもなほ餘りありといふべきである。當主九郎氏は明治三十四年五月二十一日、その長男として名門の後を承け、清康潔白、氣才に富み、早くより村民の輿望を一身にあつめ、村會議員に推さるゝこと二期、學務委員を兼ねて現任中であり、村内の中堅要人として將來を期待されてゐる。佛教より轉じて神道の信仰家となり、村社堰神社氏子總代をつとめてゐる。母堂氏は六十五歳で壯健、スマ子夫人との間に一男一女がある。

依知村金田

村會議員 島崎好造



陰徳多
くして近
郷に令名
普ねき氏
は先考徳
藏氏の男

にして明治十四年十月の誕生である。抑も當家は、年代詳細ならざるも相當由緒ある舊家たることは、建徳寺の寺傳その他の古記録や口碑によつて瞭かであるが一時中絶せしことあり、祖父藤造氏の努力によつて再興せられしものにて、嚴父徳藏氏その後を承けて家運の隆昌を來した。氏は温厚篤實の人望家であり、また自治産業の功勞者である。村農會總代十二年、土木委員補助八等をつとめ、昭和初年より養蠶組合幹事の任にあるほか、村會議員二期目、農事實行組合幹事、建徳寺世話人等を現任し、諸方面にわたつ

て赫々たる事績を遺してゐる。子女は六男二女、長男巖君は家業に精勵し眞學敬虔の人格者である。

中津村

村會議員 熊坂秀治



國家興
隆の基は
國民精神
の剛健に
あるとい
はれる。

誠に剛健の氣性こそわれらの希求するものである。氏はその欲求を滿たす人材、明治三十二年、村長として村治に功績甚大なりし辨藏氏の男に生れ、農業大學並に千葉高等園藝學校を卒業せる知識人にて、家業たる醬油醸造業に従事する傍ら村會議員に選ばれて活躍し、剛健なる精神と毅然たる性格とを以て公共事業にあり、春秋に富む敏腕家として全村の信望をあつめてゐる。

高峯村角田

村會議員 諏訪部剛



不斷の
活動家に
して信望
全村を壓
するは、
わが諏訪

部剛氏である。本村諏訪部姓の總本家にして、その祖藤左衛門氏は寛延年間土地の三社々殿を修築献納したる篤志家である。氏は先代英作氏の男にして明治卅五年一月二十四日の出生、普通選挙法施行と同時に、村會議員に選出されて大に敏腕を揮ひ、爾來今日まで重選し、村議中の最年少者として異彩を放つてゐる。青年團副團長、在郷軍人分會副會長、郡畜産組合代議員をなしたることあり、昭和五年より豚商を營み、愛甲、津久井、高座三郡に亘つて生豚千數百頭を扱ひ、業界屈指の繁榮振りをを見せてゐる。夫人み

つさんは中村文藏氏の女、一族近親共に産業自治の功勞者が多いが、元縣會議員角田福藏氏を最たるものとする。因に長男明君は相原農蠶學校在學中、特に秀才で知られてゐる。

厚木町

愛甲郡農會

現郡農會長は石川要氏で、氏はその他四回目的縣會議員、郡畜産組合長、郡農蠶組合長、相模瓦斯株式會社取締役、中津川砂利採取株式會社取締役、財團法人湘山會理事等を兼任、旺んに活躍貢獻してゐるが、曾ては郡書記、小鮎村長、縣會議員に歴任した縣政村治の功勞者である。氏は明治二十四年七月七日日本郡小鮎村飯山に生れた人、生家は豪農、祖先は酒造業を營み、父君故福太郎氏は村會議員に選ばるゝと十數回、また郡會議員としても盡瘁業績を擧げ、その功を稱へられてゐる。當主はその二男、早稻田大學文科出身のインテリであるが、令兄氏早

世のため、家を嗣いで今日に至つたものである。

愛川村半原

半原郵便局

本局は、明治三十五年十一月無集配三等局として設立せられ、半原一圓を管轄區域とし事務成績頗るよく縣下三等局中の模範と稱される。歴代局長はよく精勵格勵し、選信事業の重且大なる使命を自覺して夙夜淬勵自ら範を局員に垂れ、一般公衆の氣受けもよかつた。されば各種保險のごとき他に類例を見ざる良績を堅持してゐる。現局長徳岡恭次氏は明治三十一年二月十七日徳岡寅之助氏の男として生をこの世に享け、大正六年以來局長の重職を帯びて局務に盡瘁し、手腕あり頭腦やえ人格高く、得難き人材と稱揚される。因に徳岡家は村一番の舊家として知られ、しかも先代は村會議員及び村長の要職に擧げられて盡瘁した自治功勞者である。

小鮎村飯山
村會議員 村井貞藏

英器俊才、新進人物中の白眉たる氏は先代勘四郎氏の長男にして、明治三十六年一月二日の出生である。村會議員二期目、小鮎村更生産業組合理事、白山農事實行組合理事、小野子養蠶實行組合理事、神奈川縣青和會評議員、部落更生委員をつとめ、曾ては村青年團幹事として、改善部長たりし人、部落の更生を圖るため部落民を叫合し、自ら組合長となつて報徳不動貯金講を組織し、一日一錢の日掛をなし、その方法も朝夕神社を禮拜し、神に捧げる心持にて一錢づつを蓄積金をめ、絶対に拂戻を許さず、その蓄積金を以て尼寺原二百八十町歩の所有權を獲得し、部落民將來の生活安定を目標に着々實績を收め、今や内務省及び縣當局の認むるところとなつた。家庭には二男二女あり、兩親健在し、和氣霽々と近隣の羨望をあつめてゐる。

煤ヶ谷村
村會議員 山田元次郎
元組合村長

その昔、新羅三郎義光の次男義隆の末孫が當地に落着移住し、當山田家の祖先となつた。爾來連綿何十代、世々農を業とし、庄屋及び丹澤山見廻役をつとめた家柄である。先代傳兵衛氏は用係を承り用水道開設、水田開墾増加等、郷黨のため身命を晴して努力せる功勞者、五十三歳にて永眠した。氏はその男にて明治元年十月二十三日の岳降、夙に明治法律學校に入學せるも、尊父病氣の報に接して退學皈郷し、専念家業に精勵せるもの、その手腕と識見とによつて衆庶の懇望をうけ組合會議員、學務委員、村農會評議員、常設委員、煤ヶ谷村外ヶ村組合長等を歴任し、また村會議員たること三十有餘年に及んで今日に至り、私設消防時代には組頭としても活躍し、煤ヶ谷厚木間乗合自動車開通には妙なからざる功績があつた。長男茂君は鎌倉師範出身の教育

家、次男義隆君は明治大學出身の銀行員他に二男四女がある。

三田村外 柏木久平
五ヶ村組合議員

當家は舊家、代々農を家業となして來た。氏は先代亡字平治氏の長男、明治八年十二月一日の出生、一見素朴の如くに見ゆるが、性温厚、しかも所信に對しては牢固拔くべからざるの信念を有し、特に經濟建設については他の追隨を許さざるの識見がある。前には消防組合長、常設委員として活動し、現在は棚澤村會議員、三田村外五ヶ村組合議員、中津村外三ヶ村耕地整理組合議員、農區總代、皇太神宮氏子總代等を兼ねて銳意力進、貢獻を敢てし、ますく村民信頼の度を加へてゐる。長男久光君は曾て在郷軍人分會班長、消防小頭として活躍し、大正十年天覽演習の施行さるゝや、補助警察員として寄與貢獻した郷黨青年の模範人物として慕はれてゐる。

玉川村七澤
村會議員 三橋 榮



先代辨藏氏
その他の雜事に身を以て

快活なる人格者と定評される氏は、永年紛擾絶えざりし玉川村小學校敷地問題

當り、無事圓滿に解決せる稀有の手腕家にして、表面に出て活躍するより裏面に



あつて實力を揮ふ材幹である。現在氏子

總代並に村會議員に任じ、なほ春秋に富む人として衆望をあつめ、今後の村政刷

新を圖る上についても、重要視せられてゐる。因に當家は始祖以來十二代、連綿として農を業とし、先代辨藏氏は村會議員、郡會議員、助役、日向川耕地整理組合長、七澤耕地整理副組合長、消防組頭氏子惣代等村内幾多の重要任務を執掌せる自治功勞者にて、村内切つての人望家である。氏はその男にて明治二十八年十二月十六日の誕生、家庭には兩親並に四男三女があり、圓滿を極める。

南毛利村恩名
村會議員 三橋京治郎
勤八等

質性快活恬淡、信義を重んじ、諸否に嚴なる氏は、常設委員を四期、農會總代二期、その他家屋稅調査員、南毛利消防組第二部小頭等に歴任、昭和十二年四月より村會議員に選ばれ、養蠶組合長を兼ね多方面に亘り盡力されてゐる。明治十六年十一月三十日の出生にて、野戰砲兵として日露戰役に出征せる勇士、青年時代から狩獵を愛好した。令閨シン子さん

依知村山際
村會議員 甘利清堯

との間に四男三女あり、長男博君は曾て青年團支部長をつとめた人、女子さんを夫人に迎へ、愛嬢昌子さんを儲けた。なほ當家は代々名主をつとめた名門にして、先代淺次郎氏は常設委員をつとめた人である。

當家は本村屈指の舊家として知られてゐるが、ずつと以前のことには記録なく詳かならざるも、約四百年前より連綿繼續せる名門である。先代清左衛門氏は村内多方面に亘つて盡力貢獻された人で、その實弟政博氏は新磯村の名望家にして舊家たる田所家の養嗣子である。歴代醬油醸造業を営み、傍ら農業を經營するも、醬油醸造業は古くより名聲高く、今では縣下有數の信用を博してゐる。氏は先代の長男、明治三十三年六月六日を以て生れ、早くより養蠶實行組合長、消防組頭區長等に歴任され、現在は村會議員第三

期目をつとめ、貢献甚大にして令名噴々たるものがある。趣味は狩獵。因に光子夫人は明治四十年生れにて長女恵子さんほか五人の愛嬢がある。

中津村

村會議員 矢後 萬次郎



至誠眞摯の人格者といはれ、衆望をあつめて村會議員の要職にある氏は、矢後亮祐氏の男にして明治二十五年八月二十日の出生である。學識に富み、理想に燃え、自治産業の手腕に長じ、本村が有する人材中の白眉にて、現に村會議員たるほか、養蠶實行組合長、負債整理組合長を兼任する。家庭には長男昇君(明治四十三年生)のほか、目下日本女子醫專に在學中の令嬢がある。

高峯村

元郡會議員 後藤龜五郎



氏は高峯村に於ける元郡會議員中唯一の生存者に

て、郡制廢止前二期半精勤による功勞章拜受者である。生家矢内家は徳川家御本丸建築をなせし名匠にて代々の兵衛氏と稱し代々大工であつた。氏は現右兵衛氏の次男として文久元年八月十一日に岳降長じて後藤家の養子となつた。養家は代神官として近郷に聞えたる舊家。同家隣接地に祀れる天神様は狩野方元信の筆に成る畫像を祭神とし、十二年に一回の開帳をなし、その都度頗る盛大賑賑を極める。氏は父祖名匠の血を享けて技術卓抜の聞え高く、縣立厚木高女をはじめ郡内依知、小結、清水など各小學校舎の

建築を請負完成してまゝ、令名を馳せ且つ傍ら村會議員四十年に及んで表彰され、現に二十年來學務委員の職にある。長男正策君は東京商大出身にして、現に京王電鐵會社經理課長の椅子に座つて、采配をとつてゐる。

煤ヶ谷村

村會議員 大矢晴榮



當家は代々農を營む部落の舊家として知られ、先々

代奥右衛門氏は名主をつとめたる名望家、先代織藏氏も、役場筆生をはじめ村會議員、學務委員、當設委員等に歴任し、現時齡米壽に近くなほ矍鑠としてゐる。氏は先代の男、明治十七年五月十八日の出生、刻苦獨學修業し、明治卅五年煤ヶ谷小學校に奉職、同四十五年檢定試驗に

合格して正教員となり、三浦郡久里濱、本郡小結、半原各校を経て宮ヶ瀬小學校長に榮轉し、次で久良岐郡富岡小學校長に任じ、大正十五年退職した。その後昭和四年村會議員に選ばれて三期目を現任し、また青年團長、相原農學校組合會議員等を歴任、現時消防組頭、八幡神社總代、華藏院總代を兼ねる。稀に見る人格者にて、消防事業には殊に功勞がある。養子旭君は東京豊島師範出身の新進教育家、その將來を大に囑望されてゐる。

玉川村小野

村會議員 三橋 郷太

明朗快活、手腕家を以て聞える氏は、故高之助氏長男として明治二十七年四月二十一日の岳降、大正三年第一師團騎兵第十六聯隊に入營、上等兵となつて除隊し、その後は家業の傍ら公共事業に盡し、村會議員、消防組小頭、村農會評議員、養蠶實行組合長、玉川村經濟更生委員等を現任し、本村中堅人物中の異材にて將



舊家にて代々農を業とし、先代高之助氏は昭和四年に永歿した。

南毛利村船子

村會議員 關野伊一

當家は舊家として知られてゐるが記録なく、たゞ寛文年間以降の先祖の碑文が判明する。歴代村内の世話役として郷黨のために盡した名門、先代角三郎氏は村用係を勤め、また部落の顔役として各方

來性ある活動的人物である。因に當家は元和の四年三月三橋俊英より始まりし村一番の面躍された。當主伊一氏はその長男、明治二十年三月七日に生れ、當設委員を永年つとめたるほか各種の組合に關係盡力し、農村開發のため貢献少なからず、また南毛利消防組第七部小頭を十五ヶ年間に亘り勤続して表彰を受け、昭和十二年四月村會議員に當選、自治行政上功績多く、なほ産業組合理事、農事實行組合副組合長、養蠶實行組合副組合長等多方面に活躍される。しかも青年時代から演藝音楽を嗜みて藝術的情操豊かな人格者、宗教心もあつた。テツ子夫人との間には四男三女あり、長男良君は愛甲農學校を出て家事に従事、次男安雄君は騎兵勤務中である。

依知村上依知

元村長 小林 榮太郎

廉直温厚、讀書に趣味を有し、俳諧に造詣深き氏は、慶應二年の岳降、夙に明治三十一年助役に推され、引續き村長に選任、同卅五年まで勤続し、その後大正

十三年三月より昭和三年三月まで二度目の村長を勤め、また郡會議員二期、郡參事會員として郷黨のため活躍し、村自治界切つての功



村自治界切つての功

勞者にして、就中昭和三年村長在任中私設消防組を統一して公設に組織更へした手腕の如き實に鮮かであつた。明治二十六年以來助役及び村長時代を除いて引續き今日まで村會議員の職にあるほか、水利組合評議員、所得税調査員、土地賃賃價格調査員、養蠶組合長、中津信用組合理事、相模川耕地整理組會長、寺院總代等の重要職務を現任する。三男三女の子福者にて、長男隆保君は農業に精勵恪勤してゐる。

高峯村三増
區長 元收入役 家城立雄

當家は寶永時代以前より傳はる舊家に於て、祖父源右衛門氏は名主を勤め、且つ戸長として自治に貢献せる人、嚴父藤吉郎氏また區



氏また區

長二十九年の長きに及んで村より銀杯を贈られし功勞者である。氏はその長男にして明治二十一年十月十七日の誕生、十二歳より村役場に入り書記及び收入役たること三十年、稀に見る勤續者にて昭和十二年五月退職したが、その間縣知事町村長會長などより表彰されしこと再三再四に及ぶ。現時區長、農事、養蠶各實行組合長を兼ねる。長男毅君は現茨野小學校に奉職中、外二男三女がある。

煤ヶ谷村八幡
村會議員 杉山耕三
賢慮躬行、人に接し懇篤なる氏は、温

厚謙讓、且つ社交家である。嚴父清次郎氏は部落協議員その他に任じ部落繁榮の基礎を築ける人、七十四歳にて永眠した。氏はその男



はその男

として明治十五年五月四日に生れ、夙に父業を繼いで農業に従ふほか乳牛を飼育して搾乳業を營み、傍ら輿望を擔つて村會議員に擧げられ、重選四回、現にその任にあり、村議中の古參である。子女は長男丹作君のほか一男二女を儲けた。

南毛利村愛名
村會議員 青木倉次郎

當村に於ける青木家なるものは古く鎌倉時代にその祖を發し、二三百年前より此の總本家が石井姓に改められたが、當家は石井に改姓前に分家して爾來連綿今日に至る舊家である。當主たる氏は明治

六年四月六日の出生、早くから村會議員を勤めること二十年、曩に勤續表彰を受け、區長その他當部落の顔役として多方面に活躍されてゐる。特に當家に於て誇りとするところは當主の實父は小學校教師であつたが、當主の子息も亦教鞭を執るもの多く、七人の子息中五人まで教育家であり、且つ現に中學校在學中の三男政憲君も卒業後は高等師範を希望し、やがて三男四女全部が崇高なる教育の事業に携はるやうになることである。因に長男幸行君は新田小學校首席訓導にして、同夫人トキワさんとの間に二男二女があり、圓滿至福の一家である。

依知村山際
元村長 大塚忠作

當家は元祿時代以前より續く舊家にして、代々農を業とし名主を勤めた家柄であるが、安政六年の大洪水の時、幾多の重寶家什を失ひしは残念の極みである。先代孫作氏は戸長に擧げられし人望家に

て、七十六歳を一期に永逝した。氏はその男、明治十一年十一月九日に呱呱をあげ、夙に收入役、助役を歴任、大正十年には全村の衆望を擔つて村長に就任し、現在五期目の村會議員たるほか學務委員



村會議員

寺院總代、水利組合評議員、中津信用販賣購買組合評議員、氏子總代等の重職にあり、人格高潔資性濃厚、村治功勞者中の一異彩である。

煤ヶ谷村柿木平
村會議員 山口雄輔

廉直の人格者として令名高き氏は、本村山口藤助氏の次男にして明治十年二月十六日に生をこの世に享け、同三十年分家一家を創立、農耕及び材木商を營んで今日に至り、材木販賣は本村第一と稱する。家業の傍ら社會公共に竭すところ多



山口氏一家

村會議員を兼ね、優良煤ヶ谷村の建設に努力してゐる。長男精悟君は材木商の傍ら消防手勤續十有五年に及んで表彰されし功勞者、次男榮藏君は青年團支部長と

して若人の間に人望あつく、三男武雄君は青年團支部會計をつとめ、共に在郷軍人である。なほ實兄卯市氏は夙に區長たりしも早世せられ、令弟佐吉氏は日露戦争に出征して拔群の勳功を樹て、勳八等功七級を下賜された勇士である。

玉川村岡津古久

學務委員 杉山要助



温厚誠實、敬虔の士といはれるわが杉山要助氏は、

國造氏の男、夙に家業に精勵する傍ら自治産業のことに盡瘁し、學務委員及び養蠶實行組合長を現任し、寢食を忘れて奔走せる功勞者である。抑も當杉山家は、當地の舊家、杉山孫右衛門氏より祖父金八氏の代に分家して一家を成せるものにて、尊父國造氏は村會議員を多年勤め、

郡會議員を一期、その他自治に功勞ある土地の人望家として令名が高く輝きわたつてゐる。

南毛利村長谷

南毛利村長谷
小學校長
從七位

小金喜一



十代餘の舊家たる當小金家は、世々農耕の業に従ひ

先代壽造氏は村會議員、學務委員常設委員、助役等をつとめたる村治の功勞者である。氏はその男、明治二十三年二月十日を以て生れ、同四十三年神奈川師範學校を卒業、直に高座郡旭小學校に赴任、在勤四ヶ年の後居村南毛利小學校に轉じ、勤続九年、次で本郡玉川小學校長に榮轉、更に中郡の相川小學校長となり、在任五年にして本郡小鮎小學校長に轉じ、同村

教育の振興に努力すること四ヶ年、昭和十二年九月現任南毛利尋常高等小學校長に榮轉し今日に至つた。高等官七等待遇を受ける名教育家、人格高く温厚且つ眞摯な人である。長男君はまた教育家であり、現に平塚高等家政女學校に教職をとつて居る。

高峯村

消防組頭 成井淑男



至誠赤心の人格者たる氏は、高峯村が有する偉材と

稱され、聲望噴々として四隣に普ねきものがあり厚木、大磯、東京等各稅務署に勤務すること約十ヶ年、飯村後は専ら自治公共のことに力を致し、部落の繁榮向上に功勞多く、現に消防組頭に推されて活躍するほか村會議員、學務委員、方面

委員、産業組合理事、三和協同織物組合理事、農事實行組合長等を兼任し、いづれの方面においても事績顯著なるものがある。

萩野村上萩野

村會議員
消防組頭

今鉢茂



質實剛毅にして表面を飾らず、眞劍に郷土の繁榮を

念とし、將來を期待せられつゝある氏は先代庄吉氏の長男として明治二十四年七月二十五日を以て生をこの世に享けた。大度あり、夙に村青年團團長、打越貯水組合幹事等に任じ、現在は消防組頭、村會議員に推されて村治に實績多きほか産業組合監事、村北部農事實行組合長、村北部養蠶實行組合長として、産業の開発進展に資し、また原用野男子部及び女

子部貯金組合長、經濟更生委員にも推舉せられ、一村の繁榮部落の隆昌に盡力するところ多大である。抑も當家は村内豪農今鉢家より分家一家を創立以來氏を以て四代目とし、代々農耕に従ひ、嚴父は消防組小頭をつとめし功勞者、なほ氏は三男二女の子福者である。

下川入村

三田村外五ヶ村
組合消防組頭 笹生誠太郎



笹生家は本村源養寺開基源右衛門氏の子權藏氏分家

獨立してより當代まで十一代目、その祖數代までは名主を勤め、先代徳太郎氏は染物業を開始し、生前郡染物業組合長に任じ、また村會議員として村治に貢献した。氏はその長男明治二十三年十一月二十三日に生れた明朝卒直、農村稀に見る

の紳士である。厚木中學卒業後、現農業大學の前身東京高等農業學校に學んだが父君の急逝に遭つて半途退學、歸省後清酒醸造業を創め他面二十六歳にして村會議員に推され、引續き六回當選、組合議員としては三期を経、大正十三年組合消防組頭に任じ、次で郡畜産組合副組合長下川入村産業組合理事、下川入養蠶實行組合長を兼任現在に至つてゐる。また家業酒造業は頗る盛業であり、年額二百石を産し、郡内は勿論廣く東京方面に販路を擴張、八王子市に支店を設けてある。往年朝香師團長宮殿下、下川入善哉小學校に御假泊の砌、銘酒笹鶴を献上御嘉納の光榮を擔ひ、更に大正九年縣酒造組合品評會に於て一等賞を授けられ、その他數回入賞その名を知られてゐる。氏はまた組頭十ヶ年勤續の功に依つて縣消防協會から表彰されてゐる。

小鮎村飯山

消防組頭 岩崎千代松



青年會 長、戸主 會長、郡 農會評議 員、小學 校舍建築

青年會 巖君がある。

煤ヶ谷村柿木平

村會議員 村木商

山口市作



刻苦精 勵、夙夜 よく業務 に熱中し て遂に今 日の大を

委員長、小鮎村信用組合監事などを歴任せる氏は、現時株式會社厚木絹糸取引所理事たるほか村會議員四期目、消防組頭村農會總代、千頭養蠶實行組合副組長縣穀物標準査定員の要職を兼ね、自力更生の氣運に乘じ、小鮎村更生産業組合生みの親としてその創設に盡瘁せることは何人もよく知るところ、されば同組合役員退職に際しては花瓶を贈つてその功を感謝された。刀劍に趣味あり造詣深い。因に氏は本村上飯山の豪家森住忠左衛門氏の次男として明治七年十月五日に生れ二十四歳の時岩崎家に迎へられた。長男佐太郎君は消防組小頭、農事實行組合長國勢調査員を歴任の後、現に穀物検査員として精勤中で、他に二男右司君、三男

成すに至りしわが山口市作氏は誠に成功者中での成功者、立志傳中に載るべき努力奮闘家である。明治三十二年九月二十四日生をこの世に享けしも、不幸、幼にして両親に去られ、大正十三年獨力以て材木商を創始、幾多の辛酸を嘗めつゝも能く隱忍克服し、家業は年毎に繁榮を呈するに至り、氏の揺るぎなき意志の力は遂に勝つたのである。青年團支部長、同副團長を経て團長となり、村青年の修養と向上のため貢献多く、昭和八年選ばれて村會議員となり、現時二期目をつとめ



濃厚篤 實、眞に 教育家に 相應しき 人材と稱 される氏

は、杉山道藏氏の男にして明治二十二年九月十八日の出生、同四十五年三月神奈川師範學校一部を優等で卒業、直に愛甲郡小鮎小學校の教壇に立ち、在職十五ヶ年、次で同郡荻野小學校に轉じてこゝに三ヶ年をつとめ、同郡宮ヶ瀬小學校長に榮轉したが、更に三年の後同郡三田小學

校長となり、約四年余にして昭和十二年九月頭菅田代小學校長となり、今日に至り、教育界に身を置くこと二十數年、郡下初等教育の大なる恩人であり、昭和十七年七月には高等官八等待遇、同十二年九月七等待遇を受け、郡内校長中の古參として信望があつた。家庭は四男四女の子福者にて長男哲君は同志社大學出身の京王電鐵社員、尊父道藏氏は齡喜壽に近くして尙健在する。

高峯村戸倉

農事實行 組合長 山崎幹次郎

元正年間の人、山崎武善を祖とする當山崎家は中祖又右衛門氏時代に分家してより既に二十氏を閱し、代々善兵衛氏を稱し、郷土の開發に盡瘁した。氏は明治六年一月九日の誕生、大正初年頃材木商を開業、今日の基礎を固め、現時區長並に農事實行組合長を兼ねる。長男儀三郎君は頗る活動家にて商才に長じ、大正十二年父業材木商を承けて擴張に擴張を加



氏は郡 内依知村 關口の豪 農故丈吉 氏の二男 として明

方面委員 鈴木福松

荻野村上荻野 勤八等

へ、遂に製材工場を建立、斯業界に重きをなすに至つた、傍ら消防小頭に任じ、その將來を囑望されてゐる。

治二年九月五日の出生、後ち當鈴木家に

入つた人であるが、全く文字通りの苦學力行をもつて小學校教員檢定試験に合格し、爾來小學校に職を奉じ、終始一貫三十有五年間を荻野小學校に盡し、大正天皇御即位大典には在職三十年間勤續の功に依つて特に勤八等に叙せらるゝの光榮に浴した。退職後は郷社荻野神社氏子總代峯柄澤部落總代、峯柄澤農事實行組合長等に推され、峯柄澤部落には洵に缺く



當家は 寛文三年 又右衛門 氏が一家 を創立し てより、

外山松次郎

小鮎村上古澤 在郷軍人分會長 元村長正八位勳六等

ことの出來ない重要役割を擔當し、昭和十二年一月には縣より方面委員を囑せられ、日支事變の影響上、銃後扶助事務の多望を極め、更に經濟更生委員として寧日なきの有様である。なほ長男正男、二男忠、三男融の三君は何れも師範出の小學校教員、一家を擧げて教育界に奉仕する近郷稀に見る名家である。

ある。氏は元治元年十二月三十日の岳降
 風に濟生學舎に學び、外科内科眼科産科
 並に藥物學を専攻、明治二十四年内務省
 醫術開業試験に合格した。陸軍軍醫少尉
 にして正八位勳六等を有し、開業の傍ら
 検査醫、校醫、村醫その他多數の囑託醫
 を兼ね、且つ明治四十四年以來村在郷軍
 人分會長、大正五年以來愛甲郡聯合分會
 長、同七年以來愛甲郡醫師會幹事たるほ
 か村會議員、縣消防協會厚木郡支部名譽
 會員、その他の要職を兼ね表彰十余回に
 及び、村長當時滿洲事變に遭遇、内治功
 勞により一時金を賞賜された。俳句に造
 詣深く新甫と號す。二男富左君は日本醫
 大出身にて現に平塚市に耳鼻咽喉科醫院
 を開業中である。

煤ヶ谷村宮野

村會議員 山田 淺次

篤實誠心の人格者、自治的手腕に長ず
 る威福の人といはれる氏は、郷費卒業後
 家業農に従事し、大正十二年一月近衛歩



山田氏一家

兵第二聯隊に入營、在營中は拔群の成績
 を擧げて將兵の模範と稱された。大正十
 四年除隊、その後は専念家業に精勵し、

篤農家として令名四隣に普ねく、常に研
 究的態度を持ち、農業經營並に栽培方法
 の改善に力を竭し、相當見るべき効果を
 收めて來た。先年衆望を蒐めて村會議員
 に選出せられ、一意公共の福祉増進と村
 勢の充實發展に努力してゐる。因に當家
 は分家獨立以來五代にして代々農を營み

來つた。先考孫一氏は區長及び常設委員
 をつとめ、村會議員在任中逝去された。
 氏はその男にて明治三十四年十二月四日
 の誕生、家庭には慈母並に二男一女があ
 り、圓滿を極める。

南毛利村下愛甲

三田尋常高等 石渡 祐重
 小學 校長

人格の人、高德の士と謳はれ、縣下初
 等教育界に噴々たる人氣を有する氏は、
 明治廿七年五月二十四日の誕生、石渡家
 中興以來三代目に當り、祖父及び實父は
 専ら農を業とし精農家の聞え高かりし人
 氏は夙に厚木中學校に學び、同校卒業後
 縣師範學校二部に入り、業卒へるや直に
 横濱市大綱小學校訓導を拜命した。時正
 に大正四年これが教育界に踏み出す第一
 歩であつた。その後中郡西秦野、鎌倉郡
 中川、同中和田各校を経て鎌倉郡玉繩小
 學校長に榮轉、次で愛甲郡厚木小學校首
 席訓導となり、昭和十二年九月頭書の三
 田小學校長に拔擢され今日に及んだ。到

る處で兒童の尊敬と父兄の信頼をあつめ
 て名教育家と賞揚され、教育界に盡せる
 功績は誠に絶大なものがある。

高峯村角田

農事實行組合長 諏訪部 壽三



慶長十
 九年、大
 阪落城に
 際し、時
 の勇將諏
 訪部重右

衛門實光は、故ありて當家裏庭近くにて
 自刃した。當家の五輪塔は即ち實光の冥
 福を祈つて建立されたものにて、相當由
 緒ある家柄である。嚴父勇次郎氏は區長
 村會議員に選ばれし人望家、氏はその男
 として明治十七年十一月九日に生れ、區
 長代理、農事實行組合長を現任する。長
 男美教君は相原農蠶學校出の歩兵少尉に
 て支那事變に出征中、次男敏君も同校卒
 業し現近衛歩兵第二聯隊勤務の伍長、三

男靜君は厚木中學校出、海軍工廠に修業中
 一家揃つて軍に關係する名門である。

荻野村下荻野

青年團長 星野 悦



星野家
 は先代保
 次郎氏の
 代に本郡
 依知村金
 田より分

家、今の地に一家を創立したものである
 夙に小學校教員として奉職すること、實
 に三十有餘年の長きにわたり、郡内傑々
 谷小學校在職中、彼の關東大震災に殉職
 し、大阪市に建設された教育塔に合祀さ
 れてゐる。當主悦氏はその長男、明治三
 十八年二月三日の出生、厚木中學校卒業後
 東京電燈株式會社に就職、現に厚木出張
 所に勤務精勵、寸暇なきの身を懸望され
 て村青年團長、郡聯合青年團主事、同文
 書普及指導員、村青年學校後援會副會長

村經濟更生委員會社會部副部長等に擧げ
 られ盡力貢獻してゐるが、しかもその將
 來に多大の望みを囑せられてゐる。趣味
 としては園芸、音樂、野球、庭球等があ
 り、家には夫人との間に二女がある。

小鮎村飯山

愛甲郡聯合 遠藤 育美
 青年團長



謙恭且
 つ明朝、
 書畫骨董
 を愛玩し
 讀書に趣
 味を有す

る氏は、明治二十九年四月十九日、遠藤
 大三氏の長男に岳降、郷校を経て三田村
 自証塾に學び、曾て小鮎村收入役、青年
 團副團長、同團長たること八年の長きに
 及び、青年の指導啓發に當つて功あり、
 第一回國勢調査の大事業に關與して記念
 章を賜はり、現時愛甲郡聯合青年團長、
 愛甲郡國防協會副會長、財團法人湘山會

評議員、大日本聯合青年團文書普及愛甲郡指導員、常設委員、青和會賛助員等を兼ね、その功績を讃へられてゐる。嚴父大三氏は明治十一年龍五郎家より分れて當遠藤家を興せし、年齒古稀に近くしてなほ矍鑠たる元氣あり、曾て常設役員たること十數年に及ぶ村治貢獻者である。

小鮎村上古澤

消防組副組頭 守屋 正造



人格高潔、公人として私人としても地方稀に見る近代的紳士たる氏は、先考森太郎氏の長男にして明治十七年二月二十日の誕生である。青年時代已に村青年團副團長、同支部長として活躍し、夙に若人の師表たりし人、且つ小鮎小學校に教鞭を執ること十數年、退職後は直に村役場に入り、現

に戸籍兵事係として敏腕を揮はれる外、消防組副組頭、在郷軍人分會理事、上古澤農事實行組合長を兼ね、令名夙に高く夫人ノブ子さんも亦曾て小學校訓導たりし人、今は小鮎村國防婦人會支部長として専ら銃後の護りに盡瘁されつゝあり、三男六女の子福者、家は常に和氣に充ち満ちてゐる。因に當家は中御門天皇の御宇正徳年間の創家に係る地方切つての舊家、先代は村長二回、郡會議員、村會議員、學務委員等に推された材幹である。

傍ら自治公共の事に竭し、村會議員三期目の任にあるほか、組合會議員、區長代理、神社寺院總代等を兼ね、また曩には大正三年以來昭和十二年一月まで、消防組小頭及び部長として奮勵貢獻した。因に當家は氏を以て四代目とし、先代清吉氏は村會議員二期、區長等をつとめし自治貢獻者なるも、昭和五年永い眠りの床に就いた。家庭頗る圓滿、慈母のほか二男三女がある。

南毛利村淺間山

元南毛利村長 山口 佐四郎



快活明晰、新時代的明朗性を有する氏は、明治二十四年十一月二十八日の出生、郷費卒業後

當家は天正以前よりの名望ある舊家として知られ、歴代苗字帶刀を許され、名主をつとめた。代々長男は幼名佐四郎、戸主忠太、隱居となりて勸四郎を襲名せるため、同名十五代に及んでゐる。先代忠太氏は村の重鎮として信望ありし功勞者、翁はその長男にて、慶應三年二月七日の出生、收入役、助役、村會議員、村長、郡會議員等を歴任して功績甚大なる

ものあり、村長當時偶々日露戰爭に際會し勳七等桐葉章を贈られ、また警察署、學校、神社等よりその功績を表彰されてゐる。令室キヌさんとの間に一男二女を儲け、長男忠一君は子息二名を有し、消防組頭、養蠶組合長、青年團支部長をつとめる。因に祖父忠太氏は漢學に造詣深く愛甲郡十三ヶ村にわたる名主をつとめし材幹であつた。

高峯村幣山

方面委員 馬場 光藏



北條時代、馬場美濃守は本村三増合戦の際松葉のた

めに目を失ひて甲州に下る途中、遂に最期を遂げ、その家臣同地幣山に土着し、馬場姓を稱へて今日に至り、幣山部落では松飾をせぬ異風があるが、當家はこの

部落中有數の舊家にして、先々代惣七氏は村會議員をはじめ村内各種要職に推されて寄與貢獻多き人望家であつた。當主は明治二十五年十二月二十五日の出生、青年會長、消防組小頭、村農會總代、國勢調査員、桑園基本調査員等につき、現方面委員並に農事實行組合長に任じて活躍してゐる。長男光文君は愛甲農蠶學校を出て同校助手を勤務中、令聞はるさんの生家は箒製造業として全國的に有名な中津村柳川家の出、一族近親悉く同業に従つて農業教科書にも採録されてゐる名望家である。

小鮎村飯山

青年團長 川田 三好



當家は川田越前守の後裔にて、延寶年間初代三左衛

門氏一家創立以來連綿として十代に及ぶ舊家、代々農を本業とし、先代富次郎氏は村會議員、消防組小頭に推されて村治に貢獻し、現に村社龍藏神社氏子總代、坂東六番觀世音及び蓮久寺世話人である氏はその長男明治三十五年五月二十七日の誕生、郡立農學校卒業後朝鮮羅南師團に入營、現役中精勤賞、善行証を受け、上等兵に進級、除隊後在郷軍人分會役員として活躍し、軍人會長より賞状を贈られた。また村青年團長、縣方面委員、消防組小頭、愛甲郡聯合青年團体育部長同評議員、軍需勞務幹旋委員、愛甲農學校校友會支部長、小鮎村文書教育普及委員、青年學校指導員その他を現任し、青年訓練指導員七年勤続により縣知事より表彰された。令弟三郎君は明治藥專卒業後厚木町に藥局を開業、末弟加介君は陸軍士官學校在學中である。

煤ヶ谷村

村會議員 山田 信太郎

俊敏好學の人、村會議員中の異彩といはれる氏は、山田家三百年十三代目の當主にして先考定八氏の男として、明治二十二年四月十八日に生をこの世に享けた

古くは煤ヶ谷村随一の資産家といはれ、所謂大盡の本家と通稱されたが、榮枯盛衰は世のならひとか、漸次衰運に傾いて先代の時最も甚しかった。然るに氏は二



山田氏一家

十三歳の若幹を以て家督を襲ぎ、木材商を創り、傍ら家族の者に雜貨商を営まし

來り、現時村會議員に選ばれ公共のため大いに奮闘してゐる。因に氏は三男三女の子福者である。

南毛利村恩名

養蠶實行組合長 和田三司
元村會議員



非常時局に際し國民精神總動員が企てられ

折る。思想穩健にして意志堅固、奉公の一念に燃えて手腕卓抜なる氏を有すること。氏は明治二十一年六月十六日を以て生れ、夙に常設委員、村會議員、學務委員、消防組小頭、村農會總代、農事實行組合長等を歴任し、自治産業教育に關する事績は一々枚擧の煩に堪へず、今また養蠶實行組合長の要職にあり、全組合員の絶對的信賴をあつめて養蠶業の改良と發達のため盡瘁努力し

てゐる。長男豊君は滿洲守備隊に在營中他に二男四女の子を有す。また當家は八代連續の舊家にて、初代平右衛門氏以來農を營み、四代平右衛門氏、五代八郎右衛門氏、六代友右衛門氏は共に名主をつとめ、先代豊次郎氏は村會議員、常設委員等に選ばれて功勞多く、七十二歳で永眠した。

煤ヶ谷村門原

村會議員 山田彌太郎

五月の空のやうに明朗な人、寒梅のやうな氣品を持つ人といはれるが山田彌太郎氏は、先代平藏氏の男にして明治十五年二月四日の誕生である。同三十三年尊父の逝去に遭つて家督を相續、三十五年には近衛歩兵第四聯隊に入營し、日露戰爭には滿洲の曠野に奮戦して勳八等を賜はり、後ち臺灣蠻人討伐に加はつて勳功を賞されること三回、次で臺灣巡察を拜命し、大正十一年まで勤続した。錦を飾つて飯郷後は専ら社會公共のために盡

し、村會議員四期目、養蠶組合長、煤ヶ谷村外一ヶ村組合會議員を兼任する。

高峯村角田

方面委員 長嶋傳造



山田氏一家

自治産業界の先輩にして功勞者たる氏は、明治二十年六月十日の誕生である。夙に家業に精勵するの一面、頗る慈悲の心厚く、昭和十二年選ばれて方面委員となり今日に至つた。曾ては消防組小頭を



七年勤續して表彰されたることあり
區長六ヶ年、養蠶

實行組合長五ヶ年を歴任せる人望家である。長男良雄君、次男勇君のほか、三人の愛嬢を持つ。因に當家は、享保十年長嶋八之丞氏より分家して傳はりたる舊家にして、父祖共に精農を以て廣く知られたものである。

南毛利村温水

方面委員 渡邊新太郎

當家は土地の舊家、先代直次郎氏は曾



先代直次郎翁



今も豊饒、村をなしてゐる

當主新太郎氏はその男、亦らく小學校教員として育英のことに當り、その父兄よりの信望なかく厚きものがあつた。現任は方面委員に推されて就任、社會救濟方面に盡瘁貢献しつゝあるの外、部落各役員としても活動してゐるが、前途に多大の望みを囑せられてゐるも當然である氏は全くこれからの人。

煤ヶ谷村別所

村會議員 大矢庄太郎

人望をあつめて自治界に異彩を放つ氏は、當村別所大矢幸太郎氏の次男として

明治十年五月二十日に生を享ひ、同三十二年分家獨立、農耕を業とし今日に至つた。温



小頭、國勢調査員、養蠶組合長等を歴任し、家業繁忙なるに拘らず能く公共事業



その夫人

に努力盡瘁し、現に神社總代、納稅組合副長、村會議員五期目の任にある。六男三女の子を有し、長男幸義君は北支事變に出征、次男英雄君は厚木中學校を出て海軍工廠に勤務、三男貞雄君は陸軍現

役にて滿洲國に駐在するなど、擧げて軍國に報へつゝある。

南毛利村戸室

霜島蠶種製造合資會社
代表社員學務委員勳八等



霜島彌吉

當家は三百年以上を閱する舊家に於て代々農を業とし

した。氏は先代惣太郎氏の男、明治十三年五月二十五日を以て生を享け、同三十三年近衛騎兵聯隊に入營、除隊に際し日露の間に戦端開かれ、出征各地に轉戦し忠勇義烈の働きにより勳八等を賜つた。凱旋後軍人團の組織に加はつて幹事をつとめ、また役場書記一年、収入役十年を勤続した。大正九年蠶種製造業を創始、現時合資會社組織にて代表社員となつて



山本泰一郎

人格高き人望あつき人材といはれる氏は、若冠二十

六歳の頃から組合村役場助役をつとめて才腕を顯はれた人で、愛甲郡會議員、縣會議員を三期、同參事會員、同副議長、同議長等に選ばれ、縣政界の重鎮と稱され地方政治のため一々枚舉の違なきほどの功績を積んでゐる。大正八年來暫くの間煤ヶ谷村宮ヶ瀬村組合長に任じ、組合

村のため奔走盡力するところ多く、聲望翕然として渡瀨の如く高かつた。現在多年重任の村會議員をつとめ、村第一の自治功勞者にして縣政界の長老、現に民政黨愛甲郡支部長の椅子に推されてゐる。長男義堯君は拓殖大學出身の新鋭である因に當家は村内切つての舊家にて代々農を營み、先代重藏氏は組合村助役、村會議員、學務委員等に任せし人、氏はその男にて明治元年の岳降である。

南毛利村温水

元村會議員 伊藤岩吉



謙恭陰徳の人たる氏は、小鮎村上古澤外山倉次郎氏

の二男、明治八年七月十三日を以て生を享け、二十四歳の時伊藤倉吉氏の養子となり家督を嗣いだ。明治二十八年兵にし

て日露戰爭には參戰武勳を樹て、郷に在つては常設委員、學務委員、村會議員、養蠶組合長等幾多自治公共の要職に就いて勤績を累ね人望を一身にあつめた。實弟外山慶三氏は勳八等を有する元小學校訓導、長男治文君は家業農の傍ら消防組小頭、青年團支部長を歴任し、現時統計調査員をつとめる將來性に富む手腕家、次男美代治君は厚木中學校及び京城師範學校を卒業し、朝鮮にて公立普通學校校長を奉ずる教育家、三男正雄君は平塚農學校の出身、一瀧家の養子となり、現時小學校に奉職中、二女ウタさんは三菱社員野中政吉氏に嫁し、四女樂世さんは山階宮家に仕へたることある才媛である。

南毛利村愛名

學務委員

泰野銀行 石井市司
常務取締役

温和な性格と明晰な頭腦、そして卓抜の手腕とを有する氏は、村有数の資産家にして舊家として聞え、生れは明治十二



は村會議員、村長その他あらゆる村公名譽職に推戴

されし人望家にて事績顯著なる自治功勞者である。氏は夙に収入役を拜命、引續き助役に任じ、また村會議員、郡會議員村農會長、村長等をつとめ、地方自治のため貢献少なからず、現に學務委員に推され、更に泰野銀行取締役として多年金融界に令名を馳せたが、今また常務取締役に擧げられ、地方財界に重きをなしてゐる。しかも身多忙なるに拘らず、寸暇を得ては狩獵の趣味に生き、現に愛甲獵友會長に任じてゐる。因に長男市朗君は慶大醫學部出身にて平塚市に開業してゐる。家庭は極めて圓滿、人も羨むほどの和かさである。

宮ヶ瀬村
煤ヶ谷村宮ヶ瀬村
組合助役 山本量平

宮ヶ瀬村一、二を争ふ有力者にして眞摯、誠の人格者たる氏は、信望厚き村治功勞者としても知られてゐる。抑も山本家は部落屈指の舊家にて、初代甚右衛門氏以來十代を累ね、代々農を以て業とし先々代新兵衛氏は名主及び消防組頭をつとめ、植林並に水利事業に特に盡力多かりし人、また先考竹次郎氏は夙に村役場書記を拜命以來助役、煤ヶ谷村宮ヶ瀬村組合長、村會議員その他の公名譽職を歴任し、日露戦争の時は村長として銃後の護りに竭し、勳八等に叙された功勞者である。氏はその男、明治大學専門部商科に學び、多年村會議員の任にある外、學務委員、組合役場助役、消防組頭、方面委員等を兼任し、卓抜の手腕を賞揚されてゐる。今や人格者者として、功勞者として村には無くてならぬ人物の一人として存在してゐる。

南毛利村恩名

元村會議員 鈴木治兵衛



當家は鈴木土佐守の末孫 初代治兵衛氏、二代岡右衛門氏、三代彦次郎氏を経て當主鈴木治兵衛氏に至る。當家は代々農を業とし、先代は常設委員、氏子總代をつとめ、八十四歳まで長命を保つた。氏は明治七年十二月十七日の岳降、村會議員二期、常設委員を四ヶ年、南毛利村恩名信用組合理事十ヶ年、同村信用組合監事等をつとめたる自治と産業の功勞者にて、現時専ら氏子總代に任じてゐる。資性温厚快活、人に接して必ず好感を與へる福徳の人である。子息なく實弟要造氏を家督相続人となす。要造氏は日露戦争参加の勇士にて勳八等の所有者、曾て消防組小頭に進

され、今常務委員に任じてゐる。その長男兼君は厚木中學校を経て師範學校二部に學びし教育家、次男三郎君は海軍航空兵にて日支事變に際し、赫赫たる武勳をあらはして一家の名譽を擧げた。

青年團長 關根健一

當家は關根土佐守の後裔と傳へられる舊家にて、十八代目たる祖父源重郎氏は本村産業組合創立の功勞者にして初代組合長、嚴父長松氏は日清日露の兩役に出征して勳八等を有する武勳者、役場勤務十數年に及び村長、産業組合長としても功績が多い。氏はその長男にして明治四十二年三月二十五日の生れ、大正十五年相原農蠶學校を卒業し、青年團支部長、同團團長を経て、昭和十二年團長に推され、また昭和九年以來村農會技術員に任じ、將來有爲の少壯人材にして、今や部落をます／＼發展せしめる人物として人の注目を浴びてゐる。

小鮎村飯山
愛甲郡神職會長 飯谷佐十郎



家祖恩 隆氏一家 創立以來 氏を以て 十七代、 代々神職

をなす。氏は愛川村半原の豪農小島喜兵衛氏の四男、明治九年五月二日を以て生れ、同四十年當家に迎へられて養子となつた。養父秀胤氏は村社三島神社ほか二社の社掌をつとめ令名がある。氏もまた養父の後を承けて三社を兼掌し、曾ては荻野、半原、小鮎各小學校に教鞭を執ること二十有三年、現時愛甲郡神職會長、縣神職會評議員、縣方面委員、村學務委員を兼任する。元來教育家、身なれば身を持するに謹嚴、且つ人に接するに温厚夙に考古學に興味あり造詣が深い。昭和四年十一月大禮記念章を授けられた。長

男照吉君は國學院神職養成所出身にて將來を嚆望せられ、次男勝夫君は昭和高等鐵道學校を出て現に京王電鐵會社に勤務中である等、これからの飯谷家の家名はいよいよ高くなりゆくばかりである。

煤ヶ谷村

元村長 井上精太郎

恬淡瀟灑、頭腦明晰の敏腕家たる氏は明治十六年七月廿九日の出生、夙に社會



井上家の少からなるが、その公共の事業に關與するが、その

徴兵検査に甲種合格して近衛砲兵隊に入營、日露戦争に拔群の手腕を揮て、勳八等白色桐葉章を下賜される榮譽に浴し、砲兵軍曹に昇進した。凱旋除隊後は軍人會に盡瘁し、卜長たること十餘年の長きにわたり、その後大正十三年九月助役に推され、次で昭和三年九月組合村長に選任、深大の抱負を村治に活かして組合村の發展を圖り、昭和五年七月退任まで功績一々枚舉に遑がない。現在専ら養蠶實行組合長として活躍される。長男武夫君は海軍一等水兵、他に一男三女あり長女は篤志看護婦として皇軍のため働いてゐる。なほ當家は村内切つての舊家にて、先代平八郎氏は村會議員三期をつとめし功勞者で、誠實硬直の名をもつて聞えてゐる。

南毛利村長 谷

村農會會長 神崎又平

誠實を以て事に當り、人望極めて高き氏は、夙に役場書記及び郡書記等を拜命

し、地方自治に多年の経験を有する功勞者にて、村會議員二期、學務委員、村農會副會長、同農區總代等に任じて自治産業の向上に貢献するところ多く、また青年團長、消防組頭にも擧げられ、本村有数の功績ある元老にて、現時村農會長の重職をつとめる外郡農會議員及び同評議員を兼ね、農業の改善發達に一身を忘れて盡瘁努力してゐる。抑も當家は部落切つての舊家にて代々農を業とせし家柄なるも、祖先中文隆氏は愛甲三郎米隆の主治醫をつとめて方技に才えし人、祖父の代までは勳右衛門氏を襲名した。嚴父又左衛門氏は精農家として令名あり、氏はその男として明治十四年六月十四日の誕生である。

煤ヶ谷村

加藤良助

氏は眞に村を思ふの人、その一舉一動悉くが奉公の一念に燃ゆるものである。村會議員を二十有余年、學務委員を永年



加藤良助一家の自給自給の功勞者の中

因に當加藤家は、分家以來三代目の家にて、初代傳内氏より農を業とし、尊父權兵衛氏は古在家山口善右衛門氏の令弟にして當家の養子となりし人、戸長をはじめ組合村長、村會議員を七十二歳まで勤め、米壽を全ふして永逝せる功勞者である。

共に現任中にて共有山協議員たりしこと二十ヶ年、その他煤ヶ谷村外ヶ村組合會議員、青年會長等を多年つとめ温厚にして



南毛利村温水 村農會副會長 平井一晴

る。翁はその男、萬延元年三月三十日の出生にて、長男光文君は平塚農學校卒業後一年志願兵となる轡重兵少尉、現に小學校訓導を勤める傍ら村在郷軍人分會長、郡聯合分會副會長に推されて盡瘁貢獻しつゝあつたが、日支事變に應召、出征中である。

當平井家は氏を以て十三代目とし初代和泉氏より會

實科を卒業すると同時に近衛歩兵第二聯隊に一年志願し、日露戰爭には内地勤務で勳七等を賜はり、三十九年長野縣農事試験場技手を拜命、次で群馬縣勢多農學校教諭となり、静岡縣立志太農學校を経て山口縣立農業學校、長野縣立上伊那農學校等に轉任し、大正六年高等官待遇となり、同年從七位勳六等を賜はり、同十二年三月教職を退いた。温厚にして人望あり、現在は常設委員、社寺總代、村農會副會長等を兼任する。因に實弟小田正治氏は満洲電々會社參事、次男晴美君は縣購聯に勤務する。

愛川村田代

東乃譽造元 大矢武兵衛

從七位勳八等 電話田代二・三・二八番

當家は、平氏の流れを汲む名門にして約二十七代つゞく大舊家である。氏は明治十五年九月十一日の岳降、相模瓦斯會社の創立發起人として發揮せし手腕は何人も驚異讚嘆するところであり、また



業には縣會議員、産業組合長、村會議員村長等を歴任し、現時所得稅調査員に任じてる。

る。家業は醸造業、その製する銘酒東乃譽は夙に左黨の愛好措く能はざる

ところ、大正九年には、畏くも大正天皇陛下産業御獎勵の思召を以て御賞上の光榮に浴し、昭和三年、聖上陛下御即位御大禮御用酒に御賞上を賜はり、同六年李健公殿下よりも御賞上の光榮を拜した。縣知事より表彰一回、品評會及び博覽會に於ける受賞三十七回に及ぶ、從七位勳八等の叙位叙勳者である。



南毛利村愛甲 方面委員 石井豊

若きネレーンヨンの典型的人物たる氏は明治三十

七年十二月の誕生にて、大正十一年厚木中學校を卒業せる前途有望の材幹であるつとに村青年團愛甲支部長に推されて、部落青年の指導誘掖に任じ、次で副團長となり、更に郡青年團評議員、消防組小頭、同第八部長、國勢調査員等を相次で歴任し、その力量と手腕とは已に萬人の認めるところ、加ふるに温厚篤實の資性を以て人氣翕然たるものがある。現在は統計調査員、産業組合信用評議員、方面委員を兼任する。因に當家は部落の屈指の舊家にて、曾祖父勇吉氏は名主をつとめ、實父喜代松氏は常設委員、氏子總代

禮家總代等に推された信望家である。令弟章氏は豊島師範學校に學び、東京府の小學校訓導をつとめる。

小鮎村上飯山

自治功勞者 **川田利雄**



源頼朝より十九代、武田信玄の家臣川田攝津守現地

に居住せるを以て當家の祖とし、爾來十七代、當地切つての舊家にして代々名主職を奉じ、先々代重兵衛氏はまた飯山區長にも任じ、先代岸藏氏は村吏員を振出しに助役、村會議員、學務委員に推されたる名望家で、昭和七年四月廿四日享年七十八歳を以て歿した。氏は先代の長男明治十九年四月九日の出生、同三十九年神奈川縣師範學校を卒業し、愛甲郡南毛利村小學校に奉職、勤続九年の後不幸病

魔に襲はれて退職の己むなきに至り、飯郷後青年會長、村會議員三期、縣養蠶業組合代議員等の要職を経て現時上飯山養蠶實行組合長及び上飯山出征軍人遺家族後援會長に推されてゐる。趣味は狩獵。タイ子夫人は小鮎村愛國婦人會副會長、小鮎村國防婦人會理事として専ら統後の護りに盡瘁せられ、長男徹君は農林省官吏である。

南毛利村温水

産業組合理事 **神崎喜作**

當家は始祖以來十代目の舊家にて、先代已八氏は村會議員、土地調査員として村のため貢献する所多く、氏はその長男明治九年十二月十日の出生、夙に温水青年會を組織して初代會長に任じ、その他南毛利村消防組小頭、土地評價委員、經濟更生委員、村農會評議員、常設委員、村會議員等各方面に活躍し、村議當時道路の改築及び河川改修に盡力貢献せしことは特筆すべき功績である。篤實眞摯の

人、産業組合理事として本村産組事業發達の功勞者である。令閨ウラさんとの間に三男二女を儲け、長男美喜司君は近衛歩兵伍長にして青年團支部長、消防組小頭をつとめ、現在是在郷軍人分會長をつとめ、村中堅人物として將來を囑望されてゐる。

煤ヶ谷村法輪堂

元區長 **井上初藏**



部落でも指折りの由緒ある舊家に明治六年四月三日

を以て、故松次郎氏の男に生れたる氏は明治四十二年一月、法輪堂青年共勵會を組織し、自ら陣頭に立つて新時代に處する青年の養成につとめ、また法輪堂有志郵便貯金會を設立して毎月一回會員宅を集金し廻り、厚木町まで山道五里を歩し

石積立てをなし、身を粉にして貯金獎勵に盡力すること實に三十年に及ぶ功勞者會では部落區長をもつとめ、有力者として重きをなす。

南毛利村愛名

村青年團長 **杉山金吾**
清水小學校訓導



新進氣先銳の材幹と稱され代金前途春秋重に富んで益す多望なる氏は、資性温良英邁にして學識に富み、人格の潔き青年教育家である。抑も杉山家は部落有数の舊家として普ねく知られ、先代金重氏は村會議員をはじめ學務委員、常設委員、養蠶組合長等の村内諸重職を多年に亘つて歴任せる村治の功勞者で、年齒杖郷を越えて四歳、現に社寺總代並に産業組合監事として公共に盡してゐる。氏はその男、明治四十年十月

八日の誕生、厚木中學校を経て大正十五年神奈川師範學校二部を卒業し、愛甲郡煤ヶ谷小學校に奉職し、在勤六年の後同郡清水小學校に轉じて今日に至る。この間青年支部團長、同副團長を経て團長に推され現任する。因に令弟好男君は早稲田大學に在學中の秀才である。

依知村下依知

舊家 **石原直一**



人格高潔にして謙虛、寔に紳士の典型とも稱すべき

氏は、明治三十五年十二月五日先代豊三郎氏の男に生れた。抑も當家は享保以前よりの舊家にして御一新前は領主江川太郎左衛門氏麾下の名主をつとめたる家柄祖父與三郎氏は若冠十七歳の時、小田原區裁判所に奉職せる鬼才、明治十六年に

は下依知戸長に任じ、同二十三年初代依知村長に選任、日清戰爭當時は二度目の村長在任中にて、功により天杯一組を賜はつた。また村助役、勸業委員をつとめ村自治の功勞者である。嚴父豊三郎氏は土不勸業常設委員、神社寺院總代をつとめ、將來を惜しまれつゝ四十六歳を一期に永眠した。氏は父祖の血を享けて夙に公共事業に竭し、青年團支部長、消防組小頭、衛生委員、國勢調査員を歴任し、現時寺院總代の任にある。家庭には慈母及び長男憲一君あり、圓滿を極める。

南毛利村戸室

元警察醫 **霜島正太郎**



當家は村有数の舊家にて先々代までは久右衛門氏を

襲名、名主の役を勤めたる家柄、先代久

右衛門氏(後改め久圓)は戸長、村會議員、郡會議員、縣會議員等に選ばれし人望あつき手腕家、八十一歳にて黄泉に旅立つた。翁はその男元治元年二月七日に生れ、神奈川師範學校を明治十九年に卒業し、約七年間教職を執つたが、志を立て、上京、濟生學舎に學び、卒業後は順天堂醫院その他に於て實地を究め、明治三十一年現地に醫院を開業今日に至る。その間村醫、校醫、警察醫等を嘱託され衛生功勞者として聞える。なほ長男久雄君は九州帝大醫科を出て小田原町に開業し、次男義君は九州帝大工科を出て奈良縣土木課に在勤、四男英雄君は日本醫大出身にて横濱市同愛病院に研究勤務中、女婿早川茂一氏は神奈川縣農工銀行頭取として知られ、次弟和田建兒氏は佐賀縣内務部長までつとめしも早世、三弟稻垣許四郎氏は現高座郡座間村長である。この親子兄弟そろつての出世振りは、今の世に稀少なることにして、珍らしがられてゐる。

玉川村七澤 七澤温泉

本温泉は海拔千三百米關東の靈地として知られた大山の東北に位し、寶永年間より藥湯場として知られた。文久年間浴



玉川館 (その名にふきはきし美館を讚ふ)

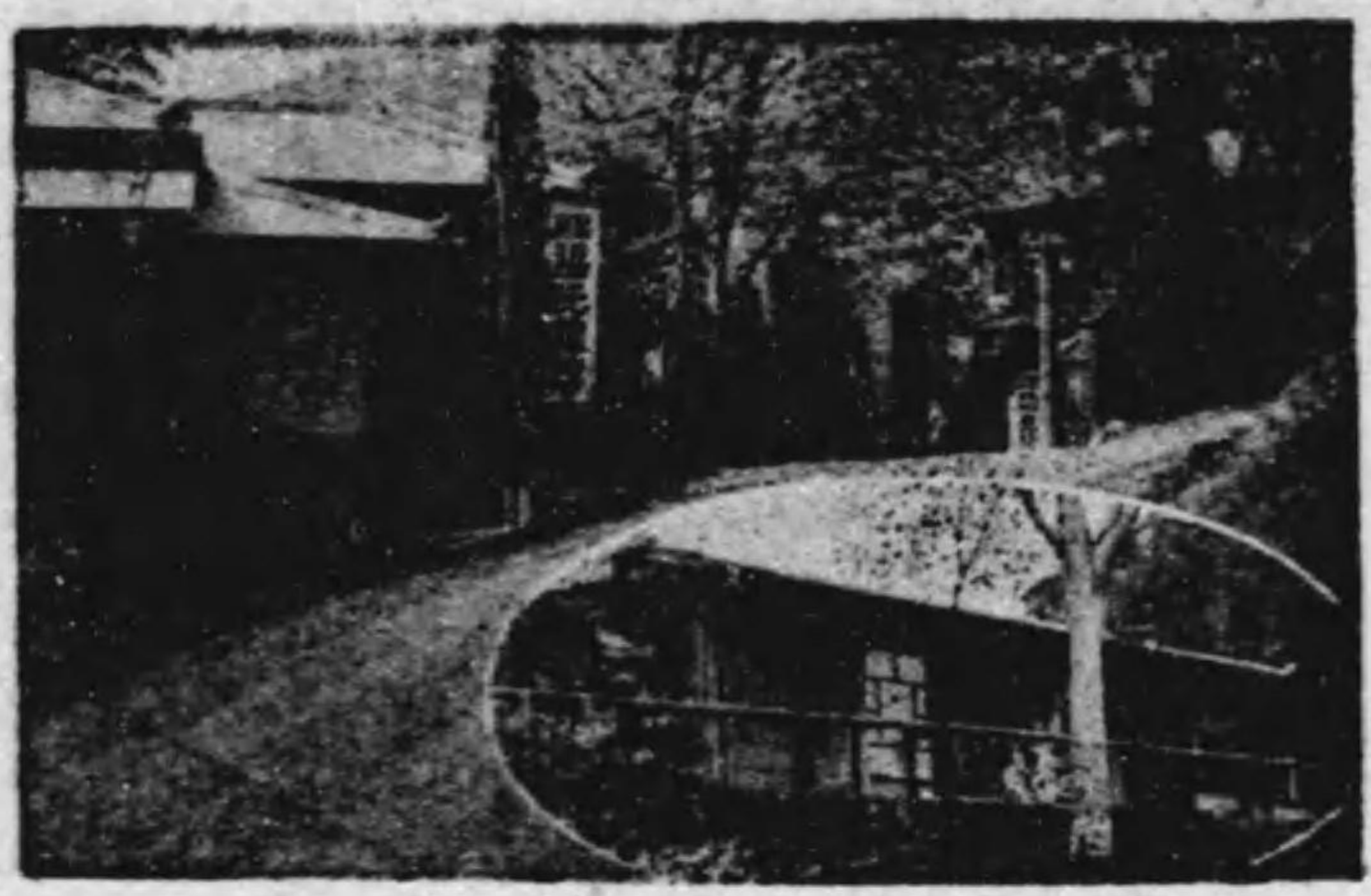
槽を設け、次で温泉宿となり、無色透明のアルカリ泉にして神経系統の諸疾患、疾病、婦人病、胃腸病に特效あり、徳川

時代から大山參詣の導者をはじめ遠くは甲府、八王子方面から湯治に来る者次第に多くなり、各旅館の質朴なる經營は時流に合し、現在元湯玉川館(電話二番)中湯中屋旅館(電話八番)と前湯福元館(電話六番)の三館あり小田急、乗合自動車等交通の便開くと共に、京濱方面の都人士に人氣を呼び、その殷盛を顯は



中屋旅館 (杖藜といつて郷に客もある)

れるに至つた。宿泊料は一泊一圓より三



元圃 (勝にか温泉情緒を満すに妙)

圓、滯在三食付一日一圓三十錢より三圓料理は定食の外顧客の好みによつて調理してゐる。

南毛利村戸室

元村會議員 安藤惣次郎

村治功勞者として全村の信望をあつめてゐる氏は、及川村にて名主をつとめた

る桐生金次郎氏の男として明治六年八月三日に呱呱をあげ、長じて安藤稻造氏の養子となつた。明治二十六年騎兵第一聯隊に入隊、日清戦争では勳八等を賜り、日露戦争に勳七等に昇叙されし忠勇の士村會議員、學務委員、常設委員農事實行組合長を歴任し、養實行組合長をつとめる人材である。因に安藤家は十代以上の舊家にて代々農を營みし家柄、現在長女に養子進氏を迎ひ、夫妻揃つて小學校に教鞭を執つてゐる。

南毛利村温水 元村會議員 吉岡新作

六百年からの舊家で代々農を營む吉岡家に明治十四年八月六日先代周吉氏の男として呱呱をあげた氏は、同三十四年第七師團歩兵第二十七聯隊に入營日露戦争には功により歩兵軍曹に昇進して勳七等を賜はり、凱旋除隊後村在郷軍人分會副會長を経て會長たること約七年、また消



吉岡家の人々

防組設立に參割して小頭をつとめ、常設委員を多年、學務委員、村會議員等を歴

任し、現在は専ら公職を退いて、神社並に寺院總代の閑職にあるも、本村自治史上に即せる輝やかしき足跡は永遠に人々の語り草となるであらう。長男勝君は平塚農學校卒業後歩兵四十九聯隊に一年志願し現に歩兵中尉にて滿洲に派遣されてゐる。なほ先代周吉氏は神社寺院總代、常務委員をつとめ、七十八歳で永眠せる

信望家である。

南毛利村温水

元小學校長 井萱利輔

教育者には珍らしい明潤達自在の人といはれる氏は、村有數舊家にして代々農を營む井萱家に故良助氏の次男として明治二十二年十二月一日を以て生を享けた。祖父の代までは治右衛門氏を襲名し名主をつとめ、祖父はその他村會議員、郡會議員に選ばれたる自治功勞者である氏は厚木中學校を経て神奈川師範學校二部を卒業、妻田村清水、南毛利、小鮎各校訓導を経て、大正十三年小鮎校長に榮進、次で南毛利校長に轉じ、昭和六年退職まで二十有余年間教壇に立ち、退職後は厚木中學校書記を拜命して今日に至つたものである。

浅間神社

當神社は木花咲耶姫命を祭神とし、往

昔津久井郡の一女性が富士登山の折、同

山浅間神社の分神を祀りたるものと傳へられる。數度祝融の災に遭ひながらも、御神體は氏子總代花家氏の勞によりて恙なく現存する。靈域には周圍三丈五尺に餘る櫛の古木があつて神社創建の古きを語つてゐるが、今はその遺蹟をとゞめるのみ。社殿は氏子の力により新築造營成り、近く村社に昇格されんとしてゐる。氏子總代にして神社に最も功勞多き花家伊代松氏の家は約三百年を経る舊家、代稼穡を業とし、氏は先考茂吉氏の長男として明治二十年に出生、常設委員、産業組合監事各十年、その他村内各種要職を歴任、現時村會議員に擧げられてゐる令息良雄君は郡内半原小學校に奉職中。

南毛利村船子

船子山慈眼院觀音寺

當寺の建立は人皇四十四代元正天皇の靈龜元年にして淨土宗に屬し、本尊は觀世音菩薩、開基は行基菩薩である。寺傳

に聖武太上帝勝滿法王より天正壬酉の

春三月中日當山へ觀音寺之額並に境内東西六百三十九足半南北九百六十二足七分を賜ひ佛供米料として田地千反山畑四百足四方を勅附されたりとあり、聖武天皇の勅願寺となつた古名刹である。本尊觀世音は諸厄消除の靈顯あらたかといはれ參詣者が多い。本寺は京都知恩院、本堂は二十五坪の堂宇、境内は百五十四坪を有し、寶物として本尊佛のほか十一面觀音、阿彌陀佛、閻魔大王等がある。檀徒總代は野原鬼一、古澤善作、野原重三、關善次郎の四氏。現住職市川大隆師は旗本青山左京大夫の末裔、明治三十九年四月八日の出生にて、大正大學高等師範部に學び、現時小鮎小學校訓導、同青年學校教師を兼ね、國文學を愛好し、史料文献多數を藏書する。

小鮎村下古澤

常榮山本照寺

當山は小田倉相模厚木驛より、七澤瀧

泉行バスに乗り、八ッ橋停留場下車、東約二丁の高地にある古刹、釋尊、日蓮上人、



須藤十界の肖像
住職 藤十界
職 本尊

し、古來眼病救護に靈驗ありとて有名である。長祿三年日朝上人相模弘通の砌、當村飯山眞言宗金剛寺に至り當時の住職高明阿闍梨常榮法印に面接、法華折伏の論戰に及んだ時、常榮法印敗戦、法華一乘の妙義に歸伏、決然名刹をすて、改宗弟子となつて學明院日祐と改稱、本門妙戒の授受があつた。後ち一字を建立、日朝上人を屈請、開堂供養をなし、常榮山本照寺と號し、以來相繼ぐこと三十六世現住職須藤眞薩師に及んだ。師は今、方面委員、地方改善委員、村愛國義會支部委員、管長直屬協議員等を現任、曾て村より自治功勞者として表彰されてゐる。

南毛利村愛甲

愛甲山寶積寺



井三郎の肖像
住職 井三郎
職 提寺

として著名である。柳山宗恕を以て開山となし、往昔は眞言宗であつたが、後曹洞宗に轉じたもので、本尊は大慈大悲の釋迦如來である。古來地方民の善男善女の信仰を集めること深く、當地有數の古刹にして名刹である。靈域九百坪に餘り清淨を極め、ひとりでに頭の下がる思ひがする。現住職井櫻義一師は改宗以來十九代目に當り、静岡縣濱名郡龍池村の人七歳の時僧籍に入り、厚木中學校を経て神奈川師範學校二部に學びし人、善哉小學校に奉職三ヶ年、次で中津小學校に一ヶ年、煤ヶ谷小學校に一ヶ年、玉川小學校に五ヶ年在職して現任校たる南毛利小

南毛利村戸室

龍興山淨雲寺

學校に轉じて十四ヶ年に及び、現時首座調導である。人格識見具備の名教育家といはれる。

當寺は曹洞宗に屬し、鶴見總持寺末である。本村第一の名刹にて、開基は旗本緒沿革の詳細を傳へざるも、相當由緒深き古刹たることは古老の口碑によるも推察し得べく、古來四隣善男女の參詣の跡を絶つことがなかつた。境内面積四反余り、一乘尼寺跡とおほしき古鏡など寺寶として保存される、現住職瀧澤義道師は當山第二十世、神奈川師範學校を大正五年に卒業、足柄下郡大窪小學校を振出しに愛甲郡厚木小學校、同清水小學校、同依知小學校を歴任し、教鞭を執つて第二の國民の養成に當ること二十ヶ年に及び昭和十一年教職を退き現在は方面委員として宗教的方面から社會事業に携つてゐる。生れは明治三十一年三月十六日。

津久井郡

申川村長竹

申川信用 販賣購 組合

販賣購 組合

本組合は保証責任組織にて昭和三年の設立に係り、當時五百七名の組合員を擁したが、一時不況のため脱退する者ありて三百七十名に減じ、現在では再び増加して四百五十名を算する。初め製糸事業に専念したが、業界不振の影響まぬかれ難く、あはや解散の憂目を見んとした際現村長にして組合長理事たる平本文平氏は私財を投じてこれが救済に當り、現組合長島崎丈之助氏を起用し、加ふるに専務理事佐藤米藏氏、榎本技術員、小室書記等を督勵し、購販利事業に一大改革をなし、殊に利用部の精製脱穀及び麵製造に鋭意全力を傾注せる結果、往年の負債

窮境時代は今や黒字時代に轉向した。組合長島崎氏は明治十三年十月十三日の生れにして村會議員、學務委員、村農會長等を永年勤続せる温厚篤實の信望家、遠く武田信玄時代より連綿として傳はる名門といはれ、現に方面委員を兼ねて活動してゐる。

中野町中野

中野町長代理 成瀬義治

廉直清白を以て鳴る氏は故國之輔氏長男にして明治二十四年十二月十八日の岳降、元神奈川縣會計課に勤続六ヶ年に及び、昭和五年九月より町助役に就任、町長缺員中の町政に町長代理として卓抜の手腕を揮ひ、全町民の尊敬の信任をあつめてゐる。なほ大正十二年四月中野町信

用組合を創設、恪勤精勵して優良組合たらしめた恩人、更に昭和十二年九月には保証責任中野町信販購利組合を起し、二百五十名の組合員を擁し、一般に不振を稱される郡内産業組合中にあつて、たゞ一つ當組合のみは氏の努力と人格と手腕とにより明日を期待されてゐる。現時町農會長、津久井郡聯合女子青年團長も兼ね、信頼日に日に高きを加へてゐる。因に當家は元盛んに織物業を営んだが、時代の變遷は漸次斯業界の不況を招來したので、近年に至つて業を轉じ、鋭意して農に従つてゐる。

千木良村

與瀨町外 高橋梅太郎

二ヶ村組合長 性恬淡、よく人を容れ、その任に當る徹頭徹尾献身的奉仕を吝まぬといふ氏であり、またすべて私心を狭まぬといふ氏は、明治十八年五月十日馬吉氏の長男に生れ、疾くより青年團長に擧げられて青年の指導に努め、後ち消防組頭、警署實

行組合長、農事實行組合長、學務委員、村會議員等各方面に亘つて足跡の到らぬ限なく、昭和六年より同十二年まで村助役として貢献し、同年四月組合全村より推されて組合長に就任、今日に至つてゐる。氏は騎兵上等兵、滿洲事變當時は北滿の地に出動、馬占山討伐に従つた勇士である。曾て神奈川縣より青年團長、消防組頭等の功に依り表彰された。當家は小田原北條氏當時よりの舊家、祖父文右衛門氏を當家中興の祖となしてゐる。父君馬吉氏は今、八十六歳の高齡を以て雙躰、曾ては村會議員、學務委員として盡瘁し、産業組合長として在任十五ヶ年、その功顯著大なるものがある。

井 村

吉野町外二ヶ村組合長 幡野順次

幡野家は約五百年間連綿として續いた舊家、農を本業となし、舊幕時代には組頭を勤めたほどの家柄であつた。先代佐

助氏は町村制施行前戸長代理を勤め、後ち書記として村役場に入り、その他村會議員たる四期、小作調停委員、横濱裁判所陪審員等多方面にわたつて寄與貢献するところがあつた。氏は明治十六年六月二日その長男に生れ、横須賀要塞砲兵として入營、滿期除隊後は家業に就き、他面青年團副團長を振り出しに養蠶實行組合長、消防組頭、吉野町會議員を二期、組合議員を二期勤めて手腕力量を認められ、昭和九年五月助役に推されて役場に入り、同十一年八月十二日當村組合長に推薦されて今日に至つてゐるが、就任以來日夜村治刷新のために盡力、著々業績を累ねてゐる。氏はまた養蠶實行組合長として表彰されてゐる。夫人千鳥子さんとの間に四男四女がある。

川尻村久保澤

村會議員 村田 齊次郎

當家は甲州武田家の家臣、今の地に来住して村田姓を起し、先代七郎衛門氏の

代までは代々組頭を勤めた名門家である當主はその長男、文久三年十月二十日の生れ、性温厚廉潔、公職に事業にと卓抜なる頭腦と、鬼才ある手腕とを指しみなく披瀝して活躍される人である。随つて氏の印する足跡には必ず實績顯著なるものがある。壯年當時は絹織物製造業を營み、事業界に頭角を現はしたるをはじめ明治三十八年以來現在まで内外物産株式會社川尻支店長、橋本合同運送株式會社取締役、株式會社城山ホテル監査役、株式會社久保澤旅館社長、津久井郡木炭同業組合理事等重要椅子を占め、業界の重鎮として活躍し、しかも勿忙閑日なきの身を以てさらに消防組頭、養蠶實行組合長、津久井郡養蠶組合副組合長、縣養蠶聯合會代議員、學務委員に選ばれ、就中村會議員の如きは前後二十有餘ヶ年に亘つて就任、村勢發展に絶大なる盡力を捧げるなど、文字通り多方面に枚擧に遑なき功績を飾つてゐる。曾て津久井郡木炭同業組合より表彰されてゐる。ウタ子夫

人との間に一男一女があり、長男大輔君は横須賀重砲兵上等兵、目下川尻村出荷組合長として活動盡力してゐる。

串川村青山

串川村長 平本文平

氏は舊青山村時代に代々名主をなせる名門の出にして明功二十三年八月十日の出生、實父齊一郎氏は初代村長に推されて明治二十五年まで勤続せる村治の功勞者、その間縣會議員をつとめ令名縣下に普ねく、また村會議員たること多年、大正三年縣當局より表彰された。氏は人格高潔にして手腕あり、村政全般に亘つて貢獻多く、本村をして今日の如く郡内唯一の隆盛村となせし殊勳者、産業に自治にその治績枚擧に遑なく、信望の厚きこと郡内村長中比肩するものがない。浦和高校に在學する長男文男君のほか二男五女あり、家庭頗る圓滿、なほ令妹やゑさんには多額納稅議員久保田惣右衛門氏の先代喜右衛門氏に嫁し、内助の功を擧げ、

喜右衛門氏は大正二年實業功勞者として綠綬褒章を下賜されし人である。

青野原村青野原

村會議員 關戸文平

氏は明治十五年十一月二十日、喜次郎氏の男に生れ、家業に精進すると共にまた村治に關與、水道創立以來部長として盡力すること七ヶ年、區長、氏子總代等に推されて貢獻する著大なるものがあつた。現在は二期目の村會議員として村政に盡瘁してゐる。なほ氏は消防組小頭を十二年四月、養蠶實行組合長を十五ヶ年、道路委員五ヶ年、農業評議員五ヶ年その他を勤めてゐる。また祖父五郎右衛門氏は八十六歳、父喜次郎氏は七十一歳共に健在、祖父氏は富士講の信者、毎年寒中三十日間は登山して修行し、富士講先達として富士に登山すること實に四十回に及んでゐる。父君は曾て區長に推されること三期、よく區のために盡力して部落民の信望厚く、尊敬を一身に集め

家には二男五女がある。

串川村青山

村會議員 武内品之助

鍊達堪能を以て鳴る氏は、明治二十六年十二月十九日の誕生、現に村會議員二期目をつとめるほか農事實行組合長を兼ね、稟性磊落剛放、小事に拘泥せず、村内の信望頗る高い。嚴父寅之助氏も村會議員に選出されしことある、望家である長男靖君は未だ幼少なるも長女ちよさんは八王子實踐高女に學び、現に東京市稲垣子爵家にて修業に餘念なく、次女あさは厚木高女在學中、その他三女として子さんほか四女、五女あり、令室ゆうさんは貞淑にして近隣の模範といはれる。

青野原村青野原

村會議員 井上仙吉

氏は明治十一年一月十六日日本郡青根村に生れ、後ち當家へ入籍したもので、大工職を本業となし、六人乃至十人の職人

を使用して盛んに活動してゐる。現に村



會議員として村政に與りつつあり、その他區長、養蠶組合長、綿羊組合長、養蠶組合評議員、道路委員、郡畜産組合議員、森林組合長、乳牛組合長などを兼ねて盡瘁してゐる氏は頗る人情味豊かな人、常に貧困救済等に力を致してゐる。

串川村長竹

村會議員 歌田忠晴



當家は八百年來の舊家に於て代々雲居寺檀徒總代を勤め、先代及び先々代共に村會議員に選

ばれ、殊に先代吉五郎氏は自治制施行當初の助役にて貢獻少なからざるものがある。氏はその男、明治二十年七月三日を以て呱呱をあげた。本村産業組合創設に際し私財を投じて盡力せる人、養蠶組合長、稻生乾燥組合長を多年勤続して表彰され、現時村會議員に當選活躍をつとめてゐる。昭和八年より製紙業を大々的に經營し、郡内並ぶものなき隆昌におもむいてゐる。令聞くに子さんは村會議員田島徳治氏の女、長男隆嗣君は實業學校を出て家業精勵中。

中野町荒川

郡畜産組合長 正八位勳六等

角田福三

人格高潔、識見卓抜を以て知られる氏は、その祖を九州なる藤原家に仰ぎ、武田信玄に討たれてこの地に移り住し、先代谷次郎氏まで代々名主をつとめた。氏は明治十一年一月二十七日の出生、東京帝大農科に學び、一年志願兵役を了るや

版郷して郡役所技術員となり、日露戰爭に出征參戰、功により正八位勳六等に叙された。凱旋後は郡立實業學校教諭、郡種畜場長を経て、明治四十四年年齒僅か三十四にして中野村外三ヶ村組合長に擁立され、敏腕を揮ふこと十ヶ年、中野町の設置成るや後進に途を開いた。また郡在郷軍人分會長、縣會議員、その他の要職にあり、現時頭書重職の外城山ホテル株式會社社長、津久井郡蠶種冷蔵株式會社社長に任じ、噴々たる名聲は縣下に普ねく、長男昌保君は麻布獸醫學校出身、現在園藝畜産を友に生活してゐる。

串川村青山

村會議員 佐藤謙次

新鋭俊敏の人材とうたはれる氏は、昭和二年明治大學商學部を優等で卒業し、家業に従事する中、その手腕と熱誠とを認められ、昭和十二年最高點を以て村會議員に選出され、部落振興會長、納稅組合長を兼ね未來を嚆望されてゐる。生れ

は明治三十八年二月十八日、尊父は八十餘歳にて意氣軒昂、村會議員その他の公職を多年勤続せる人望家にして、五十年前家業絹繅絲業を創始せる先覺者である。因に當家は内藤國藏氏、中村文藏氏、茅眞三氏等、名士との姻戚關係を有つ名門である。

中野町中野

岡崎醫院長 岡崎 秀輔

電話中野五番



方技卓

拔、一度

刀圭を執

れば如何

なる難疾

痼患をも

治せざるなしと稱される氏は、山口縣萩市の産、明治十四年三月六日を以て呱呱をあげた。夙に仁術を以て世に立たんことを志し、明治二十年笈を負ふて上京、日本醫科大學の前身校に學び、卒業後は暫

く東京に在つて開業したが、大正十三年十一月現在の中野町に醫院を開き、圓滿な人格と卓越せる技術と兩々相俟つて日毎に隆盛を加へ今日に至つた。しかもこの間郡醫師會役員に推されて醫政に貢献するところ甚大であつた。夫人ヤソ子さんとの間には四男五女を有す。書道に興味を有し、造詣深く雄徑の麗筆はその號秀雲の名と共に近郷に著聞する。

申川村並尾根

村會議員 柿澤 勝治

壯年時代十有餘年を村吏員として精勵し、自治制に精通せる氏は明治九年七月二十四日の出生、村會議員、學務委員に當選二回、更に産業組合創立以來の理事として献策寄與するところ多く、信望全村に普ねく、檀徒總代、赤十字社員、海員救濟會員等も兼ねる。長男亮君は明治三十六年生れ、農事、養蠶各實行組合長經濟更生會長、軍人後援會長等を兼任し將來を囑望されてゐる。なほ先代勝右衛



郷軍の

精華とも

いふべき

氏は、大

正十一年

兵にして

千葉鐵道聯隊の模範兵、除隊後青年團長を勤め、昭和五年先輩を擡んで在郷軍人分會副班長に推され、次で班長並に分會評議員に任じ、昭和九年には在郷軍人會甲府支部よりその功を表彰され、同十二年一月分會長に就任を見、今や本村分會は郡内屈指の優良分會と稱され、往年赤字勝なりし經理の如きも大に潤澤となり既に貯金百五十餘圓を有するに至り、支那事變に際しては特に活躍著るしきもの

がある。なほ氏は消防組に關與貢獻十年に及ぶ。家業は建具家具の製造、生れは明治三十五年六月十三日、令聞かくさんとの間に悦次君、義雄君、長年君の令息がある。

申川村長竹

教育功勞者 大内 寛壽



氏は明

治八年一

月十三日

の岳降、

同二十九

年神奈川

尋常師範學校卒業、申川村第二小學校に奉職、爾來營々努力専ら育英のために盡瘁し、同三十七年同校長に榮進、昭和三年まで實に三十有三年間たゞ一校に止り何千人からか慈父と仰がれし外郡教育會郡女子聯合青年團長として活躍し、昭和二年功により從七位勳八等を賜り、翌三年奉任官を以て待遇された。實に氏の如

きは稀に見る教育功勞者として郡内にもその右に出づるものはない。令聞とめ子さんは愛甲郡愛川村の舊家内藤清藏氏の令姉、氏の今日の榮譽を擔はしむるに内助の功頗る多い。長男義雄君は明治三十六年生れ、近衛歩兵聯隊に屬し、北支に出征中である。他に子女八名あり、圓滿を極める。

千木 良村

檀家總代 石井 彦三



當家は

約三百年

來の舊家

來太の銘

ある鎌倉

時代の長

刀一振を家寶となして歴代傳へて來た。氏は文久二年の八月、彦七氏の長男としてこの名家に生れ、村會議員として村治に寄與貢獻する多大なるものがあるばかりでなく、代々善勝寺檀家總代に推され

自ら財を投じて寺院の改築、修理等は勿論、殊に昭和十二年三月前任職根岸通磨師遷化の後をうけ、本寺負債整理に與り私財二百二十有餘圓を據出するなど、なみくならぬ奉仕をしてゐる。父君彦七氏もまた、永年世話役をなし、曾て一丈二尺三寸の青銅の燈籠一對を寄附したが今は當山寶物中の一つに加へられてゐる。因に當山は古くから相模七ヶ寺の一つに數へられ歴史ある古刹である。

川尻村久保澤

萬壽山大正寺

當山は古く眞言宗に屬し、相模七ヶ寺の一つに數へられた知名のもの、元祿元年北條早雲齋によつて開基され、春林法師を開山となし、釋迦如來を本尊として今日に至つてゐる。往昔本村字春林に當山の末春林寺なるものがあり、當時當山を井泉寺と號してゐたが、大正元年、この二ヶ寺は開山、開基とも同一であつたところから、本末關係をすて、合併し今

の名に改めたものである。現任職岡源明師は井伊家十六代の後裔岡求馬守藤原康輔氏を開祖となした甲州出身、本家は歴代土地の名主を命ぜられた名門家、父君源鶴師に至つて出家したもの、當主は東洋大學の前身京北中學校卒業後、出家得道、現在に及んでゐる。

串川村青山
金徳山光明寺



師榮謙邊茂

當 寺は 建久 年間 大耕 行勇

和尚の開創に係り、文永年間大覺禪師留錫以來禪宗に改め、正中二年夢窓國師により寺法制度を定めたる由緒あるも、三増合戦の際兵變にかゝりたるにより、津久井領主これを再建、開山を夢窓國師とした。俊史和尚を中興の祖とし、徳川家

より莢章を許されたる郡内屈指の名刹にして、末寺十三を數へ、本堂、書院、山門、鐘樓、庫裡のほか土藏二棟を有し、境内一千五百坪、眺望頗る絶佳である。寶物多く、古文書五十五通、公文三十五通、狩野守景筆十六羅漢像墨繪十六幅、開山夢窓國師畫像等は何れも稀有の逸物にて、最も國寶的價値ありといはれる。總代は平本文平、佐藤由藏、荒井好彦の三氏、現任職渡邊謙榮師は明治二十五年七月の岳降にて當山第十九世、大正十三年日本大學宗教科を出て十數年間建長寺にあり、執事に擧げられし大知である。

串川村青山

在郷軍人會 郡聯合會長 **平本 定次郎**

氏は明治三十九年四月一日生れの大正五年兵、同八年甲府聯隊より朝鮮に派遣され、更に成績優良の故を以て翌九年第十九師團海軍に駐屯し、昭和七年歩兵准尉に榮進、除隊直ちに串川村郷軍分會長に推された。當時分會の志氣一向に振は



少識者の憂ふるところとなつてゐたが、氏は極力これ

が刷新向上に與り、甲府郷軍支部より表彰され、次で津久井郡聯合分會長に選ばれて今日に至つてゐる。なほ氏は現に部落振興會書記、養蠶實行組合長等を兼任専念盡力してゐる。

島 屋 村
村長 **天野 康雄**

本村役場は大正震災後に改築新装した郡内屈指の建物で、設備また完全、信用組合、森林組合等の事務所を兼ねてゐる村長天野康雄氏は、實に元代議士天野藤三氏の令孫であり、また尾崎行雄氏の令妹を母堂に有つなどその他よき環境と巨財に恵まれた壯年の士、その未來に大なる期待をかけられてゐる。

島 屋 村

助 役 **新井 軍兵**

本村役場助役新井軍兵氏は殆んど役場事務の一切を引受けて大正十四年就任以來、収入役並に書記等と共に精勵躍進、本村をして今日の地歩を占め得せしめたもの、全く氏に負ふところ多大なるものがある。

青野原村青野原
村會議員 **尾崎八郎左衛門**
元村長

當家は村内唯一の名望家、代々八郎左衛門氏を襲名、先々代並に先代共に村長に推され、また共に郡會議員に選ばれて令名を博してゐる。當主はその男、明治十三年五月十四日の生れ、昭和四年八月より同九年一月まで村長の要職に在り、その間本村貫通道路完成の歴史的大事業に與つてゐる。現在は村會議員であり、燒山施業森林組合長でもあり、活動奔走を續けてゐる。なほ子夫人は高座郡麻溝

村の名村長福田東助氏の令妹で二男三女があり、目下東京府下稻田登戸に居をトして子女教養に専念してゐる。長男恒雄君は京華中學、青山學院、國學院大學を出て現に神奈川縣立工業學校に奉職、豫備少尉である。また次男格次君は京華中學を経て慶應醫大に學んで卒業、目下母校病院に實地研究中である。

青野原村長野

青野原郵便局

當郵便局は三等局、青野原及び青根の二ヶ村一圓を區域となし、昭和九年八月十一日初めて事務を開始したもので、開始以來順調なる進展を遂げ、更に同十二年十二月一日より電信電話事務を取扱ふに至つて一層の便宜を與へ、通信距離を縮少せしめてゐる。現局長は村内に於ける有力者として知られてゐる山口悦藏氏長男源藏氏であるが、氏の熱心なる精勵努力の結果が當郵便局今日を招來せしめたものである。思ふに通信機關の頗

る不便なる當地方に、燦たる光明をあたへたるは、全く當郵便局事務取扱開始にある。

青根村荒井

村 長 **關口 倉市**

耕地少なく、交通に恵まれず、文字通りの寒村僻地の青根村に、太陽の如く光明をあたへ、村民を更生に奮ひ立たせた人こそ忍苦の權化そのもの、如き氏である。氏は明治十年五月八日の生れにして推されて村長に歴任すること四期、その間汗と涙に村更生のため、ひたすら邁進し、交通に産業に教育に一つとして氏の尊き血の注がれぬものはない。眞に挺身民利村福に貢獻しつゝある。その功績は讃へつべきである。なほ氏は二十ヶ年以て國稅を完納して表彰されてゐる、氏あつて村は明るくなる。

青野原村前戸

村會議員 **高橋 茂市**
勳八等

氏は明治十五年九月二十三日の出生、日露の役時黒木第一軍の近衛歩兵として出征、功に依つて勳八等を賜はつた。除隊後、在郷軍人幹部となり、また若くして村會議員に推された人望家である。昭和九年の青野原消防組改組時にはその組頭となり、現に村會議員でもある。長男保治君は十八歳、相原農學校在學中、また長女秀子さんは東京府第四高女を出てから、進んで大妻高等技藝學校に特技を修め、現に三澤村小學校教員として奉職中である。

青根村 上野田

元郡會議員 井上古六



の次男、文久二年三月十四日の出生、小

氏は土地の豪農名主として知られ

た山口六郎兵衛氏

田原師範學校を卒業して疾くも郷黨切つての俊才として聞え、郡制開始初代の郡會議員に選ばれて令名さくさくたるものがあつた。後ち政界を去つて家督を長男守一君にゆづり、自ら雜貨商を営んで餘生を送つてゐる。なほ四男源三郎君は大阪醫大出の醫學博士、今、靜岡市に病院を開設、五男忠次郎君は牧野村加藤家を繼ぎ、青根電燈所を經營してゐる。

鳥屋村 大上

元收入役 故萩原藤吉



藤吉氏を推すことは何人もが肯定するところであらう。氏は實に十三年間を本村收入役として精勵、しかもその熱誠は比類なしである。また村會議員たる四十年

本村大上部落に於ける至大の村治功勞者として萩原

初代消防組頭として十年間、その他あらゆる公職に關與、東陽寺檀家總代としての六十年間の勤續に至つては全く他に比ぶものなく、特に建長寺管長よりその功を賞せられ、戒名(實相院萩原藤吉、無相院同キク)を受けた。晩年不幸にして病臥、久しきにわたつて苦患のかすくを受けしたが、夫人キク子さんの看護良きを得て七十八歳の高齡を保ち、昭和十一年十一月二十五日、天、壽を假さずして他界した。あゝ惜しみてもなほ餘りありといふべしである。「死して名を残す」とは本村名望家天野村長が常に氏を勵まし、一面また夫人を慰めた切々たる言葉である。因にキク子未亡人は今はなきわが夫君の靈に供ふべく、その一周忌に際し進んで本社この舉に賛したものの、その行やまことに美しい哉。

青野原村 西野々

村會議員 山口福喜

昭和十二年一月十七日の愛甲郡中津原

に於ける縣下二十九支部の各精銳約一百名を集め、異常なる緊張裡に開催された聯合實獵競技會はまことに凄絶そのものなりといはれたが、その時の審判長こそは我が山口福喜氏で、これを見ても氏の神技比類なきを知ることが出来る。氏は明治三十二年九月二十八日、先代代助氏の長男に生れ、製材所經營の外に建築請負業に従事、内郷村役場等は氏の手に成つたものと云ふ。現に村會議員に進出その他郡下聯合漁業組合理事、青野原養漁並に漁業組合長を兼ねて鋭意盡瘁してゐる。

鳥屋村 荒川

村會議員 早戸掌司

早戸家は當村最端溪谷早戸川に面した山腹に所在し、往古より僅かに隣家と共に千二百年の歴史を傳へる舊家といはれ凡そ五百年前より荒川部落方面と交通を開始したといふ僻遠の地にありながら、先々代丑太郎氏は大志を抱いて愛甲郡平

原に下り、製材業を創して終に大成し、大正七年頗る好況時の最頂點に在つて、斷然その盛業中を他人に譲り、今日の巨財を蓄ふるに至つたことは、常庸凡人の遠く企及し得ざるところとして成功を謳歌されてゐる。先代常吉氏は病弱世を早めたので、當主章司氏、祖父氏の遺産を守り、他面家業たる農林業に勵み、明治四十年七月二十五日生れの若さを以て村會議員、産業組合、森林組合、養蠶及び農事實行組合等の理事として盡力、懸命の努力を拂つてゐる。氏は議員中最年少者ではあるが、信望極めて厚く、その明日を囑望されてゐる。かつ子夫人との間に四男三女がある。因に父君常吉氏は日露戦争に従軍、勳八等に敘し、祖父丑太郎氏は村會議員その他の公職を歴任、村治産業開發上に絶大なる貢献をなして、その功を稱へられてゐる。

青野原村 長野

村會議員 松田智道

當家は松田左衛門尉頼秀の末裔、重代龍泉寺の住職だつたが、先代董倫氏の代に村役場に入り、書記として村政に與つた。當主はその長男として明治二十三年五月十日に岳降、同四十四年の神奈川師範出身、後ち同郡川尻村小學校教員となり、大正八年佐野川小學校長に榮轉、多年育英のことに盡瘁して退職、即ち村會議員、學務委員、産業組合、森林組合理事として肝んに活躍貢獻してゐる。頭腦明徹、理路整然、公平無私を以て村治方面に進出。

青根村 平丸

元村會議員 關戸豊作

氏は夙に村内有力者として聞えた五郎左衛門氏の男、明治十一年十一月三日の生れ、同三十一年歩兵第一聯隊に入營、日露の役時第一軍に参加、二〇三高地、金州、普蘭店の戦に勇名を轟し勳八等功七級を賜はつた。後ち初代在郷軍人分會長、村會議員等に擧げられて盡瘁し、ま

た長昌寺檀家總代として轉旋してゐる。なほ長男雄一郎君は養蠶實行組合長として活躍し、次男芳郎君は上等兵出身、今警視廳消防署に勤めてゐる。

鳥屋村御家敷

村會議員 天野 又次郎

濃厚篤實にして村内部落民の信望を一身に集めてゐる氏は、妻藏氏の男として明治十九年十二月二十日に生れた。當家は村内天野姓の宗家であり、また村内名士に近類縁者多く、鳥屋村に於ける天野家は絶對なるもので、父祖氏等よく村政に盡すところ多く、當主の代に至つてもなほ舊に倍するの村治績を擧げてゐる。現に三期目の村會議員であり、學務委員二期、區長二期、農會總代二期、氏子總代一期、消防小頭一期等全く村發展のために盡すところ非常に大なるものがあり村民一同の信望の厚き所以が察知される家族には長男良一君(二四) 次男芳治君(一九)以下二男三女があり、圓滿なる家

庭にして、當家の幸福は日に増して加はつてゆくばかりである。

青野原村青野原

村會議員 井上 和龜

青野原消防組がまだ東西の二部に分れてゐた當時、東部組頭として肝んに活躍その實績を擧げしめたのは實に氏であつたが、その功酬ひられて昭和五年表彰された。消防に關與すること三十年、現在は四期目の村會議員として村政に貢獻しまた産業道路開發のためには多くの同志と共に萬難を排して所志を貫徹してゐる當家は祖父次左衛門氏、父君千代造氏、何れも區長等に擧げられて盡瘁、都落に重きをなしてゐる家柄である。

鳥屋村宮ノ前

村會議員 菱山 民藏

純朴にして義侠心に富み、弱きを扶け強きを挫く氏は明治十四年十二月五日の出生、既に二期前の村會議員に推され、

また消防小頭を十年、區長を二期、檀家總代を二期、その他同村養蠶組合聯合會長、郡内同組合評議員等に擧げられ、寢食を忘れて奔命し、なほ嘗て馬の輸送組合を作り、村産業のため盡すところ少ない。今期即ち昭和十二年の村會議員改選には最高點を以て當選してゐる。それを以て見ても氏の如何に人望に厚きか分るであらう。先にも言ひし如く、義侠心そのものゝ如き氏は、自から進んで常に他人の子弟を養育し、現に煤ヶ谷村出身工兵曹長山口定雄氏、また串川村井上通作氏の如きも、十年來同氏の薫陶を受けたもので、今更の如く烈々たる氏の義侠心には驚かされる。

青野原村青野原

學務委員 井上 大助

氏は先代治左衛門氏の後をうけて幼少時より頗る聰明を以て聞え、夙に國漢學に通じて小學校教員の免許狀を得、齡二十に滿たずして教壇に立ち、爾來、育英事

業に一身を投ずること實に三十年、幾多の功績を残し、五十八歳、同村小學校長を最後に、教育界を去つた。大正五年一村の推薦によつて村長に就任、村自治と産業の開發に専念貢獻し、殊に寺入澤道路改修には寢食を忘れて奔命した。後ち村會議員、學務委員等に選ばれ、現に學務委員中の最年長者として村史編纂に餘念がない。なほ長男鎮男君は神奈川師範出身、山北小學校長を、次男治郎君また師範出の川崎市玉泉小學校長を、何れも拜命勤務中である。因に當家は數百年來の舊家、口止メ關所趾前にある歴史的由緒の深い家柄である。

鳥屋村大上

元村會議員 平本 初太郎

當家は寛文以來の舊家、幕政當時には代々名主を命ぜられて土地開發等に多大の貢獻をなして來た。氏は明治十四年一月一日の出生、後ち同家先代善吉氏に望まれて入籍したもので頭腦頗る明晰、す

ぐれたる手腕を以て村治に働きかけ、即ち村會議員たること前後四期、道路委員また四期、學務委員一期、區長二期、農總代、消防小頭、氏子總代として盡力すること多年、今もなほその功績を稱へられてゐる。夫人みづ子さんは貞淑温良な人、長男高市君は消防小頭を現任、次男武治君は内務省畑に、三男博君は海軍省關係にそれ〴〵勤務し、四男壽之助君は家業に精進してゐる。なほ外に四女子がある。

青野原村前戸

元村會議員 杉本 榮吉

氏は本村の自治功勞者として昭和十二年一月一日表彰された唯一人者にして實に村會議員連續四期、學務委員四期、道路委員二期、養蠶實行組合長二期、青野原村外二ヶ村山林組合委員三期等に擧げられてゐる。實直勤勉、公正にして私心なく、今は悠々老後を楽しんでゐる。長男宗平君は騎兵伍長、目下家業に精勵

次男忠治君は海軍一等水兵、また三男助次君は縣師範出身、現に片瀨小學校訓導として奉職中である。

青野原村長野

農事實行 山崎 三重松

當家先代嘉市氏は村會議員として盡力貢獻した人、氏はその衣鉢を襲いで同じく村會議員として寄與するところがあつた。現在は二期目の農事實行組合長として専心活躍してゐる。氏は明治二十七年正月三日の出生、故に三重松氏と命名したのだといふ。やえ子夫人は當村長野の元村會議員にして永年區長をつとめた高木仁太郎氏の息女、間に三男三女があり家庭頗る圓滿。

愛甲郡中津村

中津尋高 平本 善國
小學校長

株式會社 神奈川縣農工銀行

取締役頭取 早川 茂一

本店 横浜市

株式會社 内外通信社

取締役社長 佐藤 和喬

本社 東京市

静岡市

静岡市 追手町

静岡師範學校

當校は明治八年の創立、同二十八年より數年にわたり校地を城内に移して建築を新にし、これを現校舎とする。明治四十三、四年並に大正十四、五年の交、増築をなした。開校當初に於ては課程を小學師範科と稱した。現在は第一部五學級第二部四學級、專攻科二學級の編成とし生徒總數二百八十名である。明治十一年十一月四日 明治天皇本校に臨幸し給ひ生徒の物理實驗、作文その他の成績を觀賞せられ、昭和五年五月二十八日また 聖上陛下臨御せし、本校生徒及び附屬小學校兒童の實地授業を觀はせ給ふた。現在職員五十名、歴代校長は江原素六、日原昌造、蜂屋定憲、山田大夢氏等はか十四氏にして、現校長加藤寛亮氏

は昭和十年三月の就任である。

静岡市 吳服町五丁目

静岡實業協會

電話二二六二番

當會は大正十三年三月静岡市商工課が本市實業界の氣分振興を期し、商工課研究講座を開催されしを期として組織された。商工都市としての大静岡建設の使命を負ふ本市商工業者は確固たる信念と内容の充實とによつて理想の實現に努力しなければならぬがその目的を達成するためには、店舗工場管理經營に洽く科學の力と實際的研究をなし、合理的且つ能率的にしなければならぬ。本協會はこれら諸般の事項を秩序的に研究し、その指導機關たると共に實行に移してわが静岡實業界の一大活躍を促しつゝあり創立以來實行せる事業は一々枚舉に遑がなく、いづれもそれぞれの効果を收めてゐる。現理事は谷田庄兵衛氏、副理事長は松下孝平氏、常任理事は西村重吉氏ほか八氏である。

静岡市 江川町

静岡縣信用組合聯合會

電話一二五四番

當聯合會は縣下信用組合を會員に大正元年を以て設立され、保證責任組織である。現在所屬組合四百十五、出資二千三百餘口(一口二十圓)にして、最近の事業狀況を見るに次の如くである

準備積立金 十三萬二千四百圓
借入金 七百八十五萬二千六百圓
餘裕金 五百九十二萬四百餘圓
貸出金 三百十三萬四百餘圓
貯金 千四十九萬六百圓

初代会長は仁田大八郎氏、二代目渡邊信行氏、三代目山本憲治氏を経て、現會長は森田豊壽氏がその任にあり、副會長は川島直次郎氏である。

静岡市 北番町

静岡市茶業組合

當組合は初め静岡茶業組合と稱し安倍有度兩郡を區域としたが、後、有度、安

倍郡茶業組合と改め、明治二十二年市制施行と同時に静岡市茶業組合となつて今日に至つた。取締検査、生産指導等事業頗る多忙を極め、また技術員指導員を派遣して製茶傳習所を諸所に開設し、實地指導に當り、一部落以上を開墾區域とする生産改良事業施行を奨励し、品評會または製茶競技會を開催すること年々約二十回に及ぶ。その他實行組合へ補助金交付茶樹品種改良、自園自製の奨励、紅茶座談會、各種調査等を行つてゐる。歴代組合長は尾崎伊兵衛、上田榮吉の兩氏、現組合長は尾崎元次郎氏にして副組合長は杉山鐵藏氏、書記長は元安西郵便局長伊藤二氏である。

静岡市追手町教育會館内

静岡縣 教育會

静岡縣教育會は明治二十一年一月の創立に係り、當時は私立にて事務所を静岡市三番町に置いた。その後静岡縣小學校教員會、私立静岡縣聯合教育會、静岡縣

教育等協會と名稱を變更、大正三年四月静岡縣教育會となり、事務所を縣廳内に置いた。大正十二年六月學制發布五十周年記念事業として教育會館建設の議案を樹て、工費四萬六千餘圓を以て同十五年竣工を見、事務所をここに移した。昭和四年には更に四ヶ年繼續事業として工費一萬九千八百餘圓を據出して増改築を行ひ、同六年十月名稱を社團法人静岡縣教育會と改めて今日に至る。郡市教育會十七、教育團體百四十三、會員九千二百六十八人を以て組織され、大正二年三月には成績見るべきものある廉により時の文部大臣より金百圓を賞與された。

静岡市 北番町

静岡倉庫株式會社

當社は明治四十四年の創立に係り、建物貸付のみを事業としたが、大正十一年から倉庫業をはじめ金銭貸付もなし、今は再び建物の貸付と保管を専ら經營し、保管物の主なるものは茶である。資本金

十五萬圓、この株式總數三千株（一株五十圓）にて株主九名である。初代社長石垣長右衛門氏、二代目内藤傳太氏、經て三代目現社長は田中貞二氏である。現常務取締役上野一男氏は明治四年の岳降、岐阜縣武儀郡の人で、明治二十六年愛知縣巡查を拜命し、巡查部長、警部補、警部と累次昇進、名古屋市内各署の司法主任、富岡、新城、布袋等各署長をつとめ、大正九年内藤傳六氏經營の駿遠電鐵の經營課長に招かれて來靜し、同十一年當社常務取締役となつて今日に至れる煉院家である。

静岡市 北番町

日本茶直輸出組合

當組合は昭和五年七月の設立に係り直ちに業務を開始したが、正式に認可せられたるは翌六年七月にして、當時はロシヤ方面との取引ありしのみにて、同七年から北アフリカ、インドと順次販路を廣め、現在ではロシヤを中心にアメリカ、

加奈陀等が主要販路となつてゐる。組合員百餘名を有す。昭和十年度中の事業大要を見るに、ソツイエト聯邦の百六十一萬封度を筆頭に、米加兩國、印度アマガニスタン、近東諸國、アフリカ諸國、歐羅巴、その他に合計三百五十一萬封度餘を買取輸出し、海外特約店と聯絡をとり實物の無難配付による宣傳をはじめ、常に販路の擴張に努力し近年特に歐羅巴に新販路を得たるは注目に價する。初代理事長は杉山鐵藏氏、現理事長は中村圓一郎氏にして、副組合長は三橋四郎次、杉山鐵藏、宮本雄一郎の三氏である。

静岡市 日出町

トモエ商會

當商會は大正十五年三月に創立せられたる株式會社にて、當時資本金七萬五千圓、その後昭和十年十二月十萬圓に増資し今日に至る。自動車の販賣取次並に各種サービス、部分品の販賣を業とし、販賣數量及び利益は年々増大しつゝあり、

最近自動車業者は一般的に見るガソリンの値上げ等にて不況に苦しめるも、當社は先づ順當の成績を収め、官廳、バス會社方面より多大の期待をかけられたるシボレー低床式シャシーも發賣を見、充分國産者に對抗することを得べく、今後の成績も一歩々々健實に發展するものと信ぜられる。現社長増井慶太郎氏は、現在市會議員、市信用組合理事、静岡自動車會社取締役その他を兼任する有力者である。

静岡市 紺屋町

静岡委託株式會社

當社は明治二十三年十月の創立にて、當時資本金三萬圓、その後六萬圓に増資し、更に十五萬圓に増額して、事業の進展日に月に盛大を極め、昭和七年遂に資本金三十萬圓となし今日に至つた。一株五十圓、株主九十五名である。會では倉庫業、運送業、銀行業を兼營したが、現在倉庫業のみを專らに營み、主なる取

扱品は米、雜穀、肥料等で、毎期銷却金の累積と營業諸經費の節約により漸次良好の度を高めてゐる。初代社長は山本善吉氏にして、二代目宮崎友太郎氏、三代目山本堅吉氏をして、現社長宮崎宇兵衛氏は四代目、なほ常務取締役は手腕家として謳はれる山梨武四郎氏である。

静岡市 追手町

静岡縣茶業聯合會議所

電話二二番

當聯合會議所は、賀茂、田方、駿東沼津、富士、庵原清水、安倍、静岡、志太、榛原、小笠、周智、磐田南部、磐田北部、濱名、濱松、引佐の各郡市茶業組合と静岡縣再製茶業組合並に静岡縣製茶業組合との十七組合を構成分子とし、明治十七年茶業取締所規約の制定に發祥し、同二十年現名稱を以て設立された。爾來不斷に當業者の指針となり、勸奨誘掖の任に當り、検査取締に、生産改良に、販路擴張に幾多の施設事業をなして來た。現在

役員は、會頭山口忠五郎氏、副會頭原崎源作、理事宮本雄一郎氏、會計監督宮澤安太郎氏にして、職員は主事一、技師一、書記三、技手三、囃子二である。年經費は昭和十年度に於て二十三萬八千圓を算した。

静岡市用宗

用宗 漁業株式會社

電話 三番

當社は大正七年資本金十萬圓を以て設立され、後、増資して現在倍の二十萬圓である。一株五十圓づゝにて、株主總數二百五十名、漁業、魚市場經營、漁業者の物資供給、その他遠洋漁業に附随する一切の業務を行ひ、成績顯著なるものがある。初代社長前田善一郎氏は村會議員、村助役、村長、郡會議員、縣會議員、郡水産會長、長田商事株式會社社長等を歴任せる逸材にて、年齒古稀を越え、自治水産の功勞者として曩に觀櫻會に御召しの光榮に浴した。二代目現在社長前田



欽平氏は、日露戦争出征の勇士にて勳八等の拜受者、村會議員たりしことあり、現時當

社長のほか信用組合理事、用宗漁業組合長、區長、靜岡食品會社監査役、長田商事

事會社長等を兼ね、家業は肥料海産物商である。明治十六年の出生、太腹の人で用宗の第一人者といはれる。活動家としての氏は、今が男の働き盛りであり、氏の行く所十目その後を趁ふと云つた有様で今後の活動は大いに刮目すべきものがある。なほ専務取締役は大高圭三郎氏、

長田商事株式會社

電話 五番

當會社は昭和四年丸魚及び丸田の二社が合同して長田商事となりしものにて、當初資本金二十萬圓であつたが、時代の動きにつれ減資して目下十二萬五千圓である。運送業を營み、經營方針は堅實を以て旨とする。初代社長は前田善一郎氏にして現社長は二代目に當り前田欽平氏である。常務取締役前田善兵衛氏は前社長の長男にして現在産業組合理事、漁業組合監事、遠洋漁業株式會社取締役等を兼任し、手腕あり力量あり加ふるに人格高き人として信望をあつめてゐる。なほその他取締役四名、監査役四名の重役がある。

静岡市麻機有永

勳八等、後備歩兵 古谷三郎 少尉、消防部長

古谷家は元祿時代より現地に住居する舊家にして、氏は明治二十四年四月十七

静岡市駒形通り

御嶽教 神聖教會

神聖

當教會は大正十三年十月東京市品川區西大崎御嶽教本廳より分教静岡教會として創立された。抑々御嶽教は安政年間御嶽行者により稱道せられ廣く世に識られて明治初年頃より宗教として認められしものにて、祭神は國常立命、大己貴命、少名彦名命、天御中主神、高産靈神、神

産靈神 歴代御皇靈、産土神にして信仰に

治の病者皆快癒するもの頗る多く、七百餘名の信徒を有し、現今の教會場は昭和三年建造なるものである。一月二十八日及び九月二十八日の二回に春秋大靈祭を行ふ。教會長鴨狩重次郎氏は明治四年



（合併 前の）

青年の氣風を堅實ならしめ、華美を戒めよく和合して各自業に勵ましめ、同村の今日の如き質實な氣風の漲れるは氏が指導に努めたる結果にほかならない。令兄郡二郎氏は日露戦役に出征、首山堡の激戦に参加して名譽の戦死を遂げて功七級を賜り、次弟啓次氏は現役海軍中佐、令息哲之輔氏は歩兵三十四聯隊に勤務中、他に家庭には二男三女がある。



より不

十一月二日の出生、安倍那梅ヶ島村の産にして當教會創立者、御嶽中教正の資格を有し、信徒の信任が厚い。

静岡時計商組合

静岡市吳服町四丁目

當組合は明治年間静岡時計貴金屬商組合として創設され、昭和三年現名稱に變更した。科學時代の新しい職業として、飛躍的發展をなした、ありし同業界の團結と福祉増進につとめ、最近役員並に業界有志の計ひにより静岡時計商組合聯合會が組織された。現組合長は海野時計店主海野喜作である。氏は組合創立に際しては一方ならず盡力し、設立後一意組合の擴充發達につとめ、業界の大恩人と呼ばれてゐる。氏の努力を知るに及んで吾人はますます時を尊び時間を守らねばならぬことを痛切に感じさせられる。

静岡市 兩替町

静岡共同金庫

電話 二五六二番

當倉庫は有限責任信用組合静岡共同金

倉と稱し、組合員千六百餘名を算し、地方財界の情勢と組合員の事業資金の消長對比を考察し擴充五ヶ年計畫の達成に邁進しつゝあり、貯金は約二千口、二十六萬圓、貸付は八百四十件、二十五萬八千餘圓を算し、固定貸付の整理に専念し、堅實なる進展を見てゐる。現組合長は松澤松哉氏、副組合長は小出岩太郎氏にして、常務理事望月宗橋氏は明治十八年四月四日の誕生にて静岡中學の出身、現時静岡市總代常任幹事、所得調査委員を兼ね、會では舊安藤村助役たりしことあり、静岡市と合併するに際し自治功勞者として村及び市より表彰され銀盃を贈られた。

静岡市 馬場町

日本哲名學館 鈴木鐵洲

惟神の道々己れの道とし、宇宙の神秘に通じ哲學の眞髓を究め、學あり徳あり人格あり、加ふるに鹿人の信望愈々高き翁は、駿東郡富士岡村清水の産、代々農

業を營む土地の舊家に孫七氏の長男として明治三年五月一日を以て呱呱をあげた幼にして資性英邁、群童の中に一頭地を擡んじ、群鷄中の一鶴概があつた。長ずるや育英の業を以て奉公せんことを愆し静岡縣師範學校に入り、縣下各地の小學校の教壇に立つて兒童の訓育に當り、退職後は専ら哲學に専念し、目下日本哲名學館静岡支部長として名聲遠近に知られる。因に令閨との間には四男二女あり、家庭は頗る圓滿、欣美の限りである。

静岡市 麻機南

從七位、豫備陸軍 山本廣治

當家は弘化二年山本本家（現戸主清尹氏）より分家し當主にて四代に及ぶ。先代七五郎氏は戸長村長等の名譽職をつとめたる自治功勞者として知られ、氏はその男、明治二十六年六月一日を以て呱呱をあげ、静岡中學卒業後豊橋輜重兵大隊に勤務し、果進して中尉となり從七位に叙された。現在静岡安倍柑橋副組長、麻

機産業組合理事、區長等の任にあり、會て麻機村時代には村長、村會議員、學務委員、軍人分會長等を歴任し、村政に盡し、静岡市



静岡市

合併のためいづれも辭職、特筆すべきは村長時代私財を投じて村内貧困者を救護更生せしめ、陰徳頗る多く、その徳望は他に比肩するものがない。家庭には三男四女あり、令息はいづれも最高學校を卒業、一人は學校に、一人は官界に一人は現役將校である。

静岡市 高松

動七等、自治功勞者 岩崎 五郎

同家は當主を以て二十三代目たる舊家にして、慶長年間岩崎四郎五郎氏は千四

百石餘を領してゐた。その後代々庄屋をつとめ、先代鑑四郎氏は永らく助役の役になり、傍ら教育方面に意を注いで貢獻多き人、氏はその男として明治十四年十



一月三日に生れ、日露戰爭の時は沙河口首山堡

の激戦に参加し、勳七等に叙せられたる勇士である。大里村時代助役、村長、區長、村會議員、學務委員、教育會長等を歴任して村政に力を致し、静岡市に合併後は市會議員、同參事會員、學務委員等に任じ、自治功勞者にして且つ教育方面にも功績多き人格者である。資性温厚明快、現時静岡縣茶業組合聯合會議員、静岡市茶業組合委員、大里教育會を檀徒總代等を兼ね、曩に市教育會より褒賞を受けてゐる。令息鑑一氏は帝大在學中、令

嬢四人はいづれも高等女學校在學中の才媛である。

静岡市 聖一色 自治功勞者 寺尾昌太郎

同家は二百年前土着し十數代を経る舊家にして、翁は安政三年八月十五日の岳降、駿府長島塾に漢學を修め、明治十年山城國宇治より製茶教師を招聘し當地茶業者を



あつめ製茶を習得を開催

功あり、古より傳はる鐵板助炭使用の弊を矯正し、焙爐の改良により製茶界にエボツクメーカーキングをつくつたまた後年製茶業の有室なるに着目し、山林を拓いて桑園となし、有志をあつめて岳陽本會を組織し、天然育の改良、蠶種の製造

等に全力を捧げ、寺尾式乾燥器を考案するなどその功績筆紙に盡し難く更に戸長村長、村會議員、學務委員、蠶糸組合委員、茶聯合會議員、農會長その他幾多の名譽職をつとめ、農事改良に、教育の振興に、業績顯著なるため褒賞を受けたること實に三十二回の多きに及び、昭和五年五月には聖上陛下に御陪食の榮を賜つた。因に令息博氏は農學博士にて農林省官吏である。

静岡市 森下町

自治功勞者 小野田熊次郎

電話一五三九番

當家は静岡市茶町肥料糖商小野辰吉氏より二十餘年前分家獨立せるものにて、氏は明治十七年十一月二十五日の出生、分家と同時に精麥業を営み日に増し盛大となり、遂に今日の如く屈指の事業家となつたのである。精麥の傍ら農家肥料の改良に意を用ひ、炭酸石灰肥料の優秀なるを發見、目下その販賣株式會社の設立

に奔走中である。同肥料は直接には作物の營養、間接には窒素肥料、加里肥料、磷酸肥料の補助となり、價格低廉、將來他の肥料を壓して大いに發展すること、思はれる。また氏は舊安倍郡豊田村時代村會議員、學務委員その他の要職に就いて功績多く、静岡市に合併後は森下町總代、森下町兒童保護者會長を歴任、現時青年學校獎勵會長の椅子に擧げらる。

静岡市用宗

長田産業組合

電話 二六番、四二番

當組合は昭和三年末の設立にて、同十一年九月現在の如く保證責任長田信販購利組合となつた。舊長田村一圓を區域とし、組合員千六十餘名、出資一口三十圓にて總額五萬五千七百七十圓、近年縣下屈指の事務所を新築、組合の基礎ますます固く、躍進また躍進の一路を辿つてゐる。

貸付總額 三十萬五千百餘圓

貯金 五十二萬三千七百餘圓
購買價額 四萬九千圓
販賣價額 二千四百五十餘圓
昭和五年六月以來手越に出張所を設けて組合員の便に供してゐる
現組合長増田茂氏



專務理事成澤善一氏にして、ほか理事十三名、監事三名の役員がある。

静岡市用宗

静岡食品株式會社

電話 五五番

當社は昭和八年二月の創立にて、資本金十萬圓、一株の金額五十圓である。鮪油漬罐詰の製造販賣を主とし、その他一般魚類及び農産加工罐詰等も行ひ、特産物として全國に販路を有し、社礎極めて

堅く、創立後未だ幾許もならざるに驚異的發展を示してゐる。従業員は約百四十名、姉妹會社に清水水産、清水魚市、用宗遠洋漁業等がある。初代社長は望月大太郎氏にして、現社長は敏腕家を以て鳴る芝野信一郎氏、常務理事は望月久也氏である。

静岡市 靈匠町

更生病院

電話 六五七番

當病院は昭和八年十月保證責任静岡清水醫療利用組合更生病院として創立され同十一年一月聯合會組織となり、保證責任醫療利用聯合會更生病院と改められた。静岡、清水、安倍、庵原の二市二都を區域とし、組合員二十二産業組合一萬三千人弱、出資一口五百圓、總數二百五十五口を有する。内科、外科、婦人科小兒科、耳鼻喉科を有し、設立以來いづれも先進醫療利用組合に比しほ、順調なる成績を挙げつゝあり、静岡を本院、清水

を分院とし、利用患者一ヶ年八萬四千四百人の延人員となり、この料金九萬五千三百圓弱、國民醫療の普及徹底と醫療費の軽減を期し、醫師會ともよく協調してゐる。病院の増築落成と設備の完備と相俟つて今後益々發展の素地が出来てゐる。現聯合會長は織田欽吾氏である。

静岡市 香谷

千代田産業組合

電話 二九四二番

當組合は昭和三年十一月に設立認可され、翌四年一月より事業を開始し、舊千代田村一圓を區域とし、組織は保證責任信販購利の四種兼營である。組合員六百九十四名、出資九百十八口（一口五十圓）にして、貯金三十七萬圓餘、貸付二十二萬圓餘に達し、貸付は土地買入資金に充用のものである。購買事業は昭和十年からの創始で、年約六萬圓前後を取扱ひ、肥料が主である。販賣は區域内北沼上及び南沼上生産温州蜜柑を單に斡旋取扱ふ

のみである。昭和八年二月から錢座町に出張所を置く。現組合長井上董一郎氏は會での千代田村長にして自治産業に貢献多き名望家である。なほ理事は望月安次郎氏ほか九名、監事は本多信氏ほか二名である。

静岡市 追手町

静岡商工會議所

電話 九〇〇番

當會議所は明治二十四年の創立に係り爾來當市商工業の發達助成につとめて幾多の事業と諸種の施設を行ひ、商業都市として且つ工業都市としての静岡の今日をあらしめた事績は大きい。議員は商業部十名、工業部九名、運輸部九名、理財部九名にして、議員選舉有権者は一級二百二十餘人、二級千三百餘人、計千五百二十餘人である。現會頭甲賀菊太郎氏、副會頭中村嘉十氏、同岡部服太郎氏にして、常議員は杉山鐵藏氏ほか四名である。理事片岡録郎氏は明治二十二年十一月二

十五日の出生、縣立静岡中學校より第四

静岡市
静岡商工會議所
理事 片岡録郎

高等學校を經て東京帝大經濟學部を卒業せる逸材

にして、昭和四年八月會議に入り今日に至つた。

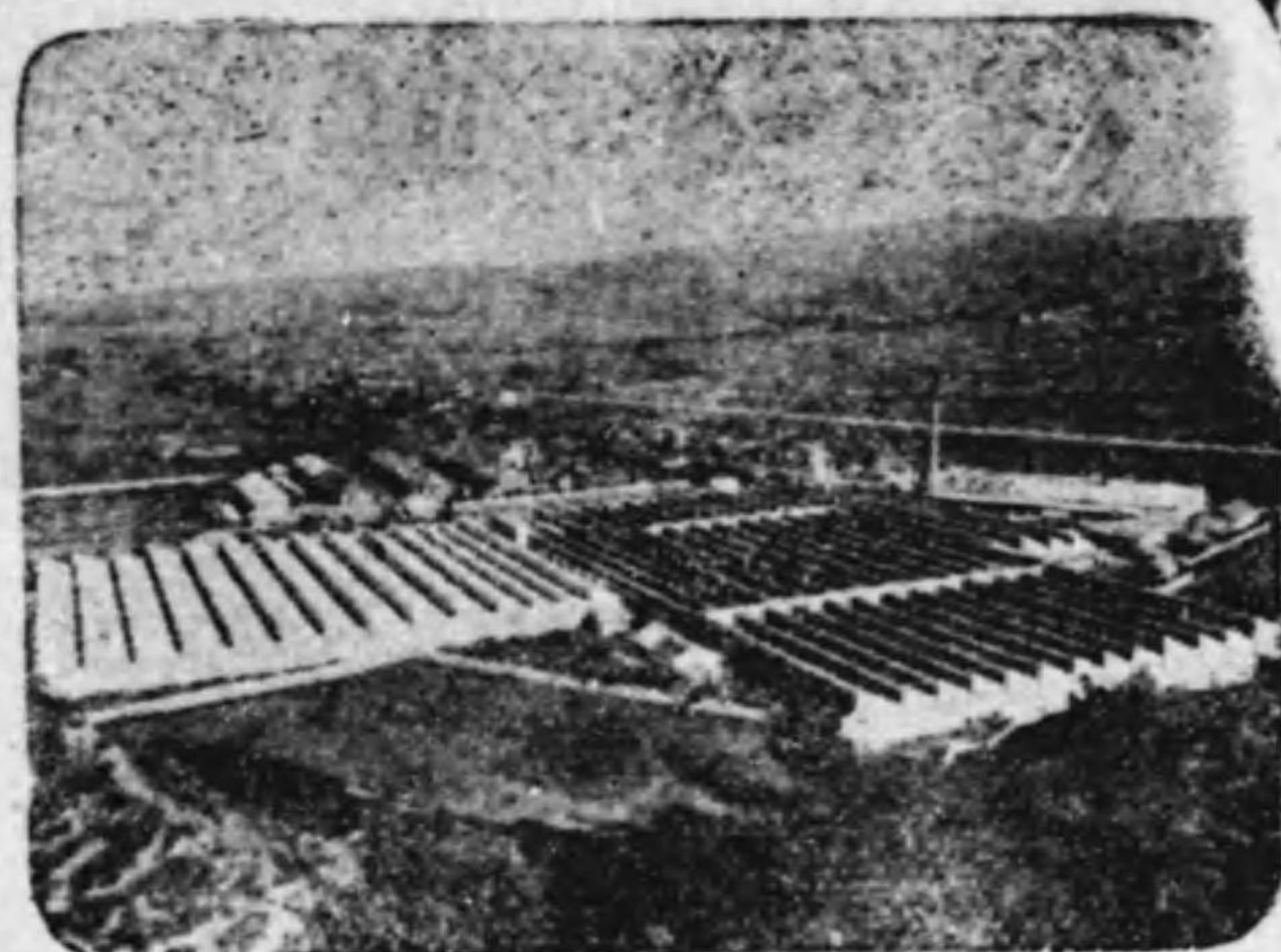
静岡市長沼町

三光紡績静岡工場

電話 三三二二番

當工場は大正十年九月に設置、事業を開始せるものにて、本社は東京市日本橋區通二丁目にあり、大正八年の創立、資本金三百萬圓を擁する大會社である。當工場敷地約三萬坪、建坪一萬一千八百坪あり、使用男女工伴せて千二百人を數へ紡績工業界に錚々たる名聲と位置を占めてゐる。初代工場長は林島武氏にして、

次で古橋林司氏となり現在は藤田武治郎



氏である。な
は本社
の重役
は、社
長男爵
近藤滋
彌氏、
取縮山
西脇健
治氏、
同伯爵
榊山愛

輔氏、同中村眞一郎氏、同松方義輔氏、
同伊藤忠兵衛氏、同井上富三氏、同山田
興之進氏、監査役西脇清三郎氏、同小西
新右衛門氏等名士が多い。

静岡市馬場町

静岡櫻花幼稚園

電話二六〇六番

當幼稚園は静岡市立の幼稚園と共に静

岡市内に於ける最も完備せる幼稚園であ
る。設立は明治四十三年、創立者は宇式
かん女史にして、その教育振りは愛の一
語に盡き、全く親身も及ばぬほどで、表
彰を受



けるこ
と再四
に及ぶ
現園長
林敦子
女史は
その女
女學校
卒業後
女子師
範二部
に入り

更に東京女子高等師範學校保育實習科に
學んだ。園児は満三歳より學齡期までの
もの百二十名を算し、衛生には特に細心
の注意を拂ひ、園醫小兒科松岡友吉氏、
齒科大石保一氏を囑託してゐる。因に當

園には後援會の組織あり、遊具費、材料
費、其他保育用具費の供給、体育衛生其
他の施設、保育に關する研究調査、講演
會、母の會の開催等の事業を行つてゐ
る。

静岡市富士見町

伊藤靖城

静岡縣養蠶業
組合會主事

温厚なる紳士であり、學徳兼備の人格
者であり、蠶業界の指導者である氏は、
元蠶業取締所に居られたる経験家にて、
大正十年より静岡縣養蠶業組合聯合會に
入り、爾來今日まで一意専心斯業界のた
め、組合のために盡瘁されつゝあり、本
縣養蠶業の發達とそ 改善改良に貢献せ
るところ頗る多く、謂はゞ本縣養蠶業の
一大恩人である。また現時静岡縣蠶業
組合理事を兼ねてゐる。

静岡市柳町

佐野製紙工場

電話三三〇三番

當工場は昭和八年静岡市茶町二丁目佐

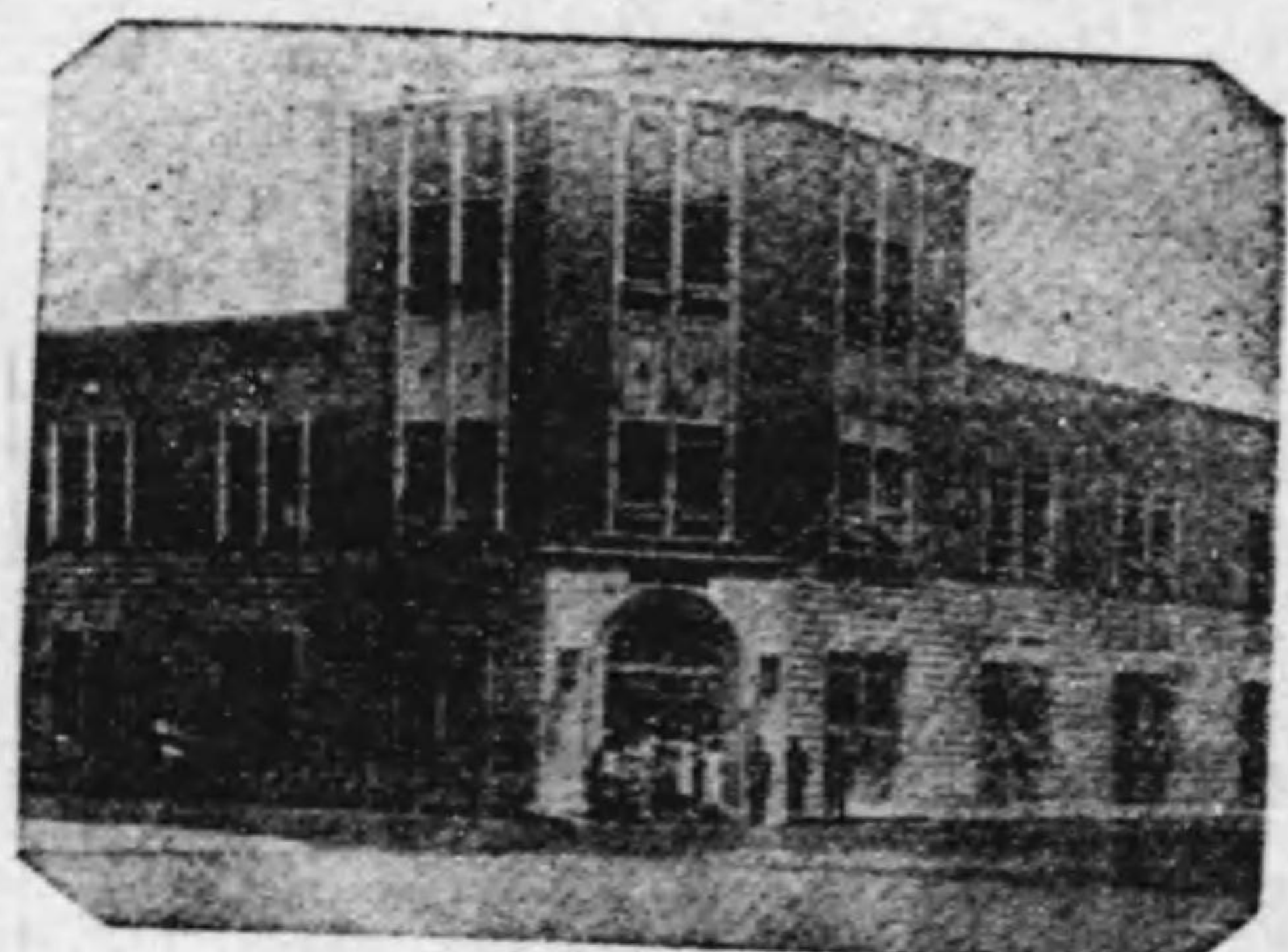
野喜久藏氏によりて創立せられ、兄弟親
睦を以て合資會社組織となし、出資金十
五萬圓、出資者は佐野家兄弟及び親族に
て、代表社員は喜久藏氏の令弟に當る佐
野久藏氏である。製品一般和紙の販路は
内地全般並に滿洲朝鮮方面にも及び、製
紙の原料は主として國産品を用ふるも時
にマニラ麻を輸入使用することもある。
従業員二百六十餘人、年産額百七十萬圓
に達し、丸球及び菱帝の商標は優良品の
代名詞として市場に歡迎されてゐる。工
場は家族主義を旨とし、勞資相協力一意
社業の發展に邁進せる姿は見る目にも美
しき限りである。

静岡市紺屋町

東海軒

電話二四三〇番

驛辨の静岡か、静岡の驛辨かと喧傳さ
れるまでその名全國に普及せる芳醇甘美
の静岡驛辨の母体東洋軒は、まことに靜
岡のブランドとして吾れ人共に許し、永



年苦心研鑽の結晶で、静岡茶や山葵漬と
並んで晝夜東西の旅客にその醍醐味を提
供し、靈峯富士と相俟つて静岡名物の代
表的シムボルとして賞讃されてゐること

は世間
周智の
事實で
ある。
大正三
年四月
田中富
次郎、
平尾久
晴、加
藤竹次
郎の三
氏共同

にて前營業者三盛軒より譲り受け東海軒
と號して營業を開始し、大正十五年末合
資會社とし、昭和九年三月合名會社に變
更、現在資本金七萬五千圓である。事務
員十人、料理人その他七十三人、賣子二

十四人を有し、現重役は田中隆作、加藤
吉太郎、平尾源六の諸氏である。

静岡市宮ヶ崎町

森本友次郎

商工會議所議
員、果實問屋

電話 九八番 三五五七番

温厚篤實なる氏は明治十一年十一月二
十三日友次郎氏の男として出生、同年嚴
父友次郎氏は森本家より分家獨立しし果
實商を營み、年々繁榮の度を加へて静岡



屈指の
果實問
屋とな
り、卸
小賣と
も市内
三ヶ所

の支店を設け、新鮮なる果實を供して店
頭常に顧客の絶える事なく、福島、山形
山梨、岡山等各縣聯合會出荷組合團體の
指定商にして各地産出の果實は倉庫に充
滿し斯業界の第一人者と呼ばれる。氏は

現時家業の傍ら静岡商工會議所議員、静岡市柑橋組合役員、静岡櫻花幼稚園後援會會計、宮ヶ崎町惣代等幾多名譽職をつとめ、令息鎮二氏は店務一切を擔任家業に精勵してゐる。

静岡市南町 日本工業株式會社

電話一四六九番

當會社は資本金二千九十七萬圓（拂込済）、本社を東京市麹町區丸ノ内に置き、東京、大阪、戸畑には事業所を、函館、東京、大阪、下關、朝鮮清津、宮城縣塩釜、名古屋、岡山、台北の各地に支店を置き、金澤、室蘭はか二十ヶ所に出張所を設置する。静岡出張所はその一つにして當出張所管内には静岡、焼津、小川、相良等縣下十六ヶ所に工場がある。製氷冷蔵、凍結食品、魚肥魚糞、竹輪罐詰等の水産製品、大豆製品、油脂製品を營業科目とし、當計の製氷能力はわが國全能力の六割強にして、各工場の凍結装置は

當社の專賣特許にしてその急速凍結による凍結品は品質最も優良、殊にフィッシュユミールは他の追随を許さない。因に静岡出張所長は山田武雄氏、同所長代理は兼子起忠氏である。

静岡市麻機南 麻機産業組合

當組合は大正十五年誕生、安全第一主義を以て信用事業單



營にて役場の一角に呱々の聲をあげた。創業僅か六ヶ月にして貯金

六萬三千七百圓弱、貸出四萬、百三十圓組合員三百六十人を算した。昭和五年購買を開始し、主として肥料配給につとめ區域内消費額の九割強を取扱つてゐる。販賣に手を染めたのは昭和八年から、茶と蜜柑のみにて、日柑聯、縣販聯の統制下に、北米輸出六千餘箱、ソヴエト聯邦に九百五十箱、内地出荷約百車を取扱ひその量は生産額に對して甚だ振はないが今後順調に發展の見込である。現在組合員四百六十六名、貯金四十三萬四千圓、貸付八十九萬圓を算す。初代組合長遠藤泰吉氏



泰吉氏 是舊村 會議員 學務委員 郡茶業組合長

信用組合長等をつとめし人。現組合長木原松次郎氏も舊村會議員にして、専務理事織田欽吾氏は縣信聯理事を兼ね舊村會

議員である。因に組合組織は保證責任である。（寫眞は織田氏）

静岡市鷹匠町一丁目 静岡電氣鐵道株式會社

電話 五五〇番・六五〇番

當社は大正八年五月資本金三百萬圓を以て創立されたが、その後時代の進運と事業の擴張につれて六百萬圓（拂込五百十二萬圓）に増資した。營業鐵道線は清水線一四軒四、港橋線一軒一、興津線三軒六、秋葉線一三軒二

に及び、他に自動車線として静岡久能、江尻久能、三保松原、龍華寺、静岡市内清水市内、静岡江尻北街道、舊東海道、袋井森町、掛川森町等の各線を有して地方交通運輸の王座を占め、更に電燈方面に於ては取付數七千四百燈、販賣電力二百八十五馬力といふ大規模な事業振りである。初代社長榎居喜久馬氏、二代目内藤傳次氏を経て、現社長は大川平三郎氏、副社長は織田信恒氏、専務取締役穴澤清

次郎氏、常務取締役戸塚昌弘氏である。

静岡市西千代町 久保清太郎 車動功者

静岡市西千代町 久保清太郎 車動功者

翁は榛原郡相良町の人、安政二年四月十四日久保理兵衛氏の長男に生れた。常陸院元法淨經居士（慶長五年逝去）の十四代の後裔にして代々大庄屋をつとめし舊家である。幼にして頗る穎悟、長じて陸軍に志し、明治十年偶々西南の役起るや軍に従ひ各地に轉戦、武功により歩兵軍曹に進められた。同



名譽の 戦役中 負傷を受け、

役收まりて偶々父君の他界せられしに際し身を郷山に置き、専ら公共事業に盡瘁し、殊に在郷軍人團の組織は實に氏を以

てわが國に於ける濫觴となす。日清戰役には自ら進んで出征を志願し、不幸戦線に立ち得ざりしも、第三師團兵站區司令部附を命ぜられ、凱旋後は相良町農會副會長、大澤區長、大日本武徳會支部幹事、町會議員、郡會議員等に推舉せられ、敏腕以て奉公の實績を挙げ、日露の役に於ては五十有餘歳の老軀を再び滿洲の野に現はし、川村部隊の一員として旅順陥落後老鐵山の守備に任ぜられ、功により勳七等青色桐葉章を賜つた。孝子を恤れみ老者を慰するは氏の最も心を用ふる所に於て、これがため中山一位局の恩遇を蒙り、數度の賜り物を拜した。また從軍中支給せられたる俸給は全部出征軍人家族慰問や節婦孝子の救恤に該てられた。曾て山縣元帥は、氏を推稱して「噫日本軍人の典型よ」といひ、御慰問使伊藤侍從武官より特に御賞辭を賜りたる光榮に浴し、また乃木大將の氏を愛撫せられたる實に父子の如くであつた。老鐵山守備中偶々筆を失ひて書簡を認る能はず、石を

拾ひ墨を點じて文字を書し、爾後屢々これを試みて遂に山水人物を描畫するの妙技に達し、數度にわたり、各皇族方の御前に石書石畫の揮灑を命ぜられたる光榮に浴した。その後氏は前後二回國民軍編入を志願して許可せられた。八十二歳の國民軍!!誠にわれら日本國民の範とすべき偉丈夫である。

静岡市古宿

久能産業組合

當組合は大正四年七月の設立にて、初めは購買事業のみを行ひ、翌五年信用事業開始、同十二年より販賣を、昭和二年より利用をそれぞれ加へ、組織は保證責任、舊久能村一圓を區域とし、組合員約四百名、出資二萬六千圓である。信用部に於ては庶民金融機關として一般低金利に順應し經濟資金並に固定資金に關しては極力警戒し産業資金に對しては確實なる償還の途を購じて放資し、現在約十四萬五千餘圓、貯金は極力獎勵につとめた

る結果二十五萬五千圓に上つてゐる。購買部では各部落と密接な連絡を取り極力廉賣主義を實行し、總額に於て十萬圓を突破する。販賣は苺、蜜柑が主なるもの利用部に於ては魚肥の粉碎、米、麥の賃揚があり、將來は醫療利用事業にまで進展の豫定である。昭和五年十月縣支會長より優良組合として表彰を受けた。初代組合長石川定五郎氏は舊村農會長にして村會議員及び學務委員を兼ねし人、二代目組合長長川崎仙太郎氏は同じく舊村會議員、村農會長、學務委員、助役等を歴任せる功勞者、現組合長石野清吉氏もまた舊村時代の助役、村會議員、教育會長等を歴任せる人材にて、現在縣購聯監事及び醫療組合聯合會理事を兼ね、當組合創立と共に理事として入り、大正十一年專務理事となり、昭和二年二月組合長に推されて今日に至れる組合第一の功勞者である。

静岡市安部川町

梅ヶ島温泉主 手塚忠吉

温泉旅館の經營に卓抜の手腕を有する氏は、資性英邁、人望あつき異材であるその經營する梅ヶ島温泉は安倍郡にあり安倍川の上流、静岡市を距る十一里、山梨縣境

静岡市安部川町

梅ヶ島温泉

手塚忠吉

梨縣境に近く
往昔人
呈十七
代履伸
天皇の
御代

の附近より砂金出でしため金湯二別名あり、その後文祿年間時の帝御入浴あらせられ効能卓絶せるにより御墨付を下賜せられ今なほ寶物として保存されてゐる。主治効能は皮膚病、花柳病、脚氣、痔疾、胃腸病、打撲症、婦人病等にて、腦神經衰弱には特效がある。交通は静岡驛よりバスの便を藉り、和洋折衷の客間五十餘室、テニス、ピンポン等娛樂施設備は

り、都會人の避暑地として最適の所である。手塚はこのほか、縣下隨一營の景勝地日本平に晴耕莊を有し、またやすい軒を經し、利益を度外視して廣く景勝を世に出さんとしつゝ、あり、日本平は清水市の西端、有渡山の頂上にあり、その昔日本武尊が御東征の砌りこの山に登りて眺望の雄大絶佳なるを讃へて日本一と仰せられしより日本平と名づけしものにして四季を通じピクニック、ハイキングに最も適當の地で、眺望宛も一大パノラマの如くである。またこのほか手塚氏の經營に係るものに大河内温泉あり、これまた梅ヶ島温泉と氣脈相通じて諸病に特效あり清遊の地として知られてゐる。

静岡市安部川町

安部川町貸座敷

取締事務所

静岡遊廓は今を去る三百餘年前、慶長二年の頃に濫觴し、爾來引續き今日に至るまで、萬光の街道影鮮かにして米竹の響き絶ゆる時なく、宮城野や豊里など講

談につくられるやうな遊女を生んだところ、また馬琴の道中記、十返舎一九の膝栗毛にも描寫されし有名なところで、現在の戸數は約七十戸、大門を入りて取り付きが揚屋町、それより中の町、上の町と三ヶ町に分たれ、稻荷小路は狭き新設街にて慶長年間に置かれた。貸座敷十三戸、引手茶屋二戸、その他藝妓見番、飲食店、カフェー等あり、十數年前双街全盛の時は、娼妓の總數二百五十名をかぞへたが、今は減じて娼妓大凡百九十人、藝妓十一人となつた。

伴野農藥製造所

營業所 静岡市傳馬町
工場 同市春日町二丁目

現在製造販賣をなしつゝある藥劑の種類は、石灰硫黄合劑、砒酸鉛、カゼイン石灰、デリコン、除虫菊粉、ヒノデ乳劑、エマルゲン、液狀松脂合劑、粉末松脂合劑、コロイドボルドウ、ツリータンブルフード、ヤマト殺虫劑、ヒノデ農藥石鹼

等の多きにわたり、輸入劑として硫酸ニコチン、ニコチンヒュームゲーター、二硫化炭素、クロールピクリン、硫酸銅等今日農藥の商標ル、ト及ヒノデは内地は勿論滿洲、朝鮮に活躍、到る所歡迎をうけ工場主伴野銀太郎氏が二十年前より農作物に對する殺虫劑に着眼し、その頃古川化學研究所よりの、製品を販賣なしむたるも、爾來改良研究に辛酸を嘗めたる結果、昭和六年自ら諸種農藥の製造に一意努力をつづけ、遂に今日の一大模範工場となし、農家の損害を救ひ、専門家を以て三嘆せしめる程の一般農藥を製造、尙昔日の努力を續ける姿は涙ぐましい。従業員百餘名を擁してその家族主義を發揮する所、他工場の美望の的なり、支店を大阪市西成區長橋通り六及弘前市栢町に設置、取引銀行としては静岡銀行、三十五、名古屋銀行等その手堅い商取引は又賞讃の的なり。現傳馬町營業部にては農藥販賣の傍ら寫眞機、寫眞材料一切の販賣をなし、之亦市内有數の店舗たると同

時に工場利益の益々発展を期待さる。

静岡市牛婁

賤機郵便局

本局は静岡市下より大正五年七月に今の地に移されたもので、舊賤機村の大半と美和村全体とを区域となす集配三等局現在集配区域は四區になつて居る。明治七年九月、開局と同時に郵便、爲替貯金事務を取扱ひ、同二十九年七月に内外爲替事務を開始し、同三十二年七月に集配事務開始、大正十三年六月に内外電信事務と電話事務を開始した。郵便取扱数は八萬九千二百八十通、配達数は十八萬六千六百八十六通で、電報の発信は四百五十四通、着信は一千二百三十一通に達して居る。また郵便貯金高は六萬四千圓で、その人員は二萬三千七十五名である。そして昨年支保加入者は二百五十三名であつたが、現在は一躍二千三十四名を數へ、年金加入者の六名が、六十一名に殖えて居る。創局以來の功勞者には白鳥

時太郎、海野總平、榎本鐵吉氏等があり歴代局長をあげれば、白鳥時太郎、榎本鐵吉、海野總平、荻野初藏、荻野力藏氏等を経て、現局長荻野太作氏に及んでゐる。現



在従業員は九名、昭和十一年、選信局か

ら保險年金募集維持成績五ヶ年優秀の旨を以て表彰された。なほ現局長は明治二十三年十一月十八日の出生、現市會議員市參事會員、學務委員、賤機産業組合理事、方面委員等の名譽職を帯び、市政方面に於ける功績も極めて大なるものあり賤機組合發展の恩人にて、且つ防貧救貧等社會事業にも盡しつゝあり、父君力藏氏は曾て局長、安倍鐵道重役、村會議員、學務委員、土木委員、總代などに選任、相當功勞のあつた人だ。

静岡市傳馬町

安田屋旅館

電話 六三三〇・一五六〇

本館は明治二十年に開業したもので、森文平氏が經營に任じて居る。静岡驛前を西へ、御幸通りを約半丁、右折して傳馬町通りに入る。客室は四十有餘、驛に近く、しかも閑靜にして旅情を慰むるにふさはしく、且つ經營者の温和親切なる従業員二十餘人、その待遇のよさが客足を繁からしめてゐる。名勝は清水公園、賤機山公園、安倍川の清流、駿府城址など四季の眺めに飽かしめない。驛前から市營バスが四通八達、何れに向ふも至便である。館主は傳馬町總代、商工會議所議員、所得調査委員、帝國在郷軍人聯合會副會長、方面委員、その他幾多の名譽職を荷つて努力して居る。人望の厚いことは言を俟たない。しかも常に經營の改善に意を用ひ、宿泊者の立場になつてサービスの満足を目指すなど、家業に熱心な努力家である。

静岡市手越

心光院

當院は臨濟宗京都妙心寺派に屬し、釋迦牟尼佛を本尊とする。開山雲谷宗禪師は廣大覺滿禪師ともいふ。元祿四年頃の住職大龍惠入禪師は諸病治療のため灸點を創始、その名聲忽ち舉り、昔は一勿灸と稱し大なる艾を以て灸點となしたるを、現住職十三代高木玄旨和尚は僅かに一點一ヶ所の灸にて諸病に効あることを發見、現今盛んに行はれ遠く伊豆相模地方にまで出張しつゝあり、一名一穴灸とも手越の名灸とも呼ぶ。たんせき、溜飲胃病、頭痛、肩腰の痛み、婦人病、血の道等諸病に著効がある。名灸の始祖大龍師の會孫たる森六三郎氏は現に静岡市御木所町に米穀商を営んでゐる。往昔當院では安倍川施餓鬼を盛大に行つたが今は廢せられ、七月十日山門施餓鬼を行つてゐる。現住職高木玄旨師は美濃國伊深の

正眼寺にて修行を積みし温和な人格者である。

静岡市上足洗

元村長 高木寛作

當家の始祖は伊右衛門氏、約二百年前以、前明治三年より當所に居住、代々農を業として今日に至つてゐる。氏は八代目藤十郎氏の男、明治十四年四月九日の出生、千代田村々會議員となり、上足洗區長となり、學務委員となり、そして更に全村一致の推薦によつて千代田村々長に就任、一村の刷新發展と、村民の福利増進とに貢献努力、甚大な功績を樹て、その功を讃へられてゐる。また長源院檀徒總代としても、永らく盡力するところがあつた。當村が静岡市に合併されてからは、一切の公職を辭し、何事も表面に立たず、たゞ子女の教育と農事とに専心意を注いでゐる。村内に於ける資産家であり、また有力家でもある。資性濃厚篤

實の好紳士。

静岡市末廣町

縣立静岡高等女學校校長 從五位勳六等 三輪笹市

氏は廣島市の出身で明治二十年二月一日の出生、早稻田大學卒業後、昭和二年東洋中學を振り出しに鹿原中學、富士中學校長を経て同十年、縣立静岡高等女學校長を拜命、校訓の「私共は純眞な愛を豊かに惠まれてゐる事を感謝し優しき中にも正しく強く勤勞奉仕を以て一切を淨化したいと思ひます」をモットーとして統制訓育に精進してゐる。本校は明治三十六年二月四日、設立認可を得て静岡縣立高等女學校と稱し、引續き今日に至つてゐるが、修業年限は五ヶ年制、木科生徒の定員は七百五十名である。尙本校補習科修了生は、試験檢定の上、小學校專科正教員の資格を與へらるゝことになつてゐる。因に開校以來現在まで六百餘名を世に送り出してゐる。

静岡市 馬場町

日本哲名學館
静岡支部長
鈴木鐵洲
教育功勞者

資性清廉恬淡にして識見高邁なる氏は明治三年五月一日駿東郡富士岡村中清水に出生、静岡師範在學中、青年士氣の萎靡を歎いて盛んに体育奨励を唱へ、身を以て範を同窓に示し、機械體操と相撲では氏の右に出づるものがなかつた。明治二十五年同校を卒業、初等教育に従事すること七年、常に新機軸を出し、拔擢されて高師附屬訓導に擧げられた。爾來四年、兒童中心個性主義を主張して時の劃一教育に抗し、令名は關西の名宰坪野市長の聞知するところとなり、遠く聘されて同市入江小學校長となり、同市教育界に清新の氣を注入したのである。當時九州の炭坑王安川敬一郎が三百餘萬の巨資を投じて明治専門學校を創立するや、學校長山川健二郎博士は、特に氏に依頼して學生監の任に就かせられた。かくて拮据踰勉四年の歳月を青少年と俱にし、學

静岡市 外狐ヶ崎

翠 紅 園
電話清水八〇九番

生寮の建設、附屬小學校の新築等大小の創業を双肩に擔つて能く大任を全ふし、幾百の學生園より慈父の如く尊敬された。その後一時郷里に歸つたが、大正二年灘澤子爵の紹介を請けて東京市京橋高等小學校長に任じ、育英の大事業に精進すること三年の後、既にして社會の風潮を達觀して斷然育英界を退いて實業界の人となつた。然るに實業界は權謀術策の多いところ、氏の如き清廉高潔の士の堪へる所にあらず、遂に去つて哲名術の研究に入り、専心これが蘊奥を究め、今や斯道の大家と伍して堂々の陣を張り、名聲東海に瀾漫し、家門日に榮ゆるに至つた。誠に一世の人傑とも稱すべき人である。

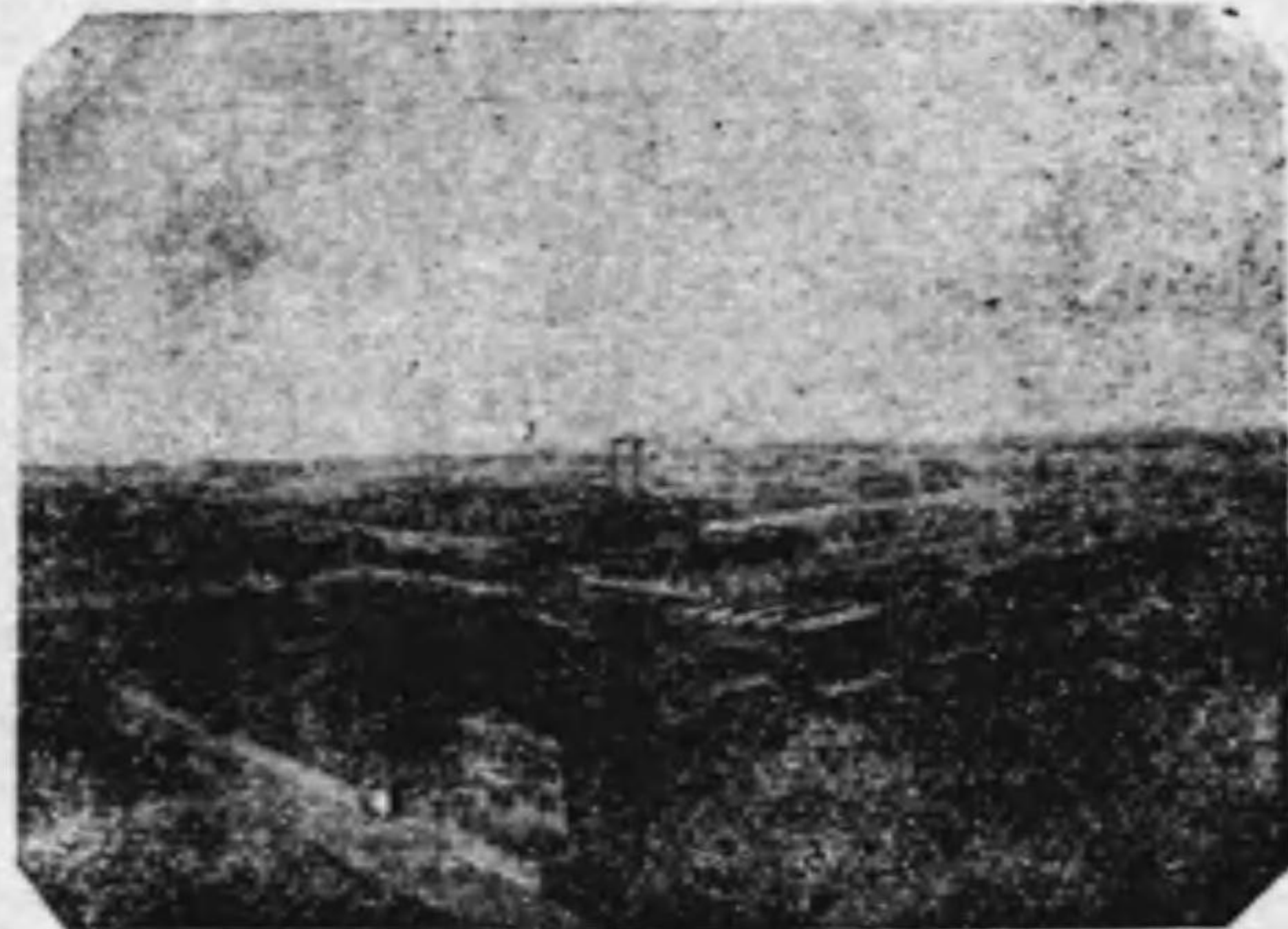
資本金十萬圓の株式會社として昭和二年に生れた當園は、静岡電鐵を背景に、幽邃閑雅、しかも風光絶佳の自然の恵みに哺まれて生ひ立つた東海の別天地、狐ヶ崎といへばすぐそれよと翠紅園の名を聯想さすほどに親まれてゐる。まこと當園は靈峯富士に對して春の花見の宴に、夏の香水風呂に、秋の月見に、菊花の高きに清遊に、冬のトルコ風呂によく静岡清水觀光都市にふさはしい料理兼業の溫泉旅館である。以前には大分高いの評判もあつたが、最近はこれ等をすつくり一掃して一泊四圓均一といふ大勉強振り、無論茶代は絶對廢止。交通は電車、自動車があり、静岡からは十五分、清水からは十分。將來兩都市の發展と日本平の開發とによつて、一層近代人の足を繁くするであらう。

濱松市

濱松市 寺島町

河合樂器 河合小市
製作所長

わが國樂器界の功勞者として聞える氏は、明治十九年一月五日に産聲をあげ、八歳にして父を失ひ、以來慈母の手一つで育てられた。十一歳の時自ら工夫して客馬車を作つたほどの利發者にて、明治二十九年小學校を卒へると間もなく、樂器界の第一人者山葉寅楠翁の弟子となつて、山葉樂器製造所に働く身となつた。二十有餘歳の頃、天賦の才能と倦まざる努力は遂に獨特な考案を以て、カウブラーを作りあげ、ストツプの數を増したオルガンを見事に製造することに成功した。明治三十九年にはアクション製作の自動機械を確實に完成し若き天才者を以て呼ばれるに至つた。日本樂器會社の至寶と謳はれ、樂器製作の生き字引とされ、亞



米利加、イギリス、フランス、ドイツ、

である。然るに惜しくも大正五年八月恩



静岡市 近町 天理教 教靜岡分教會 名京大教會

天理教の熱心な宣傳弘布は、全國到るところに及んで居る。従つてその信徒は日に月に増加する一方で、當分教會の設立なども、明かにそれを語つて居る。

伊太利等に樂器製作の研究視察をなして歸朝後氏の發明の才能はいよいよ芽えて來たのである。二年八月、氏は日本樂器より分離して遂に河合樂器製作所の看板をかゝげた。かくて、河合ピアノと銘うつてピアノの製造を開始し、會て商工省から優良國産ピアノの第一位に擧げられ、昭和五年、聖上陛下静岡御巡幸の砌り河合ピアノ及び河合オルガンは天覽の榮を賜り、また各地の博覽會等に於て受賞すること數回に及んでゐる。

濱松市 曳馬町 曳馬町産業組合

當組合は大正七年五月二十二日の設立認可に係り、當初は有限責任で、信用事業のみ經營したが、昭和八年六月保證責任に變更するに共に購買販賣利用の事業を加へて今日に至つた。區域は曳馬町一圓にして、都會地としての特殊環境にあり、従つて事業方針も機に臨んで他と異なるところあるも、根本の方針は堅實第一主義にして、設立以來常に順調なる道程をたどつて成績良好を示してゐる。初

代組合長加藤熊次郎氏、二代飯尾周三氏を経て、現組合長は學徳兼備の小倉敬吉氏にして組合員の信望殊のほか篤い。

濱松市 板屋町

濱松倉庫株式會社

當會社は明治四十年二月の創立に係り當時資本金は十萬圓であつたが、その後事業の進展に伴つて二十萬圓に増資し今日に至つた。一般倉庫並にこれに附随する業務を行ひ、年々隆盛に赴き、當地倉庫業界に重きをなしてゐる。取扱ひ品目も多く、設備はよく、親切迅速をモットーとせるため、利用者間の評判も高い。初代社長は大野木代次郎氏にして、現社長津倉龜作氏は二代目、また現事務取締役は太田八郎氏である。

濱松市 砂山町

旭日冰糖株式會社

當會社は明治三十五年堀内勝次郎氏の個人經營なりしが、大正十三年六月株式

組織とせるものにして、資本金五十五萬一千圓、總株數一萬一千二十株、株主五十二名である。昭和三年五月大禮記念國産振興東京博覽會に於て優良國産賞牌をうけた。内地向製品は常に採算不引合であるが將來の地盤維持のため若干の損失を覚悟して消極的な營業を續けてゐる。

しかし輸出向は常に採算有利なるため積極的に營業を進め、原料仕入製品販賣何れも好結果を得てゐる。當社獨特の新製法による冰糖製造はますます進歩し、製品は内地的輸出向共に價格上値に賣行活潑で、製造を極力増加してもなほ供給不足の状態である。社長は堀内勝治郎氏、常務取締役堀内嘉一氏、取締役田中尙房氏、監査役堀内國作氏、同堀内莊三氏である。

濱松市 田町

濱松自動車株式會社

當會社は昭和四年一月の創立にして、

資本金二十萬圓、一株の金額二十圓である。旅客自動車の運輸を事業とし、經營線は

笠井線、館山寺村柵線、辨天島線、宇布見線、倉松線、鶴見線、飛行隊線、市内線、氣賀線、飛行學校線の十あり、車輛の完備、料金の低廉、明朗なる婦人車掌のサービス、事故皆無は當社の誇りとし特色とするところ、車輛はフォード二十台、シボレー三、合計二十三台である。澤前、笠井、宇布見、館山寺には各出張所を設け、従業員合計六十五台を算し、現任重役は坂下仙一郎、八木橋周助、杉本守三郎、新村竹三郎、堀内國作、本多一明、坂下一雄の諸氏である。

濱松市元城町(舊天守閣内)

神道修成派 静岡第三支局

當教會所は明治十五年十月小粥園次郎氏、山本治郎兵衛氏、内山善藏氏等によりて創建され伊非那諾之命、伊非那冉之命

大貴己之命、少名彦之命を祭神とし病災消除の靈驗顯著にして富豪知名の士の参拜もあり、目下信徒五百人餘を有するも改築中の神殿竣工の曉は更に増加の見込である。教祖遺重、寶劍、鎗等十數種の寶物あり、四月二十八日の教祖祭は頗る殷盛である。初代主宰者は佐倉茂重氏にして現教官は佐倉源治郎氏である。氏は明治十一年一月十二日濱松市尾張町に産聲をあげ、大正五年八月權少講義となり漸次累進して權大教正尋常檢定委員にのぼつた。明治三十年より當派の信仰に入り、大正五年木曾御嶽山にて修業、後、當教會に於て一般神位教議に従事し、教師の養成並に布教に大いに努めてゐる。

濱松市上池川町

縣會議員、市會議員、濱松市濱名郡茶業組合長 **加藤七郎**

電話 六三〇番

氏は濱名郡神久呂村神ヶ谷の機業家加藤忠太郎氏の六男、明治二十二年九月十

一日を以て生れ、濱松中學校に學び、三十五歳まで織物業に従事、三十七歳の時選ばれて市會議員となり、翌年三十八歳の年には縣會議員に當選し、共に目下三期目を現任し、縣下政友會系の重鎮にして市會の第一人者である。株式會社アト商會、山やタクシー株式會社、遠三自動車株式會社の各社長を兼ね、縣自動車營業組合聯合會々長として斯界の大立物と呼ばれ、また濱松市及び濱名郡、區域とする茶業組合長に推されてゐる。兄弟七人あり、いづれも當地實業界に活躍して令名がある。

濱松市 木戸町

西遠染色株式會社

電話三二六九番

當會社は明治四十年に創立され、爾來堅實にして積極なる營業方針のもとに、着々事業の發展を示して遂に現在の盛況を見るに至りしものにして、資本金十八萬圓、専ら染色を以て業とする。創立發

起人は小杉慶次郎氏にして現在社長の重責にあり、現事務取締役は加藤眞陸氏で取締役は加藤幸太郎氏、高部廣八氏、鈴木初藏氏等にして、監査役は天野爲太郎氏、柳瀬豊次氏、瀧清の三名である。

濱松市 船越町

神道修成派 静岡第三分局

當分局は、昭和元年從五位新田邦光大人によつて第一鳥居講として設立され、同二年認可、同九年本部より認められて分局に昇格せるものにして、高皇產靈神伊非那諾之大神、天之御中主命、神皇產靈神、天照大御神、天神地祇八百萬神を祭神とする。病氣全癒の神徳あり、信徒五百餘名を算し、境内百二十坪、殿堂建坪五十坪である。四月二十八日を教祖祭とし、十月二十四、二十五の兩日は秋季大祭として種々の行事がある。主宰者倉島嘉作氏は明治八年五月十九日の岳降、十六歳の時より信仰に入り、業績優秀なるを以て他部を歴して破格の昇格を受け、信

徒の信望も他にその比を見ざるほど篤く資格は中教正、尋常検定員である。

濱松市 板屋町

遠州輪織物工業永久社

當組合は、組合員數約八百八十名を以て組織し、織機台數二萬百八十餘台を算してゐる。従つて検査數量の如きも近年頗る増加し、濱松市内五ヶ所、濱名郡可美、笠井、小野口、鷺津、入野、篠原の町村に集合検査所を置き、一ヶ年検査總數量は三億九千七百餘萬碼に達する。世界經濟情勢の影響下に本組合に於ても縮小、染色加工綿布、綿サロンの生産統制をなし、最近はまだ別珍コール天染色統制、綿サロンの販賣統制をも實施し、生産費の低下と品質の向上につとめ産業の合理化を期してゐる。濱松工業試験場には本組織試織工場を設置し、また神戸及び奉天には幹旋所の設けあり、シンガポール、ボンベイ、カルカッタには駐在員を置いて新販路の開拓につとめてゐる。

現理事長は宮本甚七氏、則理事長は寺田松三郎氏である。

濱松市 元城町

元城尋常小學校

當校は濱松市教育が近代的形式たる學校制度になつた最初のもので、高等女學校の産婆校でもある。縣下に於ても五指を屈する古い歴史を有し德育に重きを置き、勤勉、進取、機敏を校訓とする。上級學校への入學のための準備教育の如きは一切施さず、常に實力の養成を以て根本方針としてゐる。最近、市長及び地元有志等の盡力によつて新築校舎も落成した。現校長石原嘉太郎氏は引佐郡東濱名村都築(現濱松市)の人、明治十七年一月八日を以て生れ、明治四十一年師範學校を卒業、爾來各地に教鞭を執り、縣知事及び帝國教育會より教育功勞者として表彰されてゐる。因に氏の家は二十餘代を經る舊家、濱名五姓中の一たる石原にして代々郷民のため盡瘁せる家柄である。

濱松市 上島谷口

金剛山

(扶桑教金剛教會本部)

金剛山は明治三十九年三月扶桑教金剛教會本部として創建された。天保年間より大和國金剛の御分靈を土地の信仰によつて祭祀してゐたが一旦廢山となり、再び認可をうけしものにて、市設公園グラウンドの傍らに今もその舊碑が残つてゐる。祭神金剛大靈神は忠孝之神、幸運來之神として



古來信仰多く現在信徒も六百人をかぞえ

松島十湖翁や金原明善翁もその一人である。境内には伏見稻荷の分靈一通稱十湖稻荷がある。また石像二宮金次郎先生の像が立つてゐる。例大祭は毎年十月二十日、月並祭は毎月二十日である。創建者

にして現教會長たる山下淵澄氏は明治十五年十一月二十三日の誕生、大教正にして、人格高潔を以つて聞えの高き士である。

濱松市 元濱町

扶桑教 神徳教會

當教會は昭和五年八月創建の許可ありしものにて、天之御中主大神、高皇產靈神、神皇產靈神を奉齋主神とし、天照皇大神ほか七柱の神を合祀する。信徒五百



二十餘名に上り、毎年二月十五日及び十月十五日日の大祭のほか月並祭がある。創立の功勞者にして現教會長たる原田弘榮氏は明治二十二年六月二十九日の兵降、大正五年本教より辭拜受後順次昇級し、同十二

年中教正となり、昭和五年三月教會長に同年十月神事師範に、同七年五月扶桑教靜岡縣教務廳理事に、同十二年一月權神事監となりて今日に至り、關東大震災三陸震害、函館大火災等の際は克く罹災救助につとめ、扶桑教管長より謝状或は感狀、褒狀等を贈られてゐる。

濱松市 高町

静岡縣濱名郡茶業組合

數量に於て全國の約八割を占めてわが靜岡縣の茶業沿革は随分古く、慶長元年以來足久保茶が徳川公に献上された實證もある。天龍川以西、濱名湖附近に於ても夙に茶樹の栽培を見、静岡茶の一翼として著るしい發達を示し、九州、東北、北海道等に年と共にその荷姿を増加してゐる。當組合は、當地方に於ける茶の栽培者二千六百三十五名、製造業者二百十四名、販賣業者二千九百五十餘名を組合員として組織し、製茶産額は一番茶から四番茶まで合計七十五萬五千餘貫に達し

濱松市 元目町

城北機業株式會社

家庭の品位は夕、ミベリから、その疊縁こそは決定的に城北の光輝縁——をモットーとして疊表の製造を營む當社は、二十有餘年の歴史を持ち、昭和十二年から資本金六十萬圓となり、最近工場の移轉新築を完成し、社礎ますます固きを加へてゐる。現今疊はどこでも出来るやうになつたが、疊縁は遠州濱松で造られるものが全國津々浦々で使はれてゐる。それは當會社が製造するライオン印や三喜城寶、孔雀、チョコレート、仙桃などである。濱松が疊縁で有名になつたのは、

富社が良き製品を造り出すやうになつたからである。注文は幅輻し將米の飛躍大いに期

濱松市
城北機業株式會社
 社長 和久田純一

にして、取締役は山田爲次郎氏ほか三名、監査役は鈴木仁一郎氏ほか一名である。

濱松市 馬込町
遠江南織物工業組合

當組合は組合員五百三十五名を有し、遠州織物の發展と組合員の福祉のため常に精力的事業を展開して居る。「優良品を廉價に」をモットーとして遠州織物のよりよき向上を圖るため嚴格なる検査と粗悪品の自發的防止につとめ、従來濱松市内四ヶ所に散在せし一ヶ所に集めて昭和十年六月より検査の統一と合理化を實

施して居る。されば近年製品は頗る向上して大いに面目を一新し、往年の遠州織物とは隔世の感がある。また各地機業地を視察して長を採つて短を捨て、更に女工募集、電力料金の値下、納税補助等も行ひ、尙近年頗る發展せる夏物の寵兒ポイル生地の積極的事業計劃を樹てる等歩一步組合の礎は鞏固になりつゝある。現理事長は鈴木喜三郎氏、事務理事は河村榮三郎氏及び小野江祐助氏、常務理事は大塚章司氏ほか二名、理事十一、監事五名である。

濱松市 佐藤町
天神町信用組合

電話二二六七番
 當組合は大正五年九月の設立認可に係り、經營の根本方針として、營利を目的とせざること、貯金に重きを置くこと、貯金拂戻準備を豊富にすること、を堅持し、事業年と共に進展し今日に至り、昭和二年二月には縣支會より企劃經營宜

しきにより表賞された。組織は有限責任組合員五百四十餘名、出資三千八百二十口（一口五十圓）にて準備金及び積立金七萬三千四百餘圓を有し、貸出金は約二十萬圓、貯金は六十七萬八千餘圓に上り、貸付回収状況等頗る良好である。現組合長は山下信太郎氏にして、理事六名、監事三名である。

濱松市 田町
濱松銀行

電話濱松三四番
 當行は明治二十八年七月芳川銀行として創立され、大正八年濱松銀行と改稱、その後静岡の進藤銀行を買収し、更に笠井町の安田銀行支店、見付町の共同銀行小野口村の積榮銀行、見付町の山内銀行等を加へて今日に至り、資本金は三百萬圓にして全額拂込済である。濱松市木戸町、同族籠町、静岡市吳服町、濱名郡笠井町、同芳川村、同小野口村、磐田郡見付町、東京市麹町區の八ヶ所に支店を有



し、便利を旨とし堅實懇切敏速を特長とする。しかも常に財界の推移に對して慎重善處し行礎を固く加へてゐる。預金は

濱松市 元城町
濱松鐵道株式會社

當社は大正元年十月の創設に係り當時資本金三十五萬圓である。大正三年十一月元城金指間の運轉を開始し、次で元城

東田町間、金指氣賀間を運轉、大正十二年には氣賀奥山間にまで延長し、現在全線二十五軒八に及び、驛並に停留場數二十三ヶ所を敷へる。蒸氣及びガソリンカーを併用し、設備完全、乗客には親切迅速をモットーとしてゐる。大正九年九月

濱松市
濱松鐵道株式會社
 社長 深井 鷹一郎

百四十萬圓とし今日に至つた。株數二萬八千、株主五百三十八名である。初代社長は伊藤要藏氏、現社長は深井鷹一郎氏である。因に當鐵道沿線には八幡宮、濱松城址、普濟寺飛行第七聯隊、三方原古戰場、厄除觀世音、初山寶林寺、三岳山引佐細江、井伊谷宮、井伊城跡、奥山半仙坊大權現等の遊覽名勝の地が多く常にこの地方への遊覽客で賑はつてゐる。

濱松市 板屋町
日本勸業銀行 濱松支店

電話七三八番
 當支店は、利安く氣安く返し易い、をモットーとして低利資金の融通につとめ十ヶ年、十五ヶ年、二十ヶ年等の年賦貸付を行ひ、千圓を借りても年々八十三圓八十給づ、拂込めば二十年目には皆済となるといふやうな安易な方法を採用し、秘密に且つ懇切に取扱ひ、小口一口（百圓以上）の申込も歓迎してゐる。また漁業者十人以上が連帯で申込みば生産的資金に限り無抵當で貸付けてゐる。また政府の委託を受けて地方資金、舊借替替資金、養蠶資金、中小商工農業者資金、その他特殊資金貸付をなすほか、勸業債券等有價證券擔保手形貸付や各種預金、保護預り等も扱つてゐる。當行の貸付は長期低利、年賦を特色とし、調査費や手数料は一切受けず、地方金融界に一脈清新の氣を注いでゐる。

濱松市 中澤町

濱松自動車學校

空に飛行機、地に自動車、——それは時代の合言葉である。自動車に關する學理並に技術を教授すると共に品性を陶冶し以て優秀なる自動車技術者を養成する本校は自動車界に進軍して來る若人達の



最適且つ最高の機關である。本科三ヶ月、速成科

二ヶ月、別科一ヶ月のほか期限不定にて隨時練習し得る隨時科の施設あり、學費低廉、教授は懇切、正に自動車界志望者の憧憬の的である。卒業生はいづれも合格し、軍事、民間を問はず、滿洲國といはず、内地各地に於ける各種自動車の異常なる發展に伴ひ、無限の進路が開かれてゐる。實に本校の教授は責任を重んじて

合格保證の教授法である。因に校長は令名斯界に普き岡本教平氏である。

濱松市 傳馬町

濱松商工會議所

當會議所は明治二十六年四月濱松商業會議所として設立され、當地方に於ける商工業の發達をはかり運輸交通上の便益を増進せしめんとする目的を以て各種の事業を營み、濱松及び地方發展のため活動し成功したるもの尠ならず昭和三年



最近事務所を新築し、基礎愈々固きを加へた。商工實務員學力檢定試験實業學校優等卒業者薦賞、實業功勞者及び商工従業員表彰、各種商工組合團體事業助

成、その他商工業、理財、交通の調査研究計畫等事業は多方面に亘り、産業の改善、經濟の發展、社會施設等公益事業の改良施設助成につとめてゐる。現會頭は鈴木幸作氏にして、副會頭は津倉龜作、間淵榮一郎の兩氏、書記長は水島信平氏である。

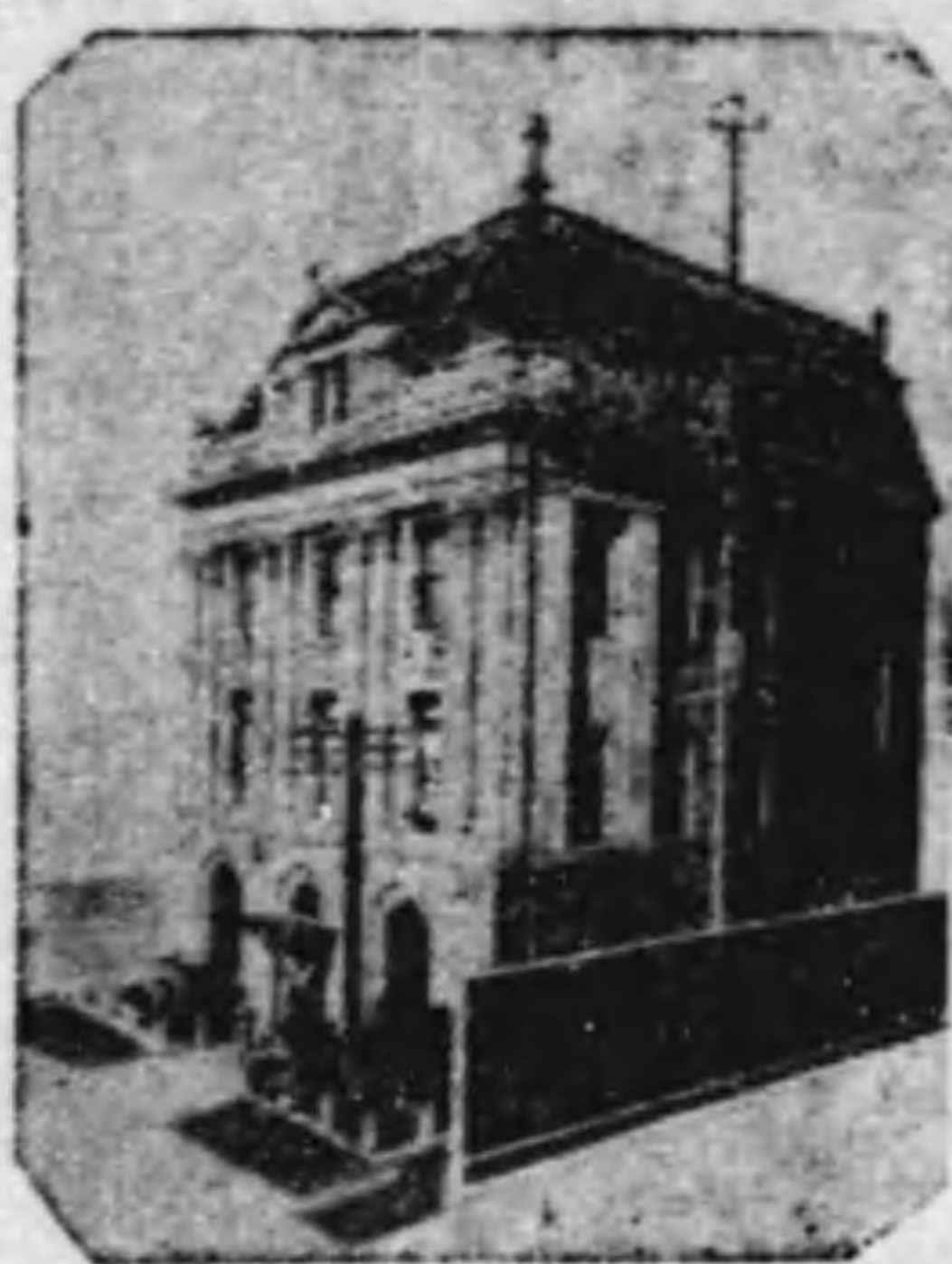
濱松市 傳馬町

濱松貯蓄銀行

電話二四三番

當行は明治三十年三月の創立にして資本金一百萬圓、諸積立金並に繰越金七十五萬八千餘圓を有し、濱松市内に五代理店のほか縣下各地及び愛知縣二川町に合計二十一の代理店が所在し、民衆金融の王座を占めてゐる。重役無限責任支拂保證のため總預り金の三分の一の國債その他を政府へ供託、行員を派出して集金一居ながら貯金、確實親切第一主義等は當行の特色とするところ、普通貯金特別貯蓄預金、月掛定期積金、据置貯金の四種

あり、いづれも利廻りよく利用者の絶讃



を浴びてゐる。因に現頭取は縣下金融界の大御所

高林泰虎氏にして、取締役中山均氏、取締役兼支配人竹山藤太郎氏、監査役高林兵衛氏である。

濱松市 田町

西遠銀行

當行は昭和三年八月新津、市野、天富濱名、朝日の五銀行を合併し西遠銀行として新に創立されるものにて、翌四年五月更に二六信用銀行を加へた。濱松市富塚、同島之郷、濱名郡新津村、同可美村、同長上村、同北濱村、同龍池村、同赤佐村、磐田郡天龍村に各支店を有し、資本金三十萬圓のうち七十一萬餘圓が拂

込済である。昭和十一年末の概況を見るに

準備金 四十四萬八千六百餘圓
預金 五百一萬二千餘圓
諸貸付金 二百八十八萬三千五百餘圓
割引手形 十九萬九千九百餘圓
である。初代取締役會長齋藤新三郎氏、二代頭取根本仲治郎氏、三代頭取青木銀藏氏にて現重役は常務取締役安間五郎氏、取締役根本仲治郎氏ほか九名、監査役高木長十氏ほか三名、相談役高林泰虎氏である。

濱松市 板屋町

遠州織物商業組合

當組合は昭和七年十二月の設立に係り濱松市及び濱名郡一圓を區域に、組合員八百八十名、出資六百十餘圓（一口五十圓）にして四分の一拂込済である。貨物自動車三輛を有し濱松名古屋間の近距離は勿論、東京、大阪、京都その他に必要に應じ隨時運搬をなすつ、あり、また品

評會や競技會の開催、宣傳會、座談會、講演會等も適時催はし、組合員取扱商品の



の荷造及び包装の統一を行ひ、昭和九年十月より組合員の取扱ふ商品はすべて格付檢

査をなすつ、ある。かくて商品は逐次品質向上すると共に販路は擴大し、組合員の受ける利益は年毎に多きを加へ、古き歴史を有する遠州織物は新時代の装ひを凝らしてますます名聲高きものがある。理事長は平野眞一氏、専務理事は鈴木基弘氏及び木俣喜三郎氏、常務理事は小栗